

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	パソコンによる情報処理操作を学ぶ授業である。パソコンの機能を理解し、操作方法を習得、文書の作成や情報の検索や通信の技量を身につけ、今後の生活や職務に役立てる。

到達目標	高度情報化社会の環境を理解し、パソコンの機能を理解する。Word、Excel、Powerpoint などの文書作成ソフトの操作演習を通じて、必要な情報処理操作を習得し、パソコンを適切に利活用できるようになる。
------	--

授業計画		
第 1 回	WindowsOS の理解。パソコンの起動と終了、キーボードやマウスの操作。	事前 講義要旨、テキスト全体を読む。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。実際の操作。135 分
第 2 回	ファイルとフォルダー（ディレクトリ）の理解。ファイル操作、管理方法の習得。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。フォルダーの予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。ファイル操作確認。135 分
第 3 回	Word 基本理解。Word の起動と文章の入力。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。Word の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。基本操作確認。135 分
第 4 回	文章の作成。事例としてチラシの作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。使用コマンドの予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。デコレーション確認。135 分
第 5 回	文章の作成その 2。レポートに必要な機能。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。レポート機能の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。レポート機能操作。135 分
第 6 回	文章の作成まとめ。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。3 回、4 回のレビュー。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。作成機能終確認。135 分
第 7 回	Excel 基本理解。Excel の起動とデータのセル入力。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。Excel 操作の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。セル入力確認。135 分
第 8 回	表の作成。事例としての表の作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。表の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。表作成確認。135 分
第 9 回	表の作成その 2。表の印刷と計算処理。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。印刷と関数の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。操作の確認。135 分
第 10 回	グラフの作成。事例としてのグラフの作成・編集。	事前 テキスト該当箇所の確認。グラフ機能の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。作成編集の確認。135 分
第 11 回	PowerPoint の基本理解。プレゼンテーションの基本と PowerPoint の起動。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。PPt 操作の予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。基本操作反復。135 分
第 12 回	スライドの作成。事例としてのスライド資料作成。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。スライド作成予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。作成方法確認。135 分
第 13 回	セキュリティと情報モラル。セキュリティの意味と防止。	事前 テキスト該当箇所、前回の講義内容確認。セキュリティの予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。セキュリティ要点確認。135 分
第 14 回	セキュリティと情報モラルその 2。 情報社会、著作権、個人情報保護、ルール・マナーの理解。	事前 テキスト該当箇所の確認。モラルの予習。135 分 事後 テキスト該当箇所の復習。モラル要点の確認。135 分
第 15 回	全体のまとめ、学習内容の総復習。	事前 これまでの授業内容の確認。135 分 事後 授業内容の復習。135 分

フィードバック	必要時、個人指導を行い提出課題等について、コメントを付けフィードバックする。
---------	--

成績評価	定期試験 60%、課題等 20%、授業態度 20%
------	---------------------------

テキスト	イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル 2016 バージョン（noa 出版） その他、必要に応じてプリントなどを配布する。
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。
---------	----------------------------------

備考	事前事後学習の際には、座学に加えパソコン実機による操作を行うことを推奨する。
----	--

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	☑		☑

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次以降

形態：講義	単位数：2 単位
概要	パソコンによる高度な情報処理操作を学ぶ授業である。情報リテラシーⅠの履修を前提として、さらなる応用的なパソコンの操作方法を習得、より高度な文書の作成や情報の検索や通信の技量を身につけ、今後の生活や職務に役立てる。

到達目標	高度なパソコンの機能を理解する。Word、Excel、PowerPoint などの文書作成ソフトの応用レベルの操作演習を通じて、より利便性の高い高度な情報処理操作を習得し、パソコンを自由かつ適切に利活用できるようになる。
------	--

授業計画				
第 1 回	文章の構成・体裁、表・図グラフの理解 文章の要素と構成、各種文書の体裁、図解とグラフ	事前	シラバス、テキスト全体を読む。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。グラフ種類の確認。	135 分
第 2 回	Word 応用 文書のフォーマットの要点の理解	事前	テキスト該当箇所の確認。フォーマットの予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。フォーマットの確認。	135 分
第 3 回	Word 応用その 2 表の作成、分かりやすくする工夫	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。表の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。表作成の確認。	135 分
第 4 回	Word 応用その 3 図の挿入、活用方法	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。図の扱いの予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。挿入、活用の確認。	135 分
第 5 回	Excel 応用 書式の設定、印刷の設定、見やすくする編集方法	事前	テキスト該当箇所の確認。Excel 操作の確認。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。書式、印刷の確認。	135 分
第 6 回	Excel 応用その 2 代表的な関数の理解、活用方法	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。関数の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。関数の記述確認。	135 分
第 7 回	Excel 応用その 3 グラフの作成と分かりやすくする修飾	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。グラフ操作の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。グラフ作成確認。	135 分
第 8 回	Excel 応用その 4 データベースの活用、データの操作方法	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。データベース操作の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。データベース活用確認。	135 分
第 9 回	Excel 応用その 5 様々なデータ集計方法の理解と操作	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。データ集計の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。集計方法の確認。	135 分
第 10 回	Excel 応用その 6 処理の高速化のための工夫	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。高速化の方法の確認。	135 分
第 11 回	Word と Excel の活用 特徴を生かした併用による資料作成、データ連携	事前	テキスト該当箇所の確認。Excel 部分の Word 貼付の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。データ連携確認。	135 分
第 12 回	PowerPoint 応用 プレゼンテーションの準備とやり方	事前	テキスト該当箇所の確認。PP t の操作予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。基本操作確認。	135 分
第 13 回	PowerPoint 応用その 2 見やすいスライドの作成方法、図や票の挿入・編集	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。スライド作成予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。挿入、編集の確認。	135 分
第 14 回	PowerPoint 応用その 3 スライドの効果的な修飾、各種有効な表現技法	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。技法の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。技法確認。	135 分
第 15 回	PowerPoint 応用その 4 スライドショーによるプレゼンの実施	事前	テキスト該当箇所、前回の作成内容確認。スライドショー機能の予習。	135 分
		事後	テキスト該当箇所の復習。プレゼン内容のレビュー。	135 分

フィードバック	提出課題等について、コメントを付けフィードバックする。
---------	-----------------------------

成績評価	定期試験 60%、課題等 20%、授業態度 20%
------	---------------------------

テキスト	文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2016 バージョン（noa 出版） その他、必要に応じてプリントなどを配布する。
------	--

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。
---------	----------------------------------

アクティブ・ラーニング	自己紹介スライドを作成、発表を相互に行い、プレゼン技術向上
-------------	-------------------------------

備考	事前事後学習の際には、座学に加えパソコン実機による操作を行うことを推奨する。
----	--

学位授与の方針との関連														
授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	☑

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要

中世、ルネサンスからバロック、古典派までの音楽を対象とし、視聴覚資料を活用しながら、西洋音楽についての基本的な知識を身につける。

到達目標

○各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する
○諸国の歴史や他芸術とも関連させながら、音楽史の流れを把握する
○自分が聴いたり演奏する作品を、より深く多角的に理解できるようにする

授業計画		
第 1 回	「音楽史」とは 音楽のスタイル・オリジナリティーについて	事前 『音楽史を学ぶ』まえがき、目次（時代区分）を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、音楽の様式(スタイル)について理解する 140 分
第 2 回	中世① グレゴリオ聖歌と世俗の歌	事前 『音楽史を学ぶ』 22-23 26-27p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、グレゴリオ聖歌と世俗の歌について理解する 140 分
第 3 回	中世② 多声（ポリフォニー）音楽の発展	事前 『音楽史を学ぶ』 27-29p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、多声音楽の発展について理解する 140 分
第 4 回	ルネサンス① 多声音楽（ミサ曲、モテット）	事前 『音楽史を学ぶ』 39-41 48-49p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、多声音楽について理解する 140 分
第 5 回	ルネサンス② プロテスタントの音楽、世俗曲	事前 『音楽史を学ぶ』 44-45 50-55p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、プロテスタントの音楽、世俗曲について理解する 1140分
第 6 回	バロック① オペラの誕生	事前 『音楽史を学ぶ』 57-60p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、オペラの誕生について理解する 140 分
第 7 回	バロック② 器楽の隆盛	事前 『音楽史を学ぶ』 67-69 72-73p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、器楽の隆盛について理解する 140 分
第 8 回	バロック③ J.S.バッハ	事前 『音楽史を学ぶ』 75-79p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、バッハについて理解する 140 分
第 9 回	バロック④ ヘンデル	事前 『音楽史を学ぶ』 80-81p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、ヘンデルについて理解する 140 分
第 10 回	前古典派	事前 『音楽史を学ぶ』 82-83p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、前古典派について理解する 140 分
第 11 回	古典派① ハイドン	事前 『音楽史を学ぶ』 85-90p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、ハイドンについて理解する 140 分
第 12 回	古典派② モーツァルト	事前 『音楽史を学ぶ』 85-90p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、モーツァルトについて理解する 140 分
第 13 回	古典派③ ベートーヴェン（ウィーン中期まで）	事前 『音楽史を学ぶ』 93-96p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、ベートーヴェンについて理解する 140 分
第 14 回	古典派④ ベートーヴェン（ウィーン後期） ベートーヴェンの歴史的位置	事前 『音楽史を学ぶ』 93-96p. を読み把握する 130 分 事後 配布資料・ノートをまとめ、ベートーヴェンについて理解する 140 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期のテキスト・ノートを読みまとめる 130 分 事後 ノートをまとめ、中世から古典派について理解する 140 分

フィードバック

数回（時代ごとに）提出するコメントリーレポートは、後日返却しフィードバックする

成績評価

理解度を測る期末試験・レポート(50%)と数回のコメントリーレポートおよび授業への関心意欲(50%)で総合的に評価する

テキスト

久保田慶一編著 『音楽史を学ぶー古代ギリシャから現代まで』（教育芸術社 2017）

参考図書：
岡田暁生 『西洋音楽史―「クラシック」の黄昏』（中公新書 2005）
近藤 譲 『ものがたり西洋音楽史』（岩波ジュニア新書 2019）
金澤正剛 『ヨーロッパ音楽の歴史』（音楽之友社 2020）

オフィスアワー

授業終了後

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

西洋音楽史-2

非常勤講師 伊藤久恵

科目コード：MUS102

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ロマン派以降の音楽を対象とし、視聴覚資料を活用しながら、西洋音楽についての基本的な知識を身につける。

到達目標	○各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する ○諸国の歴史や他芸術とも関連させながら、音楽史の流れを把握する ○自分が聴いたり演奏する作品を、より深く多角的に理解できるようにする
------	---

授業計画	
第 1 回	ロマン派音楽概観
第 2 回	ロマン派① ドイツ音楽の隆盛（シューベルト・シューマン・メンデルスゾーン）
第 3 回	ロマン派② 標題音楽と絶対音楽（ベルリオーズ・ブラームス）
第 4 回	ロマン派③ ドイツオペラ（ウェーバー・ヴァーグナー）
第 5 回	ロマン派④ イタリアオペラ（ロッシーニ・ヴェルディ）
第 6 回	ロマン派⑤ サロンとヴィルトゥオーソ（ショパン・リスト）
第 7 回	後期ロマン派① ドイツ・オーストリア（マーラー・R.シュトラウス）
第 8 回	後期ロマン派② フランス（サン＝サーンス・フォーレ）
第 9 回	後期ロマン派③ 国民楽派
第 10 回	印象主義（ドビュッシー）
第 11 回	20 世紀① 原始主義（ストラヴィンスキー）
第 12 回	20 世紀② 表現主義（新ウィーン楽派） 新古典主義（ラヴェル）
第 13 回	20 世紀③ 第 2 次大戦後の音楽
第 14 回	日本における西洋音楽の受容
第 15 回	インターネット時代の音楽 後期のまとめ
事前	『音楽史を学ぶ』92-93 101-102p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、ロマン派の概要について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』98-101p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、ドイツ音楽の隆盛について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』p.101-104 110 114 p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、標題音楽と絶対音楽について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』111-113 130p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、ドイツオペラについて理解する
事前	『音楽史を学ぶ』115-116p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、イタリアオペラについて理解する
事前	『音楽史を学ぶ』106-108p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、サロンとヴィルトゥオーソについて理解する
事前	『音楽史を学ぶ』126-127p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、ドイツ・オーストリアについて理解する
事前	『音楽史を学ぶ』123-124p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、フランスについて理解する
事前	『音楽史を学ぶ』119-121p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、国民楽派について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』128-129 131p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、印象主義について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』138p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、原始主義について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』135-137 145-146p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、表現主義・新古典主義について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』153-165p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、第 2 次大戦後の音楽について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』167-178p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、日本における西洋音楽の受容について理解する
事前	『音楽史を学ぶ』185-191p. を読み把握する
事後	配布資料・ノートをまとめ、ロマン派から今日の音楽について理解する

フィードバック 数回（時代ごとに）提出するコメントリーレポートは、後日返却しフィードバックする

成績評価 理解度を測る期末試験・レポート(50%)と数回のコメントリーレポートおよび授業への関心意欲(50%) で総合的に評価する

テキスト 久保田慶一編著 『音楽史を学ぶー古代ギリシャから現代まで』（教育芸術社 2017）

参考図書：
岡田暁生 『西洋音楽史ー「クラシック」の黄昏』（中公新書 2005）
近藤 譲 『ものがたり西洋音楽史』（岩波ジュニア新書 2019）
金澤正剛 『ヨーロッパ音楽の歴史』（音楽之友社 2020）

オフィスアワー 授業終了後

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

日本音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS103

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本に育ち、また生活しながらも、日本の音楽史について何も知らない学生が多い。しかし音楽を専門に学んだ人として社会で活躍する際、日本文化の知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において音楽が世界でも珍しく政治・宗教・社会の中枢に位置してきた事、にも関わらず何故現代は日本の音楽が教育の場から失われたかを、歴史研究の立場から考える。講義で得た知識を元に各ジャンルの意義を議論し論述する。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題による振り返りを行う。
到達目標	実証的日本音楽史の必要を自覚し、音楽史を正しく理解する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現・議論できる。適切な資料の調査法・引用法を学び、日本音楽史について適切な調査に基づき論述することができる。日本文化の重層性や多様性、特徴を自ら考え、日常の様々な場面と知識を結びつけることができる。

第 1 回	日本音楽史の問題点（1） 音楽科教育における伊沢修二の功罪 日本音楽史とは／歴史学としての学問分野／時代区分の解説	事前 シラバスを熟読し、講義内容を理解し、質問事項をまとめておく。 事後 時代区分を習得する。伊沢修二についての参考文献を読み理解を補強する。	70 分 200 分
第 2 回	日本音楽史の問題点（2）日本音楽史は民族音楽学の一部ではないこと―田辺尚雄の功罪	事前 『日本音楽教育事典』『音楽史学』の「定義と概観」「日本の音楽史学」項を読む。 事後 講義で紹介した史料の名称、所在、意義をまとめ、参考文献リストを作る。	90 分 180 分
第 3 回	日本音楽史の問題点（3）西洋近代五線譜は万能か？―音楽的要素の多様性に気付く	事前 『日本音楽教育事典』『楽譜』の項を読み、質問事項をまとめておく。 事後 日本の楽譜の特徴を、実物を用いて分析し、結果を文章でまとめる。	90 分 180 分
第 4 回	日本音楽史の問題点（4）第二次世界大戦後の音楽科教育再出発の問題―トレーナー発言と諸井三郎	事前 『日本音楽教育事典』『音楽教育思想』の項を読み、質問事項をまとめておく。 事後 福島和夫「戦後音楽教育の一分岐点」を読み、自身の考えをまとめる。	90 分 180 分
第 5 回	日本音楽史の問題点（5）世界における日本音楽史の挑戦―福島和夫と前田昭雄	事前 福島和夫「日本音楽史研究の半世紀」を読み、問題点をまとめておく。 事後 前田昭雄「音楽史の概念東と西」というテーマについての考察への意見を書く。	90 分 180 分
第 6 回	近世（1）能が謡えなければ半人前―庶民の音楽教育としての寺子屋の小話	事前 『日本音楽教育事典』『江戸時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。 事後 同項の参考文献の中から興味を持ったものを読み、要点をまとめる。	90 分 180 分
第 7 回	近世（2）近世文化史概説―上野・浅草は江戸のスーパースターを産んだ	事前 江戸時代のスーパースターとはどのような人か、各分野の実例を調べる。 事後 近世の上野・浅草が発信した諸芸能を調査する。	90 分 180 分
第 8 回	近世（3）現代の娯楽の出発点としての江戸文化	事前 現代の娯楽と近世の娯楽について調査し、共通点・相違点をまとめておく。 事後 貴族の娯楽、武士の娯楽、庶民の娯楽について調査する。	90 分 180 分
第 9 回	近世（4）三味線伝来の衝撃	事前 劇場音楽、お座敷音楽、遊楽の場における三味線音楽を調べる。 事後 『日本音楽大事典』『三味線音楽』の項を読み「研究史」の文献の一つ読む。	90 分 180 分
第 10 回	近世（5）浄瑠璃（文楽）と文連東漸	事前 『日本音楽大事典』『浄瑠璃』の項を読み、質問事項をまとめておく。 事後 浄瑠璃の歴史的変遷を整理し、代表曲を調べ視聴する。	90 分 180 分
第 11 回	近世（6）歌舞伎―あらゆる江戸文化の受信源・発信源	事前 『日本音楽大事典』『歌舞伎音楽』の項を読み、質問事項をまとめておく。 事後 同項の「資料と参考文献」を利用し、音楽史上の歌舞伎の役割をまとめる。	90 分 180 分
第 12 回	【AL】（1）日本音楽史の調査対象を学ぶ（グループワークを含む）	事前 福島和夫「音楽史学の方法論」を読み、質問事項をまとめておく。 事後 前田昭雄「音楽史学としての日本音楽研究」を読み、自身の考えをまとめる。	90 分 180 分
第 13 回	【AL】（2）実地見学―江戸東京博物館で江戸文化を知る（グループワークを含む）	事前 見学準備を行う。見学ポイントや施設情報など。 事後 見学した結果を図や文章にしてまとめる。	90 分 180 分
第 14 回	【AL】（3）調査結果をレポートにする―レポート執筆の基礎を学ぶ	事前 レポートの書き方について調べ、質問事項をまとめておく。 事後 用紙の使い方、体裁、注、参考文献の書き方、禁則などを身につける。	90 分 180 分
第 15 回	前期総括―講義内容及び自主調査で何を学び、何を考えたかを自分の言葉で表現する。	事前 ノートを見直し、前期の講義および自修内容を復習し、質問事項をまとめておく。 事後 講義を踏まえ、自身の課題を設定し、レポート課題に取り組む。	90 分 180 分

フィードバック 各回の終わりに B6 判用紙に理解内容（質問事項を含む）をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト 40%、小テストおよび各回のまとめ 30%、小レポート 15%、講義への積極的参加・発言 15% （ルーブリック配布）。
期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 講義時にプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 日本文化を総合的に理解するため、江戸東京博物館または東京国立博物館で見学する。さらにオンラインの博物館見学や雅楽演奏会、長唄演奏会を鑑賞し、それぞれ報告する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□	☑	□	□	

日本音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS104

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本に育ち、また生活しながらも、日本の音楽史について何も知らない学生が多い。しかし音楽を専門に学んだ人として社会で活躍する際、日本文化の知識教養は不可欠である。講義では、有史以来明治維新まで、日本において音楽が世界でも珍しく政治・宗教・社会の中枢に位置してきた事、にも関わらず何故現代は日本の音楽が教育の場から失われたかを、歴史研究の立場から考える。講義で得た知識を元に各ジャンルの意義を議論し論述する。一回は博物館美術館見学レポートを含む。毎回小課題による振り返りを行う。
到達目標	実証的日本音楽史の必要を自覚し、音楽史を正しく理解する。その上で、各回のテーマについて問題意識を持ち、研究の現状と課題を知り、それらについて自身の言葉で適切に表現・議論できる。適切な資料の調査法・引用法を学び、日本音楽史について適切な調査に基づき論述することができる。日本文化の重層性や多様性、特徴を自ら考え、日常の様々な場面と知識を結びつけることができる。

第 1 回	中世（1）中世文化史概説―戦乱と武士と寺／四大宗教と音楽	事前 事後	『日本音楽教育事典』『平安・鎌倉時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。 四大宗教の音楽の特徴について調査し、宗教における音楽の役割を考察する。	90 分 180 分
第 2 回	中世（2）寺は文化の発信地―興福寺と日本最大の音楽一族／浄土教と芸能／禅宗と諸道	事前 事後	『仏教文化事典』『唱導と語り物』『法会と芸能』項を読み、質問事項をまとめる。 仏教と芸能との関係の多様性、影響力、興福寺楽人の大規模組織について調査する。	90 分 180 分
第 3 回	中世（3）仏教儀式の音楽と声明（仏教声楽）	事前 事後	『日本音楽大事典』『仏教音楽』『声明』の項を読み、質問事項をまとめる。 同項「研究史」を利用し、日本の声明史と音楽的特徴について調査し、考察する。	90 分 180 分
第 4 回	中世（4）語り物の源流としての講式	事前 事後	『日本音楽大事典』『講式』の項を読み、質問事項をまとめる。 《四座講式》の構造、楽譜を調査し、音楽史的意義を考察する。	90 分 180 分
第 5 回	中世（5）琵琶法師は大金持ち？―平家語りと武家社会	事前 事後	『日本音楽大事典』『盲僧琵琶』『平曲』の項を読み、質問事項をまとめる。 同項「研究史」を利用し、平曲について調査し、音楽史的意義を考察する。	90 分 180 分
第 6 回	中世（6）猿楽（能楽）の大成者 世阿弥	事前 事後	『日本音楽大事典』『猿楽』の項を読み、質問事項をまとめる。 世阿弥の著作や作品を調査し、その業績を知り、音楽史的意義を考察する。	90 分 180 分
第 7 回	中世（7）狂言の分化	事前 事後	『日本音楽大事典』『狂言』の項を読み、質問事項をまとめる。 能楽以外の様々な中世芸能を調べ、寺が母体となった芸能の多様性を考察する。	90 分 180 分
第 8 回	【AL】（1）東京国立博物館で音楽を見つける（グループワーク）	事前 事後	見学施設の文化的意義および基本情報を調べ、見学に備える。 見学した音楽関係史料について、さらに調査を進める。	90 分 180 分
第 9 回	【AL】（2）日本音楽史の先行研究の調べ方を学ぶ	事前 事後	前回の見学結果を整理し、深めるべき研究のポイントを絞る。 自分の研究テーマに沿って適切な先行研究調査を実践する。	90 分 180 分
第 10 回	【AL】（3）先行研究を批判する	事前 事後	調べた先行研究を読み、疑問点および問題点をまとめる。 先行研究批判を発端としてレポートを執筆し、問題を解決する。	90 分 180 分
第 11 回	上代・中古（1）上代・中古文化史概説―国造りの中核にあった音楽	事前 事後	『日本音楽教育事典』『飛鳥・奈良時代』の項を読み、質問事項をまとめておく。 『礼記』の音楽を読み、なぜ律令国家の中心に音楽が置かれたかを考察する。	90 分 180 分
第 12 回	上代・中古（2）遣唐使吉備真備と礼楽思想／東大寺大仏開眼供養と諸国楽	事前 事後	吉備真備、東大寺大仏開眼供養、正倉院について調べ、質問事項をまとめておく。 正倉院の様々な音楽史料について調べ、その意義を考察する。	90 分 180 分
第 13 回	上代・中古（3）平安貴族必須の管絃―デートの必須アイテム：横笛と箏	事前 事後	『落窪物語』『枕草子』の音楽場面を読み、質問事項をまとめておく。 古典文学の音楽場面を参考に平安貴族社会における「詩歌管絃」の意義を考察する。	90 分 180 分
第 14 回	上代・中古（4）考古学から知る音楽―出土史料から分かること	事前 事後	出土史料を東京国立博物館画像データで確認し、質問事項をまとめておく。 各時代の出土史料とその特徴を調べ、その意義を考察する。	90 分 180 分
第 15 回	後期総括―千年変わらぬ楽など存在しない―「伝統音楽」と日本音楽史の違い	事前 事後	現代の演奏伝承、視聴覚資料の解説等を読み、学習内容との矛盾点をまとめておく。 現代の「伝統音楽」の演奏伝承と日本音楽史との違いについて考察する。	260 分 10 分

フィードバック 各回の終わりに B6 判用紙に理解内容（質問事項を含む）をまとめて提出し、各時代ごとに小テストを行う。記述内容および小テストについて添削・採点を行うことで学修成果のフィードバックとする。

成績評価 期末論述テスト 40%、小テストおよび各回のまとめ 30%、小レポート 15%、講義への積極的参加・発言 15%
期末論述テストおよび小テストは講義内容の正確な理解を確認する。理解内容に対する受講者自身の考えを適切に述べるものを高く評価する。各回のまとめは、受講者自身の問題意識に照らして理解内容を簡潔かつ性格に記述するものを評価する。小レポートは博物館美術館見学を踏まえ、意欲的な調査結果の報告を評価する。講義時は教員の質問に対して自ら考え、積極的に発言する姿勢を評価する。

テキスト 『日本音楽史料展（雅楽と声明）』（上野学園大学日本音楽史研究所）2017 年 3 月 ※講義時に配布する。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 日本文化を総合的に理解するため、江戸東京博物館または東京国立博物館で見学する。さらにオンラインの博物館見学や雅楽演奏会、長唄演奏会を鑑賞し、それぞれ報告する。

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	

特別講座

学部長 特任教授 柳澤美枝子		科目コード：HUM101
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次		
形態：講義		単位数：2 単位（4 年間通じて）
概要	各自の定められた講義、レッスンに加えて幅広く音楽、教養に関する公開講座を実施する。様々な分野、国内外の優れた演奏家、教授から高いレベルの芸術観に触れ、多面的な思考と視野を育成する。	
到達目標	講座聴講後にレポートをまとめることにより、受講内容がより一層体得されることを目標とする。	
授業計画	年間 7～8 回行うものとする。 原則として、水曜日 17：40～19：10 までの 90 分の講座 各年度初めに、日程を掲示する。	

フィードバック

成績評価	1 年次から卒業年次までを通じ、講座への参加状況、レポート内容で総合的に判断する。 (1) 毎回の鑑賞レポートを ABC 評価で採点し、評価 ABC を合格、D を不合格とする。 (2) 在学期間を通して提出した鑑賞レポートの数で平均得点を出す。その平均得点が属する評価段階を最終評価とする。 但し、在学期間に開催された「特別講座」全回数の 3 分の 2 以上、出席していることを条件とする。 「学生のためのハンドブック」に定める公欠となる事由（学校感染症への罹患、忌引き、教育実習、等）により「特別講座」に出席できない場合は、「欠席届（出席扱い）」を提出すれば出席と認定される。
テキスト	なし

オフィスアワー 終了後、質疑応答の時間を設ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐

ソルフェージュ I-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF101

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 楽譜に「何が」書いてあるかを瞬時に正しく読み取り、それが「どんな意味」を持っていて、「どのように」演奏すべきなのかを考え、演奏につなげるまでの訓練。

到達目標 音楽家に必要な基礎能力を養う。すなわち、リズム感、和声感、フレーズ感、良い耳、良い感性、形式感などを身につけ、楽譜に書かれていることを正しく理解して演奏できるようになることを目標とする。

授業計画 教科書に沿って進める。授業は参加学生の能力に応じて、以下の計画を若干変更することがある。

第 1 回	クレ読み：高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 1、以上を応用した聴音など	事前 授業範囲に目を通し、可能な範囲で練習をする。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 2 回	クレ読み：高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 2、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 3 回	クレ読み：高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 3、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 4 回	クレ読み：高音部記号(基礎) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 4、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 5 回	クレ読み：高音部記号(八分音符) 視唱(高音部記号無伴奏、ハーモニー訓練、他)、リズム Lesson 5、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 6 回	クレ読み：高音部記号(三連符) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 6、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 7 回	クレ読み：高音部記号(十六分音符) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 7、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 8 回	クレ読み：高音部記号(実作品を用いて) 視唱(高音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 8、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 9 回	クレ読み：低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 9、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 10 回	クレ読み：低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 10、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 11 回	クレ読み：低音部記号(基礎) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 11、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 12 回	クレ読み：低音部記号(八分音符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 12、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 13 回	クレ読み：低音部記号(三連符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 13、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 14 回	クレ読み：低音部記号(十六分音符) 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 14、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 15 回	クレ読み：まとめ 視唱(高音部・低音部記号無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 15、以上を応用した聴音など	事前 クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 事後 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み 30％、試験 70％

テキスト 佐怒賀悦子著 『ソルフェージュの庭 リズム』(音楽之友社)
DANDELOT 著『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 * 新版(Nouvelle édition)を用意すること。
五線譜と筆記用具を用意すること。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考テキスト》佐怒賀悦子著『ソルフェージュの庭 視唱』(音楽之友社)
呉曉/桐山春美著『リズムの基礎』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実践 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

ソルフェージュ I-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 山下百恵

科目コード：SLF102

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 ソルフェージュ I -1C の内容に加え、内的聴取力と感受性の育成、譜読みと練習方法の効率化、初見能力の向上、暗譜のための頭の使い方を学ぶ。

到達目標 音楽家に必要な基礎能力をさらに向上させ、自身の演奏につなげることを目標とする。楽曲と初めて向き合った時から、譜読み、暗譜をして人前で演奏できるようになるまでの各過程で活かせる能力を身につける。

授業計画 教科書に沿って進める。授業は参加学生の能力に応じて、以下の計画を若干変更することがある。

第 1 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 16、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 2 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 17、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 3 回	クレ読み：大譜表 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 18、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 4 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 19、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 5 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、伴奏つき、他)、リズム Lesson 20、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 6 回	クレ読み：アルト記号(基礎) 視唱(既習クレ無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 21、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 7 回	クレ読み：アルト記号(八分音符) 視唱(既習クレ無伴奏、フレーズと形式の分析、他)、リズム Lesson 22、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 8 回	クレ読み：アルト記号(三連符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 23、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 9 回	クレ読み：アルト記号(十六分音符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 24、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 10 回	クレ読み：アルト記号(六連符)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 25、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 11 回	クレ読み：アルト記号(実作品を用いて)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 26、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 12 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 27、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 13 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 28、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 14 回	クレ読み：テノール記号(基礎)、専攻楽器による初見視奏 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 29、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分
第 15 回	クレ読み：まとめ 視唱(既習クレ無伴奏、他)、リズム Lesson 30、以上を応用した聴音など	事前 事後	クレ読みの宿題、及びその他の宿題を実施する。 授業でうまくできなかったところを解決する。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や提出物に対し、コメントや添削で学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み 30%、試験 70%

テキスト 佐怒賀悦子著 『ソルフェージュの庭 リズム』(音楽之友社)
DANDELOT 著『Manuel pratique』(Nouvelle édition) ESCHIG 社 * 新版(Nouvelle édition)を用意すること。
五線譜と筆記用具を用意すること。
その他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考テキスト》佐怒賀悦子著『ソルフェージュの庭 視唱』(音楽之友社)
呉曉/桐山春美著『リズムの基礎』(音楽之友社)

オフィスアワー 授業後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

和声法Ⅰ-1

講師 高畠 亜生

科目コード：SLF103

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	楽典、和声法の学習経験のある学生を対象とする。西洋音楽を学ぶ際に必要となる和声について、その理論を学び、課題を実施して理解を深めていく。実際に四声体和声の演習、実作品の和声分析などを行い、作曲家が楽譜に書いたメッセージを和声から読み取れるようにする。
到達目標	西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は、楽曲の他の側面（拍節、対位法、形式、時代様式、全体的な調構造等）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、基礎的な和声法の習得と自ら演奏する曲について理解を深め、音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

第 1 回	オリエンテーション／和声の歴史、和声の魅力、旋律と和音の関係、終止形、非和声音	事前 楽典の和声の箇所を各自復習する。	135 分
第 2 回	和声の基礎知識（和音構成音、基本形三和音の和音記号）／基本形三和音の配置	事後 授業で配布されたプリントをピアノで音を確認しながら復習する。	135 分
第 3 回	共通音のある和音連結（Ⅱ→Ⅴ以外）／共通音のない和音連結（Ⅴ→Ⅵ以外）	事前 テキスト P.13～24 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
第 4 回	Ⅱ→Ⅴの連結／Ⅴ→Ⅵの連結／長調の第 3 音高位Ⅳ→Ⅱ	事後 テキスト課題 2 の復習	135 分
第 5 回	和音設定／和音機能（T, D, S）／カデンツ／終止／基本位置三和音のみによるパス課題	事前 テキスト P.25～33 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
第 6 回	J.S.バッハのコラール集より和声分析 合唱、ピアノ演奏による実技演習	事後 テキスト課題 3,4,5 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
第 7 回	各種の調（長調の課題を中心に）	事前 テキスト P.33～36 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
第 8 回	各種の調（短調の課題を中心に）	事後 テキスト課題 6 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
第 9 回	12 の長調、12 の短調のまとめ モーツァルト：ピアノソナタ KV545 第一楽章を中心とした和声分析	事前 テキスト P.37～41 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
第 10 回	三和音の第 1 転回位置	事後 テキスト課題 7,8,9 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
第 11 回	Ⅱの第 1 転回位置の配置・連結／Ⅳ音上の和音設定／Ⅵ音上の和音設定	事前 テキスト K1,2,3 型カデンツのピアノ演奏。和声による起伏を留意して演奏する。	135 分
第 12 回	第 1 転回形のまとめ 課題 19 の実施とモーツァルト：ピアノソナタの和声分析	事後 授業中で取り扱ったコラールの各声部をピアノで音を確認しながら歌う。	135 分
第 13 回	三和音の第 2 転回形	事前 テキスト P.43～45 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
第 14 回	Ⅴ7 の和音の配置と連結／限定進行音について	事後 テキスト課題 10 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 テキスト P.45～47 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
		事後 テキスト課題 11,12 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
		事前 P114～119 カデンツ移調奏。モーツァルト：ピアノソナタ KV545 第一楽章音源鑑賞	135 分
		事後 授業の内容をピアノで和音を確認しながら復習する。カデンツ移調奏	135 分
		事前 テキスト P.49～54 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
		事後 テキスト課題 13～16 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
		事前 テキスト P.54～58 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
		事後 テキスト課題 17～18 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
		事前 第 1 転回形を含むカデンツ課題 17.18 の演奏。自ら演奏するピアノ曲を和声分析す	135 分
		事後 テキスト課題 19 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
		事前 テキスト P.61～65 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
		事後 テキスト課題 22～24 の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。	135 分
		事前 テキスト P.69～72 をピアノで音や和音の響きを確認しながら読んでおく。	135 分
		事後 テキスト課題 25,26 の復習とピアノ確認、及び配布された D 定型プリント課題実施	135 分
		事前 前期の復習をする。	135 分
		事後 前期の振りかえり。任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。	135 分

フィードバック 授業ごとの課題やレポート、学年末試験の内容について、添削やコメントにより改善点や学習方法を各自に伝える。

成績評価 試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 島岡 譲（執筆責任）『和声 理論と実習 I』（音楽之友社）
授業中に指示する。また適宜プリントを配布する。

五線紙と鉛筆を用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。実施した課題はピアノで必ず弾くこと。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

和声法Ⅰ-2

講師 高畠 亜生

科目コード：SLF104

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 和声法Ⅰ-1Bを履修済みの学生を対象とする。西洋音楽を学ぶ際に必要となる和声について、その理論を学び、課題を実施して理解を深めていく。実際に四声体和声の演習、実作品の和声分析などを行い、作曲家が楽譜に書いたメッセージを和声から読み取れるようにする。和声法の基礎を学ぶには1年間では不十分なので、2年次以降もこの上のクラスを履修することをお勧めする。

到達目標 西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は、楽曲の他の側面（拍節、対位法、形式、時代様式、全体的な調構造等）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、基礎的な和声法の習得と自ら演奏する曲について理解を深め、音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画		
第1回	V7の和音への連結 バス課題の実施 基本	事前 前期の復習と『和声 理論と実習Ⅰ』P73～75をピアノで確認しながら読んでおく。135分 事後 テキスト課題28の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。135分
第2回	V7・Ⅰ バス課題の実施 応用	事前 V7を含むD定型カデンツの演奏。135分 事後 テキスト課題28の復習、及びピアノで確認する。135分
第3回	V7-VI バス課題の実施 コードネームについて	事前 前期の復習と『和声 理論と実習Ⅰ』P77～79をピアノで確認しながら読んでおく。135分 事後 テキスト課題30の授業中指示のあった箇所を実施し、ピアノで確認する。135分
第4回	実作品の和声分析 モーツァルト：ピアノソナタKV331 一楽章（変奏曲）と三楽章（トルコ行進曲）	事前 モーツァルト：ピアノソナタKV331 全楽章の音源鑑賞。135分 事後 授業内容の復習と、音源とピアノで確認しながら耳でフレーズと和音を聴き取る。135分
第5回	ソプラノ定型（順次進行をするソプラノ定型&順次進行をしないソプラノ定型） ソプラノの終止定型	事前 今まで学んだバス課題の解答を両外声を意識し旋律を歌いながらピアノで演奏する。135分 事後 授業で配布したCdurのソプラノ定型をピアノで演奏する。135分
第6回	ソプラノ課題の和音設定と配置・連結（V7を含む）	事前 授業で配布したソプラノ定型と、その移調奏をピアノで演奏する。135分 事後 授業で配布したプリントのソプラノ課題の和音・配置設定を実施、ピアノで確認する。135分
第7回	ソプラノ課題の実施（V7含む） 合唱、ピアノ演奏による実技演習	事前 授業で配布したプリントのソプラノ課題を実施し、ピアノで確認する。135分 事後 授業で配布したソプラノ課題の解答を両外声を意識し旋律を歌いながらピアノ演奏。135分
第8回	Ⅱ7を含むバス課題とソプラノ定型と終止定型 J.S.Bach：平均律クラヴィーア曲集第1巻より第1番プレリュードの和声分析	事前 J.S.Bach：平均律クラヴィーア曲集第1巻よりNo.1プレリュードの音源鑑賞。135分 事後 Ⅱ7を含むバス課題とCdurのソプラノ定型と、その移調奏をピアノで演奏する。135分
第9回	ソプラノ課題の和音設定と配置・連結 及び実施（Ⅱ7を含む）	事前 授業で配布したⅡ7を含むソプラノ課題の和音設定をして、ピアノで確認する。135分 事後 授業で配布したⅡ7を含むソプラノ課題の解答を旋律を歌いながらピアノで演奏する。135分
第10回	変終止（Ⅰ-Ⅳ・Ⅰ）及び V7-VIを含むソプラノ課題の実施 合唱、ピアノ演奏による実技演習	事前 自分が演奏している曲のコード部分をピアノで和音の響きを確認しておく。135分 事後 授業で配布した変終止とV-VIを含むソプラノ課題を実施し、ピアノで確認する。135分
第11回	バス課題・ソプラノ課題のまとめ	事前 第1～10回までの復習。135分 事後 確認問題で解らなかったところの学習。135分
第12回	転調によるバス課題（基礎）	事前 自分が演奏している曲の転調部分の和音連結を探してピアノで確認しておく。135分 事後 授業で配布した転調を含むバス課題の和音設定をして、ピアノで確認する。135分
第13回	転調によるバス課題（応用）と実作品による和声分析（遠隔転調含む） ベートーヴェン：ピアノソナタ第8番ハ短調Op.13「悲愴」第2楽章	事前 ベートーヴェン：ピアノソナタ第8番ハ短調Op.13「悲愴」の音源鑑賞。135分 事後 授業で配布した転調を含むバス課題の解答を旋律を歌いながら、ピアノで演奏する。135分
第14回	名曲によるテーマのコード付け（借用和音・非和声音・反復進行・コードネーム） ヒットポピュラーソングにおけるメロディのコード付けについて	事前 自分の好きな歌や曲の好きな和音箇所を見つけて取り出しておく。135分 事後 配布プリントの名曲テーマの旋律を歌いながらピアノでコード付けする。135分
第15回	まとめ（転調によるバス課題 及び 名曲によるテーマのコード付け）	事前 後期の復習をする。135分 事後 今までの振り返り任意の曲を和声の響きに耳を傾け声部進行に留意して演奏する。135分

フィードバック 授業ごとの課題やレポート、学年末試験の内容について、添削やコメントにより改善点や学習方法を各自に伝える。

成績評価 試験の成績50%、カデンツ奏・課題25%、授業への積極的な取り組み25%

テキスト 島岡譲（執筆責任）『和声 理論と実習Ⅰ』（音楽之友社）
※適宜、プリントや楽譜を配布
五線紙を用意すること。

※参考テキスト
島岡譲（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくはEメールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。実施した課題はピアノで必ず弾くこと。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要

ドッペルドミナント各種、ドリア・ナポリの和音のバス課題、非和声音を含むソプラノ課題における四声体和声の実習を行う。また基礎的な音楽形式や様式を学び、原典楽譜や音源を使用した楽曲分析も行う。

到達目標

和声法 A クラスを履修した学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は楽曲の他の側面（旋律、対位法、リズム、終止、形式、様式、調構造）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていくため、4 声体書法実習を中心に楽曲分析も平行して行う。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

授業計画		
第 1 回	これまで学習した和声法の確認	事前 これまでに勉強した和声のノートを復習する。 80 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 200 分
第 2 回	さまざまな D2 和音／ドッペルドミナントー四声体和声理論	事前 P125～128 の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 140 分
第 3 回	さまざまな D2 和音／ドッペルドミナントー四声体和声実習	事前 ドッペルドミナントを用いた終止定型をピアノで弾く。 180 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 100 分
第 4 回	ドッペルドミナントを含む楽曲分析	事前 第 18 回の授業最後に指示された楽曲中のドッペルドミナントの和音を探す。 100 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 180 分
第 5 回	ドッペルドミナント下方変位ー四声体和声実習	事前 P128～130 の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 180 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 100 分
第 6 回	ドッペルドミナント下方変位を含む楽曲分析	事前 P324～325 分析編ードッペルドミナント下方変位 (a) ～(d)の譜例をピアノで弾いておく。 160 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 120 分
第 7 回	D2 諸和音のまとめ／総合問題	事前 P137,139 の譜例をピアノで弾いておく。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 140 分
第 8 回	ドリアのIVの和音（実習と楽曲分析）	事前 P142 のドリアのIVの説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 120 分 事後 分析編 P329 課題 85-2 の和声分析をしましょう。 160 分
第 9 回	さまざまな S 和音（実習と楽曲分析）	事前 P154,155 のさまざまな S 和音の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 260 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 20 分
第 10 回	転位・修飾／四声体和声ー理論	事前 P159～163 の転位音の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 120 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。 160 分
第 11 回	転位・修飾／四声体和声ー実習 1	事前 P168～171 の 2 つの例題の手順を復習してピアノで弾いておく。 120 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 160 分
第 12 回	転位・修飾／四声体和声ー実習 2 & 楽曲分析	事前 P171.172 課題 45 の課題を進める。 140 分 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。主に終わった課題をピアノで弾く。 140 分
第 13 回	転位・修飾／楽曲分析	事前 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する（1）。 140 分 事後 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する（2）。 140 分
第 14 回	異名同音的転調／楽曲分析 転位・修飾／楽曲分析	事前 P150～152 の異名同音的転調の説明を譜例はピアノで弾きながら読んでおく。 140 分 事後 分析編 P352 の異名同音的転調(a)～(c)の譜例をピアノで弾いておく。 140 分
第 15 回	第 1～14 回のまとめ／定期試験 2	事前 第 1～14 回の復習と定期試験 2 に向けて学習する。 140 分 事後 各自、専門楽器の学年末試験の中から任意の楽曲の和声や転位音を分析する（1）。 140 分

フィードバック

授業ごとの課題やレポート、学年末試験の内容について、添削やコメントにより改善点や学習方法を各自に伝える。

成績評価

試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト

島岡謙（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』音楽之友社

五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー

授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。実施した課題はピアノで必ず弾くこと。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

楽式論-2A

講師 高畠亜生

科目コード：SLF202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要 非和声音を含む自由ソプラノ課題や、反復進行や二つの主題の組み合わせバス課題における四声体和声の実習を行う。また基礎的な音楽形式や様式学び、原典楽譜や音源を使用した楽曲分析も行う。

到達目標 和声法 A クラスを履修した学生を対象。西洋音楽を学ぶ際に必要な和声は楽曲の他の側面（旋律、対位法、リズム、終止、形式、様式、調構造）と切り離して考えることは出来ない。このような側面と歴史的発展を考慮しつつ、和声法の理論知識と実際の音楽とのつながりを深めていくため、4 声体書法実習を中心に楽曲分析も平行して行う。音楽解釈の向上と豊かな演奏表現を目指す。

第 1 回	配置変化／理論と実習	事前 P.172 配置変化を読んでおく。 事後 p.175 課題 46 を実施する。	240 分 30 分
第 2 回	自由ソプラノ課題／理論と実習（1）	事前 p.181～187 読んでおく。 事後 p.187.188 課題 47 実施	140 分 140 分
第 3 回	自由ソプラノ課題／実習（2）転位音（経過音・刺しゅう音）含む	事前 p.188.189 課題 47 進める。 事後 授業で実施した課題の復習。	120 分 160 分
第 4 回	自由ソプラノ課題／実習（3）転位音（前回の種類に加え倚音・掛留音）	事前 p.189 課題 47 進める。 事後 授業で実施した課題の復習。	140 分 140 分
第 5 回	自由ソプラノ課題／実習（4）全ての転位音を含む 楽曲和声分析	事前 p.191 課題 47 進める。 事後 授業で実施した課題の復習。	120 分 160 分
第 6 回	自由ソプラノ課題／実習（5）まとめ 楽曲和声分析	事前 p.192 課題 47 進める。 事後 授業で実施した課題の復習。	140 分 140 分
第 7 回	反復進行の理論と実習（1）D 進行（音階固有音のみの和音 バス転回形含む）	事前 転位音を含む自由ソプラノ課題を仕上げ、演奏をしながら、転位音にも留意する。 事後 反復進行の課題 48 を実施し、弾いてみる。 反復進行の譜例を弾いてみる。	140 分 140 分
第 8 回	反復進行の理論と実習（2）D 進行（借用和音含む）と楽曲分析	事前 課題 49 を実施する。 事後 課題 51 を進める。	80 分 200 分
第 9 回	反復進行の理論と実習（3）バス 2 度 3 度上行、2 度下行と S 進行と楽曲分析	事前 p.208 を読んでおく。 事後 課題 52 を進める。	100 分 180 分
第 10 回	反復進行の実習（4）複合型と楽曲分析	事前 p.209 を読んでおく。 事後 課題 53 を進める。	120 分 160 分
第 11 回	模倣反復進行の理論と実習	事前 p.210～218 を読んでおく。 事後 課題 54.55 をピアノで演奏する。P.218～222 読んでおく。	180 分 100 分
第 12 回	厳格バス課題の理論と実習（1）	事前 前回までの復習 事後 課題 58 を進める。	180 分 100 分
第 13 回	厳格バス課題の理論と実習（2） 楽式論（1）	事前 課題 58 を進める。 事後 授業の復習。	160 分 120 分
第 14 回	A,B 二つの主題を持ったバス課題と楽曲分析 楽式論（2）	事前 課題 58 を進める。 事後 授業のプリントや学識の復習	140 分 140 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 後期の復習 事後 まとめの復習	160 分 120 分

フィードバック 授業ごとの課題やレポート、学年末試験の内容について、添削やコメントにより改善点や学習方法を各自に伝える。

成績評価 試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 島岡謙（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』音楽之友社

五線紙を用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 各自の演奏表現につなげるための学習であることを意識して、積極的に学習してほしい。実施した課題はピアノで必ず弾くこと。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

楽式論-1B

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF201

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	和声法を履修済みの学生を対象とする。楽曲中の和声を的確に分析する力および楽曲の形式を理解する力を養う。

到達目標	和声が楽曲の響きやフレーズにどのような影響を及ぼすかを理解し、楽曲中の和声から作曲家の工夫を読み取れるようになる。 楽式についての知識を深め、楽曲の形式を把握できるようになる。また楽曲について構造や和声的特徴を言葉で表現できるようになることを目指す。
------	--

授業計画	和声法の復習を交えつつ、楽曲の和声分析、形式の分析を中心に授業を進める。
------	--------------------------------------

第 1 回	和声の知識の確認 D 定型・終止定型	事前	和声 I での学習内容を十分に復習する。	130 分
		事後	与えられた課題を授業で学んだ手順に沿って実施する。	140 分
第 2 回	基本的な和音によるバス課題 和声小テスト	事前	実施した課題を見直し、訂正・再実施に取り組む。	130 分
		事後	基本的な和声課題について理解できていない部分を復習する。	140 分
第 3 回	和声分析について 基本的な和音による楽曲の和声分析	事前	宿題の和声課題に取り組む。	130 分
		事後	課題として与えられた楽曲の和声分析を行う。	140 分
第 4 回	非和声音について 楽曲中の非和声音の分析	事前	和音分析した楽曲を演奏し、分析内容を確認する。	130 分
		事後	非和声音の種類を確実に憶えるために、教科書の該当箇所を熟読する。	140 分
第 5 回	ナボリのⅡ ナボリのⅡを含む楽曲の和声分析	事前	楽曲の非和声音の分析を行う。	130 分
		事後	ナボリのⅡが使用されている楽曲を探し鑑賞した上で和音分析を行う。	140 分
第 6 回	副Ⅴの和音について 副Ⅴを含む楽曲の和声分析	事前	和声分析に習熟するために、さまざまな楽曲の和声を確認する。	130 分
		事後	各自の既習の楽曲を分析し副Ⅴの使用例を確認する。	140 分
第 7 回	動機・楽節 一部形式	事前	副Ⅴが用いられた楽曲の演奏・鑑賞を行う。	130 分
		事後	各自の既習の楽曲の旋律がどのように組み立てられているか確認する。	140 分
第 8 回	二部形式 三部形式	事前	楽節と和声の関係について分析し、その特徴を把握する。	130 分
		事後	与えられた楽曲を分析し、どのような形式であるか確認する。	140 分
第 9 回	複合三部形式	事前	分析した楽曲を演奏し、和声や調の流れを確認する。	130 分
		事後	複合三部形式で書かれた楽曲を探し鑑賞・分析を行う。	140 分
第 10 回	ロンド形式	事前	与えられた楽曲の和声及び構造の分析を行う。	130 分
		事後	授業で分析した楽曲を改めて鑑賞・分析する。	140 分
第 11 回	ソナタ形式	事前	ロンド形式で書かれた楽曲の鑑賞・分析を行う。	130 分
		事後	ソナタ形式の基本的な型を文章にまとめる。	140 分
第 12 回	規模の大きいソナタ形式	事前	基本的なソナタ形式の楽曲の分析に取り組む。	130 分
		事後	授業で扱った楽曲を再分析し、楽曲の構造を確実に把握する。	140 分
第 13 回	管弦楽におけるソナタ形式	事前	分析した楽曲を、形式を意識しつつ鑑賞する。	130 分
		事後	スコアに分析したものを記した上で楽曲を鑑賞し構造を確認する。	140 分
第 14 回	ロンドソナタ形式	事前	指示された楽曲の調の推移を確認する。	130 分
		事後	ロンド形式とロンドソナタ形式の違いについて考察する。	140 分
第 15 回	総まとめ	事前	既習の形式について知識を深めるため教科書を熟読する。	130 分
		事後	授業で扱った楽曲を改めて分析し、その構造や特徴を文章にまとめる。	140 分

フィードバック	実施した課題の添削・解説によりフィードバックを行う。
---------	----------------------------

成績評価	レポート 70%、和声の小テスト 20%、授業態度 10%
------	-------------------------------

テキスト	島岡譲著『和声と楽式のアナリーゼ』＝バイエルからソナタアルバムまで＝（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	---

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	□	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	□	□	□	□

楽式論-2B

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 楽式論-1B を履修済みの学生を対象とする。楽曲分析力を高め、楽曲を論理的に把握する力を養う。楽曲を理解し演奏することにより的確な表現ができるようになることを目指す。

到達目標 楽曲中の和声の流れを確実に把握できるよう、和声分析の反復練習を行う。また対位法的楽曲の様々な理論、技術を学び、分析できる楽曲の幅を広める。

授業計画 楽曲の和声・構造の分析を中心に授業を進める。インヴェンションやカノンの試作も実施する。

第 1 回	和声的楽曲の分析の復習	事前 既習事項の復習を十分に行う。	130 分
		事後 授業中に実施した課題の誤りを訂正する。	140 分
第 2 回	D2 ^o 下行型反復進行について	事前 分析した楽曲の演奏に取り組む	130 分
		事後 D2 ^o 下行型反復進行の課題を実施する。	140 分
第 3 回	対位法についての概説 2 声対位法(2 分音符)	事前 実施した和声課題を演奏する。	130 分
		事後 2 分音符対位法の課題を実施する。	140 分
第 4 回	J.S.BACH インヴェンション 1 番の分析	事前 実施した対位法課題をピアノで演奏する。	130 分
		事後 授業で分析した楽曲を改めて見直し、楽曲の構造、調の推移を確認する。	140 分
第 5 回	J.S.BACH インヴェンション 6 番の分析	事前 分析したことを意識しつつ楽曲の演奏に取り組む。	130 分
		事後 分析結果を書き込んだ楽譜を確認しつつ楽曲を鑑賞し、楽曲の構造、調の推移を理解する。	140 分
第 6 回	インヴェンション作成について	事前 分析した楽曲の演奏を試みる。	130 分
		事後 インヴェンション作成の手順を確認しつつ提示部を作成する。	140 分
第 7 回	2 声のインヴェンションの試作	事前 作成したインヴェンションの提示部をピアノで演奏し響きを確認する。	130 分
		事後 移行部及び副提示部、終結部を作成しインヴェンションを完成させる。	140 分
第 8 回	J.S.BACH インヴェンション 2 番の分析	事前 完成させたインヴェンションの演奏に取り組む。	130 分
		事後 授業で分析した楽曲について改めて分析し直し、曲の構造と調の推移を再確認する。	140 分
第 9 回	カノンについての概説 カノンの試作	事前 分析した楽曲の演奏に取り組む。	130 分
		事後 8 小節程度のカノンを作成させる。	140 分
第 10 回	フーガについての概説 フーガの素材	事前 完成させたカノンの演奏に取り組む。	130 分
		事後 フーガの素材や分析に用いられる用語を確実に憶える。	140 分
第 11 回	真答唱を持つフーガの分析	事前 フーガとはどのような楽曲であるか調べ、文章にまとめる。	130 分
		事後 授業で分析したフーガを見直し、曲の構造等を再確認する。	140 分
第 12 回	変答唱を持つフーガの分析	事前 分析したフーガの演奏・鑑賞に取り組む。	130 分
		事後 授業で示されたフーガの主唱と答唱にどのような違いがあるかを確認する。	140 分
第 13 回	バロック音楽以外のフーガの分析	事前 分析したフーガの演奏・鑑賞に取り組む。	130 分
		事後 時代による相違点と共通点を意識しつつ分析・鑑賞を行う。	140 分
第 14 回	二重フーガの分析	事前 様々な時代のフーガについて調べ、鑑賞・分析を行う。	130 分
		事後 授業で扱った楽曲を見直し、楽曲の構造を再確認した上で鑑賞する。	140 分
第 15 回	総まとめ	事前 和声的楽曲と対位法的楽曲の共通点及び相違点を挙げる。	130 分
		事後 これまでに得た知識を元に楽曲を分析し、文章にまとめる。	140 分

フィードバック 実施した課題の添削・解説によりフィードバックを行う。

成績評価 レポート 70%、インヴェンション・カノンの試作 20%、授業態度 10%

テキスト J.S.BACH インヴェンション(何版でも可)
その他適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

芸術社会学Ⅰ															
非常勤講師 三枝まり												科目コード：CAR201			
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2年次															
形態：講義				単位数：2単位											
概要		音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。													
到達目標		1 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。 2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。													
授業計画															
第1回	音楽と社会（総論）	事前	授業に期待することを頭の中でまとめておく（授業でリアクションペーパーに記入）										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第2回	音楽家の生活と演奏会の成立	事前	音楽家と呼ばれる人々はどうのような存在か考えてみる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第3回	クラシックの聴衆社会層	事前	19世紀ヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第4回	出版、著作権と音楽	事前	著作権について調べる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第5回	近代化と楽器	事前	楽器を通してどのような音楽観が抱かれてきたのか考える。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第6回	近代国家としての日本	事前	明治初期の日本の近代化政策と音楽について調べてくる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第7回	学校教育の中の音楽—東京音楽学校における音楽教育と今日の課題	事前	学校教育で印象に残っている音楽が、自分にどのような影響を与えたか考える。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第8回	国家と音楽	事前	明治時代以降の日本史の知識を得ておく。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第9回	大正デモクラシーと音楽	事前	大正デモクラシーについて知識を得ておく。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第10回	宝塚歌劇団の意義	事前	任意の宝塚歌劇団の映像資料を見てくる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第11回	吹奏楽の広がり—軍楽隊、民間の楽隊、学校や職場での吹奏楽	事前	自分の周りにある吹奏楽団の活動状況とレパートリーについて調べる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第12回	戦争と音楽—戦時歌謡、絶対音感教育	事前	昭和時代の日本史の知識を得ておく。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第13回	戦争と音楽—日本における作曲界の動向	事前	伝統音楽の演奏を聴いてくる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第14回	海外への日本文化の発信—近衛秀麿	事前	好きな指揮者の活動とレパートリーについて調べる。										130分		
		事後	レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。										140分		
第15回	前期のまとめ	事前	前期に学んだことを復習する。										130分		
		事後	関連する作品を実際に聴く。										140分		
フィードバック		必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。													
成績評価		期末論述テスト 60%、リアクションペーパー等の提出物、授業態度 40%													
テキスト		講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。													

オフィスアワー 原則として授業終了後に教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	□	□	☑

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：	単位数：2 単位
概要	音楽は社会や政治の歩みと密接に関連している。近代化の過程で、音楽が歴史的・社会的にどのように位置づけられてきたのか、トピックごとに取りあげ、音楽に与える社会の影響や社会において音楽が持つ意味について考察する。

到達目標	1 音楽をとりまく社会と文化を総合的に理解する多角的な視野を養い、音楽を通じて社会を論じることができるようになる。 2. 自分なりの視点で音楽文化の形成について理解し、これからの日本の社会の中でどのように音楽と向き合っていきたいかを考えることができる。
------	---

授業計画		
第 1 回	日本におけるオーケストラ	事前 日本のプロオーケストラの数と場所を調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 2 回	戦後日本の文化と音楽	事前 戦後の日本史についての知識を得ておく。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 3 回	社会主義運動と音楽	事前 社会主義運動とは何かを調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 4 回	音楽趣味の形成と大衆化	事前 これまで習った習い事を思い出し、自分にどのような影響を与えたか考える。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 5 回	経済活動と音楽―音楽祭、都市計画、ホール運営	事前 日本の音楽祭について調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 6 回	芸術祭と地域づくり	事前 日本の芸術祭について調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 7 回	今日のアートと社会	事前 身の回りでなされている、社会と音楽をつなぐ取り組みについて調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 8 回	映画の中の音楽	事前 映画音楽で表される「日本」について、事例をできる限り探す。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 9 回	ポピュラー音楽の諸相	事前 任意の曲を選び、音楽と歌詞の特徴を見つめる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 10 回	世界の音楽の受容	事前 自分が関心を持つ国でどのような音楽が演奏されているのか調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 11 回	社会の中の音楽療法	事前 音楽療法の歴史について調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 12 回	芸は身を助く？	事前 第二次世界大戦時のヨーロッパの一般的な世界史の知識を得ておく。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 13 回	冷戦と音楽	事前 冷戦について調べる。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 14 回	「鑑賞」されるクラシック音楽	事前 これまで「鑑賞」した音楽について整理しておく。 130 分
		事後 レジュメに基づいて授業の内容を再確認し、関連する作品を実際に聴く。 140 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 後期に学んだことを復習し、レポートに書く内容を整理する。 130 分
		事後 関連する作品を実際に聴く。 140 分

フィードバック	講義の始めに復習の時間を設けるとともに、必要に応じて提出物にコメントを加えることによりフィードバックする。また、理解度に応じてシラバスの内容を変更する。
成績評価	期末論述テスト 40%、リアクションペーパー等の提出物、授業態度 60%

テキスト	講義内で配布するレジュメに参考文献を掲載する。
------	-------------------------

オフィスアワー	原則として授業終了後に教室にて。
---------	------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	☑

対象コース／専門／学年： ピアノ専門／4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概論	これまで学んできた時代様式に沿った演奏法について確認し、より理解を深め、その中から自分に適したテーマを決定する。

到達目標 自己を見つめ直し、これまでの学びを振り返り、大学生としての集大成となるテーマを見つける。

授業計画		
第 1 回	学習計画	事前 これまでの学習とレパートリーの確認。 事後 学習計画により、今後の方向性を確認する。 135 分
第 2 回	時代様式の確認（ 1 ）バロック 形式を中心に	事前 フーガ、舞曲等の作品を聴く。 135 分 事後 バロック作品を分析する。 135 分
第 3 回	時代様式の確認（ 2 ）バロック 奏法を中心に	事前 アーティキュレーション、装飾音等の作品特徴を研究する。 135 分 事後 作品を分析し、奏法の可能性を考える。 135 分
第 4 回	時代様式の確認（ 3 ）古典派 形式を中心に	事前 ソナタ形式や、和声進行について確認する。 135 分 事後 古典派の作品を分析する。 135 分
第 5 回	時代様式の確認（ 4 ）古典派 奏法を中心に	事前 古典派の作品の音色について考える。 135 分 事後 タッチ、ペダル、アーティキュレーション等、表現方法の見直し。 135 分
第 6 回	時代様式の確認（ 5 ）ロマン派 様式観を中心に	事前 ロマン派の作品の特徴について考える。 135 分 事後 音楽以外の分野との関係について考える。 135 分
第 7 回	時代様式の確認（ 6 ）ロマン派 奏法を中心に	事前 ロマン派の作品の音色について考える。 135 分 事後 ペダル、響きのつくり方の研究と楽器の発達について考える。 135 分
第 8 回	時代様式の確認（ 7 ）近現代 音色、響きの研究	事前 近現代作品の作曲家について調べる。 135 分 事後 それぞれの作曲家の求める響きについて考える。 135 分
第 9 回	時代様式の確認（ 8 ）近現代 奏法を中心に	事前 ピアノという楽器の可能性について考える。 135 分 事後 タッチやペダルの使い方の新たな可能性について考える。 135 分
第 10 回	研究テーマを考える① 自己分析	事前 自分の過去のレパートリーを検証する。 135 分 事後 自分を見つめ、合う作品、音楽的興味の傾向を探る。 135 分
第 11 回	研究テーマを考える② 時代様式の観点から	事前 様々な時代の作品を聴く。 135 分 事後 それぞれの時代様式と自己と接点を探る。 135 分
第 12 回	研究テーマを考える③ 作曲家の観点から	事前 様々な作曲家の作品を聴く。 135 分 事後 それぞれの作曲家の響き、世界観を追及する。 135 分
第 13 回	研究テーマを考える④ 作品形式の観点から	事前 様々な形式により書かれた作品を比較する。 135 分 事後 様々な形式の特徴を理解する。 135 分
第 14 回	研究テーマを考える⑤ 技術的観点から	事前 これまでのレパートリーを分析し、自分の技術について分析する。 135 分 事後 自分の得意な技術、不得意な技術を確認する。 135 分
第 15 回	研究テーマを決定する	事前 これまでの学習のまとめと自己分析。 135 分 事後 自分に適した研究テーマを決め、確認する。 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行う。

成績評価 課題への取り組み方（50%）、授業態度（50%）

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

卒業演習-2（ピアノ）			科目コード： IND 402		
ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃					
対象コース／専門／学年： ピアノ専門／4 年次					
形態： 演習			単位数： 2 単位		
概論			前期に決定した研究テーマを様々な角度から考察し、論文にまとめ上げるための能力を身につける。		
到達目標			卒業演奏試験で取り組む曲について多角的に研究し、卒業演奏論文としてまとめる。		

授業計画		
第 1 回	研究テーマに合致した、卒業演奏試験曲目を選ぶ	事前 事後 135 分
第 2 回	卒業演奏試験曲目の考察① 時代様式	事前 事後 135 分 135 分
第 3 回	卒業演奏試験曲目の考察② 作曲家	事前 事後 135 分 135 分
第 4 回	卒業演奏試験曲目の考察③ 楽曲分析	事前 事後 135 分 135 分
第 5 回	卒業演奏試験曲目の考察④ 技術面	事前 事後 135 分 135 分
第 6 回	卒業演奏試験曲目の考察⑤ 作品全体像の確認	事前 事後 135 分 135 分
第 7 回	論文の書き方について学ぶ	事前 事後 135 分 135 分
第 8 回	資料研究① 文献を集める	事前 事後 135 分 135 分
第 9 回	資料研究② 文献の理解	事前 事後 135 分 135 分
第 10 回	構成を考える	事前 事後 135 分 135 分
第 11 回	構成を決定する	事前 事後 135 分 135 分
第 12 回	作成① 概要	事前 事後 135 分 135 分
第 13 回	作成② 要旨作成	事前 事後 135 分 135 分
第 14 回	校正	事前 事後 135 分 135 分
第 15 回	まとめ	事前 事後 135 分 135 分
フィードバック	卒業演奏試験後に講評する。	

成績評価 卒業演奏試験に研究した内容が反映されているか。評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

卒業演習-1（弦楽器）			科目コード：IND401		
弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか					
対象コース／専門／学年：弦楽器専門／4 年次					
形態：演習			単位数：4 単位		
概論			卒業演奏試験（小論文含む）にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。		
到達目標			自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。		

授業計画			この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導 専門実技Ⅳ-1 および（演）専門実技Ⅳ-1 に付随する。		
第 1 回	学習計画をたてる	事前	三年次の学習を確認し、最終学年の計画をたてる。	135 分	
		事後	計画にしたがって準備をする。	135 分	
第 2 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（1）	事前	作品の背景をとらえる。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 3 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（2）	事前	和声感に注目する。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 4 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（3）	事前	奏法について考える。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 5 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（4）	事前	形式を把握する。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 6 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（5）	事前	様式感を意識する。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 7 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（6）	事前	表現とは何か考える。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 8 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）あるいはエチュード曲を選ぶ（7）	事前	アンサンブルの呼吸感を掴む。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 9 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（1）あるいは課題曲 A（バロック期）（1）を学ぶ	事前	新たな作品の背景をとらえる。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 10 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（2）あるいは課題曲 A（バロック期）（2）を学ぶ	事前	形式、和声を意識する。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 11 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（3）あるいは課題曲 A（バロック期）（3）を学ぶ	事前	表現のための技術を磨く。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 12 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（4）あるいは課題曲 B（古典派）（1）を学ぶ	事前	様式の違いによる奏法を工夫する。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 13 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（5）あるいは課題曲 B（古典派）（2）を学ぶ	事前	ニュアンスについて考える。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 14 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（6）あるいは課題曲 B（古典派）（3）を学ぶ	事前	客観的な視点をもって自らの演奏表現をみつめる。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	
第 15 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）（7）あるいは課題曲 A、B を学ぶ	事前	前期のまとめを行う。	135 分	
		事後	問題点を把握し、解決する。	135 分	

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

卒業演習-2（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード： IND 402

対象コース／専門／学年： 弦楽器専門／4 年次

形態： 演習

単位数： 4 単位

概論 卒業演奏試験（小論文含む）にむけて、音楽の解釈力と表現力を養う。

到達目標 自らの解釈をもって、説得力のある演奏や論文執筆ができる。

授業計画 この単位は半期 15 回、各人 60 分の個人指導
専門実技Ⅳ-2 および（演）専門実技Ⅳ-2 に付随する。

第 1 回	学習計画をたてる、あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（1）を学ぶ	事前 小品のキャラクターをとらえる力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 2 回	課題曲Ⅲ（小品）（1）あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（2）を学ぶ	事前 新たな作品の背景や形式をとらえる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 3 回	課題曲Ⅲ（小品）（2）あるいは課題曲 C（ロマン派小品）（3）を学ぶ	事前 新たな奏法へのアプローチを試みる 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 4 回	課題曲Ⅲ（小品）（3）あるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（1）を学ぶ	事前 楽曲の全体像を俯瞰できるようにする。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 5 回	卒業演奏試験へのアプローチあるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（2）を学ぶ	事前 卒業試験をみすえて、ペース配分を再考する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 6 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（1）あるいは課題曲 D（ロマン派協奏曲）（3）を学ぶ	事前 作曲家の意図をくみとる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 7 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（2）あるいは課題曲 E（近現代）（1）を学ぶ	事前 多彩な語彙力を養う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 8 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（3）あるいは課題曲 E（近現代）（2）を学ぶ	事前 より自由な発想をもつ。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 9 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（4）あるいは課題曲 E（近現代）（3）を学ぶ	事前 論理的思考をつちかう。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 10 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（5）あるいはリサイタルプログラム（1）を学ぶ	事前 自身の演奏を客観的にとらえ、プレゼンテーションを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 11 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（6）あるいはリサイタルプログラム（2）を学ぶ	事前 より伝わる演奏をするためのアプローチを行う。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 12 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（7）あるいはリサイタルプログラム（3）を学ぶ	事前 小論文の準備について確認する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 13 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（8）あるいはリサイタルプログラム（4）を学ぶ	事前 ピアノとの緻密なアンサンブルを構築する。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 14 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（9）あるいはリサイタルプログラム（5）を学ぶ	事前 ホールリハーサルの実感をいかして演奏準備にあたる。 事後 問題点を把握し、解決する。	135 分 135 分
第 15 回	卒業演習試験の反省	事前 集大成となる舞台にむけて準備する。 事後 4 年間の学びをふりかえり	135 分 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われた、実技試験後には講評を行う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

卒業演習-1（管打楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年：器楽コース・演奏家コース／管打楽器専門／4 年次生

形態：演習	単位数：2 単位
概要	卒業試験に向けて準備する。

到達目標 4 年間の集大成として十分な内容を披露することを目標とする。

授業計画		
第 1 回	3 年次までに取り上げた曲を振り返り、奏法・表現について反省する。	事前 前年度までの学修を確認する。 事後 反省から展望へとつなげる。135 分
第 2 回	卒業試験の曲目について候補を上げる。	事前 候補曲について考える。135 分 事後 さらに候補曲がないか確かめる。135 分
第 3 回	卒業試験の曲目を決定する。	事前 候補曲の中から希望する曲目を考える。135 分 事後 楽譜の手配135 分
第 4 回	練習の方針について確認する。	事前 譜読みを始める。135 分 事後 問題個所の確認と練習。135 分
第 5 回	曲目の様式を学ぶ。	事前 様式について予習する。135 分 事後 様式について復習する。135 分
第 6 回	①曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。135 分 事後 内容の分析について復習する。135 分
第 7 回	②曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。135 分 事後 内容の分析について復習する。135 分
第 8 回	③曲目の内容について分析する。	事前 内容の分析について予習する。135 分 事後 内容の分析について復習する。135 分
第 9 回	①奏法について	事前 表現について取り組む。135 分 事後 表現について学んだことを身に付ける。135 分
第 10 回	②奏法について	事前 さらに深く奏法について取り組む。135 分 事後 奏法について復習する135 分
第 11 回	③奏法について	事前 さらに深く奏法について取り組む。135 分 事後 奏法について復習する135 分
第 12 回	表現の工夫	事前 表現に取り組む135 分 事後 復習して身に付ける。135 分
第 13 回	表現の掘り下げ	事前 全般的に確認する135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。135 分
第 14 回	前期の仕上げ	事前 前期の仕上げを目指す135 分 事後 問題個所を確認し、是正する。135 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の問題点について振り返る。135 分 事後 前期の問題点について振り返り、問題点を是正する。135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われまた、実技試験後には講評する。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒

卒業演習-2（管打楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子	科目コード： IND402
----------------------	---------------

対象コース／専門／学年： 器楽コース・演奏家コース／管打楽器専門／4 年次生

形態： 演習	単位数： 2 単位
概要	卒業試験に向けて準備する。

到達目標	4 年間の集大成として十分な内容を披露することを目標とする。
------	--------------------------------

授業計画		
第 1 回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期にむけて計画をたてる。 事後 必要な教材をそろえる。 135 分
第 2 回	①基礎訓練的な練習。	事前 基礎訓練の準備をする。 135 分 事後 問題個所の是正をする。 135 分
第 3 回	②基礎訓練的な練習。	事前 奏法について復習する。 135 分 事後 問題個所の是正をする。 135 分
第 4 回	①試験曲のまとめ	事前 試験曲を包括的にまとめる。 135 分 事後 問題点を是正する。 135 分
第 5 回	②試験曲のまとめ	事前 試験曲の仕上げに向かう。 135 分 事後 問題点を是正する。 135 分
第 6 回	①伴奏合わせの準備	事前 伴奏合わせについて予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 7 回	②伴奏合わせの準備	事前 伴奏合わせについて予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 135 分
第 8 回	①伴奏合わせ。	事前 伴奏合わせについて予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 9 回	②伴奏合わせ。	事前 伴奏合わせについて予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 10 回	③伴奏合わせ	事前 伴奏合わせについて予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 11 回	全体的に完成を目指す。	事前 全般的に予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 12 回	引き続き全体的に完成を目指す。	事前 全般的に予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 13 回	ホール練習	事前 全般的に予習する。 135 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて取り組む。 135 分
第 14 回	仕上げの演奏	事前 卒業試験曲の完成を目指す 135 分 事後 卒業試験曲の演奏を振り返る 135 分
第 15 回	4 年間のまとめ	事前 4 年間の取り組みを振り返る。 135 分 事後 卒業後に向けて展望する。 135 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて行われまた、実技試験後には講評する。

成績評価	実技試験で評価する。 なお、実技試験評価は複数教員による。
テキスト	教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒

卒業演習-1(声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：MUS401

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／4 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	卒業に際して、4 年間の成果をひとつのプログラムとして構築し演奏する。 卒業演奏で演奏した曲目について自分の言葉で解説した小論文を作成する。

到達目標	4 年間の学習、研究を振り返る。 自分の声の質、特質を理解する。 自分の声に合ったレパートリーを身に付ける。
------	--

授業計画	声楽コース：15 回。週 60 分の個人指導。 演奏家コース：15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。
------	---

第 1 回	ガイダンス これまで学習してきたレパートリーを確認する	事前 3 年間での学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	140 分 130 分
第 2 回	レパートリーを確認したうえで、卒業演奏の曲目を考える	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 3 回	外国歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 4 回	外国歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 5 回	日本歌曲 楽譜を読み込む① 和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 6 回	日本歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 7 回	オペラ、オラトリオ等のアリア 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 8 回	オペラ、オラトリオ等のアリア 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 9 回	外国歌曲の絞り込み	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 10 回	外国歌曲の絞り込みと確認	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 11 回	日本歌曲の絞り込み	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 12 回	日本歌曲の絞り込みと確認	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 13 回	オペラ、オラトリオ等のアリアの絞り込み	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 14 回	オペラ、オラトリオ等のアリアの絞り込みと確認	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 15 回	プログラムを組み試演する	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分

フィードバック 試演後、個人面談の形で振り返り問題点を洗い出す

成績評価 試演後、担当教員による評価

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	□	□	□	□	□	□

卒業演習-2(声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：MUS402

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／4 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	卒業に際して、4 年間の成果をひとつのプログラムとして構築し演奏する。 卒業演奏で演奏した曲目について自分の言葉で解説した小論文を作成する。

到達目標	4 年間の学習、研究を振り返る。 自分の声の質、特質を理解する。 自分の声に合ったレパートリーを身に付ける。 小論文を作成し提出する。
------	--

授業計画	声楽コース：15 回。週 60 分の個人指導。 演奏家コース：15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。
------	---

第 1 回	プログラムの試演と確認	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 2 回	プログラムの確立	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 3 回	小論文の為の資料を集める① 選択した楽曲の正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 4 回	小論文の為の資料を集める② 演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 5 回	小論文の為の資料を集める③ 演奏上の問題点の認識とその解決をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 6 回	小論文作成① ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 7 回	小論文作成② ピアノ伴奏とともに演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 8 回	小論文作成③ ピアノ伴奏とともに演奏上の問題点の認識とその解決をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 9 回	小論文作成④ 暗譜の確認	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 10 回	小論文作成⑤ 暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 11 回	小論文の確認 暗譜の上、表現、演奏の充実、さらなる向上をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 12 回	小論文の修正① 暗譜で演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 13 回	小論文の修正② 暗譜で演奏の完成度を高める	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 14 回	小論文修正後の再確認 卒業演奏の予行演習をする	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分
第 15 回	小論文の完成 演奏の問題点の再確認とその解決をはかる	事前 次回のレッスンで歌う楽曲の準備、練習をする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	140 分 130 分

フィードバック 卒業演奏、並びに小論文提出後に個人面談の形で振り返り、成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目、並びに小論文の資料は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

卒業演習-1

教授 山内雅子

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／4 年次

科目コード： EDU401

形態： 演習

単位数： 4 単位

概論

卒業論文執筆に向け、3 年次の「演習（音楽教育 A）」での学修を基に、具体的な論文執筆に入り 12 月中に書きあげて提出する。7 月には中間発表会、1 月には論文審査の口頭試問、3 月には大学内外に向けて、卒業論文口述発表会を行う。

到達目標

音楽教育の研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文の形にまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキルを身に付けると共に、教育実践の現場から学び、また課題を読み取る能力を養い、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。

授業計画

3 年次に行ってきた基礎研究と作成した教材・学習指導案を生かして検証授業を行うことが前期の中心となる学修課題となる。

第 1 回	各自の研究テーマについて確認し、先輩の論文から学び、研究のゴールの形を見据える。	事前 昨年度の卒業生の家喜論文を読んでくる 事後 4 年次での論文執筆のスケジュールをたてる	130 分 140 分
第 2 回	研究の仮説を明確にする	事前 研究主題設定の理由と研究の方法を見直し、研究の仮説を書く。 事後 授業での指摘部分を修正し、研究仮説を明確にして、次の執筆を進める	130 分 140 分
第 3 回	3 つの先行研究から明らかになった部分の執筆を進める	事前 先行研究に位置づける論文を再度読み、基礎研究としてレビューする 事後 基礎研究の執筆部分について、助言を生かし、修正する	130 分 140 分
第 4 回	作成教材の検証授業について、教育実習校との連絡・調整を進める	事前 教育実習校の指導教官、並びに作曲家の教諭から作成教材についての指導を受ける 事後 作成教材、並びに学習指導案の修正を行う	130 分 140 分
第 5 回	教育実習校の指導教諭との打ち合わせを生かして指導案の修正を行う	事前 作成指導案について、研究のねらいにフォーカスして指導案を練り上げる 事後 授業内模擬授業を通して、振り返り、授業の精度を高める。	130 分 140 分
第 6 回	検証授業の教材作成	事前 授業に必要な掲示物やワークシート等を作成する 事後 授業準備を更に綿密に行う	130 分 140 分
第 7 回	教育実習校の指導教諭打ち合わせを生かして、3 週間をシミュレーションする	事前 教育実習に向かうに当たり、音楽科授業以前の生徒との関係づくりを復習する 事後 3 週間の教育実習に向かう準備を整える	130 分 140 分
第 8 回	教育実習での検証授業	事前 検証授業に向けてポイントを押さえる 事後 検証授業を振り返り、修正点を明確にし、次時につなげる	130 分 140 分
第 9 回	教育実習での検証授業	事前 検証授業に向けて、ポイントを押さえる 事後 検証授業を振り返り、次時に生かす	130 分 140 分
第 10 回	教育実習での検証授業	事前 検証授業に向けて、ポイントを押さえる 事後 検証授業を振り返る	130 分 140 分
第 11 回	検証授業の振り返り	事前 検証授業を振り返り、自分なりに分析する 事後 検証授業の分析結果をまとめる	130 分 140 分
第 12 回	実践研究の執筆	事前 実践研究の部分を執筆する 事後 授業での助言を生かして、実践研究の文章表現や執筆の視点を修正する	130 分 140 分
第 13 回	これまでの研究のまとめ	事前 中間発表会に向けて、PowerPoint を作成する 事後 PowerPoint を修正する	130 分 140 分
第 14 回	中間報告：レジュメ作成	事前 中間発表のレジュメを作成する。 事後 授業での助言を生かして、中間発表のレジュメを修正する。	130 分 140 分
第 15 回	中間報告：口頭発表	事前 中間発表会の発表原稿を作成する。 事後 発表会で受けた質問や助言を生かして、今後の論文執筆の修正を行う。	130 分 140 分

フィードバック

学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価

日々の取り組み内容と、卒業論文中間発表会によって評価する。前期は、作成教材の検証授業を評価の中心におくこととする。

テキスト

- ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年
- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編 平成 30 年
- ・先行研究の論文等、適宜提示 検索

オフィスアワー

疑問・質問は授業後随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。

備考

正規の演習時間外に演習の時間を設定する場合がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒

卒業演習-2

教授 山内雅子

科目コード： EDU402

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／4 年次

形態：通年	単位数：4 単位
概論	3 年次に行った基礎研究をもとに、前期に行った検証授業を分析し、研究の仮説が実証されたかどうか、不十分であれば、どこに課題があったのかを明らかにする。以上をもとに卒業論文として書き上げる。12 月中に書きあげて提出し、1 月の論文審査の口頭試問を経て修正し、最終提出を行い、卒業論文口述発表会で発表する。
到達目標	音楽教育の研鑽を通じて、各自選んだテーマで研究を行う。論文の形にまとめ、口頭での要約発表を行うことを目標とする。文献調査と整理の基本的スキルを身に付けると共に、教育実践の現場から学び、また課題を読み取る能力を養い、それらを基に自己の考えをまとめ、プレゼンテーションする能力を鍛錬する。
授業計画	これまでの基礎研究と実践研究をもとに、研究仮説を検証し、論文として書き上げる。マンツーマン指導となる。

第 1 回	新たな課題の提起	プロットの修正	事前 研究内容について、軌道修正を行い、プロット他の修正案を作成する。	130 分
			事後 授業内の検討を受けて、今後の研究の方向を明らかにする。	140 分
第 2 回	理論研究の補強		事前 更に、理論研究が必要となった部分についての文献研究を行い、検討資料を作成する。	130 分
			事後 授業内の検討を受けて、更なる課題を明確にし、他の文献も検索し、入手する。	140 分
第 3 回	プロット・研究の方法の確定		事前 プロット、研究の方法の修正を行う	130 分
			事後 指導を受けて、研究の方法とプロットを修正する。	140 分
第 4 回	序章の修正・第 1 章の加筆修正		事前 論文の完成に向けて、序章から第 1 章を見直し、加筆修正を行う。	130 分
			事後 講義を受けて、序章と第 1 章を更に加筆・修正して仕上げる。	140 分
第 5 回	第 2 章 学習指導案についての加筆・修正		事前 論文の完成に向けて、第 2 章を見直し、加筆修正を行う。	130 分
			事後 基礎研究、検証授業を振り返り、第 2 章の加筆修正を行う。	140 分
第 6 回	第 3 章 検証授業について分析		事前 検証授業のビデオを再度視聴し、改めて仮説が実証されたかを分析する。	130 分
			事後 授業内の再検討を受けて、丁寧に 3 つの視点で授業分析する。	140 分
第 7 回	第 3 章 検証授業についての分析		事前 3 つの視点で授業分析した結果を文章で端的に表現する。	130 分
			事後 授業分析の結果と生徒アンケートの結果をすり合わせる。	140 分
第 8 回	第 3 章 検証授業についての執筆加筆・修正		事前 第 3 章の検証授業の結果と考察を書く。	130 分
			事後 授業内検討を生かして、第 3 章を再修正する。	140 分
第 9 回	第 4 章 研究の結果と今後の課題の執筆		事前 論文の完成に向けて、終章を見直し、加筆修正を行う。	130 分
			事後 授業での検討を受けて、終章の加筆修正を行う。	140 分
第 10 回	主要参考文献等の執筆		事前 脚注・引用・参考文献の頁を執筆する。	130 分
			事後 講義を受けて、脚注・引用・参考文献について加筆修正する。	140 分
第 11 回	論文要旨作成と全体的見直し		事前 論文の要旨を作成する。	130 分
			事後 講義を受けて、論文の要旨を修正する。	140 分
第 12 回	発表レジュメ作成と全体的見直し		事前 発表のレジュメを作成する。	130 分
			事後 講義を受けて、レジュメの修正を行う。	140 分
第 13 回	口頭試問に向けての PowerPoint の作成		事前 論文発表に向けて、パワーポイントを作成する。	130 分
			事後 講義を受けて、パワーポイントを修正する。	140 分
第 14 回	論文発表		事前 発表原稿を作成する。	130 分
			事後 卒業論文審査での指導助言を受けて、要旨、並びに論文を修正する。	140 分

フィードバック 学生が事前に準備してきた内容を授業内で検討し、新たな課題を見出す形で進めていく。授業内での討議、指導がフィードバックにあたり、フィードバックされた内容を生かして、次週に向け新たな課題に取り組む。

成績評価 完成した卒業論文と卒業論文口頭試問によって評価する。

テキスト ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年
・高等学校学習指導要領解説 芸術編 平成 30 年

オフィスアワー 疑問・質問は授業後随時対応する。また Email での論文添削も随時行う。

備考 正規の演習時間外に演習の時間を設定する場合がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒

到達目標

練習曲を通じて更なる指の強化、多様なタッチを身につける。古典派とロマン派の様式観のちがいを学びペダルの使い方や響きのつくり方等、より掘り下げた作品理解に到達することを目標とする。

授業計画

前期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し学習したい内容を確認。	320 分
		事後 課題曲の設定。	520 分
第 2 回	練習曲(1)指の強化	事前 これまで習得した奏法を意識してさらに強化に努める。	320 分
		事後 反復練習。課題曲の読譜。	520 分
第 3 回	練習曲(2)様々なタッチ	事前 様々な音質、音色をイメージしてタッチを工夫する。課題曲の読譜。	320 分
		事後 反復練習。課題曲の読譜。	520 分
第 4 回	ソナタ形式について	事前 ソナタ形式について調べる。	320 分
		事後 作品の形式を理解し演奏を整理する。	520 分
第 5 回	楽曲分析 楽曲 A	事前 主題、和声進行、展開について調べる。	320 分
		事後 主題の扱い、作品の展開を意識して練習。	520 分
第 6 回	奏法(ペダル)	事前 ペダルの設定。	320 分
		事後 構成、様式に相応しく、響きの美しいペダルの設定の徹底。	520 分
第 7 回	奏法(レガート)	事前 レガート奏法の工夫。	320 分
		事後 鍵盤楽器のレガート奏法の探求。	520 分
第 8 回	ロマン派様式について	事前 ロマン派様式について調べる。	320 分
		事後 様式を踏まえて作品の全体像を把握する。	520 分
第 9 回	音、響きを磨く	事前 相応しい音、響きを追求。	320 分
		事後 作品に求められている音、響きの探求。	520 分
第 10 回	様々なタッチの研究	事前 音、響きの探求。	320 分
		事後 表現のための効果的なタッチの探求。	520 分
第 11 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 和声の分析と音楽の流れを把握する。	320 分
		事後 作品の全体像と展開を理解して練習。	520 分
第 12 回	表現法	事前 分析を基に作品の理解を深める。	320 分
		事後 作品の性格や展開を捉え様々な表現を試みる。	520 分
第 13 回	表現の掘り下げ	事前 作品に相応しい表現を追求する。	320 分
		事後 自由な表現を目指して練習。	520 分
第 14 回	仕上げ	事前 全体のバランス、表現を意識して練習。	320 分
		事後 明確なビジョンを持って練習。	520 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 作品の表現を明確にする。	320 分
		事後 演奏の自己評価。	520 分

フィードバック

実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価

実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト

各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー

レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（ピアノ）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／2 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 ピアニストにとって重要なレパートリーである、ショパンとシューマンの作品を中心に、より深いロマン派の様式への理解と表現方法を学ぶ。また発表会に出演し、公開演奏会での心構えを学ぶ。

到達目標 ショパンとシューマンの作品を通じて、様々な響きの研究、身体の使い方の研究を通じ、作品の表現に相応しい奏法を確立することを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し、学習の計画を立てる。	320 分
		事後 課題曲の設定。	520 分
第 2 回	作曲技法について	事前 バロック、古典、ロマン派の音楽の違いを確認する。	320 分
		事後 作品研究。課題曲の読譜。	520 分
第 3 回	作品の内容、性格の把握	事前 作品の具体的なイメージを深める。	320 分
		事後 作曲家のメッセージ、内容を読み取り、演奏表現を具体的にイメージする。	520 分
第 4 回	時代背景	事前 作曲家の生きた時代の文化、歴史について調べる。	320 分
		事後 時代が作曲家や作品の完成に与えた影響を考察する。	520 分
第 5 回	楽曲分析 楽曲 C	事前 和声の展開を分析し音楽の流れを理解する。	320 分
		事後 音楽の抑揚を意識して練習。	520 分
第 6 回	構成理解	事前 構成を分析しまとめる。	320 分
		事後 全体像をつかみ、音楽の展開、抑揚を把握する。	520 分
第 7 回	練習方法の工夫	事前 自分の技術的、表現的問題を認識する。	320 分
		事後 担当教員のアドバイスを基に効果的な練習法を実践し、表現に必要な奏法を習得する。	520 分
第 8 回	ルパートについて	事前 ロマン派音楽の様式を確認する。	320 分
		事後 作曲家による音楽語法を理解し、相応しいルパートを研究する。	520 分
第 9 回	脱力と手腕の使い方	事前 表現に相応しい奏法の研究。	320 分
		事後 手腕の状態を意識して練習。	520 分
第 10 回	強弱、音色、響きの研究	事前 奏法による音の違いを研究。	320 分
		事後 作品の表現に相応しい奏法の確立。	520 分
第 11 回	和声感	事前 全体像を再確認する。	320 分
		事後 和声の色、方向性、エネルギーを意識して練習。	520 分
第 12 回	リズムとテンポ	事前 反復練習。	320 分
		事後 相応しいテンポを設定と生きたリズムの確認。	520 分
第 13 回	表現の工夫	事前 作品の理解を深める。	320 分
		事後 表現に必要な奏法、イメージの徹底。	520 分
第 14 回	まとめ	事前 全体像を再確認、奏法の確実化。	320 分
		事後 より豊かな表現を目指す。	520 分
第 15 回	後期 成果の発表	事前 作品の全体像を再確認。	320 分
		事後 自己評価。	520 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。
発表会後、各教員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	学内演奏会の出演のための準備を行う。

到達目標 学内演奏会の出演により聴衆の前で研究成果を発表する。

授業計画 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	ガイダンス 前期の学習計画を立てる	事前 現状を自己分析し、課題を明確にする。	320 分
		事後 課題曲の設定。	520 分
第 2 回	読譜の注意点	事前 楽譜の指示を良く見る。	320 分
		事後 様々な作曲家の指示、記譜法について研究する。課題曲の読譜。	520 分
第 3 回	技術的問題点の解決法	事前 自分の技術的問題点を把握する。	320 分
		事後 様々な問題を想起し、練習法を整理、復習する。課題曲の読譜。	520 分
第 4 回	楽曲分析 楽曲 A	事前 和声の確認。	320 分
		事後 和声進行、音楽の流れ、展開の把握。	520 分
第 5 回	構成理解	事前 楽句、フレーズを整理する。	320 分
		事後 作品の構成を理解し、全体像を明確にする。	520 分
第 6 回	ペダルの確認	事前 音、響きをイメージして練習。	320 分
		事後 作曲家の指示を踏まえ正しいペダル、効果的なペダルを追求。	520 分
第 7 回	奏法の工夫	事前 作品のイメージを明確にする。	320 分
		事後 相応しい奏法の研究。	520 分
第 8 回	作品の内容、性格について	事前 構成、楽曲分析の復習。	320 分
		事後 楽譜の指示、様々な要素から作品の内容、性格を読み取る。	520 分
第 9 回	表現の工夫	事前 演奏表現のイメージを明確にし、パートナーとの合同練習。	320 分
		事後 アンサンブルの音、響き、表現を追求して練習。	520 分
第 10 回	音色、響きの研究	事前 作品に相応しい音のイメージを追求し合同練習。	320 分
		事後 理想の響きを求めて奏法、タッチを工夫する。	520 分
第 11 回	バランス	事前 全体を良く聴いて合同練習。	320 分
		事後 相手パートとの理想のバランスを追求して練習。	520 分
第 12 回	表現の掘り下げ	事前 作品の内容、性格を確認して合同練習。	320 分
		事後 アンサンブルにおける理想の表現を追求して練習。	520 分
第 13 回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法	事前 ホールを想定しながら合同練習。	320 分
		事後 担当教員のアドバイスを基に広いホールでの表現を意識して練習。	520 分
第 14 回	ホールでの演奏を想定した表現、奏法の徹底	事前 イメージトレーニングと反復練習。	320 分
		事後 ホールをイメージして反復練習。	520 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 ポジションを確認して仕上げ練習。	320 分
		事後 自己評価。	520 分

フィードバック 学内演奏会后、各教員のコメントを聞くことができる。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ-2（ピアノ）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	後期ロマン派から近現代の作品に取り組む。

到達目標 ロマン派から近現代の作品を通じて色彩感覚や音楽語法など、演奏表現の幅を広げる。

授業計画 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	協奏曲について	事前 協奏曲について調べる。 事後 古典派の協奏曲のスタイルを研究する。オーケストラパートも共に課題曲の読譜。	320 分 520 分
第 2 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 和声進行、調性を基に作品の流れを見る。オーケストラパートの確認。 事後 和声感を意識した響き、抑揚、流れを研究。	320 分 520 分
第 3 回	奏法の可能性	事前 作品のイメージを明確にする。合同練習。 事後 作品の演奏表現に相応しい奏法を追求する。	320 分 520 分
第 4 回	テンポ、バランスについて	事前 作品の性格や形式、様式の再確認。合同練習。 事後 相応しいテンポ設定と、伴奏者とのバランスを整理して練習。	320 分 520 分
第 5 回	仕上げ、発表	事前 反復練習。合同練習。 事後 自己評価。	320 分 520 分
第 6 回	近現代作品について	事前 近現代の作曲家を調べる。 事後 作曲家ごとの作風、特徴を意識して読譜。	320 分 520 分
第 7 回	音色、響きの研究	事前 様々な手腕の使い方による音、響きの違いを研究する。 事後 作品に相応しい音色、響きの追求と奏法の工夫。	320 分 520 分
第 8 回	ペダルの工夫	事前 楽譜を確認し、作品の音のイメージを明確にする。 事後 ペダルの様々な効果を確認しながら練習。	320 分 520 分
第 9 回	ハーモニー、色彩研究	事前 和音、響きをよく聴いて練習。 事後 バランス、タッチ、ペダルなどによる響きの違いを聴き分けて研究する。	320 分 520 分
第 10 回	身体の使い方	事前 様々な奏法の研究。 事後 身体の状態による音や響きの違いを確認、作品に合った音を追求していく。	320 分 520 分
第 11 回	国民性について	事前 各国の作曲家について調べる。 事後 国や民族による違いを意識しながら様々な作曲家について研究。	320 分 520 分
第 12 回	リズム、イントネーション研究	事前 民族による特徴的な要素、特にリズムについて調べる。 事後 特徴的なリズムの奏法を研究、習得する。	320 分 520 分
第 13 回	技術的課題の練習法	事前 自分の技術的問題点を把握する。 事後 担当教員のアドバイスを基に練習方法を工夫、実践する。	320 分 520 分
第 14 回	仕上げ	事前 作品の性格、特徴を再確認。 事後 色彩、ハーモニー、リズムを徹底調整。	320 分 520 分
第 15 回	後期 成果の発表	事前 イメージを徹底して仕上げる。 事後 イメージ通りの音が再現できたか自己評価。	320 分 520 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせ適宜選定する。試験曲はピアノ専門・演奏試験要項に基づき選定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

到達目標

時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。
前期はこれまでの学びをより一層確実なものにし、レパートリーを広げる。後期は 4 年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。

授業計画

半期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	学習の計画 プログラムの検討	事前 自己分析。 事後 集大成に相応しいテーマと課題を設定する。	320 分 520 分
第 2 回	基礎技術の確認	事前 基礎技術教材を使って反復練習。 事後 反復練習。	320 分 520 分
第 3 回	練習曲(正確な打鍵)	事前 正しいフォームを意識して反復練習。 事後 苦手な指を意識して反復練習。	320 分 520 分
第 4 回	練習曲(様々な音型)	事前 反復練習。 事後 手指の柔軟性と強化を意識して反復練習。	320 分 520 分
第 5 回	J.S.バッハを学ぶ	事前 バッハ作品読譜。 事後 バロックの様式を意識して練習。	320 分 520 分
第 6 回	音色、響きの追求	事前 様々な奏法による響きの違いを確認。 事後 音、響きを聴きながら効果的、理想的な身体、手腕の使い方を追求。	320 分 520 分
第 7 回	自由曲(構成の理解)	事前 形式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 それぞれ形式、音楽の構造を明確にしながら演奏。	320 分 520 分
第 8 回	自由曲(表現法)	事前 様式の異なる複数の作品を取り上げ全体像をつかむ。 事後 拍子感、リズム、色彩、テンポルパート等、様々な表現を追求する。	320 分 520 分
第 9 回	技術課題の取り組み方	事前 得手不得手を自己分析。 事後 問題点を判断する視点、練習法、留意点を整理する。	320 分 520 分
第 10 回	まとめ	事前 異なる様式の作品に取り組む。 事後 技術、表現、理解度を確認。	320 分 520 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	事前 構造を読み取り整理する。 事後 各声部の弾き分け、コントロールを徹底練習。	320 分 520 分
第 12 回	楽曲分析	事前 和声進行と構造を整理。 事後 整理された演奏を追求。	320 分 520 分
第 13 回	装飾音について	事前 様々な装飾音を調べる。 事後 装飾音の入れ方、演奏の技術の習得。	320 分 520 分
第 14 回	声部の弾き分け	事前 作品の横ラインを確認。 事後 耳、指のコントロールを徹底して訓練。	320 分 520 分
第 15 回	諸要素の徹底	事前 音楽理解と演奏を総合的に自己分析する。 事後 課題を自覚して取り組む。	320 分 520 分

フィードバック

各教員から学生へのフィードバックは必要に応じて行う。

成績評価

課題への取り組み方（50%）、授業態度（50%）

テキスト

自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は 7 月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー

レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐

到達目標

時代様式に沿った演奏法と演奏解釈をより深く学び修得する。
前期はこれまでの学びをより一層確実なものにし、レパートリーを広げる。後期は4年間の集大成としての卒業試験に向け、これまでの学びを生かし自己を見つめた上で丹念に選曲し、広い空間での演奏表現法を身につける。

授業計画

半期 15 回、各人 60 分の個人指導

第 1 回	卒業試験の選定とアプローチについて	事前	学習の成果を基に選曲。	320 分
		事後	担当教員のアドバイスを基に取り組みの計画を立てる。	520 分
第 2 回	時代背景と様式	事前	作曲家の時代、人物、作品について幅広く学ぶ。	320 分
		事後	作品とその演奏法についてビジョンを明確にする。	520 分
第 3 回	楽曲分析	事前	作品の構造を調べる。	320 分
		事後	分析を通して表現、演奏法のイメージを明確にする。	520 分
第 4 回	読譜の注意	事前	楽譜を細部まで読む。	320 分
		事後	作曲家の指示や行間の意味を読み取る。	520 分
第 5 回	技術的課題の練習法	事前	技術的問題点の自覚。	320 分
		事後	原因追究、理想を基に効果的な解決法を工夫する。	520 分
第 6 回	作品全体の構成と内容理解	事前	楽曲分析の徹底。	320 分
		事後	形式、様式を読み取り、魅力的な演奏表現に結びつける。	520 分
第 7 回	コントラスト(音色、強弱、ハーモニー感など)	事前	音楽の様々な変化を意識して練習。	320 分
		事後	それぞれの変化、違いをどう表現するか。	520 分
第 8 回	表現の工夫	事前	作品に相応しい表現、魅力を整理する。	320 分
		事後	様式、作品に相応しく、奏者の心を通した表現の探求。	520 分
第 9 回	拍子感、リズム、テンポの確認	事前	作品の様式、形式、性格、内容を確認する。	320 分
		事後	拍子感、リズム、テンポが相応しく音楽が生きているか追求。	520 分
第 10 回	演奏技術の練習	事前	作品の総理解を深める。	320 分
		事後	演奏、表現に適した技術の確認と練習。	520 分
第 11 回	ホール演奏を踏まえた表現、バランス	事前	ホールの広さをイメージして練習。	320 分
		事後	客観的な耳、深い呼吸、伸びやかな身体などのチェック。	520 分
第 12 回	ペダルの確認	事前	ペダル操作の確認、耳の訓練。	320 分
		事後	美しい響きの追求。	520 分
第 13 回	表現の正確さ、自在さ	事前	作品演奏のイメージを明確にする。	320 分
		事後	作品に共感しイメージ通り弾けているか、技術的問題を解決しているか、自己分析と練習。	520 分
第 14 回	全体バランスの調整	事前	細部、全体まんべんなく練習。	320 分
		事後	自己分析と反復練習。	520 分
第 15 回	演奏への最終確認	事前	イメージ、表現、技術の再確認。	320 分
		事後	仕上げ。	520 分

フィードバック

卒業試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価

卒業試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト

自由曲は各自の進度に合わせ適宜選定する。卒業試験課題曲は7月の発表掲示を参照のこと。

オフィスアワー

レッスン終了後、各実技担当者のレッスン室にて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅱ-1（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	演奏の技術と高度な音楽的表現力を養う。

到達目標	古典派、ロマン派、エチュードの様式感を身につける。
------	---------------------------

授業計画	15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--

第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 古典、ロマン派の特色について学ぶ	事前 一年次の学修を確認し、二年次の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（3）奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（4）表現法、音色を中心に	事前 課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（5）表現の掘り下げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ（6）仕上げとまとめ	事前 暗譜の確認。 事後 次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分 420 分
第 8 回	前期試験へのアプローチ法を探る	事前 二年次前期試験の課題曲を選曲するにあたり、各目の音楽的特徴を把握する。 事後 前期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 9 回	前期試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	前期試験課題曲を学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	前期試験課題曲を学ぶ（3）奏法を中心に	事前 試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	前期試験課題曲を学ぶ（4）表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	前期試験課題曲を学ぶ（5）ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	前期試験課題曲を学ぶ（6）ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	前期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 前期試験の反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	--

成績評価	前期試験により評価する。
------	--------------

テキスト	各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。
------	--------------------------

オフィスアワー	各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。
---------	-------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	演奏の技術を高め、より高度な音楽的表現力を養う。

到達目標	古典派、ロマン派の様式感に加え、ソナタ形式や楽譜の読み方についても学習する。
------	--

授業計画	15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 古典派のソナタおよびソナタ形式の特色について学ぶ 事前 前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 420 分 事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。 420 分
第 2 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（1）時代背景、様式を中心に 事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 3 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に 事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 4 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（3）奏法を中心に 事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 5 回	古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ（4）表現法を中心に 事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 6 回	後期試験へのアプローチ法を探る 事前 二年度後期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。 420 分 事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。 420 分
第 7 回	後期試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に 事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 8 回	後期試験課題曲を学ぶ（2）ソナタ及びソナタ形式について 事前 ソナタ形式について、文献を読み、把握しておく。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 9 回	後期試験課題曲を学ぶ（3）原典版と校訂版について 事前 原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容を、文献を見ながら確認しておく。 420 分 事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。 420 分
第 10 回	後期試験課題曲を学ぶ（4）楽譜の読み方を中心に 事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 11 回	後期試験課題曲を学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に 事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 12 回	後期試験課題曲を学ぶ（6）楽曲全体の構成を中心に 事前 様式感から装飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 13 回	後期試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点 事前 ピアノとの合わせを行っておく。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 14 回	後期試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。 事前 ピアノとの合わせを行っておく。 420 分 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。 420 分
第 15 回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る 事前 暗譜の確認。 420 分 事後 後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 後期試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ-1（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	技術と表現のバランスをとりながら、ロマン派、近現代までの様式感を学び、それぞれの演奏解釈を学ぶ。

到達目標	レパートリーの拡充と、時代ごとあるいは作曲家ごとの楽曲の解釈を行い、より幅広い音楽の表現を身につける。
------	---

授業計画	15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。		
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認 ロマン派、近現代の特色について学ぶ	事前 二年次の学修を確認し、三年次の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（3）奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（4）表現法、音色を中心に	事前 課題に対し、全体像から、立体的な表現ができるよう、アプローチしながら練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（5）表現の掘り下げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 7 回	ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ（6）仕上げとまとめ	事前 暗譜の確認。 事後 次回につなげられるよう、読譜から演奏までの経緯を確認しておく。	420 分 420 分
第 8 回	学内演奏会へのアプローチ法を探る	事前 学内演奏会の課題曲を選曲するにあたり、各目の音楽的特徴を把握する。 事後 学内演奏会の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 9 回	学内演奏会曲目を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 10 回	学内演奏会曲目を学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会曲目を学ぶ（3）奏法を中心に	事前 試験課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏会曲目を学ぶ（4）表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏会曲目を学ぶ（5）ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会曲目を学ぶ（6）ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 学内演奏会の反省と、次回の課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	□	□

専門実技Ⅲ-2（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	学内演奏会での経験を活かして、聴衆に対する豊かな演奏表現を会得する。

到達目標	レパートリーの拡充と、時代ごとあるいは作曲家ごとの楽曲の解釈を行い、より幅広い音楽の表現を身につける。
------	---

授業計画	15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。		
第 1 回	ガイダンスおよび課題の確認	事前 前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分 420 分
第 2 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 3 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 4 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ（3）奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に新たな奏法上の問題点を練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 5 回	ロマン派、近現代の小曲、エチュードを学ぶ（4）表現法を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 6 回	後期試験へのアプローチ法を探る	事前 三年次後期試験の課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽的特徴、課題を把握する。 事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分 420 分
第 7 回	後期試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 8 回	後期試験課題曲を学ぶ（2）形式を中心に	事前 試験課題の形式について、文献を読み、把握しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 9 回	後期試験課題曲を学ぶ（3）奏法、表現法を中心に	事前 原典版と校訂版を準備し、版の意味、内容を、文献を見ながら確認しておく。 事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分 420 分
第 10 回	後期試験課題曲を学ぶ（4）和声を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 11 回	後期試験課題曲を学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 12 回	後期試験課題曲を学ぶ（6）楽曲全体の構成を中心に	事前 様式感から装飾音や、音のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 13 回	後期試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン。アンサンブルの問題点	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 14 回	後期試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン。暗譜。	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分 420 分
第 15 回	後期試験の演奏内容の反省から課題を探る	事前 暗譜の確認。 事後 後期試験の反省、および次年度に向けての課題を確認する。	420 分 420 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 学年末試験により評価する。

テキスト 各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。

オフィスアワー 各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	今まで培ってきた演奏技術や表現力の集大成として、卒業演奏試験にむけて自ら音楽を解釈し、説得力のある演奏をもって表現する。

到達目標	メモリアルホールでの演奏にあたりソノリティを意識し、様式感や演奏解釈を自ら行うことで、音楽を通したメッセージを伝えることができる。
------	---

授業計画	年間 30 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	---

第 1 回	ガイダンスおよび、課題の確認	事前 三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。	420 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	420 分
第 2 回	課題曲Ⅰ（ソナタ）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	課題曲Ⅰを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 課題に対し、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	課題曲Ⅰを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	課題曲Ⅰを学ぶ（4）形式を中心に	事前 課題の形式について、文献を読み、把握しておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 6 回	課題曲Ⅰを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 7 回	課題曲Ⅰを学ぶ（6）ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分
		事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 8 回	課題曲Ⅰを学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。	420 分
		事後 課題曲Ⅰの反省と、次回の課題を確認する。	420 分
第 9 回	課題曲Ⅱ（無伴奏作品）を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 10 回	課題曲Ⅱを学ぶ（2）楽譜の読み方を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 11 回	課題曲Ⅱを学ぶ（3）奏法、表現法、音色を中心に	事前 試験課題に対し、技術的な奏法上の問題点を練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	課題曲Ⅱを学ぶ（4）声部の色分け、立体感を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	課題曲Ⅱを学ぶ（5）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 無伴奏作品ならではの効果を把握しておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	課題曲Ⅱを学ぶ（6）表現の掘り下げ	事前 体感しながら演奏できるように、練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	課題曲Ⅱを学ぶ（7）仕上げ	事前 暗譜の確認。	420 分
		事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	420 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	--

成績評価	卒業試験により評価する。
------	--------------

テキスト	各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。
------	--------------------------

オフィスアワー	各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。
---------	-------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか 科目コード： IND402

対象コース／専門／学年： 器楽コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：8 単位
概要	今まで培ってきた演奏技術や表現力の集大成として、卒業演奏試験にむけて自ら音楽を解釈し、説得力のある演奏をもって表現する。

到達目標	メモリアルホールでの演奏にあたりソノリティを意識し、様式感や演奏解釈を自ら行うことで、音楽を通したメッセージを伝えることができる。
------	---

授業計画	年間 30 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	---

第 1 回	ガイドダンスおよび、課題の確認	事前 前期までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	420 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等、後期に必要な準備をする。	420 分
第 2 回	課題曲Ⅲ（小品）を学ぶ（1）様式を中心に	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 3 回	課題曲Ⅲを学ぶ（2）奏法を中心に	事前 課題に対し、技術的に高度な奏法上の問題点を練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 4 回	課題曲Ⅲを学ぶ（3）効果的な演奏とは 仕上げ	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 5 回	卒業演奏試験課題曲へのアプローチ法を探る	事前 集大成としての卒業試験課題曲を選曲するにあたり、各自の音楽の特徴、課題を把握	420 分
		事後 課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 6 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（1）時代背景、様式を中心に	事前 試験課題の時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 後期試験の課題曲の楽譜を準備し、譜読みをする。	420 分
第 7 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（2）形式、和声を中心に	事前 試験課題に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 8 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（3）奏法、表現法を中心に	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 9 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（4）ホールの響きを踏まえた表現について	事前 聴衆、空間、残響などから、演奏する姿勢や、客観的な耳を養う。	420 分
		事後 演奏が客観的に聴こえているか、確認しながら練習する。	420 分
第 10 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（5）曲のキャラクター、音色を中心に	事前 様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく	420 分
		事後 作曲者の意図から、音楽を深く読み込み、表現につながるように練習する。	420 分
第 11 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（6）デュナーミク、コントラストのつけ方を中心に	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 12 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（7）ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 13 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（8）ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分
		事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 14 回	卒業演奏試験課題曲を学ぶ（9）ホールリハーサル	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	420 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	420 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 暗譜の確認。	420 分
		事後 卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	420 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内にて適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	--

成績評価	卒業試験により評価する。
------	--------------

テキスト	各人の進度に合わせて、取り組む曲を適宜選定する。
------	--------------------------

オフィスアワー	各教員出校日に各レッスン室において受け付ける。
---------	-------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。1 年次に引き続き、週 1 時間のレッスンを通してテクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、1 年次より長く複雑なソロ曲を半期で1～2 曲仕上げる。個人の技量により差は出てくるが、基本的には前期には古典や比較的易しいソナタなどを学習する。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。1 年次よりの基礎練習、エチュードによる技術の向上を続けながら、より複雑で長いソロ曲を演奏することで、より大きな音楽表現を目指す。

授業計画	前期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	--

第 1 回	ガイダンス、基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲①ヘンデル：テーマとヴァリエーション 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲②ワトキンス：小組曲 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 9 回	エチュード、前期試験曲（ヘンデル or ワトキンス） 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	事前 奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 10 回	エチュード、前期試験曲、音楽表現を中心に	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 11 回	前期試験曲、暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 12 回	前期試験曲、より深い音楽解釈	事前 全体の音楽解釈を考えて練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 13 回	前期試験曲、全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 14 回	前期試験曲、弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分 420 分
第 15 回	まとめと復習、後期の計画、目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 後期の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分 420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員(弦楽器実技担当教員)による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

専門実技Ⅱ-2（ハーブ）

客員教授 井上美江子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ハーブ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。前期に引き続き、エチュードを通しての技術の習得に加え、より高度な音楽表現を学ぶ。前期より長く複雑なソロ曲を半期で1～2 曲仕上げ、基本的には前期試験とは時代様式の違う楽曲で実技試験に臨む。

到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。1 年次よりの基礎練習、エチュードによる技術の向上を続けながら、より複雑で長いソロ曲を演奏することで、より大きな音楽表現を目指す。
------	--

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	--

第 1 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲③ドビュッシー：アラバスク 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 25 のエチュード）、 ソロ曲④ビエルネ：アムプロムブチュ・カプリス 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 9 回	エチュード、後期試験曲（シュボア or ビエルネ） 奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認	事前 奏法、音色、ダイナミクス、テンポに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 10 回	エチュード、後期試験曲、音楽表現を中心に	事前 奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 11 回	後期試験曲、暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲、より深い音楽解釈	事前 全体の音楽解釈を考えて練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 13 回	後期試験曲、全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲、弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分 420 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 今年度に行った曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分 420 分

フィードバック	レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する
---------	-----------------------------

成績評価	実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。 なお、実技試験評価は複数教員(弦楽器実技担当教員)による。
------	--

テキスト	各人の演奏曲目の楽譜
------	------------

オフィスアワー	1008 室 金曜日 13：00～17：00
---------	---------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

専門実技Ⅲ－１（ハーブ）																科目コード：IND301			
客員教授 井上美江子																			
対象コース／専門／学年：器楽コース／ハーブ専門／3 年次																			
形態：実技				単位数：4 単位															
概要				ハーブ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、2 年次までに習得した技術を踏まえ、様々な様式の楽曲を学び、レパートリーの拡大を目指す。2 年次までに学習した曲よりもより長く複雑で、時代様式の異なるソロ曲を年間 3～4 曲仕上げる。前期に於いては、7 月の学内委演奏会で演奏する曲の高い完成度を目指す。															
到達目標				正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャンニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。															
授業計画				前期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。															
第 1 回	ガイダンス、基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲①パシェッティ：ソナタ 譜読み															事前	指使いを入手して譜読みを始める	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 2 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲①パシェッティ：奏法を中心に															事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 3 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲①パシェッティ：音楽的な掘り下げ															事前	特にダイナミクス、音色感に注意して練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 4 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲①パシェッティ：全体的なまとめ															事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 5 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 譜読み															事前	指使いを入手して譜読みを始める	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 6 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 奏法を中心に															事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 7 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 音楽的な掘り下げ															事前	特にダイナミクス、音色感に注意して練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 8 回	基礎練習、エチュード（ナダマン 1 8 のプレリュード） ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 全体的なまとめ															事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 9 回	エチュード 学内演奏会演奏曲（パシェッティ or トゥルニエ）奏法、音色、ダイナミクス、リズムの確認															事前	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 10 回	エチュード 学内演奏会演奏曲 音楽表現を中心に															事前	全体のテンポや音楽に流れを確認	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 11 回	学内演奏会演奏曲 暗譜の確認															事前	暗譜を中心に練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 12 回	学内演奏会演奏曲 より深い音楽解釈															事前	全体の音楽解釈を考えて練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 13 回	学内演奏会演奏曲 全体の仕上げ															事前	総合的な練習	420 分	
																事後	指摘された箇所を中心に反復練習	420 分	
第 14 回	学内演奏会演奏曲 弾き合い															事前	通して演奏する練習	420 分	
																事後	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	420 分	
第 15 回	まとめと復習、後期の計画と目標の確認															事前	学内演奏会の反省、問題点を中心に練習	420 分	
																事後	前期にやった曲の復習、後期の課題曲の譜面を入手、書き込み	420 分	
フィードバック				レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。															
成績評価				学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。															
テキスト				各人の演奏曲目の楽譜															
オフィスアワー				1008 室 金曜日 13：00～17：00															
備考				上記以外はメール、電話にて対応															

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

専門実技Ⅲ-2（ハーブ）															
客員教授 井上美江子												科目コード：IND302			
対象コース／専門／学年：器楽コース／ハーブ専門／3 年次															
形態：実技				単位数：4 単位											
概要				ハーブ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、2 年次までに習得した技術を踏まえ、様々な様式の楽曲を学び、レパートリーの拡大を目指す。2 年次までに学習した曲よりもより長く複雑で、時代様式の異なるソロ曲を年間 3～4 曲仕上げる。後期に於いては、実技試験曲の高い完成度を目指す。											
到達目標				正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。											
授業計画				後期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。											
第 1 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲①ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 譜読み			事前	指使いを入手して読譜みを始める							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 2 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲①ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 奏法を中心に			事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 3 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲①ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 音楽的な掘り下げ			事前	特にダイナミクス、音色感に注意して練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 4 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲①ハチャトリアン：オリエンタルとトッカータ 全体的なまとめ			事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 5 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲②グランジャニー：ファンタジー 譜読み			事前	指使いを入手して読譜みを始める							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 6 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲②グランジャニー：ファンタジー 奏法を中心に			事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 7 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲②グランジャニー：ファンタジー 音楽的な掘り下げ			事前	特にダイナミクス、音色感に注意して練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 8 回	基礎練習、エチュード（パッサ・グランジャニーエチュード） ソロ曲②グランジャニー：ファンタジー 全体的なまとめ			事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 9 回	エチュード、後期試験曲（ハチャトリアン or グランジャニー） 奏法、音色、ダイナミクス、テンポの確認			事前	奏法、音色、ダイナミクス、リズムに注意して練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 10 回	エチュード、後期試験曲、音楽表現を中心に			事前	全体のテンポや音楽の流れを確認							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 11 回	後期試験曲、暗譜の確認			事前	暗譜を中心に練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 12 回	後期試験曲、より深い音楽解釈			事前	全体のテンポや音楽の流れを確認							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 13 回	後期試験曲、全体の仕上げ			事前	総合的な練習							420 分			
				事後	指摘された箇所を中心に反復練習							420 分			
第 14 回	後期試験曲、弾き合い			事前	通して演奏する練習							420 分			
				事後	弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習							420 分			
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画、目標			事前	試験での演奏の反省、問題点を中心に練習							420 分			
				事後	今年度に行った曲の反省、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み							420 分			
フィードバック				レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。											
成績評価				実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。なお、実技試験は複数教員（弦楽器楽器実技担当教員）による。											
テキスト				各人の演奏曲目の楽譜											
オフィスアワー				1008 室 金曜日 13：00～17：00											
備考				上記以外はメール、電話にて対応											

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミ・トクシツ・タキ	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□	□	☒

専門実技Ⅳ-1（ハーブ）

客員教授 井上美江子

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ハーブ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、4 年間の集大成としてのホールでの卒業試験で演奏する大曲を含め、様々な様式の楽曲を学習し、卒業後も長く演奏していけるレパートリーを確立する。余裕のある学生に於いては、協奏曲の学習も望まれる。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。技術の向上とともに、より深い音楽を通しての表現を目指し、時代様式の違う 3～4 曲を仕上げる。うち 1 曲は、卒業試験および新人演奏会などで演奏する、高度で比較的長い、ハーブの重要なレパートリーから選択する。
授業計画	半期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	ガイダンス、基礎練習、エチュード（ボクサ 50 のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲①デュセック：ソナタ 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 6 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 7 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 8 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 9 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲②ツァーベル：噴水 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 10 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 1 楽章譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 11 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 2、3 楽章 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 12 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 13 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 音楽表現を中心に	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 14 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 15 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲③ヘンデル：ハーブ協奏曲 全体的なまとめ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

客員教授 井上美江子

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ハープ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。テクニックの確立のための毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、4 年間の集大成としてのホールでの卒業試験で演奏する大曲を含め、様々な様式の楽曲を学習し、卒業後も長く演奏していけるレパートリーを確立する。余裕のある学生に於いては、協奏曲の学習も望まれる。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。技術の向上とともに、より深い音楽を通しての表現を目指し、時代様式の違う 3～4 曲を仕上げる。うち 1 曲は、卒業試験および新人演奏会などで演奏する、高度で比較的長い、ハープの重要なレパートリーから選択する。
授業計画	半期 15 回、各人 60 分の個人指導。各回の授業内容は進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション テーマ～Var.3 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション Var.4～Var.7 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 3 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション Var.8～Var.10 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 4 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 5 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0 のエチュード） ソロ曲④サルツェード：テーマとヴァリエーション 音楽表現を中心に	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 6 回	卒業試験の曲（サルツェードなど）音色、リズム、ダイナミクスの確認	事前 音色、リズム、ダイナミクスに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 7 回	卒業試験の曲（サルツェードなど）暗譜の確認	事前 暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 8 回	卒業試験の曲（サルツェードなど）より深い音楽解釈	事前 全体のテンポや音楽の流れを確認 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 9 回	卒業試験の曲（サルツェードなど）全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 10 回	卒業試験の曲（サルツェードなど）弾き合い	事前 通して演奏する練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 11 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4 年間で学習したソロ曲の復習	事前 4 年間に演奏したソロ曲をリストアップして整理する 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 12 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4 年間で学習したソロ曲の仕上げ	事前 レパートリーの確立 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 13 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGM としても使えるレパートリーの譜読み	事前 BGM として演奏できるレパートリーを譜読みする 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 14 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGM としても使えるレパートリーの仕上げ	事前 いつでも演奏できるレパートリーを確立すべく練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	420 分 420 分
第 15 回	まとめと復習、卒業後の計画	事前 将来の計画。新人演奏会へ向けての練習 事後 さらになる努力	420 分 420 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

専門実技Ⅱ-1（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子 科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 の 2 点。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。	420 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。	420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む	420 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む	420 分
		事後 練習曲①、曲①の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む。	420 分
		事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	事前 練習曲②の譜読みと準備。曲①の完成を目指す	420 分
		事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う	420 分
第 7 回	練習曲②定着、曲②確認	事前 練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む	420 分
		事後 練習曲②のまとめ。曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	420 分
第 8 回	練習曲③確認、曲②表現の工夫	事前 練習曲③の譜読みと準備。曲②の表現に取り組む	420 分
		事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲②の表現を身に付ける。	420 分
第 9 回	練習曲③定着、曲②仕上げの演奏	事前 練習曲③の習熟、曲②の完成を目指す。	420 分
		事後 練習曲③、曲②のまとめを行う。	420 分
第 10 回	前期試験曲、確認	事前 前期試験曲の譜読みと準備に取り組む。	420 分
		事後 前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	420 分
第 11 回	前期試験曲、奏法を中心に	事前 前期試験曲の奏法について予習する。	420 分
		事後 前期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	420 分
第 12 回	前期試験曲、表現の工夫	事前 前期試験曲の表現に取り組む。	420 分
		事後 前期試験曲の表現を更に身に付ける	420 分
第 13 回	前期試験曲、表現の掘り下げ	事前 前期試験曲について、全般的に確認する。	420 分
		事後 前期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	420 分
第 14 回	前期試験曲、仕上げの演奏	事前 前期試験曲の仕上げを目指す。	420 分
		事後 前期試験曲の問題箇所を確認する。	420 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する。	420 分
		事後 後期に向けての課題に取り組む	420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価	前期末の実技試験で評価する。 なお、実技試験評価は複数教員による。
テキスト	担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	□	□	□

専門実技Ⅱ-2（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①演奏技術の向上 ②多くのレパートリーをこなす の2点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画		
第1回	レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 420 分
第2回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第3回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第4回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第5回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③の表現に取り組む。 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける 420 分
第6回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 事後 練習曲⑤問題個練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む。 420 分
第7回	練習曲⑤定着、曲④確認	事前 練習曲⑤の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲⑤のまとめ。曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第8回	練習曲⑥確認、曲④表現の工夫	事前 練習曲⑥の譜読みと準備。曲④の表現に取り組む 事後 練習曲⑥の問題箇所を確認し、曲④の表現を身に付ける。 420 分
第9回	練習曲⑥定着、曲④仕上げの演奏	事前 練習曲⑥の習熟、④の完成を目指す。 事後 練習曲③、曲②のまとめを行う。 420 分
第10回	後期試験曲、確認	事前 後期試験曲の譜読みと準備に取り組む。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第11回	後期試験曲、奏法を中心に	事前 後期試験曲の奏法について予習する。 事後 後期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第12回	後期試験曲、表現の工夫	事前 後期試験曲の表現に取り組む。 事後 後期試験曲の表現を更に身に付ける 420 分
第13回	後期試験曲、表現の掘り下げ	事前 後期試験曲について、全般的に確認する。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 420 分
第14回	後期試験曲仕上げの演奏	事前 後期試験曲の仕上げを目指す。 事後 後期試験曲の問題箇所を確認する。 420 分
第15回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。 事後 来年度についての課題に取り組む。 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価	後期末の実技試験で評価する。 なお、実技試験評価は複数教員による。
テキスト	担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	□	□	□

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／3 年次

形態：実習

単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画			
第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①の確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲①、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①の表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む 事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	事前 練習曲②の譜読みと準備に取り組む。曲①の表現の工夫 事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う	420 分 420 分
第 7 回	練習曲②定着、学内演奏会曲の確認 1	事前 練習曲②の習熟、曲の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲②のまとめ。曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 8 回	練習曲③確認、学内演奏会曲の確認 2	事前 練習曲③の譜読みと準備。曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 9 回	練習曲③定着、学内演奏曲の様式を学ぶ	事前 練習曲③の習熟、曲の様式について予習する 事後 練習曲③のまとめを行う。曲の様式に関して更に理解する	420 分 420 分
第 10 回	学内演奏会曲の確認	事前 曲の奏法について予習する 事後 曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会曲、奏法を中心に	事前 曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏曲、表現の工夫	事前 曲の表現に取り組む 事後 曲の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏曲、表現の掘り下げ	事前 曲について、全般的に確認する 事後 曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会曲、仕上げの演奏	事前 曲の仕上げを目指す 事後 曲の問題箇所を確認する	420 分 420 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する 事後 後期に向けての課題に取り組む	420 分 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 前期末実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ-2（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／3 年次

形態：実習 単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画			
第 1 回	レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 4 回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 5 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③の表現に取り組む 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 6 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 事後 練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ	420 分 420 分
第 7 回	練習曲⑤定着、曲④確認	事前 練習曲⑤の習熟、曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 練習曲⑤のまとめ。曲④の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 8 回	練習曲⑥確認、曲④表現の工夫	事前 練習曲⑥の譜読みと準備。曲④の表現に取り組む 事後 練習曲⑥の問題箇所を確認し、曲④の表現を身に付ける	420 分 420 分
第 9 回	練習曲⑥定着、曲④仕上げの演奏	事前 練習曲⑥の習熟、④の完成を目指す 事後 練習曲③、曲④のまとめを行う	420 分 420 分
第 10 回	後期試験曲、確認	事前 後期試験曲の譜読みと準備に取り組む 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 11 回	後期試験曲、奏法を中心に	事前 後期試験曲の奏法について予習する 事後 後期試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 12 回	後期試験曲、表現の工夫	事前 後期試験曲の表現に取り組む 事後 後期試験曲の表現を更に身に付ける	420 分 420 分
第 13 回	後期試験曲、表現の掘り下げ	事前 後期試験曲について、全般的に確認する 事後 後期試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	420 分 420 分
第 14 回	後期試験曲仕上げの演奏	事前 後期試験曲の仕上げを目指す 事後 後期試験曲の問題箇所を確認する	420 分 420 分
第 15 回	総まとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する 事後 来年度についての課題に取り組む	420 分 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 後期末実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画		
第 1 回	ガイダンス・レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる 420 分 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題箇所のは是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 4 回	練習曲①確認、曲①の確認	事前 練習曲①、曲①の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲①、曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 5 回	練習曲①定着、曲①表現の工夫	事前 練習曲①の習熟、曲①の表現に取り組む 420 分 事後 練習曲①のまとめ、曲①の表現を更に身に付ける 420 分
第 6 回	練習曲②確認、曲①仕上げの演奏	事前 練習曲①定着、曲①の表現の工夫 420 分 事後 練習曲②問題箇所を確認し、曲①のまとめを行う 420 分
第 7 回	練習曲②定着、曲②確認	事前 練習曲②の習熟、曲②の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲②のまとめ。曲②の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 8 回	練習曲③確認、曲②表現の工夫	事前 練習曲③の譜読みと準備。曲②の表現に取り組む 420 分 事後 練習曲③の問題箇所を確認し、曲②の表現を身に付ける 420 分
第 9 回	練習曲③定着、曲②仕上げの演奏	事前 練習曲③の習熟、曲②の完成を目指す 420 分 事後 練習曲③、曲②のまとめを行う 420 分
第 10 回	自由曲、確認	事前 自由曲の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 11 回	自由曲、奏法を中心に	事前 自由曲の奏法について予習する 420 分 事後 自由曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 12 回	自由曲、表現の工夫	事前 自由曲の表現に取り組む 420 分 事後 自由曲の表現を更に身に付ける 420 分
第 13 回	自由曲、表現の掘り下げ	事前 自由曲について、全般的に確認する 420 分 事後 自由曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 14 回	自由曲、仕上げの演奏	事前 自由曲の仕上げを目指す 420 分 事後 自由曲の問題箇所を確認する 420 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の取り組みの問題点を確認する 420 分 事後 後期に向けての課題に取り組む 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（管楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画		
第 1 回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる 420 分 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 420 分
第 2 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 3 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 4 回	練習曲④確認、曲③確認	事前 練習曲④、曲③の譜読みと準備に取り組む 420 分 事後 練習曲④、曲③の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 5 回	練習曲④定着、曲③表現の工夫	事前 練習曲④の習熟、曲③表現の工夫に取り組む 420 分 事後 練習曲④のまとめ、曲③の表現を更に身に付ける 420 分
第 6 回	練習曲⑤確認、曲③仕上げの演奏	事前 練習曲⑤の譜読みと準備。曲③の完成を目指す 420 分 事後 練習曲⑤問題箇所を確認し是正に取り組む。曲③のまとめ 420 分
第 7 回	練習曲⑤定着、卒業試験曲、確認 1	事前 練習曲⑤の習熟。卒業試験曲の譜読みと準備に取り組む。 420 分 事後 練習曲⑤のまとめ、卒業試験曲の問題個所の是正に取り組む 420 分
第 8 回	卒業試験曲、確認 2	事前 引き続き、卒業試験曲の問題個所の是正に取り組む 420 分 事後 問題箇所を確認し是正に取り組む 420 分
第 9 回	卒業試験曲の様式を学ぶ	事前 卒業試験曲の様式について予習する 420 分 事後 卒業試験曲の様式についてさらに理解する 420 分
第 10 回	卒業試験曲、奏法を中心に 1	事前 卒業試験曲の奏法について予習する 420 分 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 11 回	卒業試験曲、奏法を中心に 2	事前 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分 事後 卒業試験曲の奏法について問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 12 回	卒業試験曲、表現の工夫	事前 卒業試験曲の表現に取り組む 420 分 事後 卒業試験曲の表現を更に身に付ける 420 分
第 13 回	卒業試験曲、表現の掘り下げ	事前 卒業試験曲について、全般的に確認する 420 分 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 420 分
第 14 回	卒業試験曲、仕上げの演奏	事前 卒業試験曲の仕上げを目指す 420 分 事後 卒業試験曲の問題箇所を確認する 420 分
第 15 回	4 年間のまとめ	事前 4 年間の取り組みを振り返る 420 分 事後 卒業後に向けて展望する 420 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験で評価する。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅱ-1（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	専門実技Ⅰを踏まえて小太鼓の基本奏法を再確認し楽器の扱いを識る。

到達目標 小太鼓において2つ打ちと装飾音符の演奏法を会得する。

授業計画 前期15回、各人60分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	小太鼓の1つ打ち、2つ打ち、分解練習を演奏。	事前	小太鼓の基本奏法を見直しておく。	420 分
		事後	装飾音符を含む練習曲を練習しておく。	420 分
第2回	小太鼓の練習曲、マリンバの音階を演奏。	事前	小太鼓の練習曲をさらい込んでおく。	420 分
		事後	スティックを曲にあわせて準備する。	420 分
第3回	小太鼓とマリンバの練習曲を演奏。	事前	マリンバの練習曲をさらい込んでおく。	420 分
		事後	マレットを練習曲に合うものを購入する。	420 分
第4回	小太鼓のオーケストラ作品から装飾音符の演奏について解説。	事前	オーケストラ作品の原曲を予め聴いておく。	420 分
		事後	装飾音符の演奏法を確認する。	420 分
第5回	マリンバの練習曲と音階を演奏。	事前	練習曲と音階を弾き込んでおく。	420 分
		事後	メトロノームを使って復習する。	420 分
第6回	小太鼓の練習曲と基本奏法を演奏。	事前	小太鼓の練習曲を弾き込んでおく。	420 分
		事後	2つ打ちとロールを抜き出して研究しておく。	420 分
第7回	小太鼓の2つ打ちとロールを分析し解説する。	事前	試験曲の候補を探しておく。	420 分
		事後	基本奏法を見直しておく。	420 分
第8回	前期試験曲を決める。	事前	マリンバの音階、練習曲を弾き込んでおく。	420 分
		事後	試験曲の楽譜を購入し譜読みを始める。	420 分
第9回	試験曲の譜読み。セッティングも検討する。	事前	試験曲のことを調べておく。作曲の背景など。	420 分
		事後	試験当日のセッティング表を完成させる。	420 分
第10回	試験曲の楽器選定と調整をする。	事前	予め自分で楽器を選んでおく。	420 分
		事後	試験曲を弾き込んでおく。	420 分
第11回	フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前	試験曲のフレーズ分けをしておく。	420 分
		事後	伴奏者と合わせをしておく。	420 分
第12回	試験曲を伴奏者と演奏。	事前	楽譜を見直しておく。	420 分
		事後	レッスンを録音し聞き直す。	420 分
第13回	試験曲の技術的な部分を抜き出して演奏。	事前	通した時の問題点を挙げておく。	420 分
		事後	メトロノームを使ってさらに直しておく。	420 分
第14回	試験会場かそれに近い響きの部屋で演奏。	事前	基本奏法を見直して試験曲に生かせる点を見つける。	420 分
		事後	試験曲を録音して聞き直す。	420 分
第15回	前期試験曲の仕上げ。	事前	響きを利用することをイメージして練習する。	420 分
		事後	楽譜を見て本番をイメージトレーニングしておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits in Rhythm
P.Tanner:Sonata for Marimba and Piano
G.Frock:Concertino

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	専門実技Ⅰを踏まえてマリンバの基本奏法を再確認し楽器の扱いを識る。

到達目標 マリンバにおいて2本のマレットと4本マレットの演奏法を会得する。

授業計画 後期15回、各人60分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	マリンバの音階と練習曲を演奏。	事前 マリンバの練習曲を暗譜しておく。	420 分
		事後 4本マレットの練習曲をさらっておく。	420 分
第2回	小太鼓の練習曲、4本マレットの練習曲を演奏。	事前 音を確実に取れるように練習しておく。	420 分
		事後 4本マレットの練習曲を暗譜する。	420 分
第3回	小太鼓の基本奏法、マリンバの練習曲を演奏。	事前 演奏の問題点を取り出しリズムを変えて練習する。	420 分
		事後 レッスンを録音して聞き直す。	420 分
第4回	小太鼓の練習曲、オーケストラ作品を演奏。	事前 オーケストラ作品の原曲を聴いておく。	420 分
		事後 装飾音符とロールを研究する。	420 分
第5回	マリンバの練習曲をシロフォンで演奏。	事前 後期試験曲の候補曲を出しておく。	420 分
		事後 シロフォンの音色をコントロールできるように復習する。	420 分
第6回	小太鼓及びマリンバの練習曲のまとめ。	事前 マリンバの練習曲を暗譜しておく。	420 分
		事後 レッスンを録音して聞き直す。	420 分
第7回	後期試験曲を決める。	事前 音階、練習曲、基本奏法を復習する。	420 分
		事後 試験曲の楽譜を購入し譜読みを始める。	420 分
第8回	試験曲の譜読み。セッティングの検討。	事前 試験曲のことを調べておく。	420 分
		事後 フレーズ分けをする。	420 分
第9回	フレーズやリズムの演奏法を解説。	事前 試験当日のセッティング表を完成させる。	420 分
		事後 フレーズ分けを完成させる。	420 分
第10回	試験曲と小太鼓の基本奏法を演奏。	事前 試験曲の構成を考えて演奏のメリハリをつけておく。	420 分
		事後 演奏の方向性を伴奏者に伝える。	420 分
第11回	試験曲を伴奏者と演奏。バランスを聴く。	事前 メトロノームを使ってテンポを確認しておく。	420 分
		事後 演奏を再構成しておく。	420 分
第12回	試験曲とマリンバの音階、4本マレットの練習曲を演奏。	事前 苦手な技術を試験曲及び練習曲からみつけておく。	420 分
		事後 レッスンで得た練習方法を試す。	420 分
第13回	試験会場かそれに近い響きの部屋で演奏。	事前 響きの違いを知り、どのように利用すべきか考える。	420 分
		事後 レッスンを録音して聞き直す。	420 分
第14回	技術的に難しい部分を再検討する。	事前 通し練習だけでなく、部分に拘って練習しておく。	420 分
		事後 メトロノームを使って難しい部分を復習する。	420 分
第15回	後期試験曲の仕上げ。	事前 試験曲を弾き込んでおく。	420 分
		事後 楽譜だけを見てイメージトレーニングする。	420 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
A.Cirone:Portraits in Rhythm
P.Tanner:Sonata for Marimba and Piano
G.Frock:Concertino

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	専門実技Ⅱを踏まえて小太鼓やマリンバの基本奏法を継続して学びながらティンパニの作品を学ぶ。

到達目標 小太鼓で学んだ基本奏法を 2 台、4 台のティンパニのエチュードを使って応用させる。

授業計画	前期 15 回、各人 60 分の個人指導。 各人の進度に合わせて授業を進める。		
第 1 回	小太鼓の基本奏法を確認する	事前 小太鼓をチューニングしておく。 事後 基本奏法を復習する。	420 分 420 分
第 2 回	1 つ打ちの分解練習を演奏。	事前 メトロノームを使って練習しておく。 事後 小太鼓とマリンバの練習曲をさらしておく。	420 分 420 分
第 3 回	小太鼓とマリンバの練習曲を演奏。	事前 手順を確認しておく。 事後 ティンパニの練習曲をさらしておく。	420 分 420 分
第 4 回	ティンパニの練習曲を演奏。 腕の使い方を解説。	事前 手順を確認し、セッティングしておく。 事後 腕の使い方を再確認する。	420 分 420 分
第 5 回	ティンパニのペダル操作の練習。	事前 楽器の清掃をし、セッティングしておく。 事後 ペダルの復習。	420 分 420 分
第 6 回	小太鼓の練習曲とマリンバの音階を演奏。	事前 小太鼓の練習曲をさらしておく。 事後 音階をリズムを変えて練習。	420 分 420 分
第 7 回	マリンバの 4 本マレットの練習曲を演奏。	事前 4 本マレットのアルペジオを練習しておく。 事後 マレットの動きを再確認する。	420 分 420 分
第 8 回	小太鼓の基本奏法、学内演奏会の曲を決める。	事前 基本奏法を練習しておく。 事後 決まった曲について調べておく。	420 分 420 分
第 9 回	学内の曲の楽譜の譜読み。	事前 学内演奏会の曲、楽譜を用意する。 事後 譜読みを進めておく。	420 分 420 分
第 10 回	マリンバで音階、学内の曲のフレーズを確認。	事前 学内の曲のフレーズ分けをしておく。 事後 手順など確認しておく。	420 分 420 分
第 11 回	小太鼓の基本奏法、学内の曲の構造を分析。	事前 曲のつくりを把握しておく。 事後 練習方法を検討しておく。	420 分 420 分
第 12 回	学内の曲を伴奏者と演奏。	事前 ゆっくりなテンポで確実にさらしておく。 事後 伴奏者との練習方法を検討する。	420 分 420 分
第 13 回	ティンパニの練習曲、学内の曲を通す。	事前 演奏を録音して研究しておく。 事後 試験会場の響きに近い会場を予約する。	420 分 420 分
第 14 回	学内の曲、セッティング確認、通し練習	事前 ゆっくりなテンポで練習しておく。 事後 問題点を出してさらしておく。	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の曲の仕上げ。	事前 録音の準備をしておく。 事後 伴奏者とバランスを確認しておく。	420 分 420 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト (参照資料)
M.Woud:The Timpani Challenge
O.CMilhaud:Concerto

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	音楽・パフォーマンス	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ-2（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	専門実技Ⅱを踏まえて小太鼓やマリンバの基本奏法を継続して学びながらマルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標	マルチパーカッションの作品では、楽器の配置、それによって楽譜を複数個所に分けなくてはならない。 楽器のセッティングと楽譜の再構成を自分でできるようにする。
------	--

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。 各人の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	小太鼓の基本奏法、マリンバの練習曲を演奏。	事前 練習室の楽器を整頓しておく。	420 分
		事後 改めて楽器を見直す。	420 分
第 2 回	1 つ打ちの分解練習、ティンパニの練習曲を演奏。	事前 分解練習をメトロノームを使って練習しておく。	420 分
		事後 手の動きを観察。左右のバランスを再確認。	420 分
第 3 回	マリンバで音階、2 つ打ち、ロールを演奏。	事前 全調の音階をさらしておく。	420 分
		事後 小太鼓とマリンバの基本奏法を再確認する。	420 分
第 4 回	ティンパニの練習曲、オーケストラスタディ。	事前 後期試験曲を探しておく。	420 分
		事後 基本奏法を練習しておく。	420 分
第 5 回	後期試験曲の選曲、相談。マリンバの練習曲。	事前 候補曲について調べておく。	420 分
		事後 試験曲の楽譜を購入する。	420 分
第 6 回	試験曲の決定と楽譜作成の指導。	事前 セッティングを考えておく。	420 分
		事後 楽器をどこに置くべきか検討しておく。	420 分
第 7 回	マリンバで音階、試験曲の譜読み。	事前 フレーズ分けをしておく。	420 分
		事後 楽器間の移動の動線の確認。	420 分
第 8 回	小太鼓及びティンパニの練習曲。試験曲の譜読み。	事前 曲の構成とフレーズを分析しておく。	420 分
		事後 曲の理解を深める。	420 分
第 9 回	試験曲の構成とフレーズを確認する。	事前 ゆっくりなテンポで確実にさらしておく。	420 分
		事後 フレーズ分けを再確認する。	420 分
第 10 回	譜読みとセッティングを決定する。	事前 部分的に暗譜しておく。	420 分
		事後 表現を研究しておく。	420 分
第 11 回	試験曲の技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 難しい部分を絞っておく。	420 分
		事後 メトロノームを使って練習する。	420 分
第 12 回	小太鼓の基本奏法、マリンバで音階。	事前 基本奏法に立ち返りながら楽譜を見直し。	420 分
		事後 通して練習をしておく。	420 分
第 13 回	試験曲の通し練習。	事前 通して演奏するシミュレーションをしておく。	420 分
		事後 試験会場の響きに近い会場を予約しておく。	420 分
第 14 回	試験会場の響きに近い部屋で通し練習。	事前 譜めくりやマレットの移動等確認。	420 分
		事後 セッティングを再考する。	420 分
第 15 回	後期試験曲の仕上げ。	事前 もう一度楽譜を見直しておく。	420 分
		事後 録音を聴いて最終確認する。	420 分

フィードバック	授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。
---------	---

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	(参照資料) N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫：サイド・バイ・サイド
------	--

オフィスアワー	授業後教室にて
---------	---------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	基礎・応用スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

到達目標 各打楽器の基本奏法に立ち返り、卒業試験曲を検討する。

授業計画					
第 1 回	小太鼓の基本奏法とマリンバで音階を演奏。 小物楽器：タンブリンについて学ぶ。	事前	小太鼓とマリンバの基本奏法を練習しておく。	420	分
		事後	手の動かし方を復習する。	420	分
第 2 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 小物楽器：トライアングルについて学ぶ。	事前	小太鼓とマリンバの練習曲を用意しておく。	420	分
		事後	トライアングルの手の動きを復習する。	420	分
第 3 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 小物楽器：カステネットについて学ぶ。	事前	卒業試験の候補曲を探しておく。	420	分
		事後	カステネットの手の動きを復習する。	420	分
第 4 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：太鼓について学ぶ。	事前	さまざまな表情のロールを研究しておく。	420	分
		事後	太鼓のレパートリーを聴いておく。	420	分
第 5 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 大物楽器：シンバルについて学ぶ。	事前	マリンバのマレットを追加しておく。	420	分
		事後	シンバルの合わせ方を研究しておく。	420	分
第 6 回	小太鼓、マリンバの練習曲を演奏。	事前	メトロノームを使って練習する。	420	分
		事後	スティックの動きとマレットの動きの違いを復習する。	420	分
第 7 回	小太鼓の 2 つ打ちとロールを演奏。 大物楽器：タムタムについて学ぶ。	事前	基本奏法を練習しておく。	420	分
		事後	音の長さと左手の関係を復習しておく。	420	分
第 8 回	ティンパニの練習曲を演奏。	事前	ティンパニを予め調整しておく。	420	分
		事後	腕の動きを復習しておく。	420	分
第 9 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 卒業試験曲の選定について相談する。	事前	試験曲を図書館を活用して探す。	420	分
		事後	楽曲の規模と形態を検討しておく。	420	分
第 10 回	ヴィヴラフォンの練習曲を演奏。	事前	ヴィヴラフォンのマレットを用意しておく。	420	分
		事後	手順とベダリングを復習しておく。	420	分
第 11 回	小太鼓で 2 つ打ちとマリンバの練習曲を演奏。 ブロッケンシュピールについて学ぶ。	事前	ティンパニのマレットを追加しておく。	420	分
		事後	マレットの扱いを復習する。	420	分
第 12 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 シロフォンについて学ぶ。	事前	シロフォンのマレットを用意しておく。	420	分
		事後	マリンバとの打ち方の共通点と違いを確認する。	420	分
第 13 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 卒業試験曲の候補を絞る。	事前	基本奏法の練習をしておく。	420	分
		事後	伴奏者の選定をする。	420	分
第 14 回	小太鼓、マリンバの練習曲を演奏。 チューブラーベルについて学ぶ。	事前	チューブラーベルを清掃しておく。	420	分
		事後	手順など復習しておく。	420	分
第 15 回	小太鼓、ティンパニの練習曲を演奏。	事前	メトロノームを使って練習する。	420	分
		事後	卒業試験曲の楽譜を探しておく。	420	分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスをを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
テキスト (参照資料)
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	□	□

客員教授 岡田全弘

対象コース／専門／学年： 器楽コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	各打楽器の基本奏法を演奏に生かす体験をする。

到達目標 4 年間の集大成である卒業試験を成功させる。

授業計画				
第 1 回	小太鼓の 1 つ打ちの分解練習とマリンバで音階を演奏。 卒業試験曲を決定する。	事前	試験曲の候補を絞っておく。	420 分
		事後	卒業試験曲の楽譜を購入しておく。	420 分
第 2 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 試験曲の楽譜作成とセッティングを検討する。	事前	基本奏法を練習しておく。	420 分
		事後	試験曲の楽譜を完成させる。	420 分
第 3 回	マリンバの練習曲と音階を演奏。 楽器の清掃と調整について学ぶ。	事前	試験曲の譜読みを進める。	420 分
		事後	練習室の楽器を整頓しておく。	420 分
第 4 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 試験曲の研究：フレーズ分けと譜読みを進める。	事前	基本奏法をメトロノームを使って練習する。	420 分
		事後	試験曲で使う楽器を選んでおく。	420 分
第 5 回	小太鼓での 1 つ打ちの分解練習とロールを演奏。 試験曲の譜読みと手順を決定する。	事前	選んだ楽器とチューニング、清掃をする。	420 分
		事後	試験曲の伴奏者を探す。	420 分
第 6 回	試験曲のフレーズやリズムの演奏法を解説する。	事前	フレーズ分けをしておく。	420 分
		事後	フレーズの取り方を確認する。	420 分
第 7 回	試験曲の譜読み。	事前	試験曲の作曲家や曲について調べておく。	420 分
		事後	伴奏者と試験曲を合わせておく。	420 分
第 8 回	セッティングと楽譜再確認。	事前	セッティング表を完成させる。	420 分
		事後	セッティング表に直しを加え、導線など再確認する。	420 分
第 9 回	試験曲を伴奏者と演奏する。	事前	腕の動きを再確認する。	420 分
		事後	伴奏者とのバランスと位置を検討する。	420 分
第 10 回	セッティングを再確認する。 伴奏者とのバランスを調整する。	事前	伴奏者との練習方法を考える。	420 分
		事後	フレーズの再検討できるところを探す。	420 分
第 11 回	卒業試験曲を通して演奏する。	事前	出来ないところをゆっくりなテンポでさらしておく。	420 分
		事後	クライマックスの表現を検討しておく。	420 分
第 12 回	試験曲を試験会場に近い会場で演奏。	事前	演奏の録音を準備しておく。	420 分
		事後	会場の響きを録音を聴いて確認する。	420 分
第 13 回	試験曲の通し練習。	事前	曲を止めずに通し、問題点を出しておく。	420 分
		事後	録音を聴いて演奏のコンセプトが表現できているか確認する。	420 分
第 14 回	試験曲の技術的な部分を取り出して演奏。	事前	改めて譜読みを行い、全体的に復習しておく。	420 分
		事後	練習方法を研究しておく。	420 分
第 15 回	卒業試験曲の仕上げ。	事前	伴奏者とバランスなど再確認しておく。	420 分
		事後	本番の演奏をシミュレーションしておく。	420 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験による評価。
なお、実技試験評価は複数教員（管打楽器担当教員）による。
（参照資料）

テキスト N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
D.Milhaud:Concerto
北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	□	□

教授　小林英之

対象コース／専門／学年：　器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標

各学生の能力、進度に応じ、試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。専門実技Ⅰより、より難度の高い作品を目指す。

授業計画

この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
前期 15 回、各人 60 分の個人指導。

第 1 回	ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 既習曲一覧の作成	分
		事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	840 分
第 2 回	今期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 3 回	今期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 4 回	今期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。（時代）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 5 回	今期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。（作曲家）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 6 回	今期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 7 回	今期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。	420 分
		事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。（時代）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。（作曲家）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事前 1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2（表現力）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3（総合）	事前 録音の準備をする。	420 分
		事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	420 分
		事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック

レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価

それぞれの楽器が属する部会専任教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。
実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度と授業への取り組みを加味する。

テキスト

その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー

各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じて試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 45 分～1 時間程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。専門実技Ⅱ-1 より、より難度の高い作品を目指す。
------	---

授業計画	この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。 後期 15 回、各人 60 分の個人指導。		
第 1 回	ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 II-1 の試験の反省、改善方法を探る。	420 分
		事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分
第 2 回	今期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 3 回	今期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 4 回	今期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。（時代）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 5 回	今期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる。（作曲家）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 6 回	今期試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 7 回	今期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。	420 分
		事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。（時代）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる。（作曲家）	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事前 1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2（表現力）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	420 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3（総合）	事前 録音の準備をする。	420 分
		事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	420 分
		事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 それぞれの楽器が属する部会専任教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。
実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度とレッスンへの取り組みを加味する。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ－１（オルガン・古楽）										科目コード：IND301					
教授　小林英之															
対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／3 年次															
形態：実技										単位数：4 単位					
概要										履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。					

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、前半は学内演奏会、後半は試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1～1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。学年半ばの学内演奏会を中心に据えて、専門実技Ⅱよりさらに広範な分野の作品に習熟する。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	--

授業計画				
第 1 回	前期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前	専門実技Ⅱの試験結果をふりかえっておく。	420 分
		事後	与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分
第 2 回	学内演奏会課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 3 回	学内演奏会課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 4 回	学内演奏会課題曲の譜読み 3（表現力）	事前	該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 5 回	学内演奏会課題曲の譜読み 4（総合）	事前	該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 6 回	学内演奏会課題曲を通して演奏する。	事前	全体の起承転結を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 7 回	学内演奏会課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前	緊張したときの自分を想定する。	420 分
		事後	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第 8 回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 9 回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ 2（表現力）	事前	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作品）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 10 回	学内演奏会に臨む。	事前	一般聴衆を前に演奏することについて、心構えと緊張状態の緩和について考える。	420 分
		事後	学内演奏会の反省。	420 分
第 11 回	学内演奏会課題曲に関連する作品を学ぶ 3	事前	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事前	1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2（表現力）	事前	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3（総合）	事前	録音の準備をする。	420 分
		事後	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第 15 回	学内演奏会の課題を含む前期分の最終仕上げ。	事前	前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	420 分
		事後	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー　各教員の出校日、各教員のレッスン室。															
備考															

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ－2（オルガン・古楽）									
教授　小林英之									
科目コード：IND302									
対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／3 年次									
形態：実技					単位数：4 単位				
概要					履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。				

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、前半は学内演奏会、後半は試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1～1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。学年半ばの学内演奏会を中心に据えて、専門実技Ⅱよりさらに広範な分野の作品に習熟する。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	--

授業計画				
第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前	学内演奏会の反省。改善方法を探る。	420 分
		事後	与えられた課題の楽譜を入手する。	420 分
第 2 回	後期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 3 回	後期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 4 回	後期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前	該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 5 回	後期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前	該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 6 回	後期試験課題曲を通して演奏する。	事前	全体の起承転結を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 7 回	後期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前	緊張したときの自分を想定する。	420 分
		事後	うまくいかなかった箇所の原因を探る。	420 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事前	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事前	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前	該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 12 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事前	1 時間近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 13 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 2（表現力）	事前	個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	420 分
		事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	420 分
第 14 回	45 分～1 時間のプログラムを通して弾いてみる 3（総合）	事前	録音の準備をする。	420 分
		事後	録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	420 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前	前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	420 分
		事後	録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	420 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価	それぞれの楽器が属する部会専任教員と各専門楽器の教員で構成する複数の試験官。 実技試験の得点には、選択した試験課題曲の難易度とレッスンへの取り組みを加味する。
テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3 年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	---

第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 学内演奏会、専門実技 III-2 の試験結果をふりかえっておく。	300 分
第 2 回	前期試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事後 与えられた課題の楽譜を入手する。	300 分
第 3 回	前期試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	300 分
第 4 回	前期試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 5 回	前期試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	300 分
第 6 回	前期試験課題曲を通して演奏する。	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 7 回	前期試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	300 分
第 8 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 1（技術的な課題）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。（作曲家）	300 分
第 9 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 2（より高度な技術的課題）	事前 全体の起承転結を考える。	300 分
第 10 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 3（表現力）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 11 回	試験課題曲に関連する作品を学ぶ 4（総合）	事前 緊張したときの自分を想定する。	300 分
第 12 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 1（技術的な課題）	事後 うまくいかなかった箇所の原因を探る。	300 分
第 13 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 2（表現力）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	300 分
第 14 回	1 時間半のプログラムの前半を通して弾いてみる 3（総合）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
第 15 回	試験前の最終仕上げ。	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
		事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家）	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
		事前 1 時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
		事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。	300 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	300 分
		事前 録音の準備をする。	300 分
		事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。	300 分
		事前 前回録音したものをとに、自分の理想に近づける。	300 分
		事後 録音したものと、自分の想定のギャップを埋める。	300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（オルガン・古楽）		科目コード： IND404
教授 小林英之		
対象コース／専門／学年： 器楽コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4 年次		
形態：実技	単位数：4 単位	
概要	履修する作品を通して、さらに高度な演奏技術と表現の関連を学ぶ。	

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、卒業演奏試験課題曲を設定し、それを中心に様々な様式の楽曲で 1 時間半程度のプログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。なお、1～3 年で学んだ曲も含むプログラムで、古楽研究室主催の演奏会、学外から依頼のあった演奏会等に出演し実践経験を積む。（この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。）
------	---

授業計画		
第 1 回	後期ガイダンス。課題の設定と練習方法についての確認。	事前 前期試験の反省。改善方法を探る。 事後 与えられた課題の楽譜を入手する。 300 分
第 2 回	卒業試験課題曲の譜読み 1（技術的な課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 3 回	卒業試験課題曲の譜読み 2（より高度な技術的課題）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 4 回	卒業試験課題曲の譜読み 3（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 5 回	卒業試験課題曲の譜読み 4（総合）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 6 回	卒業試験課題曲を通して演奏する。	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 7 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 1（技術的な課題）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（時代） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 8 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 2（より高度な技術的課題）	事前 該当作品の生まれた背景とメインの課題曲との関連を調べる（作曲家） 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 9 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 3（表現力）	事前 1 時間半近く集中力を持続する自分なりの方法を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 10 回	4 年間で学んだ作品を含め、聴衆のいることを想定した 1 時間半のプログラムを演奏する 4（総合）	事前 個々の作品のみならず、プログラム全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 300 分
第 11 回	卒業試験課題曲を演奏会形式で演奏する。	事前 録音の準備をする。 事後 録音したものから、自分の演奏を客観的に判断する。 300 分
第 12 回	試験前の最終仕上げ。	事前 前回録音したものをもとに、自分の理想に近づける。 事後 録音したものと、自分の想定ギャップを埋める。 300 分
第 13 回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	事前 試験結果の自己評価を作成 事後 未達成の事項の整理 300 分
第 14 回	定期的なレッスンがなくなったときの練習方法について	事前 未達成の事項への取り組み方を考えておく。 事後 アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。 300 分
第 15 回	練習の時間計画の立て方	事前 未達成の事項への取り組み方を考えておく。 事後 アドヴァイスをもとに今後の勉強方法を作成する。 300 分

フィードバック レッスン時間後との課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価 実技試験に授業への取り組みを加味して総合的に評価。
 なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	声楽的発声を更に深く研究し、個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力の向上を目指す。
------	---

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	1 年次の学修を確認し学習計画を練る	210 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 ロマン派以降のイタリア歌曲を中心に学習	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（声楽）

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 声楽コース／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	声楽的発声を更に深く研究し、個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力の向上を目指す。 後期は上記に加え、ドイツ歌曲における解釈、表現を習得する。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクションに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクションに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる ドイツ歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める ドイツ歌曲を含む	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める ドイツ歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 後期演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅲ－1(声楽)		科目コード：IND301
声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭		
対象コース／専門／学年：声楽コース／3 年次		
形態：実技	単位数：4 単位	
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。	
到達目標	発声および演奏技術、表現力のさらなる向上をはかり 3 年次生としてのレパトリーをもって演奏の完成度を高める	

授業計画		15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	2 年次の学修を確認し学習計画を練る	210 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、学内演奏会での演奏曲目を選択する	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	ピアノ伴奏とともに演奏の質を高める	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	学内演奏会の予行練習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分

フィードバック 学内演奏会後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学内演奏会により「可」及び「不可」で判定を行う。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年：声楽コース／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力のさらなる向上をはかり 3 年次生としてのレパトリーをもって演奏の完成度を高める。 後期は上記に加え、日本歌曲における解釈、表現を習得する。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。		
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声の 카테고리 確認	事前 自分の声に合うオペラのレパトリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 7 回	各々の声の 카테고리 を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる 日本歌曲を含む	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める 日本歌曲を含む	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分 210 分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-1（声楽）

対象コース／専門／学年：声楽コース／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める
------	---

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	3 年次の学修を確認し学習計画を練る	210 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、今回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	今回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	今回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	今回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	今回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 オペラやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前	今回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 8 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する(前期分)	事前	今回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（前期分）	事前	今回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（前期分）	事前	今回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 11 回	問題点の認識と解決をはかる（前期分）	事前	今回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 12 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（前期分）	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 13 回	暗譜を確かなものとする（前期分）	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる（前期分）	事前	伴奏合わせを重ねる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	210 分
第 15 回	試演会の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	210 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の是正をはかる	210 分

フィードバック 前期試演会後に個人面談の形で振り返り、成果、及び問題点を洗い出す。

成績評価 試演会、担当教員のよる評価

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅳ-2（声楽）

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	発声および演奏技術、表現力をさらに深く研究する。 最終年次生としてのレパートリーの拡大をはかり、その演奏の完成度を高める。
------	--

授業計画	15 回、週 60 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材として適格な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける		
第 1 回	前期の成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 事後	前期の学修を確認し学習計画を練る レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究①	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 事後	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる（後期分）	事前 事後	次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前 事後	事前にピアニストと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする（後期分）	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分
第 15 回	卒業試験の予行演習をする	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善 210 分 210 分

フィードバック 卒業試験後に個人面談の形で振り返り、4 年間の成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 卒業演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	

(演) 専門実技Ⅱ-1 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	1 年次に引き続きピアノ演奏における基本的な技術の向上を目指し、正確かつ迅速な読譜力を得てバロック、古典派の作品、練習曲、その他のレパートリーを広げる。また、時代様式に沿った演奏法を習得し、より多様な表現力を磨く。

到達目標 実技試験において複数様式の曲目によるプログラムを公開演奏し、演奏家としてのより高度なスキルを身につける。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。

第 1 回	実技演習(1) 前期の学習計画を立てる	事前 これまでのレパートリーを確認し、学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、必要な準備をする	630 分 630 分
第 2 回	実技演習(2) 基礎能力の確認	事前 音階や分散和音などの基礎練習を確認する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 3 回	実技演習(3) バロックの曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前 時代背景、様式について考察し、読譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 4 回	実技演習(4) バロックの曲を学ぶ(2) 形式、和声、奏法を中心に	事前 形式、和声、奏法を考慮して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 5 回	実技演習(5) バロックの曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	事前 運指法やペダリングに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 6 回	実技演習(6) バロックの曲を学ぶ(4) 表現の掘り下げ、全体像の確認	事前 全体をまとめて、暗譜で練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 7 回	実技演習(7) 練習曲の課題を確認する	事前 これまでの練習曲を復習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 8 回	実技演習(8) 古典派の曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前 時代背景、様式について考察し、読譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 9 回	実技演習(9) 古典派の曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方、楽曲分析	事前 楽曲分析を行う、読譜と練習 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 10 回	実技演習(10) 古典派の曲を学ぶ(3) 奏法を中心に	事前 時代様式にふさわしい奏法を考察し、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 11 回	実技演習(11) 古典派の曲を学ぶ(4) 演奏技術についての確認	事前 技術的に難しいところを再確認し、問題点と解決法を考える 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 12 回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(1) 作曲家、時代背景について	事前 作曲家、時代背景について考察し、読譜、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 13 回	実技演習(13) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	事前 曲の様式感をふまえて楽譜を読み込み、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 14 回	実技演習(14) 自由曲を学ぶ(3) 奏法、表現法、音色を中心に	事前 より豊かな表現力を求めて、奏法について研究する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 15 回	実技演習(15) 自由曲を学ぶ(4) 表現を掘り下げる	事前 全体を仕上げて、暗譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分

フィードバック 学期末に実技試験を行い、内容の評価をフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に各担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-2 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	前期に引き続いて個人レッスンをを行い、演奏表現上必要な技術の向上を目指す。

到達目標	実技試験において複数様式の曲目によるプログラムを公開演奏し、演奏家としてのより高度なスキルを身につける。
------	--

授業計画	後期 15 回、各人 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。
------	--

第 1 回	実技演習(1) 基礎能力、練習曲の再確認	事前 基礎練習、必要な指のトレーニングについて確認する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 2 回	実技演習(2) 各人の進度、コンクール等の相談と対策	事前 前期の進捗状況と今後の課題を定める 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 3 回	実技演習(3) 自由曲のプログラムを深める	事前 多くの作品や演奏に触れて、自分の演奏を磨く 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 4 回	実技演習(4) 技術向上の為に必要な課題設定	事前 自分の弱点を見極め、課題と対策を考える 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 5 回	実技演習(5) 表現力を豊かにする為のアプローチ	事前 自分の演奏を録音して確認する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 6 回	実技演習(6) 自由曲の確認と掘り下げ	事前 全体をまとめて、暗譜で演奏する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 7 回	実技演習(7) 3 か月前課題(1) 読譜について	事前 課題曲の読譜、練習 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 8 回	実技演習(8) 3 か月前課題(2) 様式、奏法について	事前 様式をふまえた奏法を考察し、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 9 回	実技演習(9) 3 か月前課題(3) 暗譜について	事前 暗譜で弾けるよう、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 10 回	実技演習(10) 3 か月前課題(4) テンポ、強弱などの確認	事前 テンポ、強弱、表現記号を確認し、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 11 回	実技演習(11) 3 か月前課題(5) 全体の構成を中心に	事前 全体を仕上げて、暗譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 12 回	実技演習(12) 1 か月前課題(1) 読譜の確認	事前 課題曲の読譜、練習 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 13 回	実技演習(13) 1 か月前課題(2) 技術、表現の確認	事前 技術的な問題を解決し、表現力を高める 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 14 回	実技演習(14) 自由曲、課題曲の演奏の掘り下げ	事前 全体を通して弾く練習をする 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 15 回	実技演習(15) 仕上げとまとめ	事前 これまでの注意点を確認しながら、全体をまとめる 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分

フィードバック	実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。
---------	----------------------------------

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
------	--

テキスト	バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集の他、適宜授業内に指示する。
------	---

オフィスアワー	各担当教員の出校日に各担当教員レッスン室にて
---------	------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大 科目コード：IND301

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	2 年次までに習得した内容を踏まえ、各人の資質、特性を生かしつつ様々な作曲家の作品、異なる時代様式の作品に取り組む。また協奏曲を学び、より豊かなピアノズムを身につける。

到達目標 全ての時代様式に加えて、協奏曲を通してすぐれたアンサンブル力をも身につける。

授業計画	前期 15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。		
第 1 回	実技演習(1) 年間の目標と学習計画を立てる	事前 今後の目標を設定し、学習計画案を立てる 事後 目標と学習計画を確認し、必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	実技演習(2) これまでの学習で不足している分野へのアプローチ	事前 これまでのレパートリーを確認し、新しい曲を読譜する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 3 回	実技演習(3) 自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前 時代背景、様式を考察し、読譜、練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 4 回	実技演習(4) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	事前 強弱、表現記号等に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 5 回	実技演習(5) 自由曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	事前 運指やペダリングに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 6 回	実技演習(6) 自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	事前 音色やアーティキュレーション等に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 7 回	実技演習(7) 自由曲を学ぶ(5) ボリフォニーについて	事前 ボリフォニーに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 8 回	実技演習(8) 自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	事前 技術面での難しさを解決するよう研究する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 9 回	実技演習(9) 自由曲を学ぶ(7) 和声感について	事前 調性、和声に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 10 回	実技演習(10) 自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	事前 強弱の加減に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 11 回	実技演習(11) 自由曲を学ぶ(9) 曲の性格、全体の構成について	事前 様式感や曲のキャラクターをふまえて練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 12 回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	事前 多くの作品や演奏に触れて、自分の演奏を磨く 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 13 回	実技演習(13) 各人の進路やコンクールなどの相談	事前 前期の進捗状況を振り返り、今後の課題を考える 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 14 回	実技演習(14) 協奏曲を学ぶ(1) 読譜、運指法、ペダリングの確認	事前 運指やペダリングに留意して読譜を進める 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 15 回	実技演習(15) 協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	事前 形式を考察し、ふさわしい奏法を考えて練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大 科目コード：IND302

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	前期に続いて個人レッスンを行い、演奏表現上必要な技術の向上を目指す。

到達目標	協奏曲を完成させ、学年末試験に備える。
------	---------------------

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	---

第 1 回	実技演習(1) 協奏曲を学ぶ(1) 表現法を中心に	事前 協奏曲のソリストとしての表現を考察し、練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 2 回	実技演習(2) 協奏曲を学ぶ(2) オーケストラパートの研究	事前 オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考えて練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 3 回	実技演習(3) 協奏曲を学ぶ(3) アンサンブルの要素を考える	事前 オーケストラパートのスコアを読み、アンサンブルを考慮しながら練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 4 回	実技演習(4) 協奏曲を学ぶ(4) 奏法上の問題を解決する	事前 技術面、音楽面での問題を感じる場所を確認する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 5 回	実技演習(5) 協奏曲を学ぶ(5) 表現力を高める	事前 ソリストとして幅広い表現ができるように練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 6 回	実技演習(6) 協奏曲を学ぶ(6) 2 台ピアノで合わせる	事前 2 台ピアノで練習をする 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 7 回	実技演習(7) 協奏曲を学ぶ(7) 2 台ピアノのバランス感覚を養う	事前 2 台ピアノでオーケストラパートとの調和もふまえて練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 8 回	実技演習(8) 協奏曲を学ぶ(8) ソロパートの確認	事前 2 台ピアノでの合わせにより生じたソロパートの問題点を改めて解決する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 9 回	実技演習(9) 協奏曲を学ぶ(9) 全体の構成を考える	事前 全体を通して仕上げる 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 10 回	実技演習(10) 試験に向けてベース配分を考える	事前 全体のプログラムを確認し、練習計画を立てる 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 11 回	実技演習(11) プログラム全体を通して演奏する	事前 暗譜で通して弾く練習をする 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 12 回	実技演習(12) 1 か月前課題(1) 読譜の確認	事前 読譜、練習をする 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 13 回	実技演習(13) 1 か月前課題(2) 技術、表現の確認	事前 デンボ、強弱、表現記号など確認して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 14 回	実技演習(14) 自由曲、協奏曲の全体の掘り下げ	事前 全体をまとめて練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分
第 15 回	実技演習(15) 仕上げとまとめ	事前 これまでの注意点に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	420 分 420 分

フィードバック 実技試験について、担当教員その他が講評を行いフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-1 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大 科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	4 年間の集大成としてリサイタルプログラムと協奏曲全楽章をまとめ上げ、深い読譜力と確かな技術と感性により、説得力のある演奏を目指す。また、1 回の演奏会に必要な集中力と力の配分、計画的な準備の重要性を学ぶ。

到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。
------	-----------------------------------

授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。
------	--

第 1 回	実技演習(1) 年間の目標、学習計画を立てる	事前 年間の目標と、学習計画案を考える 事後 目標と学習計画を確認し、必要な準備をする	630 分 630 分
第 2 回	実技演習(2) リサイタルプログラムを練る	事前 これまでのレパートリーを確認し、今後のプログラムを考える 事後 リサイタルプログラムをつくる	630 分 630 分
第 3 回	実技演習(3) 自由曲を学ぶ(1) 時代背景、様式を中心に	事前 時代背景、様式を考察し、読譜、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 4 回	実技演習(4) 自由曲を学ぶ(2) 楽譜の読み方を中心に	事前 楽譜を細部まで読み込み、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 5 回	実技演習(5) 自由曲を学ぶ(3) 運指法やペダリングの確認	事前 運指やペダリングに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 6 回	実技演習(6) 自由曲を学ぶ(4) 奏法を中心に	事前 音色、タッチ、アーティキュレーションに留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 7 回	実技演習(7) 自由曲を学ぶ(5) ポリフォニーについて	事前 ポリフォニーの要素を考慮して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 8 回	実技演習(8) 自由曲を学ぶ(6) 問題点の解決、練習方法について	事前 技術的に難しいところを確認し、工夫して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 9 回	実技演習(9) 自由曲を学ぶ(7) 和声感について	事前 調性や和声に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 10 回	実技演習(10) 自由曲を学ぶ(8) 強弱法について	事前 強弱や表現記号に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 11 回	実技演習(11) 自由曲を学ぶ(9) 様式感、曲の性格について	事前 曲の様式やキャラクターにふさわしい演奏を目指して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 12 回	実技演習(12) 自由曲を学ぶ(10) 表現を掘り下げる	事前 全体をまとめて、暗譜で練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 13 回	実技演習(13) 各人の進路やコンクール等の相談	事前 前期までの進捗状況を確認し、今後の課題を考える 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 14 回	実技演習(14) 協奏曲を学ぶ(1) 読譜、運指法の確認	事前 運指やペダリングに留意しながら読譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 15 回	実技演習(15) 協奏曲を学ぶ(2) 形式、奏法について	事前 形式、奏法を考慮しながら練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分

フィードバック	卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。
---------	--

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。
------	---

オフィスアワー	各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて
---------	--------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	□

(演) 専門実技Ⅳ-2 (ピアノ)

演奏家コース部会主任 准教授 干野宜大	科目コード： IND404
対象コース／専門／学年： 演奏家コース／ピアノ専門／4 年次	

形態：実技	単位数：8 単位
概要	4 年間の集大成としてリサイタルプログラムと協奏曲全楽章をまとめ上げ、深い読譜力と確かな技術と感性により、説得力のある演奏を目指す。また、1 回の演奏会に必要な集中力と力の配分、計画的な準備の重要性を学ぶ。
到達目標	プロの演奏家として通用するために、あらゆる能力を完全なものにする。

授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて担当教員と相談の上進めていく。		
第 1 回	実技演習(16) 協奏曲を学ぶ(3) 表現法を中心に	事前 楽譜に書かれている表現記号に留意して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 2 回	実技演習(17) 協奏曲を学ぶ(4) オーケストラパートの研究	事前 オーケストラパートを読譜し、ソロパートとの関わりを考察する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 3 回	実技演習(18) 協奏曲を学ぶ(5) アンサンブルを学ぶ	事前 ソリストとしてオーケストラとのアンサンブルを考慮して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 4 回	実技演習(19) 協奏曲を学ぶ(6) 奏法上の問題を解決する	事前 技術面で難しいところを確認し、対策を考える 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 5 回	実技演習(20) 協奏曲を学ぶ(7) 表現力を高める	事前 ソリストとしての幅広い表現力を高めるための練習をする 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 6 回	実技演習(21) 協奏曲を学ぶ(8) 2 台ピアノで合わせる	事前 2 台ピアノで合わせる練習をする 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 7 回	実技演習(22) 協奏曲を学ぶ(9) 2 台ピアノのバランス感覚を養う	事前 2 台ピアノでオーケストラパートとの調和をふまえて練習をする 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 8 回	実技演習(23) 協奏曲を学ぶ(10) ソロパートの確認	事前 2 台ピアノで合わせた上で生じた問題点について考察し、練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 9 回	実技演習(24) 協奏曲を学ぶ(11) 全体の構成を考える	事前 全体をまとめて、暗譜で練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 10 回	実技演習(25) 試験に向けてベース配分を考える	事前 全てのプログラムを確認し、練習の計画を立てる 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 11 回	実技演習(26) プログラム全体を通して演奏する	事前 暗譜の確認と、それぞれの曲の問題点と対策を考えて練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 12 回	実技演習(27) 1 か月前課題(1) 読譜の確認	事前 課題曲を読譜する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 13 回	実技演習(28) 1 か月前課題(2) 技術、表現の確認	事前 課題曲をより深めて練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 14 回	実技演習(29) 自由曲・協奏曲の掘り下げ	事前 全体をまとめて、通して練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分
第 15 回	実技演習(30) 仕上げとまとめ	事前 これまでの注意点に留意しながら練習する 事後 レッスン内容の復習	630 分 630 分

フィードバック 卒業試験の結果を多面的に評価し、演奏会への出演などに推薦してフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト バッハ：平均律クラヴィーア曲集、モーツァルト・ベートーヴェン：ソナタ集、ショパン：練習曲集、協奏曲の他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員の出校日に、各担当教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	音楽の解釈と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 技術と表現の融合によって、より多彩な音楽表現を求め、多様な場面に対応できるスキルを身につける。

到達目標 基本的な演奏技術に加えて、多様な表現を磨くとともに、ソナタなどのアンサンブルを通した音楽的コミュニケーション力を養う。

授業計画	前期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。		
第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 一年次の学修を確認し、二年次の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 課題に対し、形式や和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 事後 反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 A に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 B に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。 事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか 科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	音楽の解釈と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 技術と表現の融合によって、より多彩な音楽表現を求め、多様な場面に対応できるスキルを身につける。

到達目標 基本的な演奏技術に加えて、多様な表現を磨くとともに、ソナタなどのアンサンブルを通した音楽的コミュニケーション力を養う。

授業計画	後期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。	
第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 C に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 D に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 E に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 問題点を意識し、各自の音楽的特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。 630 分 事後 選曲に対し、楽譜を緻密に読み込み、総譜からアプローチを試みる。 630 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 630 分 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 13 回	リサイタルプログラム ベース配分を学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 630 分 事後 試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。 630 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 630 分 事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 暗譜の確認。 630 分 事後 学年末演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は、次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (弦楽器)		科目コード：IND301
弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか		
対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／3 年次		
形態：実技	単位数 4 単位	
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 レパートリーの拡充とともに自己プロデュース力を身につけ、自らにもっともふさわしいプログラミングができるようにする。	
到達目標	自らの特性を認識し、それに応じたレパートリーを構成してプログラミングを行い、多面的な音楽表現と構成力を身につける。	

授業計画		前期 15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。	
第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 二年次の学修を確認し、三年次の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 課題に対し、形式や和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 事後 反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 A に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習して 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 B に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習して 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。 事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND302

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数 4 単位
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な読譜力や想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 レパートリーの拡充とともに自己プロデュース力を身につけ、自らにもっともふさわしいプログラミングができるようにする。
到達目標	自らの特性を認識し、それに応じたレパートリーを構成してプログラミングを行い、多面的な音楽表現と構成力を身につける。

授業計画	後期 15 回、各人 60 分の個人指導。 必要に応じて適宜楽曲を選ぶ。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	---

第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 C に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 D に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 E に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 問題点を意識し、各自の音楽的特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。 事後 選曲に対し、楽譜を緻密に読み込み、総譜からアプローチを試みる。	630 分 630 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。 事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	リサイタルプログラム ペース配分を学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。	630 分 630 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 暗譜の確認。 事後 学年末演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック 実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-1 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤 まどか

科目コード：IND401

対象コース／専門／学年：演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数 8 単位
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標	バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。 そして楽器を通した説得力のある表現ができる。
------	--

授業計画	半期 15 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。
------	---

第 1 回	各個人の学習計画を立てる	事前 三年次の学修を確認し、最終学年の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等、今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第 2 回	エチュード、曲 自然な音の探求	事前 楽器が自然に鳴るポイントを、各自で探求しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 3 回	エチュード、曲 正確な読譜	事前 エチュードや曲に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 4 回	エチュード、曲 奏法上の問題点の解決	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 5 回	エチュード、曲 形式、和声感	事前 課題に対し、形式や和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 6 回	エチュード、曲 様式感を学ぶ	事前 課題に対し、時代背景、様式感を、文献によって確認し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 7 回	エチュード、曲 表現力、想像力の発展	事前 ピアノとの合わせを行っておく。 事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 8 回	エチュード、曲 仕上げ ピアノ伴奏とともに	事前 暗譜の確認。ピアノとの合わせを行っておく。 事後 反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分
第 9 回	課題曲 A バロック期 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 A に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 10 回	課題曲 A バロック期 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 A に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 11 回	課題曲 A バロック期 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 A に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 12 回	課題曲 B 古典派 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 B に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 13 回	課題曲 B 古典派 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 B に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 14 回	課題曲 B 古典派 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 B に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分 630 分
第 15 回	演奏上の問題点から課題を探る	事前 課題曲 A と課題曲 B を、暗譜で演奏できるように練習する。 事後 前期の反省と、次回の課題を確認する。	630 分 630 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	---

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において
---------	-----------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	

(演) 専門実技Ⅳ-2 (弦楽器)

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード： IND402

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／弦楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数 8 単位
概要	音楽の解釈力と演奏の表現力を養うために必要な、読譜力、想像力、そのための演奏技術の向上をめざす。 多様な楽曲の中からリサイタルプログラムを構成し、計画的な準備を進めることによって、説得力のある演奏表現をおこなう。

到達目標	バロックから現代までの幅広い時代の音楽に対する様式感を習得し、リサイタルプログラムを自らの力で解釈すること。 そして楽器を通した説得力のある表現ができる。
------	--

授業計画	年間 30 回、各人毎週 120 分の個人指導。 各人の能力、資質、進度等に合わせて、担当教員と相談の上進めていく。
------	---

第 1 回	課題曲 C ロマン派小品 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 C に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 2 回	課題曲 C ロマン派小品 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 C に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 3 回	課題曲 C ロマン派小品 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 C に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 4 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 D に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 5 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 D に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 6 回	課題曲 D ロマン派コンチェルト 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 D に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 7 回	課題曲 E 近現代 正確な読譜と、様式感について	事前 課題曲 E に対し、楽譜を緻密に読み込むことを意識し、総譜からアプローチを試みる。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 8 回	課題曲 E 近現代 形式、和声感を学ぶ	事前 課題曲 E に対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 9 回	課題曲 E 近現代 奏法上の問題点の解決	事前 課題曲 E に対し、音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 10 回	リサイタルプログラム作成	事前 問題点を意識し、各自の音楽の特徴を把握し、リサイタルプログラムの候補曲を考えておく。	630 分
		事後 選曲に対し、楽譜を緻密に読み込み、総譜からアプローチを試みる。	630 分
第 11 回	リサイタルプログラム 表現力を深める	事前 様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 12 回	リサイタルプログラム 効果的な演奏について学ぶ	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	630 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 13 回	リサイタルプログラム ベース配分を学ぶ	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
		事後 試験曲目すべてを、続けて演奏できるよう、練習する。	630 分
第 14 回	リサイタルプログラム アンサンブルの問題点を解決	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	630 分
		事後 アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	630 分
第 15 回	公開試験の演奏内容の反省	事前 暗譜の確認。	630 分
		事後 卒業演奏試験の反省、および今後の課題を確認する。	630 分

フィードバック	実技試験終了後、あるいは授業内で適宜、担当者よりコメントをフィードバックする。
---------	---

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。
------	------------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	レッスン終了後、各弦楽器実技担当教員レッスン室において
---------	-----------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-1 (ハープ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／ハープ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。前期では毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の試験のプログラム前半のレパートリーとして主に古典やソナタを学習する。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャンニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。

授業計画	前期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	---

第 1 回	ガイダンス、今学期の計画、目標などの確認 基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	課題曲の楽譜を入手、譜読みを始める	630 分
	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	指使いを入手して譜読みを始める	630 分
	ソロ曲①ベシエッティ：ソナタ 譜読み	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	630 分
	ソロ曲①ベシエッティ：ソナタ 奏法を中心に	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習	630 分
	ソロ曲①ベシエッティ：ソナタ 音楽的な掘り下げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	630 分
	ソロ曲①ベシエッティ：ソナタ 全体の仕上げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 6 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	指使いを入手して譜読みを始める	630 分
	ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 譜読み	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 7 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	630 分
	ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 奏法を中心に	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 8 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習	630 分
	ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 音楽的な掘り下げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 9 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	630 分
	ソロ曲②トゥルニエ：フェリー 全体の仕上げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 10 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	指使いを入手して譜読みを始める	630 分
	ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 譜読み	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 11 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	630 分
	ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 奏法を中心に	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 12 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習	630 分
	ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 音楽的な掘り下げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 13 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す	630 分
	ソロ曲③グランジャンニー：ファンタジー 全体の仕上げ	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 14 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	指使いを入手して譜読みを始める	630 分
	ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 譜読み	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分
第 15 回	基礎練習、エチュード (バッハ・グランジャンニー)	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習	630 分
	ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 奏法を中心に	事後	指摘された箇所を中心に反復練習	630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教員（弦楽器実技担当教員）による。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

(演) 専門実技Ⅱ-2 (ハープ)

客員教授 井上美江子

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハープ専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で 20～30 分のリサイタルプログラムを作る。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジャニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。

授業計画	後期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。
------	---

第 1 回	基礎練習、エチュード（バッハ・グランジャニー） ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（バッハ・グランジャニー） ソロ曲④ロータ：サラバンドとトッカータ 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 3 回	試験曲のプログラムを計画、確認	事前 これまでに練習した曲の復習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 4 回	試験曲①音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 5 回	試験曲②音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 6 回	試験曲③音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 7 回	試験曲④音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 8 回	試験曲①全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 9 回	試験曲②全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 10 回	試験曲③全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 11 回	試験曲④全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 12 回	試験曲全体のプログラムの流れを確認	事前 プログラム全体の練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 13 回	試験曲全体のプログラムのより深い音楽解釈	事前 もう一度個々の曲の確認、練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 14 回	試験曲全体のプログラムの通し練習、弾き合い	事前 プログラムを通しての練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	630 分 630 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に復習 事後 今年度にやった曲の復習、来年度の課題曲の譜面を入手、書き込み	630 分 630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

(演) 専門実技Ⅲ-1 (ハーブ)															
客員教授 井上美江子												科目コード：IND301			
対象コース／専門／学年：演奏家コース／ハーブ専門／3 年次															
形態：実技		単位数：4 単位													
概要		ハーブ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。前期では、毎日の基礎練習、比較的難度の高いエチュードの実習をしながら、様々な時代、様式を含む学年末の試験のリサイタルプログラム (35 分～45 分) を組み立て、計画的に学習を進める。													
到達目標		正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジヤニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。余裕のある学生については、協奏曲の学習も望まれる。													
授業計画		前期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。まだ曲目は一例であり、変更することがある。													
第 1 回	ガイダンス 基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード)	事前	課題曲の楽譜を入手して読譜みを始める											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 2 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ・コンテンプレーション 読譜み	事前	指使いを入手して読譜みを始める											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 3 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ・コンテンプレーション 奏法を中心に	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 4 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ・コンテンプレーション 音楽的な掘り下げ	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 5 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲①ルニエ・コンテンプレーション 全体の仕上げ	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 6 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ・ソナタ 読譜み	事前	指使いを入手して読譜みを始める											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 7 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ・ソナタ 奏法を中心に	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 8 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ・ソナタ 音楽的な掘り下げ	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 9 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲②ウーディ・ソナタ 全体の仕上げ	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 10 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュボア・ファンタジー 読譜み	事前	指使いを入手して読譜みを始める											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 11 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュボア・ファンタジー 奏法を中心に	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 12 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュボア・ファンタジー 音楽的な掘り下げ	事前	特にダイナミクス、音色に注意して練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 13 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲③シュボア・ファンタジー 全体の仕上げ	事前	音楽的な表現に注意しながらテンポでの練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 14 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル・ハーブ協奏曲 読譜み	事前	指使いを入手して読譜みを始める											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
第 15 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル・ハーブ協奏曲 奏法を中心に	事前	主にフィンガリング、奏法を中心に練習											630 分	
		事後	指摘された箇所を中心に反復練習											630 分	
フィードバック		レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。													
成績評価		実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。													
テキスト		各人の演奏曲目の楽譜													
オフィスアワー		1008 室 金曜日 13：00～17：00													
備考		上記以外はメール、電話にて対応													

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (ハーブ)

客員教授 井上美江子

科目コード : IND302

対象コース／専門／学年 : 演奏家コース／ハーブ専門／3 年次

形態 : 実技	単位数 : 4 単位
概要	ハーブ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。後期では、基礎練習を続けながら学年末の試験のリサイタルプログラムの完成を目指し、前期に学んだ曲のより深い音楽的解釈など総合的な学習を行う
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。グランジヤニー、サルツェード、ルニエ、トゥルニエなどハーピストの作品と、ハーピスト以外の作曲家の作品をバランスよく学習することが望ましい。余裕のある学生については、協奏曲の学習も望まれる。
授業計画	後期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。まだ曲目は一例であり、変更することがある

第 1 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50 のエチュード) ソロ曲④ヘンデル・ハーブ協奏曲 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色に注意しえ練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ボクサ 50kym のエチュード) ソロ曲④ヘンデル・ハーブ協奏曲 全体の仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 3 回	試験曲のプログラムを計画、確認	事前 これまでに練習した曲の復習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 4 回	試験曲①音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 5 回	試験曲②音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 6 回	試験曲③音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 7 回	試験曲④音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 8 回	試験曲①全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 9 回	試験曲②全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 10 回	試験曲③全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 11 回	試験曲④全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 12 回	試験曲プログラム全体の流れを確認	事前 プログラム全体の練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 13 回	試験曲プログラム全体のより深い音楽解釈	事前 もう一度個々の曲の確認、練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 14 回	試験曲全体の通し練習、弾き合い	事前 プログラムを通しての練習 事後 弾き合いの録音を聴いて反省、問題点を中心に練習	630 分 630 分
第 15 回	まとめと復習、来年度の計画と目標の確認	事前 試験の演奏の反省、問題点を中心に練習 事後 今年度にやった曲の復習、来年度の課題曲の楽譜を入手、書き込み	630 分 630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は、次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B の評価を得た者は、次年度演奏家コースに認定されない

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 金曜日 13 : 00～17 : 00

備考 上記以外は、メール、電話にて対応

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の卒業試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で 50～60 分のリサイタルプログラムと、協奏曲を少なくとも 1 曲学ぶ。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。リサイタルプログラムは時代や様式の異なるもの、ハーピストの作品とそれ以外、など多岐に富んだものを作り、卒業後も長く演奏していけるレナートリーの確立を目指す。協奏曲の演奏では、実際のオーケストラとの共演を視野に入れながら、アンサンブルの技術の向上も図る。
授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	ガイダンス 基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 譜読み	事前 課題曲の楽譜を購入し譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲①P.アルバース：セレナーデ 全体的な仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲②プロコフィエフ：プレリユード 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 6 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲②プロコフィエフ：プレリユード 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 7 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲②プロコフィエフ：プレリユード 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 8 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲②プロコフィエフ：プレリユード 全体的な仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 9 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲③C.P.E バッハ：ソナタ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 10 回	基礎練習、エチュード（ボクサ 5 0） ソロ曲③C.P.E バッハ：ソナタ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 11 回	基礎練習、エチュード（ディズィ） ソロ曲③C.P.E バッハ：ソナタ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 12 回	基礎練習、エチュード（ディズィ） ソロ曲③C.P.E バッハ：ソナタ 全体的な仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 13 回	基礎練習、エチュード（ディズィ） ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 14 回	基礎練習、エチュード（ディズィ） ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 15 回	基礎練習、エチュード（ディズィ） ソロ曲④フォーレ：アムブロムブチュ 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

(演) 専門実技Ⅳ-2 (ハープ)

客員教授 井上美江子

科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／ハープ専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	ハープ演奏技術の確立。週 2 時間のレッスンを通し、基礎的なテクニックを強化・確認するとともに、様々な時代や様式の曲を勉強することにより、音楽全般の理解も深める。毎日の基礎練習、エチュードの実習をしながら、学年末の卒業試験に向け時代や様式の異なるソロ曲で 50～60 分のリサイタルプログラムと、協奏曲を少なくとも 1 曲学ぶ。
到達目標	正確な読譜力、解釈力、音楽の表現力、創造力の向上を目標とする。リサイタルプログラムは時代や様式の異なるもの、ハーピストの作品とそれ以外、など多岐に富んだものを作り、卒業後も長く演奏していけるレナートリーの確立を目指す。協奏曲の演奏では、実際のオーケストラとの共演を視野に入れながら、アンサンブルの技術の向上も図る。
授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。各回の授業内容は、進度、個人の技量により変更することがある。また曲目は一例であり、変更することがある。

第 1 回	基礎練習、エチュード (ディズィ) ソロ曲④フォーレ：アムプロムブチュ 全体的な仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 2 回	基礎練習、エチュード (ディズィ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 譜読み	事前 指使いを入手して譜読みを始める 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 3 回	基礎練習、エチュード (ディズィ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 奏法を中心に	事前 主にフィンガリング、奏法を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 4 回	基礎練習、エチュード (ディズィ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 音楽的な掘り下げ	事前 特にダイナミクス、音色、リズムに注意して練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 5 回	基礎練習、エチュード (ディズィ) ソロ曲⑤ビエルネ：コンチェルトシュトゥック 全体的な仕上げ	事前 音楽的な表現に注意しながらテンポでの演奏を目指す 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 6 回	卒業試験曲 音楽解釈、暗譜の確認	事前 音楽解釈、暗譜を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 7 回	卒業試験曲 全体の仕上げ	事前 総合的な練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 8 回	卒業試験曲 全体の流れを確認	事前 プログラム全体の練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 9 回	協奏曲の伴奏合わせ	事前 伴奏者とのリハーサル 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 10 回	卒業試験曲全体の通し練習、弾き合い	事前 プログラムを通しての練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 11 回	ホールでのリハーサル	事前 問題点を中心に練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 12 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4 年間で学習したソロ曲の復習	事前 4 年間に演奏したソロ曲をリストアップして整理する 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 13 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・4 年間で学習したソロ曲の仕上げ	事前 レパートリーの確立 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 14 回	卒業後に演奏できるレパートリーの確立・BGM としても使えるレパートリー	事前 いつでも演奏できるレパートリーを確立すべく練習 事後 指摘された箇所を中心に反復練習	630 分 630 分
第 15 回	まとめと復習、卒業後の計画	事前 将来の計画、新人演奏会へ向けての練習 事後 さらに努力	630 分 630 分

フィードバック レッスン内でのコメント、実技試験終了後に口頭で講評する。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 各人の演奏曲目の楽譜

オフィスアワー 1008 室
金曜日 13：00～17：00

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発信能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 の2点。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画			
第1回	レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第4回	曲①様式を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 曲①の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第5回	曲①形式、和声を中心に	事前 曲①形式、和声について予習する 事後 曲①形式、和声についてさらに理解する	630 分 630 分
第6回	曲①奏法を中心に	事前 曲①奏法の予習 事後 曲①奏法の復習	630 分 630 分
第7回	曲①表現の掘り下げ	事前 曲①表現に取り組む 事後 曲①の表現をさらに身に付ける	630 分 630 分
第8回	曲①仕上げ	事前 曲①仕上げを目指す 事後 曲①全般的に確認する	630 分 630 分
第9回	曲②様式を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 曲②の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第10回	曲②形式、和声を中心に	事前 曲②形式、和声について予習する 事後 曲②形式、和声についてさらに理解する	630 分 630 分
第11回	曲②奏法を中心に	事前 曲②奏法の予習 事後 曲②奏法の復習	630 分 630 分
第12回	曲②表現の掘り下げ	事前 曲②表現に取り組む 事後 曲②の表現をさらに身に付ける	630 分 630 分
第13回	曲②仕上げ	事前 曲②仕上げを目指す 事後 曲②全般的に確認する	630 分 630 分
第14回	演奏発表	事前 曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の問題点についてふりかえる 事後 前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト 担当教員の指示による

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子 科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標	①演奏技術の向上 ②多くのレパートリーをこなす の 2 点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。
------	--

授業計画		
第 1 回	レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 630 分
第 2 回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 3 回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 4 回	曲③様式を中心に	事前 曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 曲③の様式についてさらに理解する 630 分
第 5 回	曲③奏法・表現を中心に	事前 曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 6 回	学年末試験に向けての確認	事前 学年末試験の内容を理解する 事後 学年末試験の試験曲の楽譜を準備する 630 分
第 7 回	試験曲①様式を中心に	事前 試験曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第 8 回	試験曲①奏法・表現を中心に	事前 試験曲①の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 9 回	試験曲②様式を中心に	事前 試験曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第 10 回	試験曲②奏法・表現を中心に	事前 試験曲②の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 11 回	試験曲③様式を中心に	事前 試験曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲③の様式についてさらに理解する 630 分
第 12 回	試験曲③奏法・表現を中心に	事前 試験曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 13 回	試験に向けての準備①	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第 14 回	試験に向けての準備②仕上げ	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確の取り組みの問題点を確認する。 630 分
第 15 回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。 事後 来年度についての課題に取り組む。 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND101

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画			
第 1 回	レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。	630 分 630 分
第 2 回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第 3 回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題箇所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第 4 回	曲①様式を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 曲①の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第 5 回	曲①形式、和声を中心に	事前 曲①形式、和声について予習する 事後 曲①形式、和声についてさらに理解する	630 分 630 分
第 6 回	曲①奏法を中心に	事前 曲①奏法の予習 事後 曲①奏法の復習	630 分 630 分
第 7 回	曲①表現の掘り下げ	事前 曲①表現に取り組む 事後 曲①の表現をさらに身に付ける	630 分 630 分
第 8 回	曲①仕上げ	事前 曲①仕上げを目指す 事後 曲①全般的に確認する	630 分 630 分
第 9 回	曲②様式を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 曲②の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第 10 回	曲②形式、和声を中心に	事前 曲②形式、和声について予習する 事後 曲②形式、和声についてさらに理解する	630 分 630 分
第 11 回	曲②奏法を中心に	事前 曲②奏法の予習 事後 曲②奏法の復習	630 分 630 分
第 12 回	曲②表現の掘り下げ	事前 曲②表現に取り組む 事後 曲②の表現をさらに身に付ける	630 分 630 分
第 13 回	曲②仕上げ	事前 曲②仕上げを目指す 事後 曲②全般的に確認する	630 分 630 分
第 14 回	演奏発表	事前 曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期の問題点についてふりかえる 事後 前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子

科目コード：IND102

対象コース／専門／学年： 器楽コース／管楽器専門／3 年次

形態：実習 単位数：4 単位

概要 奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画			
第1回	レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	630 分 630 分
第2回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第3回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第4回	曲③様式を中心に	事前 曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 曲③の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第5回	曲③奏法・表現を中心に	事前 曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第6回	学年末試験に向けての確認	事前 学年末試験の内容を理解する 事後 学年末試験の試験曲の楽譜を準備する	630 分 630 分
第7回	試験曲①様式を中心に	事前 試験曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲①の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第8回	試験曲①奏法・表現を中心に	事前 試験曲①の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第9回	試験曲②様式を中心に	事前 試験曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲②の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第10回	試験曲②奏法・表現を中心に	事前 試験曲②の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第11回	試験曲③様式を中心に	事前 試験曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲③の様式についてさらに理解する	630 分 630 分
第12回	試験曲③奏法・表現を中心に	事前 試験曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第13回	試験に向けての準備①	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	630 分 630 分
第14回	試験に向けての準備②仕上げ	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確の取り組みの問題点を確認する	630 分 630 分
第15回	総まとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する 事後 来年度についての課題に取り組む	630 分 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-1 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標	①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。
------	--

授業計画		
第1回	レッスンの目標と進め方	事前 前年度までの学修を確認し、学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする。 630 分
第2回	基礎訓練的な練習①呼吸法	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第3回	基礎訓練的な練習②正しい構え方	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第4回	曲①様式を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第5回	曲①形式、和声を中心に	事前 曲①形式、和声について予習する 事後 曲①形式、和声についてさらに理解する 630 分
第6回	曲①奏法を中心に	事前 曲①奏法の予習 事後 曲①奏法の復習 630 分
第7回	曲①表現の掘り下げ	事前 曲①表現に取り組む 事後 曲①の表現をさらに身に付ける 630 分
第8回	曲①仕上げ	事前 曲①仕上げを目指す 事後 曲①全般的に確認する 630 分
第9回	曲②様式を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第10回	曲②形式、和声を中心に	事前 曲②形式、和声について予習する 事後 曲②形式、和声についてさらに理解する 630 分
第11回	曲②奏法を中心に	事前 曲②奏法の予習 事後 曲②奏法の復習 630 分
第12回	曲②表現の掘り下げ	事前 曲②表現に取り組む 事後 曲②の表現をさらに身に付ける 630 分
第13回	曲②仕上げ	事前 曲②仕上げを目指す 事後 曲②全般的に確認する 630 分
第14回	演奏発表	事前 曲①曲②をまとめて演奏できるよう準備する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第15回	前期のまとめ	事前 前期の問題点についてふりかえる 事後 前期の問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☒	☒	□	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	□	□	□

(演) 専門実技Ⅳ-2 (管楽器)

管・打楽器部会主任 特任教授 三上明子 科目コード： IND404

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／管楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	奏法の基本を認識・確認し、体得する。奏法（原因）表現（結果）の関わりを楽曲を通じて認識し、演奏に生かす訓練をする。高度な楽曲を数多くこなして、演奏家にふさわしい表現力と実力を身に付ける。

到達目標 ①良い姿勢・呼吸法を身に付ける ②正しい読譜力の確立 ③演奏技術の向上 ④多くのレパートリーをこなす の4点。実際の楽曲に当たっては、様式感および形式を理解することを目標とする。なお、リードを使用する楽器については、リードの製作指導も行う。

授業計画		
第1回	後期レッスンの進め方の確認	事前 後期の学修計画案をたてる。 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする 630 分
第2回	基礎訓練的な練習③アンブシュアについて	事前 基礎訓練的な練習の準備をする 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第3回	基礎訓練的な練習④基礎奏法の総合	事前 引き続き、問題個所の是正に取り組む 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第4回	卒業試験に向けての確認	事前 卒業試験の内容を理解する 事後 卒業試験の試験曲の楽譜を準備する 630 分
第5回	試験曲①様式を中心に	事前 試験曲①の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲①の様式についてさらに理解する 630 分
第6回	試験曲①奏法・表現を中心に	事前 試験曲①の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第7回	試験曲②様式を中心に	事前 試験曲②の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲②の様式についてさらに理解する 630 分
第8回	試験曲②奏法・表現を中心に	事前 試験問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 曲②の奏法・表現について予習する 630 分
第9回	試験曲③様式を中心に	事前 試験曲③の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲③の様式についてさらに理解する 630 分
第10回	試験曲③奏法・表現を中心に	事前 試験曲③の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第11回	試験曲④様式を中心に	事前 試験曲④の譜読みと準備に取り組む 事後 試験曲④の様式についてさらに理解する 630 分
第12回	試験曲④奏法・表現を中心に	事前 試験曲④の奏法・表現について予習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第13回	試験に向けての準備①	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 630 分
第14回	試験に向けての準備②仕上げ	事前 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する 事後 問題箇所を確の取り組みの問題点を確認する。 630 分
第15回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。 事後 卒業後の課題について考える 630 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。また、実技試験後には講評をする。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験評価は複数教員による。

テキスト 担当教員の指示による。

オフィスアワー 授業後、教員の指示を受けること。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☒	☒	□	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	□	□	□

(演) 専門実技Ⅱ-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年：演奏家コース／打楽器専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	(演) 専門実技Ⅰを踏まえてマリンバの基本奏法を再確認しながらソロ作品を学ぶ。

到達目標 2 本のマレットを操る際の軌跡と腕の使い方の関係を会得する。
同時に 4 本マレットの扱い方との違いを会得する。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	マリンバの音階を演奏。練習曲も演奏する。	事前 マリンバで全調の音階を練習しておく。 事後 練習曲の復習と新曲の譜読みをする。	630 分 630 分
第 2 回	小太鼓の基本奏法から 1 つ打ちを再確認する。	事前 小太鼓の 1 つ打ち分解練習を練習しておく。 事後 マリンバの音階をメトロノームを使って弾き込んでおく。	630 分 630 分
第 3 回	マリンバの練習曲を演奏。2 本、4 本マレット両方の曲について。	事前 マリンバの練習曲をさらい込んでおく。 事後 2 本のときと 4 本のときの動きの違いを復習しておく。	630 分 630 分
第 4 回	小太鼓の 2 つ打ちを演奏。マリンバの練習曲を演奏。	事前 基本奏法を見直しておく。 事後 2 つ打ちが 1 つ打ちと全く異なる点を複数する。	630 分 630 分
第 5 回	マリンバの練習曲をシロフォンで演奏。	事前 シロフォンでもマリンバと同じ音色で演奏できるように心がける。 事後 シロフォンの楽器の特徴を知る。	630 分 630 分
第 6 回	マリンバの音階と練習曲、ヴァイヴラフォンのペダルの踏み方を解説。	事前 今一度マリンバの基本的な動きを身につける。 事後 伴奏者と練習曲を合わせておく。	630 分 630 分
第 7 回	小太鼓の基本奏法と練習曲を演奏。	事前 小太鼓の練習曲においてフレーズと表情を出せるようにする。 事後 練習曲を録音して聴く。	630 分 630 分
第 8 回	マリンバの音階、練習曲、伴奏者つきの練習曲を演奏。	事前 メトロノームを使って音階を練習しておく。 事後 伴奏者とうまく行かなかった点を確認する。	630 分 630 分
第 9 回	練習曲のフレーズ分け。小太鼓の基本奏法を演奏。	事前 予めフレーズ分けを考えておく。 事後 学年末試験の曲を探しておく。	630 分 630 分
第 10 回	オーケストラ作品からシロフォンのレパートリーを演奏。	事前 メトロノームを使って譜読みをしておく。 事後 シロフォンにおける腕の動きを復習する。	630 分 630 分
第 11 回	練習曲のフレーズやリズムの演奏について解説。	事前 マリンバの練習曲を弾き込んでおく。 事後 フレーズ分けを完成させ復習する。	630 分 630 分
第 12 回	小太鼓の基本奏法とマリンバの練習曲、音階を演奏。	事前 4 本マレットの練習曲を練習しておく。 事後 2 本と 4 本のマレットの扱いの違いを確認する。	630 分 630 分
第 13 回	学年末試験の選曲について検討する。	事前 マリンバの練習曲を暗譜しておく。 事後 試験曲の候補を探しておく。	630 分 630 分
第 14 回	前期のまとめと基本奏法の復習をする。	事前 小太鼓の基本奏法と練習曲を弾き込む。 事後 レッスンを録音し復習する。	630 分 630 分
第 15 回	マリンバの練習曲と小太鼓の 1 つ打ち分解練習を演奏。	事前 メトロノームを使って練習曲をさらい込んでおく。 事後 小太鼓の基本奏法を復習する。	630 分 630 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次回のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度などを加味して総合的に評価する。なお実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto
D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	

（演）専門実技Ⅱ-2（打楽器）

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／打楽器専門／2 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 （演）専門実技Ⅰを踏まえて小太鼓による打楽器の基本奏法を再確認しながらマルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 異なる楽器を同時に演奏する場合の手の動きの違いを研究する。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	試験曲の選曲。小太鼓とマリンバの基本奏法を演奏。	事前 基本奏法を復習し、試験の候補曲を 1、2 曲に絞っておく。 事後 試験曲を決定する。	630 分 630 分
第 2 回	試験曲の譜読みとセッティングを検討する。	事前 試験当日のセッティング表を作成しておく。 事後 フレーズ分けを試みる。	630 分 630 分
第 3 回	セッティングとマルチパーカッションの楽譜について検討する。	事前 マルチパーカッション作品の楽譜を完成させておく。 事後 セッティング表を完成させる。	630 分 630 分
第 4 回	試験曲の譜読み。小太鼓の 1 つ打ち分解練習を演奏。	事前 メトロノームで 1 つ打ち分解練習を予習しておく。 事後 試験曲を伴奏者と合わせておく。	630 分 630 分
第 5 回	試験曲を伴奏者つきで演奏。	事前 基本奏法と試験曲を弾き込んでおく。 事後 伴奏者とうまく行かなかった部分を検討する。	630 分 630 分
第 6 回	小太鼓の基本奏法とマリンバ音階を演奏。	事前 マルチパーカッション作品の楽器を選んでおく。 事後 基本奏法を踏まえてマルチ作品を見直しておく。	630 分 630 分
第 7 回	マルチパーカッション作品の楽器を調整する。	事前 予め自分で楽器を調正しておく。 事後 楽器間の移動や小物台などの位置を再確認する。	630 分 630 分
第 8 回	試験曲の譜読みと通し。	事前 試験曲のことを調べておく。 事後 レッスンで通した録音を聴き直しておく。	630 分 630 分
第 9 回	マリンバ練習曲と音階、そして試験曲を演奏。	事前 メトロノームを使って練習しておく。 事後 楽譜だけを見て演奏のイメージトレーニングをする。	630 分 630 分
第 10 回	マルチ作品の通し。	事前 予め時間を測っておく。 事後 レッスンで通した録音を聴き、直しておく。	630 分 630 分
第 11 回	小太鼓の基本奏法の見直しとマルチ作品の通し。	事前 楽器によってバランスが違う点を確認する。 事後 通した際の問題点を挙げておく。	630 分 630 分
第 12 回	試験曲の技術的に難しい部分を抜き出して演奏。	事前 マルチ作品のセッティングを再構成を検討しておく。 事後 メトロノームを使って復習する。	630 分 630 分
第 13 回	マリンバ及びマルチ作品試験曲の通し。	事前 4 本マレットの基本奏法を練習しておく。 事後 通しに必要であった時間を確認しておく。	630 分 630 分
第 14 回	試験曲をホールで演奏し、響きを加味して演奏の仕方を検討する。	事前 ホールに楽器を運びセッティングを確認する。 事後 会場の響きを瑣失した演奏を目指して楽譜を見直す。	630 分 630 分
第 15 回	試験曲の仕上げ。	事前 ゆっくりなテンポで全体を見直しておく。 事後 試験本番に向けてイメージトレーニングをする。	630 分 630 分

フィードバック 授業内で解説した内容について学生が次のレッスンまでにどのような練習をするべきか問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度などを加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
P.Creston:Concertino/Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto
D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/北爪道夫：サイド・バイ・サイド

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年：演奏家コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	(演) 専門実技Ⅰ、Ⅱを踏まえて小太鼓とマリンバによる打楽器の基本奏法を再確認しながら、ティンパニの作品を学ぶ。

到達目標	ティンパニはオーケストラやウィンドアンサンブルの中で演奏することを基本的に学ばなくてはならないが、ここではソロでどのように聴かせるのかを理解する。
------	---

授業計画	前期 15 回、各人 120 分の個人指導。 各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	小太鼓の基本奏法を確認する。1 つ打ち、2 つ打ち、ロール。	事前 事後	小太鼓をチューニングしておく。 基本奏法を復習する。	630 分 630 分
第 2 回	1 つ打ちの分解練習を演奏。マリンバで音階を演奏。	事前 事後	メトロノームを使って練習しておく。 小太鼓とマリンバの練習曲をさらしておく。	630 分 630 分
第 3 回	小太鼓の基本奏法とマリンバの練習曲を演奏。	事前 事後	マリンバのマレットを随時追加し用意しておく。 マリンバのロールを研究しておく。	630 分 630 分
第 4 回	2 つ打ちとマリンバで音階を演奏。 ティンパニの練習曲。	事前 事後	ティンパニのチューニングをしておく。 手順を確認する。	630 分 630 分
第 5 回	ティンパニの腕の使い方を解説する。	事前 事後	ティンパニの練習曲をさらしておく。 腕の動かし方を再確認しておく。	630 分 630 分
第 6 回	ティンパニのペダル操作の練習。	事前 事後	ティンパニの練習曲を用意しておく。 楽器の清掃とペダルの復習をする。	630 分 630 分
第 7 回	マリンバの 4 本マレットの練習曲を演奏。	事前 事後	4 本マレットでアルペジオを練習しておく。 腕の動きを再確認する。	630 分 630 分
第 8 回	ヴァイヴラフォンの 4 本マレットの練習曲を演奏。	事前 事後	ヴァイヴラフォンのマレットを用意しておく。 ゆっくりなテンポで練習しておく。	630 分 630 分
第 9 回	小太鼓の基本奏法、マリンバの音階を演奏。	事前 事後	さまざまなマレットを用意しておく。 基本奏法を確認しておく。	630 分 630 分
第 10 回	学年末試験の候補曲の検討。	事前 事後	試験課題を把握しておく。 楽譜の取り寄せなど調査する。	630 分 630 分
第 11 回	小太鼓、ティンパニの練習曲を演奏。	事前 事後	新しい練習曲を用意しておく。 ゆっくりなテンポで練習しておく。	630 分 630 分
第 12 回	マリンバで音階、小太鼓の練習曲を演奏。	事前 事後	音階を異なるリズムで練習しておく。 腕の使い方を再確認する。	630 分 630 分
第 13 回	練習曲の技術的に難しい部分を取り出して練習の仕方を解説。	事前 事後	課題となる曲や部分をまとめておく。 基本奏法とあわせて復習する。	630 分 630 分
第 14 回	ティンパニの練習曲、マリンバで音階を演奏。	事前 事後	メトロノームを使って練習しておく。 様々なテンポで難しい部分を復習する。	630 分 630 分
第 15 回	前期の総まとめ。	事前 事後	演奏を録音し研究しておく。 自分なりに課題をまとめておく。	630 分 630 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool
M.Peters:Advenced Snare Drum Studies
N.Woud:The Timpani Challenge
N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND301

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／打楽器専門／3 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 (演) 専門実技Ⅰ、Ⅱを踏まえて小太鼓とマリンバによる打楽器の基本奏法を再確認しながら、マルチパーカッションの作品を学ぶ。

到達目標 マルチパーカッションの作品を演奏するためにさまざまな鍵盤打楽器も扱い、楽器によって演奏のタッチを変えることを学ぶ。

授業計画 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	小太鼓の基本奏法、マリンバ及びヴァイヴラフォンの練習曲を演奏。	事前 ヴァイヴラフォンのマレットを用意する。 事後 ヴァイヴラフォンでも音階を再確認する。	630 分 630 分
第 2 回	1 つ打ち分解練習とマリンバで音階を演奏。	事前 J=80 と 60 で分解練習をさらしておく。 事後 さらにJ=92 で練習する。	630 分 630 分
第 3 回	学年末試験を検討する。 マリンバの練習曲。	事前 図書館を活用し試験曲を探す。 事後 メトロノームを使って手順を確認する。	630 分 630 分
第 4 回	2 つ打ち、ロールを演奏。 試験曲を決定する。	事前 小太鼓の基本奏法を確認しておく。 事後 試験曲のフレーズ分けをする。	630 分 630 分
第 5 回	試験曲の譜読みと楽譜作成の指導。	事前 セットアップ表を完成しておく。 事後 楽譜の置き場所を確認し、コピー、完成させる。	630 分 630 分
第 6 回	ヴァイヴラフォンの練習曲と試験曲のフレーズを分析する。	事前 フレーズ分けを再検討しておく。 事後 メトロノームを使ってゆっくりな店舗で難しい部分を練習。	630 分 630 分
第 7 回	試験曲のセッティングを再検討する。 小太鼓の基本奏法。	事前 演奏を録音し研究しておく。 事後 セットアップ表を完成させる。	630 分 630 分
第 8 回	マリンバで音階。 試験曲を伴奏つきで演奏。	事前 伴奏者と合わせておく。 事後 伴奏者との練習方法を検討する。	630 分 630 分
第 9 回	試験会場の響きに近い部屋で通し練習。	事前 広めの部屋を予約しておく。 事後 録音を聴いて問題点を明確にする。	630 分 630 分
第 10 回	試験曲の技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 ゆっくりなテンポで練習しておく。 事後 手順や動きを再確認する。	630 分 630 分
第 11 回	1 つ打ち、2 つ打ちを演奏。 試験曲の表現を研究する。	事前 楽器間の移動、動線の確認をしておく。 事後 表現に合う小物楽器を選び直す。	630 分 630 分
第 12 回	試験曲に出てくる小物楽器の扱いについて指導。	事前 異なるマレットを用意しておく。 事後 マレット台の位置を検討しておく。	630 分 630 分
第 13 回	試験小太鼓の基本奏法と試験曲のセッティングを再検討する。	事前 録音を聴いて楽譜を見直す。 事後 セットアップを完成させ動きを再確認する。	630 分 630 分
第 14 回	試験会場の響きに近い部屋で伴奏者とのバランスを確認する。	事前 広めの部屋を予約しておく。 事後 音楽の流れを再確認する。	630 分 630 分
第 15 回	学年末試験曲の仕上げ。	事前 演奏をシミュレーションしておく 事後 録音を聴いて最終確認する。	630 分 630 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。

テキスト (参照資料)
P.Creston:Concertino
M.Cals:Quatre Inventions
A.Jolivet:Concerto

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的な発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	

(演) 専門実技Ⅳ-1 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND403

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	基本奏法を再確認しながら、あらゆる打楽器を扱った作品やソロ曲を研究する。

到達目標 プログラムの構成について必要な事項について学ぶ。

授業計画		
第 1 回	小太鼓とマリンパの練習曲を演奏。	事前 練習曲を用意してさらしておく。 事後 小太鼓とマリンパで手の動きの違いを確認する。 630 分
第 2 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習とマリンパで音階を演奏。 タンブリンの奏法を学ぶ。	事前 種類の違ったタンブリンを用意し特徴を知っておく。 630 分 事後 手の動かし方を研究する。 630 分
第 3 回	小太鼓で 2 つ打ちとマリンパの練習曲を演奏。 タンブリン 2 回目。	事前 タンブリンの異なるロールを練習しておく。 630 分 事後 正確なリズムを削がずに表現方法を復習する。 630 分
第 4 回	小太鼓の練習曲とマリンパで音階を演奏。 ティンパニの清掃の仕方とチューニングを学ぶ。	事前 ティンパニをチューニングしておく。 630 分 事後 ティンパニのマレットを用意する。 630 分
第 5 回	ティンパニの練習曲を演奏。 音の取り方、ベダリングを学ぶ。	事前 卒業試験曲を図書館など利用して探しておく。 630 分 事後 グリッサンドと踏みかえの違いを復習しておく。 630 分
第 6 回	マリンパで音階と練習曲を演奏。 カスタネットの奏法を学ぶ。フラメンコ奏法 1 回目。	事前 マルチパーカッションの曲を選んでおく。 630 分 事後 指の使い方を復習する。 630 分
第 7 回	小太鼓とマリンパの練習曲を演奏。 カスタネット、フラメンコ奏法 2 回目。	事前 試験曲の候補を絞っておく。 630 分 事後 オープンの手の動かし方を復習する。 630 分
第 8 回	任意のマルチパーカッションの曲を演奏。 卒業試験曲について相談 1 回目。	事前 異なる材質の楽器とのコンビネーションを練習しておく。 630 分 事後 異なる楽器間のバランスを復習する。 630 分
第 9 回	ティンパニの練習曲を演奏。 トライアングルの奏法を学ぶ。	事前 大きさの異なるトライアングルを用意しておく。 630 分 事後 ティンパニヘッドの交換と清掃をしておく。 630 分
第 10 回	マルチパーカッションの曲を演奏。 トライアングル 2 回目。	事前 トライアングルの音色を研究しておく。 630 分 事後 シロフォン、ヴィヴラフォンのマレットを追加しておく。 630 分
第 11 回	マリンパで音階、練習曲を演奏。 シロフォンの練習曲を演奏。	事前 バイブの真上を打つ練習をしておくこと。 630 分 事後 メトロノームを使って練習する。 630 分
第 12 回	小太鼓で 2 つ打ちとロールを演奏。 大太鼓の扱い方、奏法を学ぶ。	事前 様々なバランスでロールをさらしておく。 630 分 事後 大太鼓のリズムにロールが挟まれたパターンの復習。 630 分
第 13 回	マルチパーカッションの曲を演奏。 卒業試験曲について相談 2 回目。	事前 ベダルによる大太鼓を研究しておく。 630 分 事後 様々なベダリングを復習する。 630 分
第 14 回	マリンパの練習曲、音階を演奏。 ヴィヴラフォンの練習曲を演奏。	事前 マリンパの基本奏法を復習しておくこと。 630 分 事後 ベダリングを確認して復習する。 630 分
第 15 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習を演奏。 タムタム、チューブラーベルの扱いと奏法を学ぶ。	事前 小太鼓の基本奏法を復習しておく。 630 分 事後 タムタムの音のレガートのやり方を復習しておく。 630 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
A.Koppel:Concerto for Marimba/W.Thaerichen:Konzert fuer Pauken
Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto
D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/F.Dupin:Myriades

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	□	□

(演) 専門実技Ⅳ-2 (打楽器)

客員教授 岡田全弘

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／打楽器専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	(演) 専門実技Ⅰ～Ⅲを踏まえて小太鼓とマリンバによる打楽器の基本奏法を再確認する。

到達目標 ソロの演奏について 1 曲だけでなく何曲か続けて演奏する力をつける。

授業計画				
第 1 回	小太鼓の練習曲とマリンバで音階を演奏。 卒業試験曲を決定する。	事前	使用する楽器を選んでおく。	630 分
		事後	試験曲の作曲家や作品について調べておく。	630 分
第 2 回	小太鼓の練習曲と 1 つ打ちの分解練習を演奏。 試験曲の譜読み。	事前	試験曲の楽譜を作成する。	630 分
		事後	フレーズ分けを検討する。	630 分
第 3 回	マリンバで音階と練習曲を演奏する。 試験曲のフレーズ分け。	事前	ゆっくりなテンポで練習を始める。	630 分
		事後	手順を考えて練習しておく。	630 分
第 4 回	小太鼓とマリンバの練習曲を演奏。 セッティングを検討する。	事前	楽器の手入れと清掃と清掃をしておく。	630 分
		事後	セッティング表を作成する。	630 分
第 5 回	技術的に難しい部分の練習方法を検討。	事前	手順を検討しておく。	630 分
		事後	メトロノームで練習しておく。	630 分
第 6 回	プログラムを検討する。	事前	各曲のセッティング表を完成させておく。	630 分
		事後	伴奏者を探しておく。	630 分
第 7 回	試験曲の譜読み。セッティングを再検討する。	事前	楽器がない時にあるつもりでシミュレーションする練習を。	630 分
		事後	楽器のチューニングを検討しておく。	630 分
第 8 回	小太鼓の 2 つ打ちとロール、マリンバの練習曲を演奏。 試験曲の譜読み。	事前	卒業試験曲を伴奏者と合わせをしておく。	630 分
		事後	手の動きをシミュレーションしておく。	630 分
第 9 回	小太鼓で 1 つ打ちの分解練習とマリンバで音階を演奏。 試験曲の譜読み。	事前	メトロノームを使って正確なリズムを打てるようにする。	630 分
		事後	フレーズ毎の演奏法を確認しておく。	630 分
第 10 回	試験曲を伴奏者と演奏。	事前	伴奏者との練習方法を考える。	630 分
		事後	バランスを確認する。	630 分
第 11 回	小太鼓で 2 つ打ちとロール、マリンバの練習曲を演奏。 試験曲のリズム、伴奏者とのコンビネーションを再検討する。	事前	録音して楽譜を研究しておく。	630 分
		事後	腕の動かし方を確認する。	630 分
第 12 回	試験曲を通して演奏。	事前	クライマックスの表現を検討しておく。	630 分
		事後	時間を測り曲の流れを掴んでおく。	630 分
第 13 回	試験曲を試験会場に近い響きの部屋で演奏。	事前	セッティングの細部をメモしステージ担当者に伝えられるようにする。	630 分
		事後	録音を聴いて作品の響きを確認する。	630 分
第 14 回	ステージでのマナーや導線、セッティングを再確認。 試験曲の通し。	事前	難しいところを抜き出して練習しておく。	630 分
		事後	再度譜読みを行い演奏のイメージをする。	630 分
第 15 回	卒業試験曲の仕上げ。	事前	伴奏者と最終確認しておく。	630 分
		事後	本番の演奏をシミュレーションしておく。	630 分

フィードバック 授業内で解説したことについて学生が次回のレッスンまでにどのような練習方法を用意するのかを問いアドバイスを行う。

成績評価 実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。

テキスト (参照資料)
M.Goldenberg:Modernschool/A.Cirone:Portraits for Rhythm
M.Peters:Advanced Snare Drum Studies/J.Delecluse:Douze Etudes
N.Woud:The Timpani Challenge/N.Woud:Musical Studies for Pedal timpani
A.Koppel:Concerto for Marimba/W.Thaerichen:Konzert fuer Pauken
Michael Cals:Quatre Inventions/A.Jolivet:Concerto
D.Milhaud:Concerto for Marimba and Vibraphone/F.Dupin:Myriades

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	□	□	□	☒	□	□	□	□	☒	☒	☒	☒	□	□

(演) 専門実技Ⅱ-1 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード：IND201

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／2 年次

形態：実技	単位数 4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 (演) 専門実技Ⅰを踏まえ、異なる時代、様式の音楽を取り入れたプログラムを作成する。
------	---

授業計画	この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。 前期 15 回、各人 120 分の個人指導。
------	--

第 1 回	ガイダンス。今期の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。	630 分
		事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムを通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。	630 分
		事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにし、録音の準備をする。	630 分
		事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	630 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。
---------	---------------------------------------

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
------	--

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室。
---------	--------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／2 年次

形態：実技	単位数 4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、さらに高度な演奏技術を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 (演) 専門実技 II-1 を踏まえ、異なる時代、様式の音楽を取り入れたプログラムを作成する。
------	--

授業計画	この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。 後期 15 回、各人 120 分の個人指導。
------	--

第 1 回	ガイダンス。今期の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。	630 分
		事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代)	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家)	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。	630 分
		事後 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムを通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。	630 分
		事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにし、録音の準備をする。	630 分
		事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムを演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	630 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事前 習熟し、滞りなく演奏できるようにする。	630 分
		事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。
---------	---------------------------------------

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
------	--

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室。
---------	--------------------

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒		☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (オルガン・古楽)		
教授 小林英之		科目コード：IND301
演奏家コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／3 年次		
形態：実技		単位数：4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。	

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 (演) 専門実技 I、II で学んだ作品より、さらに高度な技術、音楽性を要するプログラムを作成する。
------	---

授業計画		前半 15 回、各人 120 分の個人指導。 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。		
第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた演奏会用プログラムの設定。	事前	既習曲の一覧を用意する。	630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1（技術的な課題）	事後	楽譜を揃える。種類別の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分
		事前	作品の構造を理解し、練習に役立てる。	630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2（より高度な技術的課題）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3（表現力）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4（より高度な表現力を目指す）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5（総合）	事後	全体の起承転結を考える。	630 分
		事前	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事後	緊張したときの自分を想定する。	630 分
		事前	演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1（技術的な課題）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2（より高度な技術的課題）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3（表現力）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4（より高度な表現力を目指す）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 5（総合）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	レッスンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1（技術的な課題）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。	630 分
		事前	録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2（表現力）	事後	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事前	前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	630 分
第 15 回	第 14 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事前	習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分
		事後	楽譜を揃える。種類別の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	630 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (オルガン・古楽)

教授	小林英之	科目コード	IND302
演奏家コース／オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／3 年次			
形態：実技	単位数：4 単位		
概要	履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。		

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 (演) 専門実技 I、II で学んだ作品より、さらに高度な技術、音楽性を要するプログラムを作成する。
------	---

授業計画	後半 15 回、各人 120 分の個人指導。 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
------	--

第 1 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1 (技術的な課題)	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分 630 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (より高度な技術的課題)	事前 うまくいかないところの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分 630 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (表現力)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分 630 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分 630 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 5 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	630 分 630 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	630 分 630 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (より高度な技術的課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 5 (総合)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 全体の力配分を考える。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	630 分 630 分
第 14 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づくよう練習を積む。	630 分 630 分
第 15 回	試験に臨む心構え	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	630 分 630 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☐

（演）専門実技Ⅳ-1（オルガン・古楽）		
教授 小林英之		科目コード：IND403
対象コース／専門／学年：演奏家コース／古楽オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4年次		
形態：実技		単位数：4単位
概要	履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。	

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 （演）専門実技Ⅰ～Ⅲで学んだ作品より、さらに高度な演奏技術、音楽性を要する作品を軸に、一般聴衆にも魅力的な卒業試験プログラムを組む。
------	---

授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
------	--

第 1 回	ガイダンス。今年度の目標を立て、それに応じた卒業演奏会用プログラムの設定。	事前 既習曲の一覧を用意する。	330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 1（技術的な課題）	事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 2（より高度な技術的課題）	事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 3（表現力）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 4（より高度な表現力を目指す）	事前 うまくいかないところの奏法（指使い等）を変えてみる。	330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの前半の準備 5（総合）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの前半を通して演奏する。	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（時代）	330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 1（技術的な課題）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 2（表現力）	事前 該当作品の生まれた背景を調べる（作曲家）	330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 3（より高度な表現力を目指す）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラムの前半の仕上げ 4（総合）	事前 全体の起承転結を考える。	330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 1（技術的な課題）	事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
第 13 回	作成した演奏会用プログラムの前半を演奏会形式で演奏する 2（表現力）	事前 緊張したときの自分を想定する。	330 分
第 14 回	第 13 回の結果を受けて、必要に応じ演奏会プログラムを見直す。	事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分
第 15 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 1（技術的な課題）	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分
		事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分
		事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
		事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分
		事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。	330 分
		事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分
		事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
		事後 前期で習得した作品を、いつでも演奏会で演奏できるような状態に保つ練習方法を考える。	330 分
		事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分
		事後 楽譜を揃える。一種類の現代譜のみならず、オリジナルに近いものも可能な限り手に入れる。	330 分
		事前 作品の構造を理解し、練習に役立てる。	330 分
		事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
------	--

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室。
---------	--------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-2 (オルガン・古楽)

教授 小林英之

科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：演奏家コース／古楽オルガン、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー専門／4年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	履修する作品の演奏を通して、演奏技術と表現の関連を学ぶ。

到達目標	各学生の能力、進度に応じ、演奏家コース規定による演奏会用プログラムを設定し、読譜力、楽曲解釈、演奏技術を習得する。 (演) 専門実技Ⅰ～Ⅲで学んだ作品より、さらに高度な演奏技術、音楽性を要する作品を軸に、一般聴衆にも魅力的な卒業試験プログラムを組む。
------	--

授業計画	半期 15 回、各人 120 分の個人指導。 この授業計画は目標であって、課題の難易度や取り組みの進捗状況に応じ、個々の課題に取り組む時間に増減があるものとする。
------	--

第 1 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 2 (表現力)	事前 うまくいかないとこの奏法 (指使い等) を変えてみる。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 2 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 3 (より高度な表現力を目指す)	事前 該当作品の生まれた背景を調べる (時代、作曲家) 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 3 回	作成した演奏会用プログラムの後半の準備 4 (総合)	事前 全体の起承転結を考える。 事後 習熟し、滞りなく弾けるようにする。	330 分 330 分
第 4 回	作成した演奏会用プログラムの後半を通して演奏する。	事前 緊張したときの自分を想定する。 事後 演奏の結果を基に、今後の練習法を含む演奏への取り組み方を考える。	330 分 330 分
第 5 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 1 (技術的な課題)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 6 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 7 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 3 (より高度な表現力を目指す)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 8 回	作成した演奏会用プログラムの後半の仕上げ 4	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 レッソンの結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 9 回	作成した演奏会用プログラムの後半を演奏会形式で演奏する。	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにし、録音の準備をする。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 10 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 1 (技術的な課題)	事前 全体の力配分を考える。 事後 録音したものを参考に改善点を見つけ、その結果を反映できるよう練習を積む。	330 分 330 分
第 11 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する 2 (表現力)	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 再度録音したものを参考に改善点を見つけ、自分の理想に近づこう練習を積む。	330 分 330 分
第 12 回	作成した演奏会用プログラム全体を演奏会形式で演奏する。試験に臨む心構え	事前 習熟し、滞りなく弾けるようにする。 事後 楽器に触れている時間以外の使い方を考える。	330 分 330 分
第 13 回	試験結果を踏まえ、今後の方向について	事前 興味のある作曲家、時代の作品一覧を作成。 事後 アドヴァイスをもとに、作品一覧から演奏会プログラムを作成。	330 分 330 分
第 14 回	定期的なレッスンがなくなったときの練習方法について	事前 作成したプログラムをもとに練習方法、勉強方法を模索する。 事後 アドヴァイスをもとに計画を練り直す。	330 分 330 分
第 15 回	練習の時間計画の立て方	事前 練習計画の作成。 事後 演奏会プログラムの完成。	330 分 330 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメントと、実技試験終了後の講評。
---------	---------------------------------------

成績評価	実技試験にレッスン受講態度等を加味して総合的に評価する。なお、実技試験に於いて C の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。実技試験に於いて 2 年連続 B- の評価を得た者は次年度演奏家コースに認定されない。
------	--

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室。
---------	--------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-1 (声楽)

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	声楽的発声を深く研究し習得する。 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。
------	--

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえて、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。			
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前	1 年次での学修を確認し学習計画を練る	330 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前	発声練習を重ね、次のレッスンのエチュード、歌曲の譜読みをする	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前	次のレッスンのエチュード、歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前	次のレッスンのエチュード、歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次のレッスンの歌曲の練習を重ねる（言葉の意味を調べる）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスンの歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 歌曲、オペラアリア	事前	次のレッスンの歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 8 回	レパートリーの拡大 歌曲、オペラアリア	事前	次のレッスンの楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 9 回	レパートリーの確立 歌曲、オペラアリア	事前	次のレッスンの楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 10 回	選択した複数の楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次のレッスンの楽曲の練習を重ねる（言語のディクショに留意する）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次のレッスンの楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次のレッスンの楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する）	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアニストと伴奏合わせをする	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前	伴奏合わせを重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅱ-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭

科目コード：IND202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	声楽的発声を深く研究し習得する。 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。 上記に加え、2 年次後期はドイツ歌曲を含む題材をもって、演奏解釈、表現を習得する。
------	---

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。			
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前	前期の学修を確認し学習計画を練る	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前	次のレッスンプラン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① (以下 2 年次生はドイツ歌曲、3 年次生は日本歌曲を含む)	事前	次のレッスンプラン予定の楽曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② (オペラにおける声のカテゴリー確認を含む)	事前	自分の声に合うオペラのレパートリーを考える	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる)	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する)	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクッションに留意する)	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる	事前	次のレッスンプラン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する)	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前	事前にピアノリストと伴奏合わせをする	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする	事前	伴奏合わせを重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前	伴奏合わせを重ねる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる	330 分
		事後	レッスンで指摘を受けた点の改善	300 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND301

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／3 年次

形態：実技 単位数：4 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 ①声楽的発声を深く研究し習得する。
②個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。
③個々の楽曲(歌曲、オペラ、オラトリオ等)演奏の完成度を常に求めさらに高める。

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で計 30 回。週 120 分の個人指導 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する		
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 2 年次での学修を確認し学習計画を練る 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	330 分 300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 発声練習を重ね、次のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 7 回	声域・カテゴリーの分析しレパートリーを考える 歌曲、オペラアリア	事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 8 回	レパートリーの拡大を目指す 歌曲、オペラアリア	事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 9 回	レパートリーの確立を目指す 歌曲、オペラアリア	事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 10 回	選択した複数の楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアノリストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や後期への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅲ-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND302

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／3 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す。 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標	① 声楽的発声を深く研究し習得する。 ② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。 ③ 個々の楽曲(歌曲、オペラ、オラトリオ等)演奏の完成度を常に求めさらに高める。
------	---

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で計 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。
------	---

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① (以下 2 年次生はドイツ歌曲、3 年次生は日本歌曲を含む)	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② (オペラにおける声のカテゴリー確認を含む)	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 7 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意す 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意す 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次学年への課題を話し合う。

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 専門実技Ⅳ-1 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND403

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

到達目標	① 発声を深く研究し習得する。 ② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。 ③ 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。
------	---

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえて、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。
第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる 事前 3 年次での学修を確認し学習計画を練る 330 分 事後 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする 300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に 事前 発声練習を重ね、次のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 3 回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に 事前 次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 4 回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決 事前 次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 5 回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に 事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 6 回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展 事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 7 回	声域・カテゴリーの確立 歌曲、オペラアリア 事前 次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 8 回	レパートリーの拡大 歌曲、オペラアリア 事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 9 回	レパートリーの確立 歌曲、オペラアリア 事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 10 回	選択した複数の楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める 事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (言語のディクシオンに留意する) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる 事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる 事前 次のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意する) 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める 事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 14 回	暗譜の上、表現の発展、演奏の質の向上をはかる 事前 伴奏合わせを重ねる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分
第 15 回	試演会の予行演習をする 事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 330 分 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善 300 分

フィードバック 前期試演会後に個人面談の形で成果と問題点を洗い出す

成績評価 前期試演会。担当教員による評価

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

(演) 専門実技Ⅳ-2 (声楽)

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND404

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／4 年次

形態：実技	単位数：4 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学び、声楽家としてのレパートリーの拡大を目指す課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる

到達目標	① 声楽的発声を深く研究し習得する。 ② 個々の進捗にあった題材で、演奏技術、表現力のさらなる向上を目指す。 ③ 個々の楽曲につき演奏の完成度を常に求め高める。
------	--

授業計画	15 回×複数教員(2 名分)で 30 回。週 120 分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択してレッスンをする。 なお、あくまでも学生各自の学習の進捗や特性を踏まえつつ、複数の担当教員が話し合いながら、最適な指導プログラムを随時適用する。		
第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 2 回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 3 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① (以下 2 年次生はドイツ歌曲、3 年次生は日本歌曲を含む)	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 4 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② (オペラにおける声のカテゴリ確認を含む)	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 5 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 6 回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 7 回	各々の声のカテゴリを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクショに 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 8 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクショに 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 9 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (言語のディクショに 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 10 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意す 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる (音楽的な表現に留意す 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 12 回	暗譜を確かなものにする	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分
第 15 回	卒業試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	330 分 300 分

フィードバック 卒業試験後に個人面談の形で振り返り、成果や卒業後の音楽との関わり方等を話し合う

成績評価 演奏試験、評価は複数の審査員の採点による

テキスト 曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

ピアノ・アンサンブルⅡ

教授 山崎紫乃

科目コード：ENS201

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	受講生同士パートナーを組み、連弾及び 2 台ピアノの作品を通じてアンサンブルを体験し学ぶ授業である。なるべく多くの演奏機会が持てるような課題曲構成となっている。

到達目標	アンサンブルにおいて大切な、バランス、呼吸の合わせ方、練習の仕方などを、連弾および 2 台ピアノを通じて学び、体験する。4 手のバランスの取り方で、様々に音色が変化することを聴き取り、楽曲の理解力とともに、それぞれの役割分担を考え、共演者ととともに一つの音楽を作り上げていくプロセスを学ぶことを目標とする。
------	---

授業計画				
第 1 回	Jean Françaix：ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.1～No.7	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。フランスについて調べる。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 2 回	Jean Françaix：ルノワールによる 15 の子供の肖像画 No.8～No.14	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。 モーツァルト、シューベルトの連弾作品について調べる。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 3 回	①W.A.Mozart：ドイツ舞曲 K.600 および K.605 ②F.Schubert：4 つのレントラー D.814	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 4 回	L.van Beethoven：ソナタ Op.6 L.van Beethoven：行進曲 Op.45-2 および Op.45-3 導入	事前	個人のパート練習をした上で、パートナーと合わせておく	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 5 回	L.van Beethoven：ソナタ Op.6 L.van Beethoven：行進曲 Op.45-2 および Op.45-3 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する。ベートーヴェンの他の連弾曲を聴く。	120 分
第 6 回	C.M.von Weber：6 つの小品 Op.3 導入	事前	個人パートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。ウェーバーについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 7 回	C.M.von Weber：6 つの小品 Op.3 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 8 回	R.Schumann：12 の練習曲 Op.85 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 9 回	R.Schumann：12 の練習曲 Op.85 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 10 回	R.Schumann=C. Debussy ：カノン形式による 6 つの練習曲（2 台ピアノ）導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。曲の成り立ちについて調べる。	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 11 回	R.Schumann=C. Debussy ：カノン形式による 6 つの練習曲（2 台ピアノ）まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	120 分
第 12 回	Reinhold Glière：6 つの小品（2 台ピアノ）	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく。グリエールについて調べる。	190 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する	90 分
第 13 回	J.Brahms：ワルツ Op.39 導入	事前	個人のパートを練習した上で、パートナーと共に合わせておく	170 分
		事後	授業で指摘された部分を復習して、パートナーと共に次の授業までに修正しておく	110 分
第 14 回	J.Brahms：ワルツ Op.39 まとめ	事前	前回の授業で指摘された部分が改善出来ているか、パートナーと共に合わせながら確認しておく	160 分
		事後	授業の復習を行い、パートナーと共に合わせ、確認する。ブラームスの他の連弾曲を聴く。	120 分
第 15 回	発表会	事前	授業で取り上げた曲の中から 1 曲を選び、パートナーと共に準備する	220 分
		事後	発表会での演奏を振り返りパートナーと共に、改善点を話し合う	60 分

フィードバック 各自練習してきた課題曲を授業内で演奏し、それに対して教員より課題及び学修成果について個々にアドバイスを行う。

成績評価 課題への取り組み方(50%)、授業態度(50%)

テキスト 授業曲目や組み分けについては、後期授業開始前（9 月初旬）に掲示する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 sun.138@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

ピアノ・アンサンブルⅢ

教授 山崎紫乃

科目コード：ENS301

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／3 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	主に協奏曲作品を取り上げ、ピアノにおけるアンサンブルの世界の幅を広げる。 オーケストラのパートをピアノで伴奏するために必要なスキルを身につける。

到達目標	アンサンブルにおいてピアノという楽器は音楽的に対等の立場、もしくは伴奏として支える立場をとることが大半であるが、他楽器との共演の中でもピアノ協奏曲においてはソリストとしての音楽表現、奏法、演奏の牽引力等が必要である。ソリストとしての演奏法、室内楽作品と協奏曲作品の演奏法、表現法、音や響きなどの相違点を明確に学ぶと共に、オーケストラパートをピアノで伴奏することも学び、楽器の可能性について更に追求し、オーケストラ作品が連弾及び 2 台ピアノに編曲された作品にも取り組み、幅広い演奏法を身につけることを目標とする。
------	--

授業計画	15 回の講義を行い、10 月にコンチェルト試験を実施する。
------	--------------------------------

第 1 回	課題の設定	事前 協奏曲について調べる。 事後 課題曲の中から選曲、読譜。	110 分 170 分
第 2 回	正確な読譜	事前 音、リズム、拍子を性格に読譜。 事後 指使い、手のフォームを正しく反復練習。	110 分 170 分
第 3 回	技術的問題への取り組み	事前 丁寧に反復練習。 事後 苦手な音型、楽句の徹底練習。	110 分 170 分
第 4 回	リズム、拍子の確認	事前 反復練習。 事後 楽譜に忠実に正確なリズムを意識して練習。	110 分 170 分
第 5 回	オーケストラパートの読譜	事前 オーケストラパートの読譜。 事後 両パートを総合して音楽をイメージする。	110 分 170 分
第 6 回	楽曲分析	事前 和声進行など整理し、構造を理解する。 事後 作品の全体像を把握し、演奏のイメージを持つ。	110 分 170 分
第 7 回	演奏技術の向上	事前 反復練習。 事後 問題点を自覚し効果的な反復練習。	110 分 170 分
第 8 回	表現法	事前 作品の全体像を把握し、表現の可能性を追求。 事後 作品に相応しい表現の追求。	110 分 170 分
第 9 回	作品の総合的視点	事前 オーケストラパートおよびピアノソロパートの確認。 事後 全体の構造を把握し、バランスを考慮して練習。	110 分 170 分
第 10 回	両パートの共演	事前 パートナーとの練習。 事後 音楽の流れ、構造、音量のバランスを確認しながら反復練習。	110 分 170 分
第 11 回	両パートの共演(立体的な演奏)	事前 それぞれのパートの役割を意識して練習。 事後 掘りの深い表現の追求。	110 分 170 分
第 12 回	音色、響き	事前 各パートに相応しい音色、響きの追求。 事後 ピアニスティックな表現の追求。オーケストラ楽器の音色の研究。	110 分 170 分
第 13 回	テンポの設定	事前 ソリストの表現、音楽の流れを明確に。 事後 表現、バランスを整理し、相応しいテンポの確立。	110 分 170 分
第 14 回	仕上げ	事前 両パートを理解し表現、技術の徹底。 事後 表現力と演奏技術の鍛錬。	110 分 170 分
第 15 回	成果の発表	事前 全体像を意識し、最終調整。 事後 両パートの役割、表現を自己分析、評価。	110 分 170 分

フィードバック	演奏試験を行い、その後担当教員、審査員のコメントを聞くことができる。
---------	------------------------------------

成績評価	演奏試験を受ける。評価は複数の審査員の採点による。
------	---------------------------

テキスト	講義の中での課題曲目については、適宜掲示する。 演奏試験課題曲は 7 月に掲示する。
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて。
---------	------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	□	□

ピアノ伴奏法（基礎）a

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 星子知美

科目コード：ENS306

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／3 年次生

形態：演習	単位数：2 単位
概要	伴奏はピアノ奏者にとって重要な分野にも拘らず、脇役のように扱われがちである。しかし、近年では伴奏者の存在価値とその評価は非常に高まり、伴奏者の技量が演奏会の成否を左右するといっても過言ではない。この講義では、まず「歌う」ということを考え、それに伴奏者として合わせて音楽を作ること、そして声楽曲を通して、詩の解釈と理解に基づいた演奏表現と技法を追求する。
到達目標	声楽曲の伴奏を学ぶことで、自身のピアノソロの演奏や他の楽器の伴奏にもつながる音楽知識と技術を身につけ、感性を磨くことを目標とする。日本古典歌曲、トスティ、ドイツ歌曲（モーツァルト）の作品の実際の声楽との合わせを通して、より実践的な力を養う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 学修計画の説明・“伴奏”について考える	事前 事後	これまでの経験を含めて、“伴奏”について考えをまとめておく “伴奏”のポイントをまとめ、理解を深める	135 分 135 分
第 2 回	“ピアノを歌わせる” シューマン「ユージュントアルバム」より	事前 事後	ピアノという楽器の歴史を調べ、課題曲の譜読みをする 右手を歌えるようにし、更に両手のバランスが取れるように反復練習をする	180 分 90 分
第 3 回	“ピアノを歌わせる” シューマン「子供の情景」より	事前 事後	第 2 回を基に両手のバランスに気をつけながら、課題曲の譜読みをする 第 2 回・第 3 回の課題を完成させる	135 分 135 分
第 4 回	日本歌曲（滝廉太郎の作品：荒城の月、花）	事前 事後	日本歌曲の歴史を調べ、課題曲の譜読みをする 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 5 回	日本歌曲（山田耕柁の作品：中国地方の子守唄、からたちの花など）	事前 事後	歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 6 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、城ヶ島の雨など）	事前 事後	歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 7 回	日本歌曲（北秋の、沙羅、行々子）	事前 事後	歌詞の意味を理解しながら、課題曲の譜読みをする 日本歌曲の歴史を復習し、第 4 回～第 7 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 8 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、いとしい女よなど）	事前 事後	イタリア語の歌詞の意味を調べ、課題曲を準備する 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 9 回	イタリア古典歌曲（もはや私の心には感じない（うつろの心）など）	事前 事後	イタリア歌曲の歴史を調べ、課題曲を準備する 指摘のあった箇所を直し、反復練習する	180 分 90 分
第 10 回	イタリア古典歌曲（スカラッチェの作品）	事前 事後	歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 指摘のあった箇所を直し、第 8 回～第 10 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 11 回	トスティの歌曲（4 月、夢など）	事前 事後	作曲家について調べ、課題曲を準備する 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 12 回	トスティの歌曲（セレナータなど）	事前 事後	歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 指摘のあった箇所の反復練習をし、トスティの課題曲を完成させる	180 分 90 分
第 13 回	ドイツ歌曲（モーツァルトの作品：すみれ、クローエになど）	事前 事後	ドイツ歌曲の歴史を調べ、課題曲を準備する 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 14 回	ドイツ歌曲（モーツァルトの作品：ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いた時など）	事前 事後	歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする。	180 分 90 分
第 15 回	演奏の発表と振り返り	事前 事後	これまでの授業内容をまとめ、それを基に伴奏曲の発表の準備をする。 演奏の発表と振り返りを通して問題点と課題を把握し、「応用」に備える。	180 分 90 分

フィードバック 授業での課題や演奏試験についてコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする。

成績評価 演奏試験 50%、レポート 20%、授業への積極的な取り組み 30%。

テキスト 授業時に配布する履修予定に従い、課題を準備する。
その他、必要に応じてプリント等を配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

アクティブ・ラーニング 学生同士の演奏を聴き合い、改善点や良かったところをディスカッションする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法（応用）a

准教授 星子知美

科目コード：ENS307

対象コース／専門／学年： 器楽コース／ピアノ専門／3 年次生

形態：演習	単位数：2 単位
概要	伴奏はピアノ奏者にとって重要な分野にも拘らず、脇役のように扱われがちである。しかし、近年では伴奏者の存在価値とその評価は非常に高まり、伴奏者の技量が演奏会の成否を左右するといっても過言ではない。この講義では「基礎」に引き続き、様々な時代とスタイルの声楽曲を通して、詩の解釈と理解に基づいた演奏表現と技法を追求する。ピアノという楽器の歴史と演奏様式の推移、及びフルートやヴァイオリンの作品の伴奏も重要な研究のポイントとなる。
到達目標	声楽曲の伴奏を学ぶことで、自身のピアノソロの演奏や他の楽器の伴奏にもつながる音楽知識と技術を身につけ、感性を磨くことを目標とする。ドイツ歌曲（シューベルト、シューマン、ブラームス、R.シュトラウス、ヴォルフ）実際の声楽との合わせを通して、より実践的な力を養う。

第 1 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：野ばら、鱈など）	事前 シューベルトの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 2 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：さすらい人、糸を紡ぐグレートヒェンなど）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 3 回	ドイツ歌曲（シューベルトの作品：「冬の旅」の概要）	事前 歌曲集「冬の旅」について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 4 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「冬の旅」よりおやすみ、菩提樹、郵便馬車など）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、第 15 回～第 18 回の課題を完成させる	180 分 90 分
第 5 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：献呈など）	事前 シューマンの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 6 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」の概要）	事前 歌曲集「女の愛と生涯」について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習をする	180 分 90 分
第 7 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」より第 1 曲～第 4 曲）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌詞の読み方を復習し、指摘のあった箇所の反復練習をする	180 分 90 分
第 8 回	ドイツ歌曲（シューマンの作品：「女の愛と生涯」より第 5 曲～第 8 曲）	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、「女の愛と生涯」を完成させる	180 分 90 分
第 9 回	ドイツ歌曲（ブラームスの作品）	事前 ブラームスの歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 10 回	ドイツ歌曲（R.シュトラウスの作品）	事前 R.シュトラウスについて調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 11 回	ドイツ歌曲（ヴォルフの作品）	事前 ヴォルフとその歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 12 回	フランス歌曲（フォーレの作品）	事前 フランス歌曲について調べ、課題曲を準備する 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 13 回	フルート作品及びヴァイオリンの作品	事前 課題曲の譜読みをする 事後 指摘のあった箇所を直し、反復練習し、完成させる	180 分 90 分
第 14 回	オペラのアリアより	事前 歌詞の読み方と意味を調べ、課題曲を準備する 事後 歌曲の伴奏との違いを復習し理解を深め、完成させる	180 分 90 分
第 15 回	演奏試験、伴奏法のまとめ	事前 課題曲・レポートを準備する 事後 理解不足だった箇所や演奏に問題のある箇所の復習をし、完成させる	250 分 20 分

フィードバック 授業での課題や演奏試験についてコメントにて、また、レポートについて添削や解説により学修成果をフィードバックする。

成績評価 演奏試験 50%、レポート 20%、授業への積極的な取り組み 30%。

テキスト 授業時に配布する履修予定に従い、課題を準備する。
その他、必要に応じてプリント等を配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

アクティブ・ラーニング 学生同士の演奏を聴き合い、改善点や良かったところをディスカッションする

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法(基礎)b

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 吉田伸昭 科目コード：ENS306

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 グループレッスンの形態。それぞれの作曲者、楽曲に対しての知識、理解を深める。
発音練習し歌唱を実践した後、一人ずつピアノを演奏する。

到達目標 芸術歌曲は歌とピアノが対等な関係で創り上げる芸術である。この講義を通じて芸術歌曲への興味と理解を深める。
詩の意味を理解して声楽作品に向かう習慣をつける。
ドイツ歌曲の傑作であるシューマン作曲の歌曲集「詩人の恋」全曲を学ぶ。

授業計画 R.シューマン作曲の「詩人の恋」を教材とする。ドイツ語の詩を音読し、詩とメロディーとの結びつきを理解した後、演奏する。

第 1 回	シューマンの歌曲の総合的な理解とドイツ語の発音練習	事前	シューマンについて予備知識を得、「詩人の恋」を視聴する	170 分
		事後	ドイツ語の発音を練習	100 分
第 2 回	第 1 曲 素晴らしく美しい五月に	事前	第 1 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 3 回	第 2 曲 僕の涙から花が咲く 第 3 曲 パラ、ゆり、鳩	事前	第 2, 3 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 4 回	第 4 曲 君の瞳を見ると	事前	第 4 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 5 回	第 5 曲 僕の心を沈めよう	事前	第 5 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 6 回	第 6 曲 聖なるラインの流れ	事前	第 6 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 7 回	第 7 曲 恨むまい	事前	第 7 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 8 回	第 8 曲 小さい花たちが知っているなら	事前	第 8 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 9 回	第 9 曲 あれはフルートとヴァイオリンだ	事前	第 9 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 10 回	第 10 曲 かつて恋人の歌っていた歌を聴くと 第 11 曲 ひとりの若者がある娘を愛した	事前	第 10, 11 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 11 回	第 12 曲 光り輝く夏の朝に	事前	第 12 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 12 回	第 13 曲 僕は夢の中で泣いた 第 14 曲 夜ごと、夢の中で	事前	第 13, 14 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 13 回	第 15 曲 古いおとぎ話から	事前	第 15 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 14 回	第 16 曲 古く忌まわしい歌	事前	第 16 曲の準備(ピアノ、詩、発音、歌唱)	170 分
		事後	授業内容の確認と復習	100 分
第 15 回	全曲の仕上げと発表	事前	全曲演奏の準備	170 分
		事後	演奏の録音を聴く	100 分

フィードバック 最終講義時に「詩人の恋」の伴奏について全員で話し合う

成績評価 総合評価とする。演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト シューマン 詩人の恋 高声用 参考：シューマン歌曲集 1（高声用 音楽譜出版社）に収録
外国版、コピー譜も可

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法(応用)b

教授 吉田伸昭 科目コード：ENS307

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ専門／3 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	グループレッスンの形態。それぞれの作曲者、楽曲に対しての知識、理解を深める。 発音練習し歌唱を実践した後、一人ずつピアノを演奏する

到達目標	芸術歌曲は歌とピアノが対等な関係で創り上げる芸術である。この講義を通じて芸術歌曲への興味と理解を深める。 歌手と共に呼吸すること、言葉をよく聴き、流れをつくることを学ぶ。 様々な原語、時代、様式の歌曲に触れる。
------	---

授業計画	独、仏、伊、日、等様々な言語の歌曲作品から個々に選択する。原語による差異を感じし、フレージングに細心の注意を払って演奏する。
------	--

第 1 回	ドイツ歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	100 分 170 分
第 2 回	ドイツ歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 3 回	ドイツ歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 4 回	フランス歌曲① 詩の抑揚、意味、解釈を学び、それがどのように旋律や和声、リズムを形作っているかを考えながら、的確な表現をめざす。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 5 回	フランス歌曲② 楽曲全体におけるピアノパートの意味をよく理解し、適正なテンポ、特に美しいフレージングに留意して、表現を深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 6 回	フランス歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 7 回	イタリア古典歌曲 声楽作品の原点に立ち戻り、自分でも歌いながら声による表現の特徴を考察する。	事前 副科で学んだ楽曲の中から選曲し練習しておく。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 8 回	イタリア歌曲 ロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、ヴェルディの歌曲作品を中心にイタリア声楽作品における表現様式の特徴を学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 9 回	イタリア近代歌曲① 近代という時代様式とともに、イタリア語独特の言い回しや歌いまわしを学ぶ。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 10 回	イタリア近代歌曲② 前回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 11 回	その他の言語の歌曲 英語やスペイン語といった原語の作品の特徴を知り、その表現を学ぶ。	事前 さまざまな言語の歌曲を聴き、楽譜を用意する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 12 回	日本歌曲① 詩の特性、音楽の特性等、日本歌曲において特徴的な事柄を学び、その上で、的確な表現を追求する。	事前 楽譜を用意し、詩や楽譜をよく読む。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 13 回	日本歌曲② 前回の授業を踏まえ、日本歌曲の表現をさらに深める。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 14 回	日本歌曲③ 前 2 回の授業を踏まえ、それぞれの曲を仕上げる。	事前 楽譜を読み込み、練習する。 事後 授業内容を確認し、よく練習して問題の解決をはかる。	140 分 130 分
第 15 回	まとめ 声楽作品におけるピアノパートの意味を再確認し、単なる伴奏にとどまらないパートナーとしてのピアノ演奏の可能性を考える。	事前 これまでの楽曲を復習しておく。 事後 後期の授業を踏まえ、仕上げをする。	140 分 130 分

フィードバック 最終講義時に歌曲の伴奏についてそれぞれの考えを述べ、話し合う

成績評価 総合評価とする。演奏 70％、授業への積極的な取り組み 30％

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー E メール mozart・trazom@nifty.com および授業前後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

演奏法	
教授 小林英之／准教授 干野宜大／近藤嘉宏氏	科目コード：IND405
対象コース／専門／学年：器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4年次	
形態：演習	単位数：2単位
概要	【小林】オルガンの長い歴史とその音楽の概要を知る。 【干野】楽譜に記された音楽的文法、表記を読み解きながら、様々な作品の時代様式と伝統を学び演奏できるように考えていく。
到達目標	時代様式や作曲家固有のスタイルを学ぶことにより、より深く楽譜を読み取る力を養い、演奏につなげていくことを目標とする。

授業計画															
第1回	【小林】オルガンの歴史と音楽①	～構造、パイプ、ストップ、レジストレーション～	事前	主な鍵盤楽器の発音の仕組みと、それぞれが得意とする表現分野を考えておく。	140	分	事後	授業の内容に沿った作品を聞く	140	分					
第2回	【小林】オルガンの歴史と音楽②	～ルネサンス、バロック～	事前	どういう地域でオルガンとオルガン音楽が発展したかを調べておく。	140	分	事後	授業の内容に沿った作品を聞く	140	分					
第3回	【小林】オルガンの歴史と音楽③	～バロック、バッハまで～	事前	コラールとは？ グレゴリオ聖歌とは？	140	分	事後	授業の内容に沿った作品を聞く	140	分					
第4回	【小林】オルガンの歴史と音楽④	～バッハ～	事前	オルガニストとしてのバッハについて、時期と作品をピックアップしておく。	140	分	事後	授業の内容に沿った作品を聞く	140	分					
第5回	【小林】オルガンの歴史と音楽⑤	～バッハ以降～	事前	バッハ以降でオルガンのために作品を書いた主な作曲家を調べておく。	140	分	事後	授業の内容に沿った作品を聞く	140	分					
第6回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う①		事前	バッハのインヴェンション、シンフォニア、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンの作品の楽譜を用意する		分	事後	授業で学んだ事柄を実際に弾きながら理解を深める		分					
第7回	【干野】バロック、古典作品を題材に楽譜を読み解き基礎的な読解力を養う②		事前	バロック、古典作品から一曲選曲し、授業内容を応用しながら解釈を深める		分	事後	自分なりに、どのような点で新たに考えるようになったかを確認する		分					
第8回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる①		事前	ショパンのスケルツォ、バラードの楽譜を用意する		分	事後	授業で扱ったショパンのスケルツォ、バラードから選曲し応用しながら解釈を深める		分					
第9回	【干野】ショパンやリスト、シューマンなどのロマン派作品を題材に、さらなる応用と発想の拡大を試みる②		事前	ショパン、シューマン、リストの作品（現在学んでいる作品も可）の楽譜を用意する		分	事後	ロマン派作品より選曲し、授業で学んだ事柄を実践してみる		分					
第10回	【干野】幅広い時代の作品を題材に、それぞれの共通点と相違点をディスカッションしながら意識をより具体的に高めていく。		事前	フランス、ロシア、東欧圏の作品など、近現代の作品の楽譜を用意する（ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ、プロコフィエフ、スクリャービン、ストラヴィンスキー、ショスタコーヴィッチ、バルトークなど）		分	事後	様々な時代、国の音楽の様式と伝統について考え、その違いについて言語化してみる		分					
第11回	【干野】総まとめ。 授業で学んだ事柄を演奏にどう反映させるか？ 成果を発表する。		事前	一つの作品を選曲し、授業内容を応用した解釈と推理を反映させた演奏を発表する準備をする。また、考えをまとめ説明をする準備をする		分	事後	授業を通して学んだ事項を生かして、自らの推理と発想の豊かさで応用できるように取り組んでいく		分					
第12回	【近藤】未定		事前			分	事後			分					
第13回	【近藤】未定		事前			分	事後			分					
第14回	【近藤】未定		事前			分	事後			分					
第15回	【近藤】未定		事前			分	事後			分					

フィードバック 授業内でのレポートについて、他学生にも大変参考となるものは読み上げ、コメントする。
個人レッスン時、レポート内容を踏まえて対応できるものはする。

成績評価 複数教員による総合評価
授業への取り組み方、授業態度等による

テキスト

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☐	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☑	☐	☐

弦楽合奏Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／	科目コード：ENS106／ENS206
准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤三千代	ENS308／ENS405

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハープ以外）専門／2～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
-------	----------

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティに耳をひらくことが求められる。そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 2 年次から 4 年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	弦楽合奏の目標と授業の進め方について	事前 2 年次生以上は、昨年度の反省を踏まえ、個人的に課題を見つけておく	50 分
		事後 学修計画を確認し、次回に必要な楽譜を準備する。	50 分
第 2 回	課題曲Ⅰ（バロック） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅰ（バロック）の音源を聴き、読譜をする。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分
第 3 回	課題曲Ⅰ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 4 回	課題曲Ⅰ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 バロック期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分
第 5 回	課題曲Ⅰ 仕上げる練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
		事後 課題曲Ⅰの反省、および、次回課題曲Ⅱ（古典）の楽譜を準備する。	50 分
第 6 回	課題曲Ⅱ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅱ（古典）の音源を聴き、読譜をする。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分
第 7 回	課題曲Ⅱ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 8 回	課題曲Ⅱ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分
第 9 回	課題曲Ⅱ 仕上げる練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
		事後 課題曲Ⅱの反省、および、次回課題曲Ⅲ（古典）の楽譜を準備する。	50 分
第 10 回	課題曲Ⅲ（古典） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅲ（古典）の音源を聴き、読譜をする。同じ古典期でも作曲家によって、スタイルが異なることを感じる。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分
第 11 回	課題曲Ⅲ 分奏 各セクションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セクションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 12 回	課題曲Ⅲ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 古典期の音のイメージを再確認し、回りの仕上げに向けて、練習する	50 分
第 13 回	課題曲Ⅲ 仕上げる練習	事前 全体の音楽のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
		事後 課題曲Ⅲの反省。	50 分
第 14 回	和声感や、ボーイングの付け方、奏法の選択など、アンサンブルをする上で、身につける必要のある基礎知識の確認	事前 アンサンブル法の文献を読み、アンサンブルを円滑に進めるためにどうすればよいか、個々に考えておく。	50 分
		事後 アンサンブル法の再確認。および、次回課題曲（ロマン派）の楽譜を準備する。	50 分
第 15 回	課題曲Ⅳ（ロマン派） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅳ（ロマン派）の音源を聴き、読譜をする。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか（ship61@mail.uenogakuen.ac.jp）
教授 緒方恵（box-057@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 池田雄彦（grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 櫻井茂（ssakurai@uenogakuen.ac.jp）
非常勤講師 須藤三千代（wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

弦楽合奏Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

准教授 佐藤まどか／教授 緒方恵／准教授 池田雄彦／
准教授 櫻井茂／非常勤講師 須藤美三千代

科目コード：ENS107／ENS207
ENS309／ENS406

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／弦楽器（ハープ以外）専門／2～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 弦楽合奏においては、同族楽器のアンサンブルとしてのソノリティーに耳をひらくことが求められる。
そのための基本的なアンサンブル力を培う。

到達目標 トウッティとしての音の合わせ方や、ボーイング、音色、ハーモニー等のアンサンブルの基礎力をつける。

授業計画 2 年次から 4 年次まで、同時に行う必修授業。弦楽合奏コンサートを開催。

第 1 回	課題曲Ⅳ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 2 回	課題曲Ⅳ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 ロマン派の音のイメージを再確認し、次の仕上げに向けて、練習する	50 分
第 3 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
第 4 回	課題曲Ⅳ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。	50 分
		事後 課題曲Ⅳの反省、および、次回課題曲Ⅴ（近現代）の楽譜を準備する。	50 分
第 5 回	課題曲Ⅴ（近・現代） 課題確認のため、全体通し練習	事前 課題曲Ⅴ（近現代）の音源を聴き、読譜をする。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50 分
第 6 回	課題曲Ⅴ 分奏 各セッションごとに課題を踏まえて練習	事前 分奏の準備、ボーイング、強弱などを確認し、各セッションとのつながりを考える。	50 分
		事後 分奏で変更したボーイングの箇所を確認し、個人的に自然に演奏できるよう、練習する。	50 分
第 7 回	課題曲Ⅴ 全体練習 様式感を学ぶ、ボーイングなどの確認	事前 作品の分析を個々に行っておく。	50 分
		事後 古典期の音のイメージを再確認し、次の仕上げに向けて、練習する	50 分
第 8 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 1	事前 技術的に難易度が高い箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 全体の音のイメージがつかめるまで、練習する。	50 分
第 9 回	課題曲Ⅴ 仕上げの練習 2	事前 個々の練習における完成度を上げておく。	50 分
		事後 課題曲Ⅳの反省。	50 分
第 10 回	演奏会の準備練習 1	事前 課題曲Ⅰ、Ⅱの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 11 回	演奏会の準備練習 2	事前 課題曲Ⅲ、Ⅳの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 12 回	演奏会の準備練習 3	事前 課題曲Ⅴの問題点を確認し、再度、練習しておく。	50 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	50 分
第 13 回	演奏会に向けたリハーサルⅠ	事前 技術的に問題がある箇所を、個々に練習しておく。	50 分
		事後 ホールの響きを意識して、演奏できるよう、音色をイメージしておく。	50 分
第 14 回	演奏会に向けたリハーサルⅡ	事前 アインザッツの確認、リレーションの確認を各自行っておく。	50 分
		事後 立体的な表現につながるよう、曲のイメージを明確にしておく。	50 分
第 15 回	メモリアルホールでの演奏会	事前 ホールリハーサルに備え、並び方等、協力しながら準備する。	50 分
		事後 演奏会の反省と来年度の課題を確認する。	50 分

フィードバック 演奏会後や授業内など、必要に応じて担当者よりコメントをフィードバックする。

成績評価 授業への積極性および実技における習熟度を評価の対象とし、複数の担当教員によって、総合的に評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて、あるいはメールで対応する。
准教授 佐藤まどか（ship61@mail.uenogakuen.ac.jp）
教授 緒方恵（box-057@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 池田雄彦（grape0000053@mail.uenogakuen.ac.jp）
准教授 櫻井茂（ssakurai@uenogakuen.ac.jp）
非常勤講師 須藤三千代（wind_60000158@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ハーブ・アンサンブルⅡ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

客員教授 井上美江子／准教授 佐藤まどか

科目コード：ENS104／ENS204

ENS304／ENS403

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ハーブ専門／2～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	複数の奏者によるアンサンブルの技術の習得。複数ハーブのアンサンブルと、他楽器との室内楽曲を学習する。

到達目標 共演者との呼吸の合わせ方、タイミングやフレージングを学ぶことにより、より大きな音楽の作り方を習得する。

授業計画 年間を通し、複数ハーブのアンサンブル、他楽器とのアンサンブルを学習する。

第 1 回	複数ハーブのアンサンブル ”個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 2 回	複数ハーブのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 3 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 4 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 5 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分
第 6 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 7 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 8 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 9 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 10 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分
第 11 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 譜読み	事前 課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 12 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前 テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 13 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 14 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 15 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前 共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後 客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分

フィードバック 授業内でのコメント。

成績評価 授業での取り組みで評価する

テキスト

オフィスアワー 1008 室 月曜日 11：00～19：00 火曜日 13：00～19：00 金曜日 13：10～14：40 E-mail：box.326@mail.uenogakuen.ac.jp（井上）
授業後あるいはメールで対応 ship61@mail.uenogakuen.ac.jp（佐藤）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒

ハーブ・アンサンブルⅡ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

客員教授 井上美江子／准教授 佐藤まどか

科目コード：ENS105／ENS205
ENS305／ENS404

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ハーブ専門／2～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	共演者とのアンサンブルでのレッスン形式の授業。

到達目標	他楽器とのアンサンブルに於いては特に、様々な楽器の特徴を知り、その楽器にあったアンサンブルができるよう実習する。ひとつの音楽を力を合わせ複数で創っていく喜びを感じてほしい。
------	--

授業計画	年間を通し、複数ハーブのアンサンブル、他楽器とのアンサンブルを学習する。
------	--------------------------------------

第 1 回	複数ハーブのアンサンブル ”個人パート実習 譜読み	事前	課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 2 回	複数ハーブのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前	テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 3 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 4 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 5 回	複数ハーブのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分
第 6 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 譜読み	事前	課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 7 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前	テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 8 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 9 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 10 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分
第 11 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 譜読み	事前	課題曲のフィンガリングを入手して譜読み	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 12 回	他楽器とのアンサンブル 個人パート実習 テンポでの演奏	事前	テンポでの演奏に向けて個人練習	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 13 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 タイミングを主に	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 14 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 音楽的な掘り下げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	指摘のあった箇所の反復練習	50 分
第 15 回	他楽器とのアンサンブル アンサンブル実習 仕上げ	事前	共演者とのアンサンブルリハーサル	50 分
		事後	客観的に演奏を振り返り、次への課題を意識する。	50 分

フィードバック 授業内でのコメント。

成績評価 授業への取り組みで評価する。

テキスト

オフィスアワー 1008 室 月曜日 11：00～19：00 火曜日 13：00～19：00 金曜日 13：10～14：40 E-mail：box.326@mail.uenogakuen.ac.jp（井上）
授業後あるいはメールで対応 ship61@mail.uenogakuen.ac.jp（佐藤）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒

管楽合奏Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1(木管A)

非常勤講師 安原三保子

科目コード：ENS108／ENS208
ENS310／ENS407

対象コース／専門／学年： 器楽コース／フルート・クラリネット専門／3～4年次／オーボエ専門／1～4年次、
演奏家コース／フルート・オーボエ・クラリネット専門／1～4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業の目標と進め方の確認	事前 学修計画案をたてる。 事後 楽譜など必要な準備をする。	50分 50分
第2回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll（確認）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第3回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第4回	ダンツィ「木管五重奏曲」g-moll（仕上げる演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第5回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版（確認）	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第6回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版（確認・表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第7回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第8回	チャイコフスキー「くるみわり人形」編曲版（仕上げる演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第9回	ファルカシュ「木管五重奏曲」（確認、表現の工夫）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第10回	ファルカシュ「木管五重奏曲」（表現の工夫、仕上げる演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第11回	ハイドン「ディヴェルティメント」（確認）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第12回	ハイドン「ディヴェルティメント」（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	50分 50分
第13回	ハイドン「ディヴェルティメント」（仕上げる演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。	50分 50分
第14回	ブーランク「ノヴェレッタ」	事前 譜読みと準備に取り組む。 事後 説得力を持って演奏できるよう復習する。	50分 50分
第15回	ミヨー「ルネ王の暖炉」（確認）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 是正にむけて練習する。前期の総括。	50分 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

管楽合奏Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2(木管A)

非常勤講師 安原三保子

科目コード：ENS109／ENS209

ENS311／ENS408

対象コース／専門／学年： 器楽コース／フルート・クラリネット専門／3～4年次／オーボエ専門／1～4年次、
演奏家コース／フルート・オーボエ・クラリネット専門／1～4年次

形態：実習 単位数：1単位

概要 それぞれの楽器の特徴を理解し、演奏に反映させる技術を養う。
合奏の中で、音楽の自発性と責任感を育てる。

到達目標 演奏する上での、奏法をまとめ合っていく感覚を身につける。
「木管五重奏」の形態に慣れつつ、編曲された作品での役割や表現を理解する。

授業計画		
第1回	ミヨー「ルネ王の暖炉」（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第2回	ミヨー「ルネ王の暖炉」（仕上げの演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。 50分
第3回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版（確認）	事前 原曲の総譜と照合し、編曲を確認しておく。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第4回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版（確認・表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第5回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第6回	ムソルグスキー「展覧会の絵」編曲版（仕上げの演奏）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。 50分
第7回	イベール「3つの断章」（確認・表現の工夫）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第8回	イベール「3つの断章」（表現の工夫・仕上げの演奏）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。 50分
第9回	タファネル「木管五重奏曲」（確認）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第10回	タファネル「木管五重奏曲」（表現の工夫）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。 50分
第11回	タファネル「木管五重奏曲」（仕上げの演奏）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第12回	リゲティ「6つのバガテル」（確認）	事前 音源で曲を聞いておく。譜読みと準備に取り組む。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第13回	リゲティ「6つのバガテル」（表現の工夫）	事前 問題を克服し、表現に繋がるよう準備する。 事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。 50分
第14回	リゲティ「6つのバガテル」（確認）	事前 曲の全体像を把握し、説得力を持って演奏できるよう練習する。 事後 演奏の内容を総括し、復習する。 50分
第15回	1年間のまとめ	事前 1年間の取り組みについて確認する。 事後 反省点をもとに、今後の課題を明確にする。 50分

フィードバック 授業中のアドバイス。演奏する側としてだけでなく、聞き手として、客観的・建設的に進めていく。

成績評価 授業などへの取り組みを見て評価。

テキスト 授業中に指示する。人数によって、いくつかのグループに分ける場合もある。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／サクソフォン専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	サクソフォンにとってもっとも一般的な演奏形態である、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの四種類のサクソフォンを使用したサクソフォン四重奏曲を中心に学習してゆく。

到達目標 それぞれの楽器の奏法上の特質を理解し、実際の演奏に反映させる技術を養うと同時に、他者の音楽を聴きながら四重奏の中での自身の役割を認識し、自身の音楽を他者の音楽に同期させる能力を養うことを目標とする。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第1回	音楽とは何か（変化する要素について）	事前 変化する要素とは何か、自分なりに項目を挙げ考えておく 事後 各要素と音楽の関係を具体的に考察する	50 分 50 分
第2回	エントロピーと音楽の関係	事前 一般的にエントロピーとはどのようなことか予習しておく 事後 エントロピーと音楽との関連性について考察を深める	50 分 50 分
第3回	サクソフォンにおける室内楽の特徴	事前 室内楽におけるサクソフォンについて予習しておく 事後 実際の録音などを聴き実感する	50 分 50 分
第4回	奏法概論 1 アンブシュア（音を生み出す仕組み）	事前 アンブシュアとは何か、自分なり考察する 事後 授業の内容を自分に応用する	30 分 70 分
第5回	奏法概論 2 タングイング（発音とは何か）	事前 タングイングとは何か自分なりに考察する 事後 タングイングと発音の関係を明確にする	30 分 70 分
第6回	奏法概論 3 音量のコントロール（響きと力）	事前 音量とは、響きとは何かを考察しておく 事後 音量、響き、力の関係性を明確にする	30 分 70 分
第7回	奏法概論 4 ヴィブラート（方法と用い方）	事前 ヴィブラートのかけ方を自分なりに説明できるようにしておく 事後 ヴィブラートのかけ方とその用い方を習得する	30 分 70 分
第8回	奏法概論 5 ブレス	事前 呼吸法について予習しておくこと 事後 腹式呼吸を使えるように訓練すること	30 分 70 分
第9回	奏法概論 6 運指	事前 自分の指の使い方はどのようなになっているか観察しておくこと 事後 効率的に指を使う訓練をすること	30 分 70 分
第10回	奏法概論 7 チューニング	事前 チューニングは何のために行うのか、考察しておくこと 事後 チューニングの訓練をすること	30 分 70 分
第11回	奏法概論 8 集中力の認識とその移動について	事前 演奏に必要な集中力とはどのようなことか考察しておくこと 事後 効率的に集中力を移動させる訓練をすること	30 分 70 分
第12回	演奏に必要な道具の選び方（マウスピース、リード、ストラップ等）	事前 自分の道具には何があるか確認しておくこと 事後 道具を選び、メンテナンスを行うこと	50 分 50 分
第13回	ソプラノ・サクソフォンの奏法について	事前 ソプラノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 ソプラノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分
第14回	アルト・サクソフォンの奏法について	事前 アルト・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 アルト・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分
第15回	テナー・サクソフォンの奏法について	事前 テナー・サクソフォンを実際に吹いておくこと 事後 テナー・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分 50 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力（50％） 普段の授業での取り組み方（50％）

テキスト La veillee de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail:hikohiko@gc4.so-net.ne.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／サクソフォン専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 演奏会での演目を踏まえ、様々な編成での演奏法を学んで行く。特に履修者全員でのアンサンブルにも時間を使う。

到達目標 より多人数での演奏技術を学ぶ。また、コンサートで聴衆を納得させることができる演奏を目指す。

授業計画 履修学生各々の能力に応じた楽曲のグループに分かれ、各回のテーマに焦点をあてながら、楽曲の分析力、各要素の認識力、技術力を高めてゆく。

第 1 回	バリトン・サクソフォンの奏法について	事前	バリトン・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バリトン・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 2 回	ソプラニーノ・サクソフォンの奏法について	事前	ソプラニーノ・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	ソプラニーノ・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 3 回	バス・サクソフォンの奏法について	事前	バス・サクソフォンを実際に吹いておくこと	50 分
		事後	バス・サクソフォンを吹き、慣れること	50 分
第 4 回	音程の認識とコントロール	事前	音程とは何かを予習しておくこと	30 分
		事後	音程の聞き方とコントロールの仕方を訓練すること	70 分
第 5 回	演奏における基本的ルール 1（音価の違いによる音量のコントロール）	事前	音価による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみることに	70 分
第 6 回	演奏における基本的ルール 2（音の高低の違いによる音量のコントロール）	事前	音の高低による表現の違いとは何を意味するか考えておくこと	30 分
		事後	エチュードなどを用い、具体的に表現してみることに	70 分
第 7 回	主旋律と対旋律（一般論と例外について）	事前	主旋律と対旋律について調べておくこと	30 分
		事後	実際に意識しながら実践すること	70 分
第 8 回	演奏における自我と無我の考察（感覚の置換）	事前	演奏時における集中力とは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえ、集中力を動かす訓練すること	70 分
第 9 回	演奏行為とは何か	事前	演奏行為とは何かを考えてくること	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 10 回	バランスの認識とコントロール	事前	演奏表現におけるバランスとは何を指すか考えておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 11 回	ラージ（多人数）アンサンブルの実践 1（音程のコントロール）	事前	楽譜通りの音程で演奏できるように練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 12 回	ラージアンサンブルの実践 2（パートごとの特徴について）	事前	楽譜通りに演奏できるように各パートごとに練習をしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 13 回	ラージアンサンブルの実践 3（バランスのコントロール）	事前	曲の場面ごとのバランスをイメージしておくこと	30 分
		事後	授業をふまえて実際に演奏をすること	70 分
第 14 回	コンサートのプログラミング	事前	過去のコンサートのプログラムを調べておくこと	30 分
		事後	実際にプログラムを考えること	70 分
第 15 回	サクソフォンの室内楽指導法	事前	自分なりに指導方法を考えておくこと	50 分
		事後	授業をふまえて実践してみることに	50 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 最終的に体得した能力（50％） 普段の授業での取り組み方（50％）

テキスト La veillée de l'ange gardien/Gabriel Pierne
Chanson de grand'maman/ Gabriel Pierne
Quatuor pour saxophones/F.M.Jeanjean
Andante et scherzo/Eugene Bozza
Quatuor pour saxophones/Alfred Desenclos
他、グループごとに適宜指示して行く。

オフィスアワー E-mail:hikohiko@gc4.so-net.ne.jp

備考 グループごとに必ず予習をして授業に臨むこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。ソロでは出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。オンライン授業においては、実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を、より深められるよう、理論的な解説を行う。
到達目標	合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。
授業計画	第 1～2 回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第 3～10 回では二重奏～四声コーラル等（Da oane Zumma、コーラル名曲集、J.S.Bach:22 のコーラル集）を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第 10 回からは三重奏～十重奏の楽曲に取り組む予定。その他、オケストラ曲の中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。

第 1 回	オリエンテーション、コピー譜の製本法の学習、及び純正律ハーモニーの理解。	事前	自己紹介の内容を考えておく。	20 分
		事後	配られた純正律表を学習しておく。Bach のコーラル譜を製本する。	80 分
第 2 回	ハーモニーの基本である長 3 度、短 3 度の合わせ方。 Da oane Summà No.37 を教材に、和音感覚を実習。	事前	純正律表で長 3 度、短 3 度のプラス、マイナスのセント値を理解しておく。	50 分
		事後	No.37 を学生同士で合わせる練習をしてみる。	50 分
第 3 回	J.S.Bach：22 のコーラル集を No.1 からスタート。 ハーモニー上のキーとなる音の見極めと、音程の取り方を学ぶ。	事前	コーラル集 No.1 のハーモニー上のキーとなる音をチェックしておく。	50 分
		事後	No.1 をパートを替えて他の学生ともハーモニーをトレーニングしてみる。	50 分
第 4 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.2,No.3。ハーモニーを演習。	事前	No.2,No.3 を練習しておく。	50 分
		事後	No.2,No.3 をパートを替えてもハーモニーが成立するかなを確認する。	50 分
第 5 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.4,No.5。ハーモニーを演習。	事前	No.4,No.5 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後	No.4,No.5 をパートを替えて練習をしてみる。	50 分
第 6 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.6,No.7。ハーモニーを演習。	事前	No.6,No.7 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後	No.6,No.7 のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認すること。	50 分
第 7 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.8,No.9。ハーモニーを演習。	事前	No.8,No.9 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後	No.8,No.9 のパートを替えて、ハーモニーの成立を確認する。	50 分
第 8 回	J.S.Bach：「22 のコーラル集」、No.10,No.11。ハーモニーを演習。	事前	No.10,No.11 の和音をチェックし、練習をしておく。	50 分
		事後	No.10,No.11 のパートを替えて、ハーモニー練習をすること。	50 分
第 9 回	コーラル名曲集 inC 譜を教材とした移調読みの対応を学ぶ。	事前	B 管、F 管でも inC 譜が読めるように練習しておく。	50 分
		事後	パートを替えても演奏が出来るかなを確認する。	50 分
第 10 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.12。 ハーモニー及び音楽の進行(起承転結) を学ぶ。	事前	ハーモニーと共に、音楽の成り立ちを考えておく。	50 分
		事後	パートを替えてもやってみておく。	50 分
第 11 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.13。 ハーモニー及び音楽進行を学ぶ。	事前	ハーモニーのチェックと音楽進行を考えておく。	50 分
		事後	パートを替えてもやってみる。	50 分
第 12 回	コーラル名曲集及び Bach：「22 のコーラル集」、No.14。 ハーモニー及び和音に対する感性を学び取る。	事前	移調読み、音楽進行など、トータルでの演奏練習をしておく。	50 分
		事後	パートを替えてもやってみる。	50 分
第 13 回	トランペット・フェスティヴァルで演奏する開幕ファンファーレ曲・練習開始	事前	ファンファーレ曲の音源を探し、聴いておく。	50 分
		事後	自分のパートをよく練習しておく。	50 分
第 14 回	トランペット・フェスティヴァルの開幕ファンファーレの練習	事前	ファンファーレ曲での自分のパートの役割などを考え、演奏に備える。	50 分
		事後	楽曲のハーモニー構成から自分のパートの音程の取り方をチェック。	50 分
第 15 回	トランペット・フェスティヴァルの開幕ファンファーレの練習	事前	自分のパート以外も実際に演奏してみたり、ピアノで弾いてみたりしておく。	50 分
		事後	ハーモニー的に、しっくりしない点などチェックする。	50 分

フィードバック 学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価 授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト J. S. BACH 『22 のコーラル集』 他

オフィスアワー 授業の前後に受け付ける。

アクティブ・ラーニング 履修者をいくつかのグループに分け、オンラインで行える合奏を目標に、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／金管楽器専門／1～4 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要

金管楽器専門生全員で行う、合奏能力の向上を目指す授業である。ソロでは出来ない和音のハーモニー、各々のパートの役割などを、実際の演奏を通して学習していく。オンライン授業においては、実際の演奏に必要な純正律や和声などの理解を、より深められるよう、理論的な解説を行う。

到達目標

合奏に於いて、美しいハーモニーを成立させるためには、純正律を理解し、それを実践出来るようになる必要がある。理論を踏まえた実際の演奏を通して、その美しいハーモニーを体感し、音程のとり方を身に付ける事を第一目標としながら、二重奏からオーケストラまで、多様なアンサンブルの場での合奏能力の向上を目指して授業を進める。

授業計画

第1～2回では純正律を知り、ハーモニーの基本を学ぶ。第3～10回では二奏曲～四声コラール等（Da oane Zumma、コラール名曲集、J.S.Bach:22 のコラール集）を教材にしてハーモニーの成立を実践し、音程感覚、バランス感覚を養う。第10回からは三重奏～十重奏の楽曲に取り組む予定。その他、オケストラ曲の中から、金管セクションとして知っておきたい部分、体験しておきたい部分を抜粋して取り上げ、オケストラ、アンサンブル等での合奏の基本を演習していく。

第1回	トランペット・フェスティヴァルの開幕ファンファーレの練習・仕上げ	事前 事後	ミスのない完璧な演奏を目指して練習をしておく。 反省点を見直し、本番に向けての準備をする。	50 分 50 分
第2回	開幕ファンファーレ演奏の反省会	事前 事後	演奏の事前準備、結果を振り返り、問題点・改善点を考えておく。 反省点を今後に生かせるよう、対策を考える。	50 分 50 分
第3回	J.シュトラウスを中心にワルツ、ポルカなどのウィーン情緒を知る	事前 事後	過去のニューイヤー・コンサートなどを聴いておく。 ニューイヤーに登場した多くの名指揮者たちへの知識も深めたい。	50 分 50 分
第4回	J.シュトラウス：「ピチカート・ポルカ」の練習と仕上げ。	事前 事後	ウィンナーワルツ、ポルカなどを聴いておく。 演奏した物と、ウィーンフィルなどの演奏とを比較してみる。	50 分 50 分
第5回	J.シュトラウス：「アンネン・ポルカ」の練習と仕上げ。	事前 事後	練習をしておくこと。 ウィーン情緒とは何か...を考える。	50 分 50 分
第6回	P.デュカ：「ベリのファンアーレ」のパート決めと練習。	事前 事後	音源を聴いて、曲全体を把握しておくこと。 仕上げのための練習をする。	50 分 50 分
第7回	P.デュカ：「ベリのファンアーレ」の練習と仕上げ。	事前 事後	自分のパートの練習を十分にすること。 音源を聴いて、反省点を見つけ出しておく。	50 分 50 分
第8回	G.F.ヘンデル：「アリア」（金管五重奏曲）の譜読み。 Bach：22 のコラール、No.15。	事前 事後	練習をしておく。 難曲であるので、練習を重ねる。	50 分 50 分
第9回	G.F.ヘンデル：「アリア」、組分けをして、五重奏で練習。 Bach：「22 のコラール集」、No.16。	事前 事後	更に練習を進めておく。 エムバイア・ブラスの演奏を聴いておく。	50 分 50 分
第10回	G.F.ヘンデル：「アリア」、Bach：「22 のコラール集」、No.17。 五重奏ごとの演奏発表。	事前 事後	軽やかなタッチの演奏を目指して練習をする。 反省点の練習をすること。	50 分 50 分
第11回	G.F.ヘンデル：「メサイア」より合唱曲、Bach：「22 のコラール集」、No.18。	事前 事後	練習をしておくこと。オリジナル曲（合唱曲）を聴いておく。 オリジナル曲を聴き直すこと。	50 分 50 分
第12回	シューベルト：「アヴェ・ヴェルム・コルプス」。 Bach：「22 のコラール集」、No.19。	事前 事後	オリジナルの演奏を聴いておく。歌詞の意味を調べておく。 曲の意味を表現できたか、改めてオリジナルを聴き直す。	50 分 50 分
第13回	クリスマス・キャロル集。 Bach：「22 のコラール集」、No.20。	事前 事後	キャロル、コラール共に練習しておくこと。 まだ分かっていない部分が無いかを考え、質問の準備をしておく。	50 分 50 分
第14回	Bach：「22 のコラール集」、No.21&No.22。 ハーモニーにおける音程の取り方の総まとめ。	事前 事後	分かっていない所が有ったら、質問内容をまとめておく。 純正律表を今一度見直し、授業の理解を確認する。	50 分 50 分
第15回	ペーパーテスト及び演奏テスト。	事前 事後	試験に向けての準備をする。 一年間を振り返り、反省点を基に、次年度への課題を明確にする。	50 分 50 分

フィードバック

学んだ演奏知識が実際の演奏で機能できているか、その都度チェックしていく。

成績評価

授業への取り組みと、学修成果を見て判断する。

テキスト

J. S. BACH 『22 のコラール集』 他

オフィスアワー

授業の前後に受け付ける。

アクティブ・ラーニング

履修者をいくつかのグループに分け、オンラインで行える合奏を目標に、選曲・手段・発表の方法を、ディスカッションにより主体的に導き出し、実践させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☐	☐	☒

打楽器合奏Ⅰ-Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ・Ⅲ-Ⅰ・Ⅳ-Ⅰ

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS110／ENS210
ENS312／ENS409

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／打楽器専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅲでは、打楽器合奏ⅠとⅡを踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドヴァイスを与え時間をかけて取り組む。

到達目標	トリオやデュエットのような最少人数の作品から初めて、他のメンバーに演奏でタイミングやテンポを正しく伝える方法を会得する。
------	--

授業計画			
第 1 回	小太鼓によるデュエットの曲を演奏。	事前 Modern School for Snare Drum から練習曲をさらしておく。 事後 練習曲の構造を理解し復習する。	50 分 50 分
第 2 回	マリンバによるデュエットを演奏。	事前 Modern School for Xylophone and Marimba から Bach をさらしておく。 事後 練習曲の構造を理解し復習する。	50 分 50 分
第 3 回	デュエットの仕上げる演奏。	事前 本番のつもりで練習しておく。 事後 録音し聞き直す。	50 分 50 分
第 4 回	オーケストラの授業で取り上げられる作品の打楽器パートを演奏。	事前 同時に演奏するメロディがどの楽器なのか確認しておく。 事後 リズムの演奏法を確認しておく。	50 分 50 分
第 5 回	さまざまな打楽器を使うトリオ作品を演奏。 譜読み、フレーズの取り方を確認する。	事前 楽譜を準備しスコアを読み込んでおく。 事後 3 人での練習方法を検討する。	50 分 50 分
第 6 回	楽器のチューニングとセッティングを確認する。 手順の確認。	事前 チューニングキーなど用意する。 事後 3 人で練習方法を検討する。	50 分 50 分
第 7 回	テンポやダイナミックスの違いによるリズムや奏法の違いを解説。 トリオの仕上げる演奏。	事前 技術的に難しい部分を取り出してしておく。 事後 手の動かし方について再検討する。	50 分 50 分
第 8 回	オーケストラ・スタディ。 授業で取り上げられる曲を主に演奏する。	事前 オーケストラの授業での問題点をはっきりさせておく。 事後 次の授業のシュミレーションをしておく。	50 分 50 分
第 9 回	打楽器のカルテットを演奏。	事前 楽譜に工夫ができないかを検討しておく。 事後 練習方法の検討をする。	50 分 50 分
第 10 回	カルテットの譜読み。 楽器の調整とセッティングを解説。	事前 楽器の調整、セッティングを考えておく。 事後 復習と 4 人での練習方法を検討する。	50 分 50 分
第 11 回	メロディラインを取り出して演奏。 ベースラインを取り出して演奏。構造を分解して理解を深める。	事前 構造を 4 人で理解しておく。 事後 4 人での練習方法を検討する。	50 分 50 分
第 12 回	オーケストラ・スタディ。 セッティングを決める。	事前 セッティングを考えておく。 事後 オーケストラの授業予定を確認しておく。	50 分 50 分
第 13 回	マリンバのカルテットの譜読み。	事前 楽譜の作成。 事後 4 人で意見交換をする。	50 分 50 分
第 14 回	個人練習と分奏について解説。	事前 メトロノームを使って練習する。 事後 練習方法を検討する。	50 分 50 分
第 15 回	バランスについて解説する。	事前 メロディラインの推移を確認しておく。 事後 テンポの出し方について確認。	50 分 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト	(参照資料) A.Cirone Four by Four Per Andreasson Tinplay Ruediger Pawassar Sculpture in Wood P.Creston Ceremonial A.Jolivet Ceremonial F.Dupin Courtes pieces Album No.5 C.Chavez Toccata Thomas Gauger Gainsborough A.Jolivet Flute Concerto No.2
------	--

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

打楽器合奏Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

客員教授 岡田全弘

科目コード：ENS111／ENS211
ENS313／ENS410

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／打楽器専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	適宜、編成の異なる室内楽の作品を演奏する。打楽器合奏ⅠおよびⅡにおいては、打楽器アンサンブルの初歩となる 4 人の作品を中心に行う。マリンバの室内楽にも取り組む。この間にオーケストラの打楽器パートを実習することもある。打楽器合奏Ⅲでは、打楽器合奏ⅠとⅡを踏まえてさらにステップアップした作品に挑戦する。打楽器合奏Ⅳでは、Ⅲを踏まえて歴史上重要な作品を取り上げる。解釈や演奏法にアドヴァイスを与え時間をかけて取り組む。
到達目標	前期よりも大きな編成の作品に取組み、他のメンバーとどのように議論し、どのような練習を重ねて本番を迎えるのかを学ぶ。

授業計画		
第 1 回	マリンバのカルテットの仕上げる演奏。	事前 録音して研究しておく。 事後 セッティング表を書き反省点を出しておく。 50 分
第 2 回	オーケストラ・スタディ。 大太鼓とシンバルのバランスについて解説。	事前 楽器の選定をしておく。 50 分 事後 指揮者の見方について確認。 50 分
第 3 回	オーケストラ・スタディ。 その他の小物楽器について解説。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 楽器の特性について確認しておく。 50 分
第 4 回	任意の編成のアンサンブル曲を譜読み。	事前 楽譜を作成しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 5 回	技術的に難しい部分を取り出して演奏。	事前 メトロノームを使って練習する。 50 分 事後 練習方法を検討する。 50 分
第 6 回	任意の編成のアンサンブル曲の仕上げ。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 反省点を出しておく。 50 分
第 7 回	オーケストラ・スタディ。 指揮の読み方について解説。	事前 作品をよく聞いておく。 50 分 事後 反応の仕方について再確認。 50 分
第 8 回	ティンパニの調整について解説。	事前 チューニングをしておく。 50 分 事後 他の楽器の動きを再確認。 50 分
第 9 回	デュエットの作品を演奏。	事前 曲の構造を理解しておく。 50 分 事後 ゆっくりでも同じテンポで演奏できるようにしておく。 50 分
第 10 回	別の組でデュエットの作品を演奏。	事前 構造とクライマックスの設定。 50 分 事後 メトロノームを使って練習する。 50 分
第 11 回	デュエットの作品の仕上げる演奏。	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 伝えたいところを明確にしておく。 50 分
第 12 回	別の組、デュエットの作品の仕上げる演奏	事前 録音して研究しておく。 50 分 事後 メロディラインの推移を確認しておく。 50 分
第 13 回	オーケストラ・スタディ。聞こえる音の出し方について解説。	事前 聞こえる音と聞こえない音について検討。 50 分 事後 アンサンブルの根幹について再検討。 50 分
第 14 回	ウィンドアンサンブルの曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 バランスを再検討する。 50 分
第 15 回	任意の編成のアンサンブル曲を演奏。	事前 セッティングを検討しておく。 50 分 事後 反省点など整理。 50 分

フィードバック 授業の中で最低 2 種類の解釈による演奏をレコーディングする。事後や後になって成果を復習し、重要事項を確認するために使う。

成績評価 授業への取り組みによる。

テキスト	(参照資料) A.Cirone Four by Four Per Andreasson Tinplay Ruediger Pawassar Sculpture in Wood P.Creston Ceremonial A.Jolivet Ceremonial F.Dupin Courtes pieces Album No.5 C.Chavez Toccata Thomas Gauger Gainsborough A.Jolivet Flute Concerto No.2
------	--

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

古楽合奏Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ

教授 小林英之／准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／	科目コード：ENS114／ENS214
非常勤講師 金子浩／非常勤講師 太田光子	ENS314／ENS411
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次	

形態：実習	単位数 1 単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	ドイツ及びイタリアのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画		
第 1 回	ドイツの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 2 回	ドイツの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 3 回	ドイツの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 4 回	ドイツの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 5 回	ドイツの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 前半で問題のある箇所を練習する。 50 分
第 6 回	ドイツの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 7 回	ドイツの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 8 回	イタリアの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる。 50 分
第 9 回	イタリアの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。 50 分
第 10 回	イタリアの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。 50 分
第 11 回	イタリアの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 12 回	イタリアの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。 50 分
第 13 回	イタリアの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。 50 分
第 14 回	イタリアの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。 50 分
第 15 回	既習曲の発表（ドイツ、イタリア）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。 50 分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。
課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

古楽合奏Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ

教授 小林英之／准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／	科目コード：ENS115／ENS215
非常勤講師 金子浩／非常勤講師 太田光子	ENS315／ENS412
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次	

形態：実習	単位数 1 単位
概要	ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。
到達目標	フランス及びイギリスのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画			
第 1 回	フランスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる	50 分 50 分
第 2 回	フランスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50 分 50 分
第 3 回	フランスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50 分 50 分
第 4 回	フランスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 5 回	フランスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50 分 50 分
第 6 回	フランスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 7 回	フランスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 8 回	イギリスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲者と時代背景について調べる	50 分 50 分
第 9 回	イギリスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50 分 50 分
第 10 回	イギリスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50 分 50 分
第 11 回	イギリスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 12 回	イギリスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50 分 50 分
第 13 回	イギリスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 14 回	イギリスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50 分 50 分
第 15 回	既習曲の発表（フランス、イギリス）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。	50 分 50 分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。
課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

副科ピアノⅠ-1・Ⅱ-1

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃 科目コード：IND106／IND205

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門／1・2 年次、GLA コース／音楽教育専門／1～3 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画	GLA コース／音楽教育専門 前期 15 回 毎週 30 分の個人指導 上記以外の全コース／全専門 前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	---

第 1 回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前 過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。 事後 担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	80 分 130 分
第 2 回	基礎訓練	事前 基礎教材を使って反復練習。 事後 手指のフォームを意識して反復練習。	80 分 130 分
第 3 回	基礎技術の向上	事前 様々な音型を反復練習。 事後 両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	80 分 130 分
第 4 回	奏法	事前 様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。 事後 手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	80 分 130 分
第 5 回	運指について	事前 課題曲の反復練習。 事後 より効率のよい運指について考え、試してみる。	80 分 130 分
第 6 回	運指の決定	事前 課題曲の反復練習。 事後 指使いを決定し、反復練習を行う。	80 分 130 分
第 7 回	正確な読譜（リズムと拍子）	事前 楽譜をよく見直す。 事後 生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	80 分 130 分
第 8 回	正確な読譜（強弱）	事前 強弱記号をよく見る。 事後 強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	80 分 130 分
第 9 回	楽曲分析 楽曲 A	事前 作品の和声進行を意識して練習。 事後 構造、形式を把握する。	80 分 130 分
第 10 回	スムーズな演奏	事前 作品の構造を意識して各部の表情を大切に。 事後 強弱、テンポ正確に。暗譜。	80 分 130 分
第 11 回	音階練習	事前 片手の練習。両手の練習。 事後 指使いを徹底して反復練習。	80 分 130 分
第 12 回	音階練習(カデンツ)	事前 カデンツの定型を覚える。 事後 徹底的な反復練習。	80 分 130 分
第 13 回	音階練習(テンポアップ)	事前 両手で正確に反復練習。 事後 少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	80 分 130 分
第 14 回	仕上げ	事前 指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。 事後 表情、構造を明確に反復練習。	80 分 130 分
第 15 回	前期 成果の発表	事前 技術、音の確認。 事後 自己評価。課題の自覚。	80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科ピアノⅠ-2・Ⅱ-2

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃 科目コード：IND107／IND206

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門／1・2 年次、GLA コース／音楽教育専門／1～3 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。 グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。

到達目標 基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。

授業計画		GLA コース／音楽教育専門 後期 15 回 毎週 30 分の個人指導 上記以外の全コース／全専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導	
第 1 回	課題の設定	事前 課題曲の設定。 事後 読譜。	80 分 130 分
第 2 回	指使いの決定	事前 楽譜を丁寧に読譜。反復練習。 事後 正しい指使いの決定。反復練習。	80 分 130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 作品の全体像を把握する。 事後 和声、形式を分析し、構造を理解する。	80 分 130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	事前 構造を意識して各部の表情をつかむ。 事後 表現に必要な奏法の伝授。反復練習。	80 分 130 分
第 5 回	様々な表現	事前 イメージを明確にして行く。 事後 奏法、テンポ設定、強弱の工夫。	80 分 130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	事前 音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。 事後 手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。	80 分 130 分
第 7 回	練習方法の工夫（リズム練習）	事前 様々な音型を反復練習。 事後 リズム練習による技術向上を目指して反復練習。	80 分 130 分
第 8 回	形式の整理	事前 全体の構造をつかむ。 事後 主題の扱い、調性、性格を整理する。	80 分 130 分
第 9 回	表現	事前 構造を明確に整理する。 事後 作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。	80 分 130 分
第 10 回	練習方法の工夫（分析練習）	事前 構成を理解する。 事後 各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。	80 分 130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	事前 各声部丁寧に読譜。指使いの決定。 事後 指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。	80 分 130 分
第 12 回	ペダルの練習	事前 イメージを明確にしておく。 事後 レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。	80 分 130 分
第 13 回	暗譜について	事前 構造を理解する。 事後 ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。	80 分 130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	事前 音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。 事後 学習内容の復習と反復練習。暗譜。	80 分 130 分
第 15 回	後期 成果の発表	事前 暗譜と技術の確認。 事後 自己評価。	80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

通奏低音奏法Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

教授 小林英之

科目コード：IND103／IND203
IND303／IND406

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／3 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学びことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標	バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。
------	--

授業計画	前期 15 回 各人 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	通奏低音とは	事前 通奏低音が用いられた時代について調べておく。	80 分
		事後 主要な作曲家の楽譜を参照する。	80 分
第 2 回	通奏低音の記譜法を学ぶ	事前 様々な通奏低音の記譜法を調べておく。	80 分
		事後 時代ごとに整理する。	80 分
第 3 回	基本位置 1（密集）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	基本位置 2（開離）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	第一転回 1（密集）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	第一転回 2（オクターヴ）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	第一転回 3（省略）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	第一転回 4（連続して現れる第一転回）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	第二転回 1（終止）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 10 回	第二転回 2（刺繍和音）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 11 回	繋留 1（最上声部に現れるもの）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 12 回	繋留 2（内声に現れるもの）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 13 回	7 の和音基本位置 1（5 度音を含むもの）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 14 回	7 の和音基本位置 2（5 度音を省略できる場合）	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分
第 15 回	7 の和音第一転回 1	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後 手直したものを暗譜する。	80 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。
---------	---------------------------

成績評価	鍵盤楽器、リュートの専門生は学年末に筆記と実技の試験を行う。その他は授業への積極的な取り組み。
------	---

テキスト	必要に応じて配布、紹介する。
------	----------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室。
---------	--------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

通奏低音奏法Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

教授 小林英之

科目コード：IND104／IND204
IND304／IND407

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／リコーダー専門／3 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学びことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標	バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。
------	--

授業計画	後期 15 回 各人 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	7 の和音第一転回 2（第 7 音の扱い方）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 2 回	7 の和音第二、三転回 1（43 の和音）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 3 回	7 の和音第二、三転回 2（42 の和音）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	長および短九度、減七 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	長および短九度、減七 2（特殊な用法）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	その他の半音階的和音 1（ナボリの 6）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	その他の半音階的和音 2（その他）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	二重繋留	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	実際の楽曲への応用 1	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 10 回	実際の楽曲への応用 2（配置を変えてみる）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 11 回	実際の楽曲への応用 3（省略できる音を検討する）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 12 回	アンサンブルでの実践 1（後期バロック）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 13 回	アンサンブルでの実践 2（前期バロック）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 14 回	アンサンブルでの実践 3（数字がついていない場合）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分
第 15 回	アンサンブルでの実践 4（総合的実践）	事前	事前に和声付けした解答を書いてくる。	80 分
		事後	手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 鍵盤楽器、リュートの専門生は学年末に筆記と実技の試験を行う。その他は授業への積極的な取り組み。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀	科目コード：ENS116／ENS216 ENS316／ENS413
------------	--------------------------------------

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習	単位数：1単位
-------	---------

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標	合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを選び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目指す。
------	--

授業計画	全15回 90分×2コマ＝180分 各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。
------	---

第1回	ガイダンス／春の演奏会リハーサル 「声種分け」	事前 自分の声が混声合唱のどのパートが相応しく望ましいかを検討する 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第2回	春の演奏会リハーサル 「みんなで声を出すことは？」	事前 自分の声の基本的性質を調べる 事後 音が混ざることとはどういうことなのか思考する	0分 0分
第3回	春の演奏会リハーサル 「パートの役割、ハーモニーとは？」	事前 和声の基本を知っておく 事後 連結の重要性をおさらいする	0分 0分
第4回	春の演奏会リハーサル 「ピアニストの役割」	事前 すべての教材のピアノパート楽譜を眺める 事後 自分がピアニストだったらと想像する	0分 0分
第5回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（基礎）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 暗譜を目指す	0分 0分
第6回	春の演奏会リハーサル 「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 本番を想定する（舞台の歩き方、衣装、楽譜の有無、メイク） 事後 全体的に譜面を見直す	0分 0分
第7回	春の演奏会の反省 定期演奏会リハーサル	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第8回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（基礎）」	事前 ハンドサインとは何かを調べる 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分 0分
第9回	定期演奏会リハーサル 「音名唱と階名唱（応用）」	事前 階名唱の利点を考える 事後 音名唱と階名唱の違いをおさらいする	0分 0分
第10回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（基礎）」	事前 ハミングの仕組みを研究する 事後 口からの呼吸と鼻からの呼吸についておさらいする	0分 0分
第11回	定期演奏会リハーサル 「発声練習は音作り（応用）」	事前 音声の支えとは何かを考える 事後 やわらかい息を習得する	0分 0分
第12回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（基礎）」	事前 音律の基本を知っておく 事後 ペンタトニックや旋法を知っておく	0分 0分
第13回	定期演奏会リハーサル 「一声（ユニゾン）が基本（応用）」	事前 平均律とは何かを知っておく 事後 大全音と小全音を知っておく	0分 0分
第14回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（基礎）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 講義で取り上げたルールがほかにも当てはまるか調べ探す	0分 0分
第15回	定期演奏会リハーサル 「音楽のイントネーション（応用）」	事前 イントネーションのない状態を想定する 事後 テキスト・和音・旋律・リズムそれぞれのイントネーションを知る	0分 0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒

合唱Ⅰ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 中村拓紀

科目コード：ENS117／ENS217
ENS317／ENS414

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／全学年

形態：実習 単位数：1単位

概要 全履修生を合わせて学年や専門を超えたひとつの合唱団となり、演奏会に向けてリハーサルを重ねる実習形式の講義である。

到達目標 合唱という演奏形態ですばらしい音楽作りを目指す。すなわち、声を出すことによってハーモニーを作ることを選び、テキストが伴う場合はテキストへの理解を深め、楽曲の形式・様式を実現し、演奏を披露する機会に向けてどのようにリハーサルを重ね、準備していくかを知り、将来合唱指導をする時にも用いることができる指導テクニックを習得することを目指す。

授業計画 全15回 90分×2コマ＝180分
各パートのバランスを見て曲を決定するが、ルネサンス・バロック期から近・現代まで、ほとんどすべての声楽・合唱作品が選曲対象である。

第1回	定期演奏会リハーサル	「輪唱から合唱へ（基礎）」	事前 かえるのうたのカノンがなぜハモるのかを考える 事後 ポリフォニー作品を聴く	0分 0分
第2回	定期演奏会リハーサル	「輪唱から合唱へ（応用）」	事前 ハンドサインの復習をする 事後 階名唱の利点を考える	0分 0分
第3回	定期演奏会リハーサル	「演奏会運営、マネジメント（基礎）」	事前 演奏会には演奏以外に何が必要か想定する 事後 演奏会には演奏者以外に誰が必要か想定する	0分 0分
第4回	定期演奏会リハーサル	「演奏会運営、マネジメント（応用）」	事前 演奏のために何をしたいか考える 事後 演奏のために何ができるか考える	0分 0分
第5回	定期演奏会リハーサル	「近年の合唱（趣味）の傾向」	事前 大型楽譜店で合唱楽譜の出版状況を見る 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第6回	定期演奏会リハーサル	「近年の合唱（教育）の傾向」	事前 幼保・小中高で合唱がどのような役割化を考える 事後 自分の考えをまとめる	0分 0分
第7回	定期演奏会リハーサル	「近年の合唱（楽譜）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第8回	定期演奏会リハーサル	「近年の合唱（IT化）の傾向」	事前 著作権・出版権について学ぶ 事後 10年後を見通す	0分 0分
第9回	定期演奏会リハーサル	「ホールで歌う・人前で演奏すること（応用）」	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 全体的に譜面を見直す	0分 0分
第10回	定期演奏会リハーサル	「隊列の重要性（基礎）」	事前 空間を音で満たすためにどのような並び方がいいか考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第11回	定期演奏会リハーサル	「隊列の重要性（応用）」	事前 オーディエンスが満足する並び方を考える 事後 講義で指摘された箇所を練習する	0分 0分
第12回	定期演奏会の反省	／合唱指揮法・指導法「選曲の重要性（基礎）」	事前 演奏会を振り返る 事後 選曲の意図を探る	0分 0分
第13回	合唱指揮法・指導法	「選曲の重要性（応用）」	事前 選曲を間違うとどうなるかを考える 事後 演奏家視点の選曲の長所と短所を挙げる	0分 0分
第14回	合唱指揮法・指導法	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（概論）」	事前 聴き手視点の選曲の長所と短所を挙げる 事後 全体のバランスを見る	0分 0分
第15回	合唱指揮法・指導法	「合唱指導テクニック・指導者（教師）の重要性（実践）」	事前 指揮法が重要である理由を考える 事後 課題曲を練習する	0分 0分

フィードバック 実習形式の講義のため、演奏前、演奏中、演奏後のいつ何時も教員の指導にて学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 講義への取り組みによって評価。

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩中に教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒

(演) 室内楽Ⅱ

特任教授 三上明子／准教授 干野宜大	科目コード：ENS218
対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ・管弦打楽器専門（サクソフォン／ユーフォニウムを除く）／2 年次	
形態：実習	単位数：2 単位
概要	演奏家の資質に欠かせない室内楽について学ぶ授業である。

到達目標	アンサンブルは、器楽を学ぶものの重要なアイテムである。担当教授を含むグループで一緒に演奏することにより、室内楽に必要なコミュニケーションを、身をもって体験し、修得していくことを目標とする。
------	--

授業計画	演奏家コースの室内楽は、原則として専門実技の担当教員以外の教員が担当し、学生とともに演奏しながら、作品に解釈や演奏技術等を教授する。なお、学生同士で室内楽を組み、前記いずれかの教員の指導を受けることもできる。この場合は、年次を超えて編成を組んでも構わない。
------	--

第 1 回	レッスンの目標と進め方	事前 学修計画案をたてる	140 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	140 分
第 2 回	曲①奏法を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 3 回	曲①様式を中心に	事前 曲①の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 4 回	曲②奏法を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 5 回	曲②様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 6 回	曲③奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 7 回	曲③様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 8 回	曲④奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 9 回	曲④様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 10 回	曲⑤奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 11 回	曲⑤様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 12 回	曲⑥奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 13 回	曲⑥様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 14 回	仕上げる演奏	事前 仕上げる演奏に向けて準備する	140 分
		事後 問題箇所について確認する	140 分
第 15 回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。	140 分
		事後 次年度への取り組みを確認する	140 分

フィードバック	レッスンごとに、次のレッスンまでのコメントを口頭で伝える。
---------	-------------------------------

成績評価	毎回のレッスンでの演奏、取り組み方により評価する。
------	---------------------------

テキスト	受講曲目については、各担当教員と履修者の話し合いのもと、決定する。また、能力、場合に応じて、勉強すべき曲の指示を与えることもある。
------	---

オフィスアワー	授業後、教員の指示を受けること。
---------	------------------

備考	年間 15 回 各 90 分のグループレッスン形式。 レッスン日程は、各担当教員とのオリエンテーションで決定され、掲示される。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□

(演) 室内楽Ⅲ

特任教授 三上明子／准教授 干野宜大	科目コード：ENS219
対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ・管弦打楽器専門（サクソフォン／ユーフォニウムを除く）／3 年次	
形態：実習	単位数：2 単位
概要	演奏家の資質に欠かせない室内楽について学ぶ授業である。

到達目標	アンサンブルは、器楽を学ぶものの重要なアイテムである。担当教授を含むグループで一緒に演奏することにより、室内楽に必要なコミュニケーションを、身をもって体験し、修得していくことを目標とする。
------	--

授業計画	演奏家コースの室内楽は、原則として専門実技の担当教員以外の教員が担当し、学生とともに演奏しながら、作品に解釈や演奏技術等を教授する。なお、学生同士で室内楽を組み、前記いずれかの教員の指導を受けることもできる。この場合は、年次を超えて編成を組んでも構わない。	
------	--	--

第 1 回	レッスンの目標と進め方	事前 学修計画案をたてる	140 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	140 分
第 2 回	曲①奏法を中心に	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 3 回	曲①様式を中心に	事前 曲①の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 4 回	曲②奏法を中心に	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 5 回	曲②様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 6 回	曲③奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 7 回	曲③様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 8 回	曲④奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 9 回	曲④様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 10 回	曲⑤奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 11 回	曲⑤様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 12 回	曲⑥奏法を中心に	事前 曲④の譜読みと準備に取り組む	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 13 回	曲⑥様式を中心に	事前 曲③の様式について予習する	140 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	140 分
第 14 回	仕上げる演奏	事前 仕上げる演奏に向けて準備する	140 分
		事後 問題箇所について確認する	140 分
第 15 回	一年のまとめ	事前 一年間の取り組みの問題点を確認する。	140 分
		事後 次年度への取り組みを確認する	140 分

フィードバック	レッスンごとに、次のレッスンまでのコメントを口頭で伝える。
---------	-------------------------------

成績評価	毎回のレッスンでの演奏、取り組み方により評価する。
------	---------------------------

テキスト	受講曲目については、各担当教員と履修者の話し合いのもと、決定する。また、能力、場合に応じて、勉強すべき曲の指示を与えることもある。
------	---

オフィスアワー	授業後、教員の指示を受けること。
---------	------------------

備考	年間 15 回 各 90 分のグルーブレッスン形式。 レッスン日程は、各担当教員とのオリエンテーションで決定され、掲示される。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□

(演) 室内楽Ⅳ

教授 緒方恵／非常勤講師 佐藤裕子

科目コード：ENS415

対象コース／専門／学年：演奏家コース／ピアノ・管弦打楽器専門（サクソフォン／ユーフォニウムを除く）／4 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	授業はマスタークラス形式で行う。室内楽演奏に必要な諸要素の、更なるスキルアップを行い、客観的な耳を持って仕上げていくアプローチ法を学ぶ授業である。4 年次は、異なる時代様式の作品を 3 曲取り上げる。担当教員と学生がともに演奏し、聴講する学生を交え、ディスカッションしながら進める。
到達目標	音楽で対話し、ともに音楽を作っていくことで、演奏する作品の完成度を上げることを目標とする。音楽が有機的であることを体感し、音一つ一つ、ひとりひとりの役割を意識し、柔軟な演奏を習得する。最終的には個々の技術や楽器の枠を超えて音楽そのものに向き合う姿勢を身につけてほしい。
授業計画	ピアノ、ピアノ以外の二つのグループに分かれ、それぞれの担当教員とともに演奏する形態で授業を行う。最終学年のため、古典派、ロマン派、近現代の異なる時代様式のソナタを選曲する。

第 1 回	授業の目標、進め方を確認する。課題曲の設定と演奏順を決定	事前	①三次次までの学修を確認し、最終学年の課題を各自把握しておく。②能力分析	140 分
		事後	①年間の課題の楽譜を準備し、譜読みをしておく。②課題曲の読譜	140 分
第 2 回	課題曲Ⅰ ①自らの音、共演者の音を聴き続けることを徹底する ②作品分析を行い、全体の中の個々の役割を確認する	事前	①形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。②スコアをよく読む	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。②作品全体の構造を把握する。	140 分
第 3 回	課題曲Ⅰ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②「聴く」とはどのようなことかを学ぶ	事前	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習。 ②読譜の徹底	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。②全パート全てを聴く。	140 分
第 4 回	課題曲Ⅰ ①リハーサルを進め方を学ぶ ②音楽の呼吸－フレージングと拍節を確認しながら演奏	事前	①アンサンブルにおける呼吸、アインザッツを意識しながら練習する。 ②各パートのフレーズ、音楽全体のフレーズの確認。	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②一つの音楽となった時のフレーズ感とバランスを追求する。	140 分
第 5 回	課題曲Ⅰ 仕上げ 全楽章を通して－構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前	①曲の全体像から立体的な表現につながるよう効果的に演奏できる工夫をする。 ②作品全体像を確認。	140 分
		事後	①課題曲Ⅰの反省と、次回の課題の確認。②音楽の呼吸、方向性を明確にする。	140 分
第 6 回	課題曲Ⅱ ①分析を行い、様式感からのアプローチを実践する ②課題曲Ⅰとの比較。様式の違いによる表現の違いについて	事前	①課題曲ⅠとⅡの様式感の違いを予習しておく。②古典、ロマン派作品を読譜	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②構造、和声、旋律、ハーモニー、表示記号などの相違点を比較研究する。	140 分
第 7 回	課題曲Ⅱ 様式感の特徴から、音色、リズム、デュナーミクを考える	事前	①様式感からテンポ感や音色のイメージを確認し、実践につなげられるよう練習しておく。 ②作品の性格を読み取る。	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②リズム、拍子の様々な奏法を試し、演奏に与える違いを感じとる。	140 分
第 8 回	課題曲Ⅱ 室内楽の魅力を感じながら、音色、響きの調和と強弱のバランスを追求する	事前	①音色や音の比重バランス、音程などから美しい響きが生み出されることを、再確認する。 ②楽曲分析により響きのイメージを明確にしておく。	140 分
		事後	①問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②合同練習において追求した響き、バランスを基に更に探求。	140 分
第 9 回	課題曲Ⅱ ①全楽章を通して－呼吸、音のバランスをポイントとする ②表現の可能性を探る	事前	①共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。 ②全体構造や作品の性格、展開、イメージを明確にしておく。	140 分
		事後	①アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。 ②バランス、作品の性格に合った表現とその演奏技術の探求。	140 分
第 10 回	課題曲Ⅱ 仕上げ 全楽章を通して－呼吸、音のバランスをポイントとする	事前	①曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする ②演奏のビジョンを明確にしておく。	140 分
		事後	①課題曲Ⅱの反省と、次回の課題の確認。 ②全パートで一つの音楽に成り得たか、自己評価。	140 分
第 11 回	課題曲Ⅲ 課題曲Ⅰ、Ⅱとの比較において、アンサンブルを行う際の問題点を探る	事前	課題曲Ⅲの楽譜を準備し、譜読みをしておく。	140 分
		事後	異なる楽器の発音体、タイミング、音色を再確認する。	140 分
第 12 回	課題曲Ⅲ 課題曲の分析を行い、様式感からのアプローチを実践する	事前	課題曲Ⅲに対し、形式、和声を、楽譜を見ながら分析し、実践に向けて練習する。	140 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 13 回	課題曲Ⅲ コンサートに向けてのリハーサルの方方を学ぶ	事前	リハーサルの調整、発表までの計画を立てる。	140 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 14 回	課題曲Ⅲ 仕上げ 全楽章を通して－構成、音のバランス、音楽の全体像をポイントとする	事前	共に演奏する、音楽を作るという意識を高く持ち、各自、練習しておく。	140 分
		事後	アンサンブル上の問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	140 分
第 15 回	課題曲Ⅲ 演奏発表と反省	事前	問題点を確認し、良い演奏につながるよう、各自準備する。	140 分
		事後	演奏の反省と、今後の課題を確認する。	140 分

フィードバック レッスン形式のため、課題準備に対し、授業内で教員がともに演奏しながらアドバイスをを行うことで、フィードバックする。

成績評価 課題曲についての分析と表現、およびアンサンブルへの積極的な取り組み姿勢で評価する。

テキスト 授業内で指示する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて
緒方恵 box-057@mail.uenogakuen.ac.jp
佐藤裕子 ball.60000137@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング マスタークラス形式で授業を行っているため、演奏を聴講している学生からも、何が問題で、どのように解決すればよいかを発言させている。

備考 課題曲Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、異なる時代様式のソナタを選曲する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用					意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニレクチャースキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

音楽学概論-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS107

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽学専門・文化創造マネジメント専門／1 年次、音楽教育専門／1～2 年次

形態： 講義	単位数： 2 単位
概要	音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標	身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。 調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。
------	--

授業計画				
第 1 回	自己の音楽体験 疑問、関心、悩み、批判、感動、共感等(ガイダンス)	事前	シラバスに目を通し、自分の音楽体験をじっくり振り返る	100 分
		事後	講義をヒントに、自分の音楽体験や身近な音楽について研究の可能性を考える	180 分
第 2 回	「音楽学」と隣接諸学、ウィキペディア批判、新グローヴ批判(音楽学概説)	事前	Wikipedia・『ニューグローヴ世界音楽大事典』の「音楽学」の項目に目を通す	100 分
		事後	『ニューグローヴ』『音楽学』から問題となる箇所を引用し、批判を加える	180 分
第 3 回	音楽趣味・嗜好性の背後にあるもの(社会学)	事前	自分の音楽の趣味について理由や音楽の特徴などを分析してみる	100 分
		事後	現代の多様な音楽について、その歴史的背景や社会的位相を考えてみる	180 分
第 4 回	音楽を知る資料・史料(書誌学)	事前	音楽を知るための資料・史料にどのようなものがあるかを数え上げてみる	100 分
		事後	講義で知ったそれぞれの調査の道具に実際に触れ、興味をもった事柄について調べる	180 分
第 5 回	音楽家を調べる 音楽家の分化、専門化 東と西(研究方法・比較文化史)	事前	興味のある音楽家についてさまざまな角度から考えてみる	100 分
		事後	興味のある音楽家について、どのような先行研究があるかを調べてまとめる	180 分
第 6 回	美的価値判断の基準 西洋芸術音楽を相対化・客視する(比較文化)	事前	好きな芸術音楽を取り上げ、どのような所が良いのか、その理由を考える	100 分
		事後	日本の伝統音楽との比較を通じ西洋芸術音楽の「発展史」についてまとめる	180 分
第 7 回	音楽教科書の批判的検討 何を指すのか(音楽教育)	事前	中学・高校で使っていた音楽の教科書に目を通し、講義に持参する	100 分
		事後	講義を踏まえ、自分ならどのような音楽の教科書を作るか、目次を作ってみよう	180 分
第 8 回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	事前	シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする	100 分
		事後	講義で学んだレポートの基礎を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる	180 分
第 9 回	視る音楽、象徴としての音楽 日本と西洋(図像学)	事前	日本、欧米について音楽が表現された美術をそれぞれ探してみよう	100 分
		事後	図像史料の有用性について具体例を用いてまとめてみよう	180 分
第 10 回	音楽の力 音楽の祭典・芸術競技と社会(社会学)	事前	知っている音楽祭、音楽コンクールについて調べてみよう	100 分
		事後	オリンピック開閉会式の音楽や講義で取り上げた音楽祭について考えてみよう	180 分
第 11 回	音を創る装置 日本と西洋(楽器学)	事前	これまでに使ったことのある楽器について調べてみよう	100 分
		事後	楽器について、さらに他の文化の同種の楽器と比較してまとめよう	180 分
第 12 回	音を創る身体(演奏の科学)	事前	自分の演奏体験を振り返り、テクニックに関する意識・知識について考えてみよう	100 分
		事後	演奏技術に関する科学研究の有用性について、自分に当てはめて考えてみよう	180 分
第 13 回	音を共有する場・享受する場の歴史 古代の劇場からイヤホンまで(文化史)	事前	音楽を聴くさまざまな場について、その長所、短所を考えてみよう	100 分
		事後	音楽を聴く場の変遷を振り返り、その文化的背景を考えてみよう	180 分
第 14 回	評論と研究 音楽表現へのアプローチ(研究方法)	事前	身近な音楽評論を読んでみよう	100 分
		事後	評論と研究の違いについての講義を踏まえ、それぞれの意義を考えてみよう	180 分
第 15 回	まとめとレポート指導	事前	レポート執筆に取り組み、疑問点や問題点をまとめる	100 分
		事後	指導内容を踏まえ、レポートをまとめる	180 分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 平常点（小課題と講義内の発言や取り組み態度の積極性）50％ 期末レポート 50％

テキスト 毎時講義資料を配布（オンライン授業中はメールにて配信）

オフィスアワー 水曜 V 日本音楽史研究所

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐

音楽学概論-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS108

対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽学専門・文化創造マネジメント専門／1 年次、音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽についての身近な問題について、講義のなかで各自が学術的にアプローチし、音楽および音楽学の意義や問題点を考える。

到達目標	身近な問題を音楽学に結びつけ、分析力、解決力を養いながら研究方法を身につける。 調査を通して音楽学の多様性を体験的に学び、自分自身の音楽環境を客観視する。
------	--

第 1 回	紙の上の音楽 楽譜の意外な機能 東と西	事前 使ったことのある楽譜について、その機能を考えてみよう 事後 楽譜の多様性についての知見をまとめよう	100 分 180 分
第 2 回	印刷楽譜の歴史的価値 日本と西洋	事前 日頃使っている楽譜の印刷がいつ頃から始まったのかを調べてみよう 事後 初期印刷楽譜の事例を振り返り、印刷の文明的意義を考えよう	100 分 180 分
第 3 回	近代五線譜の効能、発展と限界、記さない音楽の伝承(フォークロアとエスノロジー)	事前 近代五線譜の長所と短所について考えてみよう 事後 五線譜に適さない音楽について理由を考え、どのように伝承されるかをまとめよう	100 分 180 分
第 4 回	作品を調べる(研究方法)	事前 興味のある音楽作品について調べてみよう 事後 先行研究の参考文献などを利用し追跡調査をしよう	100 分 180 分
第 5 回	レポートテーマの設定と対策(レポートの書き方・調査方法)	事前 シラバスを参考に興味ある研究テーマをいくつかリストアップし、下調べをする 事後 講義で学んだ執筆方法を踏まえ、期末レポートのテーマを選びプランを立てる	100 分 180 分
第 6 回	楽書とは 説話と音楽理論	事前 音楽理論書や音楽に関わる古い逸話にはどんなものがあるか思い出してみよう 事後 理論書や音楽説話が作られる背景や意義を考えてみよう	100 分 180 分
第 7 回	音の組織化 調律・旋法・調性 音楽文明の羅針盤、東と西	事前 調律や調性の歴史を調べてみよう 事後 調律・調性についての東西の共通性と相違を振り返り文明史における意義を考えよう	100 分 180 分
第 8 回	文学と音楽芸能 古代ギリシャと古事記(横断的アプローチ)	事前 古代ギリシャの音楽と文学について調べてみよう 事後 芸能としての文学の在り方、文学に描かれる音楽についての事例を考えよう	100 分 180 分
第 9 回	現代音楽としての日本音楽 東西の接点とその背景(音楽史)	事前 西洋音楽史の中に現れる日本音楽にはどんなものがあるか考えてみよう 事後 現代音楽における日本について様々なレベルで考えよう	100 分 180 分
第 10 回	音と環境デザインの今昔(環境学)	事前 自分を取り巻く環境の音を意識してみよう 事後 昔と今の音の変化について考えよう	100 分 180 分
第 11 回	様々なテキスト・クリティーク(研究方法)	事前 レポートの実証性を高めるための工夫について考えてみよう 事後 史料批判の重要性を改めて理解し、レポート執筆に活かそう	100 分 180 分
第 12 回	レポートの中間報告会と指導 1(プレゼンテーション)	事前 発表資料の準備と発表の練習 事後 質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100 分 180 分
第 13 回	レポートの中間報告会と指導 2(プレゼンテーション)	事前 発表資料の準備と発表の練習 事後 質疑応答を踏まえてレポートを修正する	100 分 180 分
第 14 回	音楽学の多様性と日本における問題点	事前 講義で扱った以外の音楽学の領域について調べてみる 事後 日本における音楽学研究の現状と課題について自分なりの考えをまとめよう	100 分 180 分
第 15 回	まとめとレポート指導	事前 期末レポートを完成させる 事後 期末レポートで出来たこと出来なかったことを反省し今後の展望を明確化する	100 分 180 分

フィードバック 毎時の小課題評価、講義時間内外の質疑応答

成績評価 平常点（小課題と講義内の発言や取り組み態度の積極性）50％ 期末レポート 50％

テキスト 毎時講義資料を配布（オンライン授業中はメールにて配信）

オフィスアワー 水曜 V 日本音楽史研究所

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	□	□	□	□	□	☒		□	□	□	□	☒	□	□

音楽教育概論-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU101

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～2 年次、GLA コース／音楽学専門／1～2 年次、GLA コース／音楽教育、文化創造マネジメント専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	なぜ学校で音楽を学ぶのか、音楽教育の目指すものは何か、日本ではいつから、どのように学校で音楽が教えられるようになったのか、明治、大正、昭和、平成の音楽教育はどのように行われていたのか、令和の現状はどうか、これからの時代の音楽教育はどこを目指していくのか、その背景は何か、等々、音楽教育の全体像を概観していく。
到達目標	音楽科の存在意義、音楽科の指導内容の変遷とその背景、日本の音楽教育の現状とその背景について理解し、音楽教育に関する基礎的な知識を得る。

授業計画	講義形式ではあるが、課題意識をもって主体的に学修を進めていくことができるよう、討論を必ず取り入れ、課題解決型の授業を行う。
------	---

第 1 回	ガイダンス 音楽と人間の関わり	事前 自分自身にとって、音楽とは何かを考えてくる。	100 分
		事後 音楽と人間の関わりについて、講義と討論を参考にして自分の考えをまとめる。	180 分
第 2 回	音楽科の存在意義を考える。	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 6-15 を読んでくる。	100 分
		事後 音楽科の存在意義について、講義・討論・配布資料・テキストを基にまとめる。	180 分
第 3 回	明治・大正・昭和初期の音楽教育	事前 明治・大正・昭和初期の「唱歌」を調べてくる。	100 分
		事後 『新版音楽科教育法』 pp. 192-194 を読み込み、講義内容を講義メモにまもめる。	180 分
第 4 回	昭和の音楽教育 1	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 194-195 を読んでくる。	100 分
		事後 配布資料と講義内容をもとに、戦後の音楽教育を講義メモにまとめる。	180 分
第 5 回	昭和の音楽教育 2 小泉文	事前 事前配布資料を読み、自分の考えをまもめてくる。	100 分
		事後 講義内容、討論内容をもとに、小泉文夫の音楽教育史に果たした役割を考察する。	180 分
第 6 回	昭和の音楽教育 3 ～音楽教育の内容の変換への兆し～	事前 事前配布資料を読み、自分の考えをまもめてくる。	100 分
		事後 講義内容をもとに、昭和時代の音楽教育観の転換の背景をまもめる。	180 分
第 7 回	平成の音楽教育	事前 平成の 30 年間の社会の変化を、自分なりの視点で調べてくる。	100 分
		事後 平成の時代に行われた学習指導要領の改訂の背景と改訂の特徴をまとめる。	180 分
第 8 回	日本の音楽教育の現状と、これからの時代の目指す音楽教育	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 146-151 を読んでくる。	100 分
		事後 中央教育審議会答申が示す新しい教育システムが提言された背景をまとめる。	180 分
第 9 回	学習指導要領の変遷について	事前 事前配布資料に目を通し、感想を言えるようにしてくる。	100 分
		事後 学習指導要領の変遷について、ワークシートを完成させると共に、考察を行う。	180 分
第 10 回	古代からの日本の音楽を概観する（1）	事前 事前配布資料を読んで、感想が言えるようにしてくる。	100 分
		事後 講義メモを感想と共にまとめる。	180 分
第 11 回	古代からの日本の音楽を概観する（2）	事前 事前に配布資料を読んで、感想が言えるようにしてくる。	100 分
		事後 講義メモを感想と共にまもめる。	180 分
第 12 回	伝統と創造	事前 「伝統と創造」について、自分なりに考えてくる。	100 分
		事後 日本の伝統音楽の変遷と現状についてまとめ、自分なりの考察を加える。	180 分
第 13 回	学習指導要領が示す「我が国や郷土の伝統音楽」の指導	事前 学習指導要領中学校 113-114 小学校 pp128-129、テキスト pp. 174-176 を読んでくる。	100 分
		事後 自分が受けた「我が国や郷土の伝統音楽」の指導を振り返り、目指す授業を提案する。	180 分
第 14 回	1 回から 13 回の講義を振り返り、関心をもった内容について明らかにし、討論を通して課題意識を明確にする。	事前 前回までの講義メモを見直し、関心をもったことについて発表できるようにする。	100 分
		事後 授業内で討論したことを基に、課題に対する現在の考えをまもめる。	180 分
第 15 回	学修の振り返りとテスト	事前 『新版音楽科教育法』のマーカーを引いた部分を中心に全体を振り返る。	100 分
		事後 返却されたテストを見直し、学修を振り返る。	180 分

フィードバック 小テストや提出物について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み 30%、提出レポート 50%、テスト 20%を目安に総合的に評価する。

テキスト 『新版中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』教育芸術社
『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 文部科学省
必要に応じて、資料やワークシートを配付する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

備考 教職課程履修者は履修することが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	□	□	☑	☑	□	☑

音楽教育概論-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU102

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～2 年次、GLA コース／音楽学専門／1～2 年次、GLA コース／音楽教育、文化創造マネジメント専門／1 年次

形態： 講義

単位数 2 単位

概要 音楽教育の全体像を学修した前期を受け、後期は海外の音楽教育について学び、現代の音楽教育、つまり受講者の学生が大学を卒業して音楽教師になったとき実践していく音楽教育に特化し、講義と演習を通して新学習指導要領の概要を理解する。海外の音楽教育の現状

到達目標 海外の音楽教育について概観し、現在の世界の音楽教育の状況を把握すると共に、「音楽の多様性を理解すること」「異文化を理解すること」とはということか、また学校が音楽教育に果たす役割は何かについて、自分なりの考えをもてるようになることを到達目標とする。

授業計画 毎時間、分担に従って担当学生がプレゼンテーションを行い、それについて討論し、最終的に個人的な考えや感想も記述した授業メモを提出する形で実施する。

第 1 回	ガイダンス 海外の音楽教育の概観 並びに学修の進め方について	事前 『新版音楽科教育法』 pp.196-205 に目を通しておく	180 分
		事後 自分の発表課題について、文献やインターネット情報をチェックしておく。	100 分
第 2 回	コダーイ・メソッド (コダーイ・ソルターン) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p. 203 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 3 回	オルフ・シュールヴェルク (カール・オルフ) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p. 204 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 4 回	リトミック (ジャック・ダルクロワ) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 198-199 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 5 回	創造的音楽学習 (CMM) についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 203 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 6 回	サウンド・エデュケーションについてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 pp. 198-199 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 7 回	イギリスの音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.196 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 8 回	カナダの音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.197 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 9 回	スウェーデン音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 『新版音楽科教育法』 p.197 を読んでくる。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 10 回	アメリカ音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 アメリカの民俗音楽を視聴しておく。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 11 回	中国音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 中国の民俗音楽を視聴しておく。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 12 回	モンゴル音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 モンゴルの民俗音楽を視聴しておく。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 13 回	インド音楽教育についてのプレゼンテーションと討議	事前 インドの民俗音楽を視聴しておく。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 14 回	国際バカロレアについてのプレゼンテーションと討議	事前 国際バカロレアについて、指示された URL を視聴しておく。	180 分
		事後 プレゼンテーションされた内容について端的にまとめ、感想・考察を書く。	100 分
第 15 回	音楽教育に対して学校が果たす役割	事前 14 回の講義を振り返って、音楽教育に対して学校が果たす役割について考えてくる。	200 分
		事後 講義と討論を通して考えたことを最終レポートにまとめて提出する。	80 分

フィードバック 授業中の発言への価値付けや、提出物へのコメントを記しての返却を通して行う。

成績評価 授業への取り組み 20%、分担したプレゼンテーションの内容 30% 授業後の振り返りメモ 50%を目安に、総合的に評価する。

テキスト ・『新版中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』教育芸術社
・『中学校学習指導要領解説 音楽編』 文部科学省
講義の内容に応じて、適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。メールでの質問や相談にも応じます。

備考 教職課程履修者は、履修することが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□		☑

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門／1 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	アートマネジメントが影響を受ける外的要因と環境（政治・経済などの社会状況や音楽以外の文化・芸術との関連）を理解し、求められる思考力、目配りすべき領域の知識とスキルの基礎を身につける。具体的には文化政策の基本的な理論を押さえた上で、国、地方自治体の取り組みと背景を概観する。
到達目標	マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。プレゼンテーション課題やインターンシップ体験を通して、芸術運営に関わる様々なステークホルダーの視点とチェックポイントを理解できるようになる。

授業計画	
第 1 回	自己紹介とオリエンテーション(導入)
第 2 回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか？① ボウモル・ボウエン「舞台芸術：芸術と経済のジレンマ」は何を意味するか
第 3 回	芸術・文化政策の理論的基礎：なぜ芸術・文化に公的支援が必要なのか？② 第 2 回授業の続き
第 4 回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策① 日本の文化政策の考え方の変遷
第 5 回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策② 第 4 回授業の続き
第 6 回	文化芸術基本法と国・自治体の文化政策③ 国・自治体の文化政策の仕組み
第 7 回	第 1 回課題：地方自治体の文化基本計画をテーマにした学生による事例分析 各学生のプレゼンテーションに対する講評とディスカッション
第 8 回	指定管理者制度の本質と意義① ニューパブリックマネジメントの考え方、目的、本質を考察する
第 9 回	指定管理者制度の本質と意義② 市民に寄り添う複合施設（大和市文化創造拠点シリウス）
第 10 回	指定管理者制度の本質と意義③ 顧客満足と経験価値、コミュニケーションデザイン（岐阜県可児市文化創造センター）
第 11 回	東京都の文化政策と指定管理の実際① 東京都の文化政策と東京文化会館主催事業のリサーチ
第 12 回	東京都の文化政策と指定管理の実際② 東京文化会館でのインターンシップ（未定）
第 13 回	東京都の文化政策と指定管理の実際③ 東京文化会館でのインターンシップ（未定）
第 14 回	東京文化会館でのインターンシップの振り返りとディスカッション ディスカッション結果を学生がまとめ、東京文化会館にフィードバックする
第 15 回	第 2 回課題：公的文化施設と先進的な取り組みをテーマにした学生による事例分析 各学生のプレゼンテーションに対する講評とディスカッション

フィードバック 課題プレゼンテーションの講評以外にも授業内の発表や発言などへのフィードバックを随時行う。

成績評価	2 回のプレゼンテーション課題の評価、特に授業で取り扱った内容を踏まえたリサーチ分析を高く評価する（70%）、東京文化会館に関するリサーチレポート提出（20%）授業中の積極的な発言内容と態度（10%）
テキスト	特にないが、適宜プリントなどで補足する。

参考図書として以下参照
中川真、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社.

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考	コロナなどの社会状況や講義形態、学外訪問の実施可否によって講義スケジュールは変更する場合がある。また学外訪問の場合、先方の都合により授業時間外の実施の場合もあることを承知しておくこと
----	---

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	英語・外国語スキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	□	□

文化創造概論-2

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT102

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門／1 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	アートマネジメントが影響を受ける外的要因と環境（政治・経済などの社会状況や音楽以外の文化・芸術との関連）を理解し、求められる思考力、目配りすべき領域の知識とスキルの基礎を身につける。後期では海外の文化政策や国家ブランディングといったテーマおよびマーケティングやファンドレイジングの基礎理論、アート NPO やアーツカウンシルといった昨今話題の文化政策のトピックを取り上げる。
到達目標	マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。プレゼンテーション課題やリサーチ、現場訪問を通して、芸術運営に関わる様々なステークホルダーの視点とチェックポイントを理解できるようになる。

第 1 回	前期の振り返り、および前期課題についてのディスカッション 経験価値と複合化の確認、日本の文化政策についてこれまでの学修の確認	事前 前期の振り返り点を整理しておく 事後 ソーシャルインクルージョンの概念を予習し、関連事例をリサーチする	270 分
第 2 回	アート NPO の存在意義、文化政策での位置づけ ソーシャルインクルージョンの実現を目指して	事前 アートと福祉の活動をしている NPO をリサーチ 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70 分 200 分
第 3 回	アーツカウンシルとは？ 文化政策の新しい牽引役となりうるか	事前 アーツカウンシル東京の事業をリサーチし、どんな組織かまとめる 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70 分 200 分
第 4 回	ソフトパワー：文化と外交、国家ブランディング① 80 年代に提唱されたソフトパワーの概念の概観、その限界と課題	事前 文化と外交に関する自分の意見をまとめておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70 分 200 分
第 5 回	ソフトパワー：文化と外交、国家ブランディング② 英国 GREAT キャンペーンを事例として	事前 興味のある国のブランディングについてリサーチしておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をしておく	70 分 200 分
第 6 回	海外の芸術・文化政策の比較と事例研究① アメリカ、イギリス、フランスと日本との比較	事前 興味のある国の文化政策についてリサーチしておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 3 回課題の準備	200 分 70 分
第 7 回	海外の芸術・文化政策の比較と事例研究② カルチュラル・オリンピアド（オリンピック文化プログラム）：ロンドンを事例に	事前 日本のオリンピック文化プログラムについて調べておく 事後 授業内で取り扱った資料を読み込み、理解と整理をする。第 3 回課題の準備	130 分 140 分
第 8 回	第 3 回課題：在日文化機関の取り組みと国家ブランディングをテーマに学生による事例分析	事前 第 3 回課題の準備 事後 講評を踏まえた振り返りと改善点のまとめ	100 分 170 分
第 9 回	企画プロデュースワークショップ 自分の企画を考えてみよう。社会と芸術の関わり	事前 自分のプロデュース企画を考えてみる 事後 自分のプロデュースの類似企画の事例をリサーチする	70 分 200 分
第 10 回	芸術の運営：マーケティング戦略① 顧客は誰か、市場規模、環境、競合分析、先行事例から分析をおこなう。	事前 類似企画のマーケティング戦略を考えてみる 事後 自分のプロデュース企画の見直し、書き直しをする	70 分 200 分
第 11 回	芸術の運営：マーケティング戦略② 各自のマーケティング戦略を考え、発表する	事前 自分の企画を 4P/4C 分析する 事後 第 4 回課題に向けて整理、準備	120 分 150 分
第 12 回	芸術の運営：ファンドレイジング 事例研究：東京おもちゃ美術館リサーチ訪問（資金調達戦略、種類と方法について）	事前 自分の企画は誰に寄付してもらえそうか、各自考える 事後 第 4 回課題に向けて整理、準備	120 分 150 分
第 13 回	訪問の振り返り：自分の企画のファンドレイジング戦略を考える 各自のファンドレイジング戦略を考え、発表する	事前 これまでの該当授業で学んだ事項からプロデュース企画を見直す 事後 第 4 回課題に向けて整理、準備	120 分 150 分
第 14 回	第 4 回課題：プロデュース企画のプレゼンテーション① 各学生に対する講評とグループディスカッション	事前 これまでの該当授業で学んだ事項からプロデュース企画を見直す 事後 第 4 回課題の準備	120 分 150 分
第 15 回	第 4 回課題：プロデュース企画のプレゼンテーション② 各学生に対する講評とグループディスカッション	事前 第 4 回課題の準備 事後 講評を踏まえた振り返りと改善点のまとめ	240 分 30 分

フィードバック 課題プレゼンテーションの講評以外にも授業内の発表や発言などへのフィードバックを随時行う。

成績評価 2 回のプレゼンテーション課題の評価（第 3 回 30%、第 4 回 50%）、第 9 回から第 13 回までの取り組み（20%）によって総合的に評価する。

テキスト 特にないが、適宜プリントなどで補足する。

参考図書として以下参照
中川真、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社.

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 コロナなどの社会状況や講義形態、学外訪問決定によって講義スケジュールは変更する場合がある。また学外訪問の場合、先方の都合により授業時間外の実施の場合もあることを承知しておくこと

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／1～2 年次、演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	西洋音楽に関連の深い美的思想について概観する。時代順にではなくトピックごとに、重要な概念や潮流を取り上げ、西洋音楽を理解する上で鍵となる思想を読み解いていく。それらの理解が机上のものとならぬよう、講義内および事前学習と事後学習における実践的な取り組みを通じて、「体感する」ことを重視する。
到達目標	1. 講義で取り上げる美的思想について、理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 音楽について、多角的な視点で「考える」ことが、日々の習慣となる。 3. 講義中に人前で抵抗なく自分の考えを論理的に述べられるようになる。

第 1 回	醜の美学（「美」とは、エーコ『醜の歴史』、カント『判断力批判』、フィードラー『芸術論』）	事前 あなたにとっての「美しいノート」を1冊用意する。 事後 醜いものを10個あげ、なぜそれを醜いと感じるのかを考える。	140分 140分
第 2 回	美しい響きの探求（古代ギリシャから中世の音楽思想、バロック時代の調律法の模索、微分音、音／雑音）	事前 「楽音」と「雑音」の違いは何か考える。 事後 微分音を楽器もしくは声で出す。	140分 140分
第 3 回	聴取の美学（ケージと《4分33秒》）	事前 聴取体験で印象に残っている出来事について思いをめぐらせる。 事後 ケージの《4分33秒》を途中で止めてみる。	140分 140分
第 4 回	サウンド・スケープ（シェーファーのサウンド・スケープ論、サティの「家具の音楽」）	事前 窓を開けて、一番遠くの音を聞いてみよう。 事後 あなたの身の周りの音をデザインしてみよう。	140分 140分
第 5 回	【基礎講義：知の海を歩く】感性の育成、自由な発想（トピックの広げ方、固定観念からの解放）	事前 「りんご」から思いつく論文のテーマをできる限り探す。 事後 任意の本から、事物の表現として、感性が揺さぶられる1フレーズもしくは1段落を書き写す。	140分 140分
第 6 回	色彩論、共感覚（中世における色彩感、光と色の関係、「未来派」、メシエンとスクリャーピンの色彩論）	事前 「ド」を何色に感じるか考え、なぜそう感じるのかを考える。 事後 任意の画家の画集を一冊ゆっくり読む。	140分 140分
第 7 回	標題音楽から交響詩へ（ベルリオーズの《幻想交響曲》、リストの交響詩《レ・プレリュード》）	事前 リストの交響詩《レ・プレリュード》を何も解説を読まずに聴く。 事後 音楽作品を言葉で説明することのメリットとデメリットについて自分の意見をまとめる。	140分 140分
第 8 回	内容主義と形式主義（ハンスリックと「絶対音楽」の成立、標題音楽と絶対音楽の対立の構図）	事前 「内容」とは何か考える。 事後 「形式」とは何か考える。	140分 140分
第 9 回	作品と題名（題名が喚起するイメージ、サティの反意味、無題）	事前 作品の題名を50個羅列する（芸術ジャンルは問わない）。 事後 身近なもので簡単な造形物を作り、それに題名を付ける。	140分 140分
第 10 回	記号と象徴（「記号」と「象徴」の定義、ソシュール、バース）	事前 自分の名前を20分間呼び続ける。 事後 言語と音声の結びつきについて考えをめぐらす。	20分 260分
第 11 回	芸術におけるモチーフ（絵画におけるイコノロジー、音楽における数象徴と音名象徴、音楽修辞学）	事前 C, D, E, F, G, A, H, B, S, I の10文字のアルファベットを使って作れる単語をできる限り見つける。 事後 ラテン文字の数字変換表を用いて、自分の運命数を見つける。	140分 140分
第 12 回	主観と客観（デカルトと近代哲学、イギリス経験論）	事前 自分が自分であることを証明する。 事後 自分が自分であることを証明してみる（2回目）。	140分 140分
第 13 回	【基礎講義：知の海を歩く】論理的思考（論理展開法、クリティカル・リーディング、ディベート）	事前 任意の本を批判的に読む。 事後 任意の書評を読む。	140分 140分
第 14 回	芸術と制度（芸術と模倣、「アートワールド」）	事前 もし美術館に椅子があったら、それはどんな椅子で、何のためにそこにあるのかを考える。 事後 ダントーの「アートワールド」の境界線にある事例を探す。	140分 140分
第 15 回	試験内容の解説、試験	事前 これまでの講義について復習をする。 事後 試験を振り返り、再び前向きに学習する決意をする。	140分 140分

フィードバック 講義の冒頭で、必要に応じて前回分の復習の時間を設ける。また、学生の理解度に応じてシラバスの内容・順序を変更することを厭わない。

成績評価 試験点：50%、授業への積極的な参加度：50%で評価する。授業への積極的な参加度は、講義内で配布するリアクション・ペーパー、事前・事後学習用ノート（抜き打ちで回収）、講義内での発言等によって評価する。なお、出席が3分の2に満たない者の試験受験資格を認めない。出数回数は各自で管理すること（注意喚起は行わない）。

テキスト 毎回講義内で提示する講義資料の末尾に参考文献を掲載する。

オフィスアワー 質問や学習の仕方の相談は、基本的にはメールで受け付ける（メール・アドレスは初回講義内で通達する）。短い質問であれば、講義前後に受け付ける。

備考 ＊コロナウィルス感染拡大状況によって、Zoomを用いた同時双方向型遠隔授業となる可能性がある。その場合、授業計画と成績評価方法に変更が生じる。変更点については、初回講義内にて通達する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	□	□	□	□

音楽美学-2

非常勤講師 池原舞

科目コード：MOS106

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／1～2 年次、演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態： 講義

単位数 2 単位

概要 西洋音楽に関連の深い美的思想について概観する。時代順にはなくトピックごとに、重要な概念や潮流を取り上げ、西洋音楽を理解する上で鍵となる思想を読み解いていく。それらの理解が机上のものとならぬよう、講義内および事前学習と事後学習における実践的な取り組みを通じて、「体感する」ことを重視する。

- 到達目標
- 1. 講義で取り上げる美的思想について、理解し、自分の言葉で説明できる。
 - 2. 音楽について、多角的な視点で「考える」ことが、日々の習慣となる。
 - 3. 講義中に人前で抵抗なく自分の考えを論理的に述べられるようになる。

授業計画			
第 1 回	【基礎講義：知の海を歩く】演奏解釈（楽譜の役割、演奏解釈）	事前 「楽譜」の役割は何か考える。 事後 同じ楽曲で異なる演奏者による演奏を聴き、感じたことを書く。	140 分 140 分
第 2 回	作品の同一性（作品の同一性、「作品」とは）	事前 何回ミスタッチをしたら、どんなふうにミスタッチをしたら、その曲でなくなるか考える。 事後 シュトックハウゼンの《ピアノ曲第 11 番》を聴く。	140 分 140 分
第 3 回	図形楽譜（いろいろな図形楽譜、図形楽譜使用の意義）※グループ学習	事前 「作者」と「演奏者」の共通点と相違点をあげる。 事後 ケージの《ピアノとオーケストラのためのコンサート》より任意の図形楽譜を読み解く。	140 分 140 分
第 4 回	主題の解明（「ロシア・アヴァンギャルドの概要、「何を」ではなく「いかに」、その発端としての立体未来派」、構成主義）	事前 熱いものをたくさん想像する。 事後 「わかる」とはどういうことか考える。	140 分 140 分
第 5 回	構成美学（構成学、シンメトリーの美学、12 音技法）	事前 構成や構造が美しいと思う絵画もしくは建築物をあげ、なぜ美しいのか考える。 事後 12 音技法作品を一曲分析する。	140 分 140 分
第 6 回	アメリカ実験音楽から「フルクサス」へ（アメリカ実験音楽、ケージから「フルクサス」へ、フルクサスの実例）	事前 「直線を引きそれを進め」という指示のある作品をどのように実現するか決める。 事後 現代の東京におけるアートのあり方の問題点をあげる。	140 分 140 分
第 7 回	反復、反復、反復（音楽における「反復」とその歴史、20 世紀における執拗な反復の事例）	事前 反復がもたらす効果について考えをめぐらす。 事後 音楽における「発展」とはどのような概念か考える。	140 分 140 分
第 8 回	ミニマル・ミュージック（ミニマル・ミュージックとそのルーツ、「漸次的位相変移プロセス」、偶然性や即興性との関連、ミニマル・ミュージックと身体性）	事前 任意の短い旋律か文章を 30 分間繰り返して演奏もしくは発語し、気分の変化を書きとめる。 事後 任意のミニマル・ミュージックを全曲通して聴く。	140 分 140 分
第 9 回	「引用」（美術作品における「引用」、音楽における「引用」、「引用」とは？）	事前 レポートで「コピペ」したらなぜダメだと言われるのか考える。 事後 「作者」は何をする人かを考える。	140 分 140 分
第 10 回	作者の「意図」（『佐村河内事件』、実証的研究における「歴史」の塗り替え、「意図」の範囲）	事前 作者の「意図」を知るにはどうしたらよいのか考える。 事後 自分しか知らないことを今後も知られないようにノートに書く。	140 分 140 分
第 11 回	【基礎講義：知の海を歩く】論文作法	事前 機会の有無を問わず、「論じたいテーマ」を 10 本見つける。 事後 レポートのテーマを決定する。	140 分 140 分
第 12 回	【基礎講義：知の海を歩く】レポート課題の実践	事前 レポート執筆の準備をする。 事後 レポートを執筆をする。	140 分 140 分
第 13 回	【基礎講義：知の海を歩く】文章校正	事前 レポートを完成させる。 事後 校正後のレポートを提出する。	140 分 140 分
第 14 回	「作者の死」（バルトの「作者の死」、20 世紀以降の芸術における主体性の弱化）	事前 ある作品の「作者」は誰なのか考える。 事後 あなたの『自伝』の序章を書く。	140 分 140 分
第 15 回	解釈学と生成論の狭間で（文学分野における生成批評の歴史、西洋音楽分野における生成論の展開）	事前 任意の作曲家の自筆譜（ファクシミリも可）を見る。 事後 あなたの「美しいノート」を最初から最後まで読む。	140 分 140 分

フィードバック 講義の冒頭で、必要に応じて前回の復習の時間を設ける。また、学生の理解度に応じてシラバスの内容・順序を変更することを厭わない。

成績評価 レポート点：50%、授業への積極的な参加度：50%で評価する。授業への積極的な参加度は、講義内で配布するリアクション・ペーパー、事前・事後学習用ノート（抜き打ちで回収）、講義内での発言等によって評価する。なお、出席が 3 分の 2 に満たない者のレポートは受け取らない。出席回数は各自で管理すること（注意喚起は行わない）。

テキスト 毎回講義内で提示する講義資料の末尾に参考文献を掲載する。

オフィスアワー 質問や学習の仕方の相談は、基本的にはメールで受け付ける（メール・アドレスは初回講義内で通達する）。短い質問であれば、講義前後に受け付ける。

備考 ＊コロナウィルス感染拡大状況によって、Zoom を用いた同時双方向型遠隔授業となる可能性がある。その場合、授業計画と成績評価方法に変更が生じる。変更点については、初回講義内にて通達する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□		☑	☑	☑	□	□	□

准教授 佐野直哉

対象コース／専門／学年： GLA コース/音楽学・文化創造マネジメント専門/1～3 年次、GLA コース/音楽教育専門/2～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4 年次

形態：講義・実習

単位数 1 単位

概要 この授業では、現在の文化芸術を巡る環境と社会との関係について学術的な視点で書かれた英語文献を取り上げて通読する。前期はある程度平易な英文で書かれている「An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art」を翻訳しながら、近年の芸術祭の隆盛に代表されるアートプロジェクトの定義、現代の社会環境と芸術との関係性、今後の音楽を含めたアートの未来の姿などを考える。

到達目標 学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション Introduction を通読する。	事前	特になし	分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	40 分
第 2 回	What are “Art Projects”? アートプロジェクトとは何か？	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 3 回	The prehistory of Art Projects ① アートプロジェクト誕生の背景	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 4 回	The prehistory of Art Projects ② アートプロジェクト誕生の背景	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 5 回	Regional Art Projects 地域型アートプロジェクト	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 6 回	Research assignment ① アートプロジェクトに関するリサーチ発表	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 7 回	Choose one of the case studies 事例よりひとつ受講生の関心によって選択	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 8 回	Choose one of the case studies 事例よりひとつ受講生の関心によって選択	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 9 回	Thinking About the Aesthetic and Social Value of Art Projects アートプロジェクトの美的・社会的価値についての考察：作品という規範からの逸脱	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 10 回	Trends and Cultural Background of Art Project Research in Japan ① 日本のアートプロジェクト研究の潮流と文化的背景：社会関係資本	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 11 回	Trends and Cultural Background of Art Project Research in Japan ② 日本のアートプロジェクト研究の潮流と文化的背景：民俗学的な視点	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 12 回	Local People as Evaluators of Art Projects アートプロジェクトを誰が批評するのか	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 13 回	Art Projects : Japan's New Public Context for Contemporary Art ① アートプロジェクト：日本の現代アートにおける新たな公共性の文脈	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 14 回	Art Projects : Japan's New Public Context for Contemporary Art ② アートプロジェクト：日本の現代アートにおける新たな公共性の文脈	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分
第 15 回	Research assignment ② アートプロジェクトに関するリサーチ発表	事前	次の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。	60 分
		事後	授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。	30 分

フィードバック 各自が作成してきた和訳に対する講評およびリサーチ課題に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表（70%）、2 回のリサーチ課題の発表と提出（30%）

テキスト “An Overview of Art Projects in Japan: A Society That Co-Creates with Art”
Written by Sumiko Kumakura and Yuichiro Nagatsu with a contribution by Justin Jesty
Published by Arts Council Tokyo
テキストは初回の授業で PDF 版を紹介する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考 本授業では各回、持ち回りで学生に和訳レジュメ作成と発表を課す。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑

概要

この授業では、現在の文化芸術を巡る環境と社会との関係について学術的な視点で書かれた英語文献を取り上げて通読する。後期は前期より難易度が高い英語原典の購読に取り組む。Hans Abbing（ハンス・アビング）著「Why Are Artists Poor? The Exceptional Economy of the Arts」（金と芸術 なぜアーティストは貧乏なのか？）より、第 6 章「構造的貧困」を取り上げ、翻訳しながら、経済学の視点から分析したアーティストの環境を紐解く。

到達目標

学術的文献の精読を通して、まずは英語の読解力の向上を目的とする。その上で、テキストが扱う事例を補完する文献リサーチ等を通して、現代の文化政策の重要な要素のひとつとなっている「文化芸術と社会の関わり」の概要と具体を理解することを目標とする。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション Introduction を通読する。	事前 特になし 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 40 分
第 2 回	アーティストはいつの時代も貧乏だったわけではない。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 3 回	芸術における貧困を救済しようという願いが大規模な助成を出現させた。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 4 回	低い収入は芸術に本来備わっているものである。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 5 回	アーティストの数は助成金のレベルに適合する。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 6 回	オランダにおける助成金は貧困を減少させることなく、アーティストの数を増加させた。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 7 回	助成金は政府がアーティストの世話をするというシグナルである。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 8 回	貧困の緩和を狙った助成金と寄付が実際には貧困を悪化させる。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 9 回	低価格の教育はアーティストになることは安全であるというシグナルである。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 10 回	社会給付はアーティストになることは安全であるというシグナルである。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 11 回	アーティストは家族の富や副業によって収入を補っている。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 12 回	アーティストは複数の仕事を持つことによってリスクを軽減する。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 13 回	アーティストは生産者であるよりも、むしろ消費者であるかも知れない。	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 14 回	アーティストは「供給過剰」なのだろうか、あるいは低い収入はその代償なのだろうか？	事前 次回の章を通読し、わからない単語を予め調べる。担当学生はレジュメ作成する。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分
第 15 回	Research Assignment	事前 課題の準備をする。 事後 授業で扱った用語や概念を復習し、理解を深めておく。 60 分 30 分

フィードバック

各自が作成してきた和訳に対する講評およびリサーチ課題に対するフィードバック

成績評価

レジュメ作成と発表（80%）、リサーチ課題の発表と提出（20%）

テキスト

“Why Are Artists Poor? The Exceptional Economy of the Art”
Written by Hans Abbing
Published by Amsterdam University Press
テキストは初回の授業で PDF 版を紹介する。

オフィスアワー

月曜 V 駒 研究室にて

備考

本授業では各回、持ち回りで学生に和訳レジュメ作成と発表を課す。

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	

民族音楽学 1

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司		科目コード：MUS111
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～3 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特徴と相互の影響関係について理解を深める。 民族音楽学 1 では「アフリカ」「南アジア」「東南アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。	
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。	

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション アフリカ（1）儀礼と音楽	事前	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	アフリカ（2） 太鼓の諸相	事前	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	アフリカ（3） 音楽構造の特徴と原理	事前	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	アフリカ（4） アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	事前	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	南アジア（1） 言語・文化の多様性	事前	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	南アジア（2） 古典音楽と地方の伝統音楽	事前	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	南アジア（3） 古典音楽の理論と楽器	事前	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	南アジア（4） 古典舞踊	事前	教科書の p.95～97 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	南アジア（5） ボビュラー音楽	事前	教科書の p.98～100 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	東南アジア（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	東南アジア（2） 青銅のひびき	事前	教科書の p.104～106 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東南アジア（3） ガムラン音楽	事前	教科書の p.106～110 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	東南アジア（4） 竹のひびき	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	東南アジア（5） 現代に生きる伝統音楽	事前	教科書の p.112～116 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	総括 理解度確認テスト	事前	第 1 回～14 回までの授業内容の復習	220 分
		事後	理解が不十分だった箇所を復習する。	60 分

フィードバック

- ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
- ・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価

期末試験 60％ プレゼンテーション 20％ 小テスト 20％

テキスト

- ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
- ・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング

少人数のグループに分かれ、プレゼンテーションを行う（発表後、講師がコメント）

備考

- ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
- ・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□

民族音楽学 2

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 丸山洋司		科目コード：MUS112
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～3 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特質と相互の影響関係について理解を深める。民族音楽学 2 では、「ヨーロッパ」「西アジア・中央アジア」「東アジア」という三つの地域をとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。	
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。	

第 1 回	ヨーロッパ（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.42～44 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	ヨーロッパ（2） ヨーロッパの「伝統音楽」	事前	教科書の p.44～46 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	ヨーロッパ（3） 東ヨーロッパの舞踏と音楽	事前	教科書の p.46～47 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	ヨーロッパ（4） スコットランドの舞踏と音楽	事前	教科書の p.47～50 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	ヨーロッパ（5） スコットランドの音楽様式	事前	教科書の p.50～55 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	ヨーロッパ（6） ポピュラー音楽	事前	教科書の p.56～58 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	西アジア・中央アジア（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.60～64 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	西アジア・中央アジア（2） イスラームと音楽	事前	教科書の p.64～66 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	西アジア・中央アジア（3） 楽器	事前	教科書の p.66～68 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	西アジア・中央アジア（4） 音楽理論 マカーム	事前	教科書の p.69～73 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	東アジア（1） 民族文化的背景	事前	教科書の p.118～120 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東アジア（2） 中国の伝統劇	事前	教科書の p.122～129 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	東アジア（3） モンゴル・チベットの音楽	事前	教科書の p.132～134 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	東アジア（4） 朝鮮半島の音楽	事前	教科書の p.134～137 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	総括 理解度確認テスト	事前	第 1 回～14 回までの授業内容の復習	220 分
		事後	理解が不十分だった箇所を復習する。	60 分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60％ プレゼンテーション 20％ 小テスト 20％

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

特殊講義（西洋音楽史）-1

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ベートーヴェンからロマン派までの流れを軸に、その前後の時代、バロック～古典派、後期ロマン派～近現代までの楽曲・演奏スタイルの変遷に関して、演奏家の立場から考察する。必要に応じて音楽教育史にも触れてゆく

到達目標	クラシック音楽史の全体像を把握するのみではなく、鑑賞を通して自ら体感し、さらにそれぞれの演奏・教育・研究活動に活かしてゆくことを目標とする
------	---

授業計画		
第 1 回	J.S. バッハ	事前 バッハの作品を聴いておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 2 回	J.S.バッハの息子たちから古典音楽へ	事前 バッハの息子の名前を調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 3 回	ハイドン、モーツァルト	事前 2 人の作曲家、特にモーツァルトについて作品名を調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 4 回	ベートーヴェン①ピアノ曲を中心に	事前 ベートーヴェンの生没年と生涯について調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 5 回	ベートーヴェン②交響曲を中心に	事前 9 つの故郷局の概要を調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 6 回	ベートーヴェン③室内楽曲、その他	事前 ベートーヴェンの生涯についてよく把握しておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 7 回	ロマン派《初期》シューベルト、ウェーバーなど	事前 時代背景について調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 8 回	ロマン派《ドイツ・フランス》シューマン、ショパン、メンデルスゾーン他	事前 シューマン、ショパンについて調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 9 回	ロマン派《中期から後期へ》ブラームス、他	事前 ブラームスについて調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 10 回	ヴァーグナー	事前 ヴァーグナーの楽劇のタイトルを調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 11 回	ロマン派から近現代へ シェーンベルク、ベルク	事前 19 世紀末から 20 世紀初頭の作曲家名を調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 12 回	ロシア、北欧、東欧などの音楽	事前 ロシア、北欧、東欧の作曲家について調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 13 回	フランスの近代音楽 ドビュッシー、ラヴェル他	事前 ドビュッシー、ラヴェルについて調べておく 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 14 回	メシアンとその弟子たち	事前 新鮮な耳で授業に臨む準備をする 事後 授業で取り上げた作品を積極的に鑑賞する 130 分 140 分
第 15 回	学生による研究発表	事前 授業で取りあげたテーマの中から指定されたトピックについて発表の準備をする 事後 他の人のプレゼンテーションについて考察を深める 130 分 140 分

フィードバック 各レポートへのコメントや質疑応答など

成績評価 授業への積極的参加度および第 15 回の研究発表の内容により評価する

テキスト

オフィスアワー 授業後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒

特殊講義（日本音楽史）-1

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS205

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。
到達目標	音楽史学の方法論の基礎を身につける。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を応用して自身で設定した課題に取り組むことができる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音楽史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることができる。

第 1 回	史料による実証的日本音楽史—史料から何が分かるか。参考文献の紹介	事前 シラバスを熟読し、本科目の概要を把握する。質問事項をまとめておく。	40 分
		事後 様々な史料形態とその特徴をまとめる。『古典音楽文献解題』を読む。	240 分
第 2 回	考古学史料に見る音楽—残るものと残らないもの（見学準備を含む）	事前 音楽関係の出土史料について国内外のものを搜索する。	90 分
		事後 特に興味を抱いたモノについて調査を進める。	190 分
第 3 回	【AL】実地見学—東京国立博物館の埴輪・銅鐸・鏡など（形状・意匠・素材・技巧）（グループワーク）	事前 見学調査の準備をする。	120 分
		事後 調査結果をまとめ、特に注目すべき点について意見交換し、考察する。	160 分
第 4 回	コトの変遷—種類、機能、象徴性、宗教性、技術等	事前 様々なコトの種類やその象徴的意味について事前調査をする。	40 分
		事後 古典文学のコト、出土したコトの意匠、コトの多様性や変遷について考察する。	240 分
第 5 回	東アジアの中の日本—外交と音楽—なぜ音楽の輸入が必要だったのか	事前 古代中国の世界史的位置やその音楽について事前調査をする。	250 分
		事後 遣唐使が伝えた音楽の源流について追跡調査を行い、その意義を考察する。	30 分
第 6 回	東大寺大仏開眼供養と正倉院宝物	事前 東大寺大仏建立および正倉院の歴史について事前調査をする。	90 分
		事後 論点を絞り、大仏開眼供養および正倉院宝物の音楽史的意義を考察する。	190 分
第 7 回	【AL】文献史料から国家公務員としての音楽家組織や編成を知る	事前 雅楽寮および楽所についての事前調査を行う。	110 分
		事後 講義で扱った史料の再読し、史料の意義を考察する。	170 分
第 8 回	【AL】文献史料としての楽譜を読む—日本音楽の記譜法と解説の歴史	事前 日本に現存する世界最古の楽譜が何か、またその信憑性を調べる。	110 分
		事後 古楽譜解説の追跡調査を行い、その適否を検証する。	170 分
第 9 回	【AL】文献史料としての『国家珍宝帳』を読む—至宝としての楽器の博物学的記述	事前 『東大寺献物帳』について事前調査を行う。	80 分
		事後 奈良時代の楽器の多様性と現代雅楽の編成とを比較し、相違の理由を考察する。	100 分
第 10 回	【AL】『国家珍宝帳』記載史料と現存楽器とを照合してみよう	事前 前回の調査結果を踏まえ、『国家珍宝帳』の記述の疑問点をまとめる。	230 分
		事後 現存する正倉院宝物との対応関係について考察する。	50 分
第 11 回	【AL】図像史料から分かること—『舞楽散楽図』の諸本調査（1）	事前 『舞楽散楽図』（通称「信西古楽図」）について事前調査を行う。	110 分
		事後 何がどのような順に描かれていたかを整理し、次回に備える。	170 分
第 12 回	【AL】日本の文献調査（史料批判）実体験—『舞楽散楽図』の諸本調査（2）	事前 個々の絵（ジャンル、楽器、演目など）についての調査を行う。	140 分
		事後 音楽史研究における諸本調査の意義と重要性について考察する。	140 分
第 13 回	日本の権門と音楽	事前 ヨーロッパ及び日本の音楽の担い手と権力者との関係について事前調査する。	190 分
		事後 権門の音楽上の業績と音楽史における意義について考察する。	90 分
第 14 回	【AL】『梁塵秘抄口伝集』断簡を調査する	事前 『梁塵秘抄』についての事前調査を行う。	140 分
		事後 調査結果をまとめながら、文献史料調査の基本を定着させる。	140 分
第 15 回	前期総括—史料と日本音楽史	事前 これまでの講義における諸問題を整理する。	130 分
		事後 日本音楽史における史料の意義について考察する。	150 分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価 40%、成果物 30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊 1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 講義で扱った楽器について各自 1 種を選択し、調査を行い、Youtube 内の演奏例を含め楽器紹介のプレゼンテーションを行う。
参加者は全員感想を述べる。平安時代の龍笛譜から音を復元し、現代雅楽との比較をグループで行う。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐

特殊講義（日本音楽史）-2

准教授 櫻井利佳

科目コード：MUS206

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本音楽史研究は、史料の搜索および研究が前提となるが、とりわけ古代については近年様々な史料が発掘され、それに伴い、古代東アジア世界における文物の交流の様相が次第に明らかになりつつある。日本にどのような音楽史料が存在し、どう活用し得るのか。これまでの研究史の問題点を踏まえ、最新の成果を実践的に検証する。受講生の適正に応じ講義内容を調整する。
到達目標	音楽科教育における日本音楽史の基礎を形成する。日本にはどのような音楽史料があるのか、それぞれがどのような意味を持つのかについて、講義で得た知見を応用して自身で設定した課題に取り組むことができる。アジアの中の日本の位置を確認しながら、実証的音楽史研究について正しく認識し、講義で提示された問題点について考察を深めることができる。

授業計画		
第 1 回	歴史的存在としての音楽家—なぜ日本の歴史的音楽家の名を知らないのか—	事前 明治維新以前の日本の音楽家を調べる。 120 分 事後 自国の歴史的音楽家に対する自身の知識について考察する。 160 分
第 2 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（1）奈良時代編—遣唐使—	事前 奈良時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 60 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 220 分
第 3 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（2）平安時代編—殿上と地下—	事前 平安時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 170 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 110 分
第 4 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（3）鎌倉・南北朝時代編—一家家—	事前 鎌倉・南北朝時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 70 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 210 分
第 5 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（4）室町時代編—声明・猿楽・当道等—	事前 室町時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 90 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 190 分
第 6 回	【AL】日本の歴史的音楽家名鑑を作ろう（5）江戸時代編—箏・三味線・尺八等—	事前 江戸時代にどのような音楽史料があるかを調べる。 130 分 事後 調査結果をグループでまとめ、推敲する。 150 分
第 7 回	【AL】世界最古の音楽家の出演料を調べよう—東大寺文書—	事前 世界における古い音楽家の出演料を調べる。 120 分 事後 古文書の音楽史的意義を考察する。 160 分
第 8 回	【AL】世界の印刷文化と日本の印刷楽譜—文明四年版（声明集）調査—	事前 世界における古い印刷技術や印刷楽譜を調べる。 70 分 事後 上野学園大学日本音楽史研究所の音楽史的意義を考察する。 210 分
第 9 回	【AL】実地見学—職人の聖地浅草を歩く—官本卯之助商店見学—	事前 浅草の音楽文化史以上の意義を調べる。 100 分 事後 浅草に現存する、江戸以来の音楽文化の意義について考察する。 180 分
第 10 回	【AL】楽器史料調査（1）世界唯一の現存楽器「揩鼓」調査—	事前 唐楽における編成の変遷（打楽器）を調べる。 70 分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 210 分
第 11 回	【AL】楽器史料調査（2）楽器の意匠とその意味を調べる—	事前 唐楽における編成の変遷（管または絃楽器）を調べる。 100 分 事後 調査結果をまとめながら、楽器調査の基礎を定着させる。 180 分
第 12 回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた音楽場面—	事前 古典文学作品に描かれた音楽場면을調べる。 100 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 180 分
第 13 回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた音楽家—	事前 古典文学作品に描かれた音楽家を調べる。 80 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200 分
第 14 回	【AL】文献史料としての文学—作品に描かれた楽器—	事前 古典文学作品に描かれた楽器を調べる。 80 分 事後 講義で読んだ場面の音楽史的意義を考察する。 200 分
第 15 回	後期総括—日本音楽史は歴史学・美術史・古典文学史とともにある—	事前 これまでの講義で調査した様々な史料を振り返り、各々の観点を復習する。 120 分 事後 日本の音楽史料の豊富さと多様性について考察する。 160 分

フィードバック 各講義内の課題についての質疑応答や、課題の取り組みやその成果物に対し、添削・講評を付して返却し、相互に理解度を確認できるようにする。

成績評価 講義内の課題への取り組み姿勢（積極性、計画性、創造性、協調性、実行力等）30%、期末評価 40%、成果物 30%

テキスト 授業内プリント配布。
参照資料：日本音楽史研究所編『日本音楽史料叢刊 1』ほか、適宜紹介。

オフィスアワー 水曜 12:40-14:10 上野学園大学 2F 日本音楽史研究所 Email:nok@uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 講義で扱った楽器について各自 1 種を選択し、調査を行い、Youtube 内の演奏例を含め楽器紹介のプレゼンテーションを行う。
参加者は全員感想を述べる。平安時代の龍笛譜から音を復元し、現代雅楽との比較をグループで行う。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□	□	□

特殊講義（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子		科目コード：EDU201		
対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生				
形態：講義		単位数：2 単位		
概要	「音楽の授業」そのものを研究し、音楽の授業を観る目を養うと共に「授業分析」の方法を学び、児童・生徒にとって価値のある音楽授業について共に考えていく。「授業準備」「曲のもつ教材性」「教師が発するの言葉の有効性」「授業の展開」「児童・生徒の変容」「指導と評価」「教師自身の人間性や音楽教育観」等の視点からアプローチする。その学びを基に、理想的な授業の構想を協働的に練り上げる。			
到達目標	実際に繰り広げられる教師と生徒、生徒相互の音楽活動を介した関わりの中で、生徒が音楽的諸能力を身に付け、音楽的にも人間的にも成長するとはどういうことか、音楽の授業を分析することによって明らかにし、音楽の授業を観る目を養うと共に、自身の授業実践に生かしていけるようにする。			
授業計画				
【AL】	分析対象とする授業を VTR で共に視聴し、授業分析の手法に則って分析、考察する。次に分析で明らかになったことを生かして、自分たちで授業構想を練り、授業実践で検証する。			
第 1 回	オリエンテーション 音楽授業分析について事例を通して知る。	事前 事後	これまでに参観、或いは受講した授業について、語るができるよう準備する。 配布資料を見直し、音楽授業分析について整理する。	130 分 140 分
第 2 回	授業分析 1	事前 事後	授業 1 の資料を事前に読んでくる。 自分が担当した視点を整理して提示された書式に入れてまとめる。	130 分 140 分
第 3 回	授業 1 の分析データのすり合わせと考察	事前 事後	自分が担当した視点で、授業での実際を提示し考察できるようにする。 授業 1 についての評価を、多角的な視点を入れてまとめる。	130 分 140 分
第 4 回	授業分析 2	事前 事後	授業 2 の資料を事前に読んでくる。 自分が担当した視点を整理して提示された書式に入れてまとめる。	130 分 140 分
第 5 回	授業 2 の分析データのすり合わせと考察	事前 事後	自分が担当した視点で、授業での実際を提示し考察できるようにする。 授業 2 についての評価を、多角的な視点を入れてまとめる。	130 分 140 分
第 6 回	授業分析 3	事前 事後	授業 3 の資料を事前に読んでくる。 自分が担当した視点を整理して提示された書式に入れてまとめる。	130 分 140 分
第 7 回	授業 3 の分析データのすり合わせと考察	事前 事後	自分が担当した視点で、授業での実際を提示し考察できるようにする。 授業 3 についての評価を、多角的な視点を入れてまとめる。	130 分 140 分
第 8 回	授業分析 4	事前 事後	授業 4 の資料を事前に読んでくる。 自分が担当した視点を整理して提示された書式に入れてまとめる。	130 分 140 分
第 9 回	授業 4 の分析データのすり合わせと考察	事前 事後	自分が担当した視点で、授業での実際を提示し考察できるようにする。 授業 4 についての評価を、多角的な視点を入れてまとめる。	130 分 140 分
第 10 回	授業の構想を練る（1）	事前 事後	自身が実践してみたい授業・教材について、その根拠をしめし、伝えられるように準備する。 複数の提案授業の中で、自分が関わることに決めた授業について、教材研究を行う。	130 分 140 分
第 11 回	授業の構想を練る（2）	事前 事後	自分が関わることに決めた授業について、授業構想を練って、提案できるようにする。 題材名 教材名 指導計画 本時案を考え、メモする。	130 分 140 分
第 12 回	授業の構想を練る（3）	事前 事後	授業に向けて、自分が分担する部分の準備をする。 本番の模擬授業に向けて、シミュレーションをする。	130 分 140 分
第 13 回	模擬授業①を実施し、その授業を分析し、研究の成果を検証する。	事前 事後	グループのメンバーと事前打ち合わせを行う。 参観した授業の分析結果をまとめメール提出する。自身の授業について振り返る。	130 分 140 分
第 14 回	模擬授業②を実施し、その授業を分析し、研究の成果を検証する。	事前 事後	グループのメンバーと事前打ち合わせを行う。 参観した授業の分析結果をまとめメール提出する。自身の授業の振り返りをする。	130 分 140 分
第 15 回	生徒が主体的・協働的に音楽活動を楽しみ「音楽的成長」と「人間的成長」が実現する授業について、授業分析から明らかになったことと、自身が実践したことをすり合わせて考察する。	事前 事後	模擬授業の実践と分析したことを振り返る。 学修のまとめをレポートに書いて提出する。	130 分 140 分
フィードバック		提出物はコメントを入れて返却する。 授業内での討論内容の価値づけと模擬授業と振り返りへのコメント、分析・考察へのコメントを行う。最終レポートは、評価して返却する		
成績評価		授業分析シートと考察 40％ 模擬授業の構想と実践 30％ 最終レポート 30％		

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☑

特殊講義（音楽教育 A）-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU202

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽が得意な子供も苦手意識をもっている子供も、障害を有する子供も、全ての子供が他者と関わり合いながら、音楽活動を真に楽しみ、音楽的な基礎力を身に付け、音楽的成長と人間的成長を実現していく授業について、事例を分析しながら共に考えると共にワークショップで実際に体験する。
到達目標	授業者の研究専門分野である日本の伝統音楽・郷土の音楽の指導を通しての子供の変容とその根拠を、最新の研究成果も紹介しながら、なぜ日本の子供が日本の音楽でどの子も大きく変容していくのか、その根拠と指導法を理解する。

授業計画	提示した課題についての討論が中心となつて展開する授業であるが、実技も適宜取り入れていく。
------	--

第 1 回	オリエンテーション どの子供も生き生きと取り組む授業とは	事前 参観した授業や自分が受けた授業で生徒が生き生きと取り組んだ授業をまとめる。	180 分
第 2 回	事例研究 1 地域のお雛子の実践による子供の変容	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにメモしておく。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 3 回	事例研究 2 能の謡の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 4 回	事例研究 3 民謡「斉太郎節」の実践による子供の変容	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 5 回	事例研究 4 唱歌を用いた和太鼓の実践による子供の変容	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 6 回	事例研究 5 自国の音楽の価値や魅力を、自分の言葉で語ることのできる子供の育成 ～そこに至るまでの教材研究・教材作成・授業の仕掛け～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 7 回	事例 1 ～ 5 の授業分析と考察	事前 1 ～ 5 の事例の共通点を見出し、子供の変容の鍵をまとめる。	180 分
第 8 回	ろう学校での音楽授業から学ぶ	事後 意見交流や討論によって見出した理論を、文章化する。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 9 回	特別支援教育での音楽授業から学ぶ	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 10 回	日本語を話す声での歌唱活動による音楽的・人間的成長の軌跡 ～音声スペクトルの変容から明らかにする～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 11 回	自然で無理のない豊かで響きのある声で歌う子供の育成 ～山内の実践から、有効な指導法・子供の声の変容した「点」について～	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 12 回	「自然で無理のない豊かで響きのある声」とは音声生理学的にどのような声か ～最新の研究成果より～	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	100 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	180 分
第 13 回	世界の民俗音楽の授業実践「箏のルーツを探ろう」より	事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
第 14 回	全ての子供が輝き、成長する音楽授業を実践するために必要な教師の資質・能力を考える。	事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
		事前 事前配布資料を読んでくる。	180 分
		事後 意見交流や講義を通して自分の考えが広がった部分について、ノートにまとめる。	100 分
第 15 回	学修を振り返り、最終レポートを執筆する。	事前 特殊講義学びを振り返り、事前に与えられたテーマについて考えてくる。	200 分
フィードバック	日々の授業は、提示した課題の検討となる。授業の中でフィードバックを行う。	事後 教員のコメントが記載された最終レポートを読み直し、教職への理解を更に深める。	80 分

成績評価	授業に臨む姿勢・発言（50％） 最終レポート（50％）
------	-----------------------------

- テキスト
- ・「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編」文部科学省
 - ・毎時間、必要な資料を配付する。

オフィスアワー 授業の前後に対応する。E メールでの相談にも随時応じる。

備考 教職を履修している学生は、履修することが望ましい。尚、中学・高等学校の音楽免許状で、小学校の音楽専科教員に配置される場合も多く、非常勤講師での任用も多いため、講義・演習は、小学校 1 年生から高等学校 3 年までの音楽授業に対応できる力を養うことを目指したい。事例研究の考察では、音楽科教育における理論と実践の往還を大切にする。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解									授業を通して修得できる力						
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

特殊講義（音楽教育 B）-1

准教授 田中里佳

科目コード：EDU203

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この講義では、多角的な視点からこれからの音楽教育を考えていく。主に音楽科授業とそれに関連するトピックを採り上げ、音楽教育の課題や意義を考える。その上で、これからの音楽教育とその授業を創造していくための知識や理解を深める。

到達目標	現代の日本の学校における音楽教育の課題と意義を自分の言葉で述べるができるようになること、音楽教育に関する新しい考え方を活かして、これからの音楽教育を創造的に構想できるになること、これらを目指す。
------	---

授業計画	前半は、主に学校における音楽教育の実際と課題を考察し、後半は、音楽教育の新しい可能性を検討していく。下記のテーマに沿って、毎回、グループワークやディスカッションを行う。
------	--

第 1 回	オリエンテーション 学習指導要領と音楽科教育の変遷	事前 学習指導要領を再読しておく。	180 分
		事後 学習指導要領を熟読する。	100 分
第 2 回	音楽教育におけるリズムの可能性（1）アフタービート	事前 学習指導要領を把握しておく。	180 分
		事後 討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 3 回	音楽教育におけるリズムの可能性（2）言葉とリズム	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 4 回	音楽教育におけるリズムの可能性（3）言葉そのものが持つリズムの魅力	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 5 回	音楽教育の課題（1）音楽科授業外の音楽教育	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 6 回	音楽教育の課題（2）アウトリーチ	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 7 回	音楽教育の課題（3）ジェンダー	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 8 回	音楽教育の課題（4）生涯教育と音楽	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 グループワークを通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 9 回	これまでの音楽教育の課題とこれからの音楽科が担う役割 レポート①	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の課題について考えておく。	180 分
		事後 レポートを完成させる。	100 分
第 10 回	サウンド・エデュケーション（1）イヤー・クリーニング	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 課題を完成させる。	100 分
第 11 回	サウンド・エデュケーション（2）サウンド・スケープ	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 課題を完成させる。	100 分
第 12 回	創造的音楽活動（1）音	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 課題を完成させる。	100 分
第 13 回	創造的音楽活動（2）旋法	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 課題を完成させる。	100 分
第 14 回	創造的音楽活動（3）音列	事前 配布資料に目を通しておく。	180 分
		事後 課題を完成させる。	100 分
第 15 回	まとめ 新しい音楽教育の新たな可能性 レポート②	事前 これまでの講義を振り返り、音楽教育の新たな可能性について考えておく。	200 分
		事後 全体の内容を振り返り、レポートを完成させる。	80 分

フィードバック	毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙げた疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。
---------	--

成績評価	毎回のトピックに対して、情報を収集したり、そのトピックにある問題点について意見を述べるなど、能動的な授業への参加や深く考察するなどの主体的な取り組みを重視する。授業での取り組みとリフレクション・カード（40%）、レポート①（30%）、レポート②（30%）
------	---

テキスト	・『中学校学習指導要領解説 音楽編』 講義の内容に応じて、適宜プリントを配布する。
------	--

オフィスアワー	授業終了後やメールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考	授業回数の 3 分の 1 以上の欠席がある場合は、単位を出すことはできない。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	□	□	☑

特殊講義（音楽教育 B）-2

准教授 田中里佳

科目コード：EDU204

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	学校における音楽科の学習について、義務教育 9 年間のカリキュラムの系統性と単元（題材）構成の考え方を把握する。小学校における学習内容を教科書教材を用いて理解した上で、中学校・高等学校における学習への理解を深める。その後に、系統性を活かした単元（題材）をデザインする。

到達目標	義務教育 9 年間の音楽教育の系統性と高等学校における音楽教育の系統性（縦の系統性）を理解し、その系統性を活かした単元（題材）をデザインできるようになること、縦の系統性だけではなく、複数の学習活動（表現・鑑賞）を有機的に結び付けたつながり（横の系統性）を生かした単元（題材）をデザインできるようになることを目指す。
------	---

授業計画	教科書掲載の教材を採り上げ、その教材の魅力や課題を検討する。その教材研究を通じて、縦の系統性と横の系統性の双方を理解する。その後に、縦の系統性を活かした題材（単元）・横の系統性を活かした題材（単元）をデザインし、模擬授業やディスカッションを通じて検討・改善する。
------	---

第 1 回	オリエンテーション 義務教育 9 年間の系統性と単元（題材）構成	事前 学習指導要領を再読するとともに、これまで受けた音楽教育を振り返っておく。	180 分
		事後 学習指導要領を熟読する。	100 分
第 2 回	小学校における音楽科の学びと系統性（1）低学年の学び	事前 学習指導要領を再読し、小学校低学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後 グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 3 回	小学校における音楽科の学びと系統性（2）中学年の学び	事前 学習指導要領を再読し、小学校中学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後 グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 4 回	小学校における音楽科の学びと系統性（3）高学年の学び	事前 学習指導要領を再読し、小学校高学年の目標を把握しておく。	180 分
		事後 グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 5 回	小学校における音楽科の学びと中学校における学びの系統性	事前 学習指導要領を再読し、小学校と中学校の系統性を把握しておく。	180 分
		事後 グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 6 回	中学校 3 年間の系統性（1）創作：リズム	事前 教科書にどのような教材があるのかを把握しておく。	180 分
		事後 創作（リズム）に関する中学 3 年間の系統性をまとめておく。	100 分
第 7 回	中学校 3 年間の系統性（2）創作：旋律	事前 教科書にどのような教材があるのかを把握しておく。	180 分
		事後 創作（旋律）に関する中学 3 年間の系統性をまとめておく。	100 分
第 8 回	中学校 3 年間の系統性（3）創作と歌唱・器楽、鑑賞との関連	事前 教科書の単元がどのような教材で構成されているのかを把握しておく。	180 分
		事後 単元における学習活動の関連性を整理しておく。	100 分
第 9 回	中学校における音楽科の学びの検討（単元構成）	事前 教科書に掲載されている単元構成を把握しておく。	180 分
		事後 単元と教材の関係をまとめておく。	100 分
第 10 回	中学校における音楽科の学びの検討（教材研究）	事前 採り上げたい単元を選定しておく。	180 分
		事後 授業に必要なプリント等を完成させる。	100 分
第 11 回	中学校における単元・授業のデザイン（1）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。	180 分
		事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 12 回	中学校における単元・授業のデザイン（2）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。	180 分
		事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 13 回	中学校における単元・授業のデザイン（3）模擬授業と授業検討	事前 学習指導要領を再読し、中学校の目標を把握しておく。	180 分
		事後 授業検討を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 14 回	中学校における学びと高等学校における学びの系統性	事前 学習指導要領を再読し、中学校と高等学校の目標の違いを把握しておく。	180 分
		事後 グループワークや討論を通じて考えたことをまとめておく。	100 分
第 15 回	高等学校における単元・授業のデザイン まとめ	事前 中学校の教材と高等学校の教材の関連性を把握しておく。	200 分
		事後 授業の内容を振り返り、小学校から高等学校 12 年間の学びの系統性をまとめる。	80 分

フィードバック	毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。
---------	---

成績評価	能動的な授業への参加や深く考え考察するなどの主体的な学修への取り組みを重視する。授業での取り組みとリフレクション・カード（50%）、単元（題材）デザインについての取り組み（50%）
------	--

テキスト	中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年、「中学生の音楽 1」「中学生の音楽 2・3 上」「中学生の音楽 2・3 下」「中学生の器楽」教育芸術社
------	---

オフィスアワー	授業終了後やメールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考	授業回数の 3 分の 1 以上の欠席がある場合は、単位を出すことはできない。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

特殊講義（文化創造論）-1

非常勤講師 三ツ木紀英

科目コード：MGT201

対象コース／専門／学年： GLA コース/文化創造マネジメント専門/2 年次 GLA コース/音楽学・音楽教育専門/2-3 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3 年次

形態： アクティブ・ラーニング

単位数 2 単位

概要 この特殊講義は、人の「まなび」のプロセスに着目し、人の好奇心を触発し、創発するための手法を会得することを目的とする。具体的に、対話型鑑賞のワークショップ体験・ファシリテーション実践・企画を通して、理論と実践スキルを往還的に獲得する。アートが社会に対して果たせる役割について思考を深める。将来、様々なコミュニティのなかでアートを使った仕事に就きたい学生や、アクティブ・ラーニングに関心のある学生、アウトリーチ活動やワークショップ実践などに関心のある学生を主な対象とする。

到達目標 後期の授業では、以下を到達目標とする。①音楽ワークショップにおける鑑賞と対話の意義を理解する ②美術で確立された対話型鑑賞の理論と手法をベースに、対話型音楽鑑賞のプログラムを体験・企画・実践しながら、鑑賞プログラムのデザインを理解する。③対話型のファシリテーションの体験と実践を通して、音楽ホール企画担当者だけでなく、教員を目指している人や社会教育機関、一般企業に勤める上でも役立つ実践的なコミュニケーション・スキルを養う。
グループワークに積極的に参加し、好奇心を持って新しい可能性を探索する授業態度が望ましい。

授業計画		
第 1 回	芸術の価値を創造する-アート NPO の文化創造：アートで社会を活かすこと (集中講義 1 日目)	事前 80 分 事後 100 分
第 2 回	対話型美術鑑賞ワークショップを体験し、その意義・理論・背景を理解する (集中講義 1 日目)	事前 80 分 事後 20 分
第 3 回	音楽ホールの仕事と、対話型音楽鑑賞の可能性 (集中講義 1 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 4 回	対話型音楽鑑賞の体験し、ファシリテーションを理解する (集中講義 1 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 5 回	作品選びと事前準備 (集中講義 1 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 6 回	対話型鑑賞を実践する (集中講義 2 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 7 回	対話型鑑賞の実践をふりかえる (集中講義 2 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 8 回	対話型鑑賞を実践する-対話で生まれる言葉と音楽とのつながりを考える (集中講義 2 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 9 回	鑑賞者について考える-鑑賞プログラムの組み立て方 (集中講義 2 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 10 回	対話型鑑賞プログラムプランを発表 (集中講義 2 日目：ゲスト講師)	事前 80 分 事後 20 分
第 11 回	鑑賞プログラムの空間・場作りを考える (集中講義 3 日目)	事前 80 分 事後 20 分
第 12 回	鑑賞プログラムの企画する (集中講義 3 日目)	事前 80 分 事後 20 分
第 13 回	鑑賞プログラムの企画をふりかえる (集中講義 3 日目)	事前 80 分 事後 20 分
第 14 回	鑑賞プログラムを実践する (集中講義 4 日目)	事前 80 分 事後 20 分
第 15 回	鑑賞プログラム実践をふりかえる (集中講義 4 日目)	事前 80 分 事後 100 分

フィードバック 実践やディスカッションについて、その都度、口頭でフィードバックする。

成績評価 授業と課題とプレゼンテーションへの取り組み内容と理解度、最終報告書を元に、総合的評価する。参加の積極性も加味する。

テキスト 授業内で課題で出す場合は随時、指示する。以下、参考図書。
山口晃、三ツ木紀英、フィルムアート社編集部（2014）『現代アートの本当の見方・「見ること」が武器になる』.フィルムアート社.
若尾裕(2014)『親のための新しい音楽の教科書』.サポテン書房.
荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎編（2012）『まなびを学ぶ』.東京大学出版社.
渡辺裕(2012)『聴衆の誕生-ポストモダン時代の音楽文化-』.中公文庫.
中川真、三ツ木紀英、フィルムアート社編集部（2011）『これからのアートマネジメント“ソーシャル・シェア”への道』.フィルムアート社.

オフィスアワー 基本的に授業後教室にて。または E-mail で対応 mitsukinorie@a05.itscom.net

備考 音楽ホールの企画担当者を迎え、対話型音楽鑑賞が音楽ホールでどう活用されているのかを学びながら、キャリアモデルとして音楽ホールの仕事に触れる。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒

特殊講義（文化創造論）-2

非常勤講師 楊 淳婷		科目コード：MGT202
対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門／2 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3 年次生		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	近年、芸術運営の特徴の一つは「芸術と社会をつなぐ」ことにある。こども、高齢者、障害者や外国人などを含んだ多様な市民が芸術と出会い、芸術の働きかけによって社会の機能が向上すると考えられている。本講義では「芸術による共生社会の創造」を主軸に、複数の事例を取り上げて、芸術の公益性を多方向から捉え、社会の文脈に根ざした芸術運営と初歩的な実践方法について説明する。	
到達目標	芸術と社会の関係性を知る。特に、すべての人が共に生きる社会を実現する「文化芸術の社会包摂機能」について理解する。 地域・社会に根ざした芸術運営のあり方をグローバルとローカル、両端の視点から認識する。 地域的・社会的課題を見出し、それを芸術活動の企画提案書へと練り上げていく基礎的な調査分析力と発想、情報整理力を身につける。	

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：芸術運営の定義や今日的な意義について（導入）	事前 社会における芸術の意義について考えてみる 120 分 事後 授業を通して身につけたい知識・スキルについてイメージする 150 分
第 2 回	芸術と社会の関係性：芸術運営の変遷 1980 年代～2010 年代	事前 身近にある芸術活動の概要を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 3 回	芸術と社会の関係性：「共生社会」、「文化芸術の社会包摂機能」や「多文化共生」とは何か	事前 第 3 回のテーマと関連した芸術活動を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 4 回	芸術と人づくり：福祉（高齢者、障害者、生活保護者の課題など）とアート	事前 第 4 回のテーマと関連した芸術活動を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 5 回	芸術と人づくり：国際交流、在留外国人とアート	事前 第 5 回のテーマと関連した芸術活動を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 6 回	芸術と地域づくり：地域的課題（災害、過疎化など）とアート	事前 第 6 回のテーマと関連した芸術活動を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 7 回	芸術と地域づくり：創造都市論、芸術文化の施設や拠点	事前 第 7 回のテーマと関連した芸術活動を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習と、授業で取り上げられた事例について調べ、理解を深める 150 分
第 8 回	フィールドワークの基礎的技法、フィールドワークする事例の概説	事前 フィールドワークの定義について調べる 120 分 事後 授業内容の復習 150 分
第 9 回	フィールドワークの実践：芸術活動を参加・記録する	事前 フィールドワークする芸術活動について調べる 120 分 事後 フィールドワークした芸術活動について分からなかったことをさらに調べる 150 分
第 10 回	フィールドワークの振り返りとディスカッション	事前 フィールドワークを通して集めた情報を整理する 120 分 事後 ディスカッションを通して浮かび上がった論点を整理する 150 分
第 11 回	企画の発案：企画づくりの基礎的技法、注意事項、作成事例	事前 身近にある芸術活動の企画概要を調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習 150 分
第 12 回	企画の発案：ロジックモデルの説明、作成事例	事前 ロジックモデルの定義について調べてみる 120 分 事後 授業内容の復習 150 分
第 13 回	企画提案書®の作成：情報収集 ※企画提案書は企画の目的や骨組みを示す簡易の企画書である	事前 企画を作る素材を集める 120 分 事後 企画を作る上で、難しいと感じたことについて考える、質問する 150 分
第 14 回	企画提案書の作成：企画構成	事前 企画を作る素材を集める 120 分 事後 企画を作る上で、難しいと感じたことについて考える、質問する 150 分
第 15 回	学生による企画提案書のプレゼンテーション、講義内容の総括	事前 企画を作る素材を集める 120 分 事後 他の学生の発表内容についてコメントシートを記入し、講義内容を振り返る 150 分

フィードバック 授業内の発言や発表などに対して随時フィードバックを行う

成績評価 課題の評価：フィールドワークのレポート（20%）、企画提案書（20%）、企画提案書のプレゼンテーション（20%）、第 15 回講義中のコメントシート（10%）。
講義中の積極的な発言内容と態度（30%）

テキスト 適宜資料を配布する。
主な参照資料：
小林真理、片山泰輔監修・編（2009）『アーツマネジメント概論 三訂版』水曜社
熊倉純子監修（2014）『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』水曜社
佐々木雅幸、水内俊雄編著（2009）『創造都市と社会包摂 文化多様性・市民知・まちづくり』水曜社

オフィスアワー 授業終了後教室にて（事前に Email にて連絡が望ましいに wind-0000966@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考 本科目はディスカッション、フィールドワークや企画提案書の発表などによる積極的な授業参加を求める。フィールドワークは基本オンラインで実施するが、社会状況を鑑みて芸術活動の現場に赴くことも視野に入れている。講義が授業時間外に実施する場合もあることを了承しておくこと。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□

特殊講義（ビジネス経営論）-1

客員教授	原源郎	科目コード	MGT203
対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門／2 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3 年次生 4 年次生			
形態	講義 ゼミによる講義とディスカッション	単位数	2 単位
概要	経営計画に基づく音楽ビジネス経営		

到達目標 経営計画に基づく基礎知識を通じて音楽ビジネスのスキルに役立てる

授業計画	経営計画書の作成に必要な個々の知識の修得 ※日程により、講義順が変更になる場合がある。		
第 1 回	ビジネス経営とは何か？ 経営計画書は全ての存続のツール	事前 ビジネス経営の概論を予習 事後 復習	135 分 135 分
第 2 回	経営計画の内容と作り方 コンサート計画書と照合する	事前 事業経営は思想と技術 事後 復習	135 分 135 分
第 3 回	予備知識 会社の規模とマーケット コンサート、音楽ビジネスの規模とマーケット	事前 決算書の用語知識を予習 事後 復習	135 分 135 分
第 4 回	経営の現状分析と問題点 生産性指数 音楽ビジネスマーケットと比較	事前 売上高占有率を予習 事後 復習	135 分 135 分
第 5 回	目標損益計算書 コンサート損益計算書	事前 利益計画について予習 事後 復習	135 分 135 分
第 6 回	経常利益計算・固定費用・営業外損益 コンサート収支計算書	事前 各語意について予習ついて 事後 復習	135 分 135 分
第 7 回	営業利益・必要粗利益	事前 語意について予習 事後 復習	135 分 135 分
第 8 回	売上原価・利益計画	事前 語意について予習 事後 復習	135 分 135 分
第 9 回	販売計画目標	事前 事業形態とはなにか予習 事後 復習	135 分 135 分
第 10 回	バランスシート	事前 損益計算書は何を表すか予習 事後 復習	135 分 135 分
第 11 回	資金計画書	事前 資金繰りについて予習 事後 復習	135 分 135 分
第 12 回	成功事例より学ぶ	事前 成功事例の会社を考える 事後 復習	135 分 135 分
第 13 回	評価基準を作る	事前 業績を伸ばすための社内基準とは 事後 復習	135 分 135 分
第 14 回	方針書	事前 理念、基本方針、目標などについて考える 事後 復習	135 分 135 分
第 15 回	まとめ・経営計画の活用 音楽業界の現場での経営計画書の活用	事前 長期に維持発展するためのビジネスとはなにか 事後 復習	135 分 135 分

フィードバック 授業中、学生のプレゼンに対して講評する。次回授業の際にレジュメ等で具体的なフィードバックを行う。

成績評価 授業態度 30%、ディスカッション参加 30%、レポート,試験 40%などの総合評価
プレゼン能力、発想、講義への姿勢などの総合評価

テキスト (前期) 適時にデータ、教材配布または参考書を紹介

オフィスアワー 授業前後教室にて
Email: genroh@proarte.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□

特殊講義（ビジネス経営論）-2

非常勤講師 橋本阿友子

科目コード：MGT204

対象コース／専門／学年：GLA コース／文化創造マネジメント専門／2 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～3 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3 年次生

形態：講義	単位数：
概要	今や音楽に限らず芸術に関与する者に必須の知識となった「著作権」及び「契約」の入門的知識を学ぶ。コンサートで演奏したり、演奏を SNS で公開する場合の法的問題や、自作の音楽をどう管理するか等に関する、社会に出てから有用となるであろう知識を学ぶ。また、音楽における「盗作」を法的観点から考察する。
到達目標	著作権及び契約の基本的な知識の習得

授業計画	音楽活動にかかわる者が社会に出て直面する可能性のあるトラブルを想定し、対処に必要な知識を教授
------	--

第 1 回	イントロダクション：著作権法とは何か	事前 法律とは何か、著作権法は何を規律するかを考察する。	90 分
		事後 著作権法の基本的な考え方を整理する。	180 分
第 2 回	著作物とは何か：音楽・メロディ・歌詞	事前 身の回りにあるもので著作物と思われるものを予測する。	180 分
		事後 予習で予測した身の回りのものを、著作物とそれ以外に区別してみる。	90 分
第 3 回	著作権とは何か：著作権は誰のものか？	事前 自分が著作権を有しているものがないか、考察する。	180 分
		事後 著作権が創作者に帰属しない場合について、整理する。	90 分
第 4 回	著作権侵害とは何か：どのような場合に著作権を侵害するか？	事前 著作権が問題となったニュースをピックアップする。	180 分
		事後 授業で扱った、過去に著作権侵害となったケースについて考察する。	90 分
第 5 回	著作権を侵害しない場合：楽譜のコピー、文化祭での演奏など	事前 日常生活において、他人の楽曲を無断で演奏する等の音楽の利用例を考察する。	180 分
		事後 著作権侵害にならないケースについて考察する。	90 分
第 6 回	著作権の保護期間とは何か：いわゆるクラシックはなぜ自由に演奏できるか？	事前 クラシックとポップスを演奏するときの違いについて考察する。	180 分
		事後 保護期間の基本的な考え方を踏まえ、保護期間が満了していない楽曲を整理する。	90 分
第 7 回	著作権管理団体：JASRAC とは？「音楽教室裁判」とは？	事前 JASRAC が話題になった最近のニュースを考察する。	180 分
		事後 JASRAC の役割について整理する。	90 分
第 8 回	SNS と著作権：SNS 上で動画をアップすれば著作権侵害になる？	事前 音楽を SNS 等で利用したことがある人は、その利用方法を検証する。	180 分
		事後 SNS を利用する場合の注意点について整理する。	90 分
第 9 回	音楽の盗作とは：どこが似ていれば音楽が類似しているか？	事前 自分が盗作だと思ふ音楽について、どこが似ているかを考察する。	180 分
		事後 著作権侵害になり得る盗作について考察する。	90 分
第 10 回	音楽の盗作とは：「どこまでいこう」事件、「バシッと！きめたいそう」事件	事前 第 9 回の講義を復習する。	180 分
		事後 授業で扱った判例の考え方を復習し、その是非について考察する。	90 分
第 11 回	著作隣接権とは：演奏家の権利とは？	事前 演奏家がどのような権利をもっているか、考察する。	180 分
		事後 隣接権の中でも特に実演家と呼ばれる権利者の権利を整理する。	90 分
第 12 回	著作権以外の権利：肖像権・パブリシティ権、商標権等、著作権類似の権利（貸譜の考察）	事前 演奏会での写真撮影についての問題点（もしあれば）を考察する。	180 分
		事後 コンサートを開催する際に注意すべき事項を整理する。	90 分
第 13 回	契約とは何か	事前 身のまわりで契約と呼ばれるものがないか、考察する。	180 分
		事後 契約の重要性を整理する。	90 分
第 14 回	アーティスト・マネジメントと契約	事前 第 13 回の講義を踏まえ、著作権法と契約の関係について考察する。	180 分
		事後 著作権法と契約の関係を整理する。	90 分
第 15 回	試験とまとめ	事前 第 14 回までの講義を復習する。	180 分
		事後 試験の内容を復習する。	90 分

フィードバック 授業中に小テストを行い、講評する。レポートについて、添削やコメントを付す。

成績評価 試験【80％】、授業への取り組み【20％】

テキスト 参考文献として、「18 歳の著作権入門」（ちくまプリマー新書／福井健策著）、「著作権とは何か ―文化と創造のゆくえ」（集英社新書／福井健策著）

オフィスアワー 初回授業にて周知する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑

演習（音楽教育 A）-1

教授 山内雅子

科目コード：EDU301

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：演習

单位数：2 单位

概要	本授業は、卒業論文やレポートを執筆するための準備的役割を担うものである。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文ならびにレポート執筆に必要なとなる基礎的な知識、スキルを習得していく。
----	---

到達目標	本授業では、いくつかの論文を読み、音楽に関する研究がどのように進められ、論文としてまとめられているのかを知る。そして、受講者それぞれの関心に即した論文のデザインおよび冒頭部の執筆、発表、議論を通して、卒業論文を執筆するための基礎的な能力を身につけることを目指す。
------	--

授業計画 前期は、音楽に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。

【AL】

第1回	オリエンテーション	事前 シラバスを読んでおく。 事後 デキストを購入し、目を通しておく。	60 分 220 分
第2回	論文を書くための問いの立て方	事前 デキストの1章を読んでおく 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第3回	論文を書くための段取り	事前 デキストの2章を読んでおく 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第4回	論文を書くときの考え方	事前 デキストの3章を読んでおく 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第5回	授業で取り上げる論文の選定～学会誌の目次と要旨を読む～	事前 論文でテーマにしたいことを考えておく 事後 第2回から第4回までの内容をふりかえっておく	180 分 100 分
第6回	論文①の紹介、解説、議論～歴史的方法、史料調査～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	220 分 60 分
第7回	論文②の紹介、解説、議論～歴史的方法、インタビュー～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第8回	論文③の紹介、解説、議論～心理学的方法、インタビュー～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第9回	論文④の紹介、解説、議論～心理学的方法、実験～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第10回	論文⑤の紹介、解説、議論～心理学的方法、観察～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第11回	論文⑥の紹介、解説、議論～心理学的方法、質問紙～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第12回	論文⑦の紹介、解説、議論～音楽学的方法、音響分析～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第13回	論文⑧の紹介、解説、議論～音楽学的方法、作品分析～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第14回	論文⑨の紹介、解説、議論～多様な方法を用いた研究～	事前 配布された論文を読み、わからないところを明確にしておく。発表者は配布用のレジュメを作成する。 事後 プリントを仕上げる	180 分 100 分
第15回	前期のまとめ	事前 これまでに読んだ論文を振り返り、一番興味があったテーマを自覚しておく。 事後 後期に扱いたいテーマについて考えておく	100 分 180 分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み 50%、レポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版，2012.
このほか、必要に応じてプリントを配布します。

オフィスアワー 授業内で随時質問や相談に応じます。また、メールでも質問、相談を受け付けます。

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐

演習（音楽教育 A）-2

教授 山内雅子

科目コード：EDU302

対象コース／専門／学年： GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽教育の卒業論文を執筆するための基礎的なスキルを身に付ける。それぞれの学生が関心をもった分野について学生が自身が論文を検索し、レビューし発表する。質疑応答を通して、新たな課題を発見したり、更に課題を深く掘り下げ、それぞれの学生が卒業論文として取り組むテーマを絞り込んでいく。

到達目標	音楽教育研究について、研究領域や研究方法を理解し、論文執筆のスキルを身に付けると共に、卒業論文のテーマを決め、大まかな研究計画をたてることを到達目標とする。
------	--

授業計画	後期は、前期で学んだことを踏まえて、受講者それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、各自研究の目的および方法を定め、「はじめに」や「研究の方法」の部分を書く。 【AL】		
第 1 回	前期の学修の振り返りと、後期の学修の進め方について	事前 前期の学びを振り返り、関心をもった分野や研究方法をまとめる。 事後 自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。	162 分 108 分
第 2 回	音楽教育研究の実践演習 学生 A 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 3 回	音楽教育研究の実践演習 学生 B 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 4 回	音楽教育研究の実践演習 学生 C 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 5 回	音楽教育研究の実践演習 学生 D 論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 6 回	音楽教育研究の実践演習 学生 A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 7 回	音楽教育研究の実践演習 学生 B 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 8 回	音楽教育研究の実践演習 学生 C 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 9 回	音楽教育研究の実践演習 学生 D 先行研究に使える論文レビューと討論	事前 発表学生は、自分で選んだ論文をレビューしてくる。他の学生は、図書館等で論文を検索する。 事後 発表者による発表と討論を通して学んだことをまとめる。	162 分 108 分
第 10 回	研究主題の検討	事前 これまでの学修を基に、各自の論文主題の方向について、案を考えてくる。 事後 各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。	162 分 108 分
第 11 回	研究主題と研究方法の検討	事前 論文主題の再提案と共に、研究方法について考え、まとめてくる。 事後 各自の提案と意見交換、指導されたことを基に、論文主題と研究の方法を検討する。	162 分 108 分
第 12 回	指導担当教官の仮決定と今後の研究計画についての検討	事前 修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。 事後 各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。	162 分 108 分
第 13 回	それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査	事前 これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。 事後 指導教官（仮）の指導を受け、研究領域について先行研究の検索と精査を行う。	162 分 108 分
第 14 回	それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について	事前 研究主題設定の理由と研究の目的を書く。 事後 研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。	162 分 108 分
第 15 回	それぞれの研究の方法についての検討	事前 研究の方法について書く。 事後 2 月、3 月に進めておく課題を明確にし、取り組む。	162 分 108 分

フィードバック 毎回の授業で小さな課題を与える。各課題は回収後にコメントをつけて返却し、濃やかなフィードバックを行う。

成績評価 授業への取り組み：発表課題の準備が十分になされている。友人の発表に対して適切な質問・指摘ができている。
レポート課題及び発表：資料を効果的に用いて、相手に伝わる内容になっているか。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 （平成 29 年） ・それぞれ、学生が選んだ論文をコピーし、持参する。

オフィスアワー E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがあります。変更点は、事前に連絡します。
本演習は、音楽教育に関する論文執筆のための講義と演習が中心となる。講義はゼミ形式で発表と討論と指導を核として行う。
後期の 12 回以降は、音楽教育担当教員が複数で対応することもある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐

演習（音楽教育 B）-1

准教授 田中里佳

科目コード：EDU303

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義

単位数：2 単位

概要

本授業は、卒業論文を執筆するための準備的役割を担う。論文とは何か、また、どのようにして書けば良いのかなど、論文執筆に必要な基礎的な知識、スキルを習得していく。それとともに、論文の購読やディスカッションを通じて、自分の興味あるテーマを見つけていく。

到達目標

テキストを用いて、論文とその書き方の基本を理解すると同時に、教育や音楽教育に関する研究論文を講読し、問いの立て方、研究方法、分析、考察の実際を理解する。また、それぞれの関心に即した論文を選定し、それを講読・検討することを通して、卒業論文を執筆するにあたっての興味を抱くことのできるテーマを見出していくことを目指す。

授業計画

テキストにそって、論文の書き方の基礎を学ぶ。同時に、教育や音楽教育に関するいくつかの論文を講読し、研究の目的に合った資料の集め方や分析の方法などについて学ぶ。その中で、行ってみたい研究やそのスタイルを見出す。

第 1 回	オリエンテーション 論文とはなにか	事前 シラバスを読んでおく。	60 分
		事後 テキストを購入し、目を通しておく。	220 分
第 2 回	論文を書く意義とは	事前 テキストの 1 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 1 章の要点をまとめておく。	100 分
第 3 回	論文とはどのような文章か	事前 テキストの 2 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 2 章の要点をまとめておく。	100 分
第 4 回	論文の課題の 4 種類	事前 テキストの 3 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 3 章の要点をまとめておく。	100 分
第 5 回	論文の構成要素とは	事前 テキストの 4 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 4 章の要点をまとめておく。	100 分
第 6 回	論文を読む（1）問いの立て方に注目して	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。	180 分
		事後 問をどのようにたてるのかについてまとめておく。	100 分
第 7 回	論文を読む（2）研究の方法（調査方法・分析方法）に注目して	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。	180 分
		事後 研究の方法についてまとめておく。	100 分
第 8 回	論文を読む（3）4 つの視点での検討	事前 興味のある題材の論文を選定しておく。	180 分
		事後 よい論文とはどのような論文化をまとめておく。	100 分
第 9 回	アウトラインの役割とは	事前 テキストの 5 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 5 章の要点をまとめておく。	100 分
第 10 回	論証の方法（1）演繹法	事前 テキストの 6 章を読んでおく。	180 分
		事後 演繹法についてまとめておく。	100 分
第 11 回	論証の方法（2）帰納法	事前 テキストの 6 章を読んでおく。	180 分
		事後 帰納法についてまとめておく。	100 分
第 12 回	論文の完成までの道のり	事前 テキストの 7 章を読んでおく。	180 分
		事後 論文完成までのスケジュールを考えておく。	100 分
第 13 回	パラグラフとは	事前 テキストの 7 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 7 の要点をまとめておく。	100 分
第 14 回	わかりやすい文章を書くために	事前 テキストの 8 章を読んでおく。	180 分
		事後 テキストの 8 章の要点をまとめておく。	100 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 これまでに読んだ論文をふりかえり、どのスタイルの論文を書きたいかを考えておく。	180 分
		事後 後期に扱いたいテーマと研究方法を考えておく。	100 分

フィードバック

課題についてはコメントとともにフィードバックする。また、疑問・質問は授業中・授業後に随時対応する。

成績評価

授業への取り組み 50%、課題あるいはレポート 50%

テキスト

戸田山和久『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012。
適宜、参考とする論文プリントも配布する。

オフィスアワー

メールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考

受講者数などによって、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	□

演習（音楽教育 B）-2

准教授 田中里佳

科目コード：EDU304

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次生

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽教育を含む教育についての卒業論文を書くことを目指し、論文作成に向かうための具体的な演習を行う。また、研究方法についての知識を得る。関心のあるテーマを扱っている論文を検索・選定し、その論文をレビューすることを通じて、自己のテーマを絞り込んでいく。その後に仮テーマを決め、先行研究の検討・研究の目的・研究方法についての演習を行う。
到達目標	教育に関する研究について、研究方法と倫理を理解し、論文を書くためのスキルを身に付ける。また、卒業論文のテーマを決め、研究計画をたてる。

授業計画	前期の授業を活かし、批判的に先行研究を検討する。それぞれの関心に即した論文を書くことを想定し、研究の目的、研究方法、研究の対象を定め、最終的に卒業論文「序論」になっていく部分の骨格を書く。			
第 1 回	前期の学修のふり返りと、後期の学修の進め方について	事前	前期をふり返り、取り組みたい分野・テーマや研方法をまとめる。	180 分
		事後	自分の論文主題設定に向けて、学修のスケジュールを把握し、学修計画を考える。	100 分
第 2 回	論文検索・資料検索の方法とソース、図書館の活用	事前	前期で扱った論文を読む際の 4 つの視点を確認しておく。	180 分
	論文のレビューの方法と批判的な検討	事後	紹介した検索ソースを中心として、キーワードを入れて検索してみる。	100 分
第 3 回	教育研究の実践演習 学生 A 論文レビューと討論	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
		事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 4 回	教育研究の実践演習 学生 B 論文レビューと討論	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
		事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 5 回	教育研究の実践演習 学生 C 論文レビューと討論	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
		事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 6 回	音楽教育研究の実践演習	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
	学生 A 先行研究に使える論文をレビューし、討論する	事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 7 回	音楽教育研究の実践演習	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
	学生 B 先行研究に使える論文レビューと討論	事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 8 回	音楽教育研究の実践演習	事前	興味あるテーマの論文を検索・選定する。発表する学生は、レビューしておく。	180 分
	学生 C 先行研究に使える論文レビューと討論	事後	発表者による発表と討論を通して、明らかになった疑問点を調べたりまとめておく。	100 分
第 9 回	研究主題の検討	事前	各自の研究する主題について、案を考えてくる。	180 分
		事後	各自の提案と意見交換、指導内容をもとに、論文主題を再度考え、まとめる。	100 分
第 10 回	研究主題と研究方法の検討	事前	論文主題の再提案と、研究方法について考え、まとめておく。	180 分
		事後	各自の提案と意見交換、実現可能性をもとに、論文主題と研究の方法を検討する。	100 分
第 11 回	今後の研究計画についての検討	事前	修正した論文主題と研究方法を提案できるよう準備する。	180 分
		事後	各自の提案と意見交換、指導された内容を生かして修正すると共に、大まかな研究計画をたてる。	100 分
第 12 回	それぞれの研究主題・研究領域の先行研究の検索と精査	事前	これまでの学修を基に研究主題、研究方法、研究計画を作成する。	180 分
		事後	研究領域について先行研究の検索と精査を行う。	100 分
第 13 回	それぞれの研究主題設定の理由ならびに研究の目的について	事前	研究主題設定の理由と研究の目的を書く。	180 分
		事後	研究主題設定の理由と研究の目的を修正する。	100 分
第 14 回	それぞれの研究の方法（調査方法・調査結果の分析の観点）についての検討	事前	現実可能な研究の方法を考える。	180 分
		事後	研究方法と調査方法について書く。	100 分
第 15 回	まとめ 今後の研究の進め方	事前	研究計画をもとに、具体的なスケジュールを考えておく。	180 分
		事後	2 月、3 月に進めておく課題を明確にし、取り組む。	100 分

フィードバック 課題についてはコメントとともにフィードバックする。また、疑問・質問は授業中・授業後に随時対応する。

成績評価 授業への取り組み 50%、課題あるいはレポート 50%

テキスト 戸田山和久『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012。
適宜、参考とする論文プリントを配布する。

オフィスアワー メールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 受講者数などによって、授業の内容を変更することがある。その場合は、事前に連絡する。

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒		☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐

演習（文化創造マネジメント）-1

准教授 佐野直哉

科目コード : MGT301

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次

形態：演習

单位数：2 单位

概要	これまでに学んできたアートマネジメントの全般知識に裏打ちされた独自企画案の作成、先行事例のリサーチと平行する現場での実践体験によりフレキシブルなスキルと思考力、行動力をつける。 また同時に次年度の卒業論文やレポートを執筆するために、自らの企画のリサーチと実践体験を言語化し、論文のコンテキストに落とし込む基礎訓練を行うことを目的とする。
----	--

到達目標	文化創造マネジメントの研究領域や研究方法を理解し、関心のある研究領域の先行研究のリサーチや実践を基にした論文のデザインや、大まかな研究計画を立てることを到達目標とする。
------	--

授業計画

【AL】

第1回	自己紹介とオリエンテーション(導入)	事前 事後	過去2年間の学びと実習体験の欄印しをしておく アートを通して取り組みたい自分の問題意識をリストアップする	100分 170分
第2回	企画立案①: リサーチ<静岡県文化プログラムの事例から> アートと社会課題や地域、観光、ブランディングとの関わり、各自の問題意識の明確化	事前 事後	アートのどのように社会に関わっているのか事例をリサーチする 自分の問題意識に近い活動を行なっている事例をリサーチする	100分 170分
第3回	企画立案②: 先行研究 各自の問題意識に関する先行研究のリサーチと発表	事前 事後	先行研究論文や参考図書はどんなものがあるか図書館で検索する Google Scholar/CiNiI 等で先行研究を検索し、関心領域に近い論文を読んでみる	100分 170分
第4回	企画立案③: 企画概要 第2・3回の授業を踏まえて各自企画概要のまとめ	事前 事後	自分の問題意識を言語化する 企画概要を小レポートとしてまとめ提出する	100分 170分
第5回	企画立案④: 外部環境分析 同種の文化創造活動を取り上げ、競合分析	事前 事後	自分の企画に近い文化創造活動をリサーチする 競合分析のフレームワークを使い、各自の企画のポジショニングを考える	100分 170分
第6回	企画立案⑤: 戦略 問題意識と目的の言語化、戦略と戦術づくり	事前 事後	各自の企画の差別化ポイントを考え、整理する 具体的な戦術プランを練る	100分 170分
第7回	企画立案⑥: 評価 企画のアウトカムと評価方法、	事前 事後	各自の企画の成功の姿を具体的に言語化してみる。ステークホルダー別に考える 授業で扱った評価方法を各自の企画の評価にどのように取り入れられるか考える	100分 170分
第8回	企画立案⑦: 実施運営体制づくり 運営組織づくりとプロジェクトマネジメント、タスクへの落とし込み	事前 事後	各自企画の運営体制をドラフトしておく ガントチャートを完成させる	100分 170分
第9回	マーケティング広報計画立案① プレスリリース作成、様々なメディアをどのように活用するか、誰に何を伝えるべきか	事前 事後	各自企画のオリジナリティやアピールポイントを洗い出しする プレスリリースを完成させる。送り先リストをドラフトする。	100分 170分
第10回	マーケティング広報計画立案② チラシ、ポスターなどの宣伝ツール	事前 事後	プレスリリースの提出準備。送り先リストをドラフトする。 各自企画のチラシの構成を含めたブリーフを作成する。	100分 170分
第11回	ファンドレイジング計画立案① 資金調達の種類と活用方法、予算計画	事前 事後	各自企画の予算案を作成する 各自企画のファンドレイジング戦略を準備する	100分 170分
第12回	ファンドレイジング計画立案② 各自の企画に適した資金調達計画の作成	事前 事後	各自企画のファンドレイジング戦略を準備する 企画書のプレゼンテーション準備	100分 170分
第13回	企画書の完成 各自これまでの積み重ねを企画書としてまとめ、プレゼンテーションを行う	事前 事後	企画書のプレゼンテーション準備 完成企画書をレポートとしてまとめ、提出する	100分 170分
第14回	企画実践演習・フィールドワーク (企画実践: 現場との連絡調整) 各自演習時に進行状況を発表	事前 事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分
第15回	企画実践演習・フィールドワーク (マーケティング・ファンドレイジング案の実施) 各自演習時に進行状況を発表	事前 事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う 各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100分 170分

フィードバック 事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。

成績評価

実習・実践の取り組みと結果 40%、報告書作成課題提出 (40%)、授業態度 20%

テキスト

戸山田和久、『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版，2012
このほか必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー

月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

本演習は、文化創造マネジメントに関する論文執筆のための企画制作実習が中心となる。講義はゼミ形式で学生の発表とディスカッション、グループおよび個別指導を核とする。受講学生の積極性と行動力を必須とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

演習（文化創造マネジメント）-2

准教授 佐野直哉

科目コード：MGT302

対象コース／専門／学年：GLA コース／全専門／3 年次、演奏家コース／全専門／3～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	これまでに学んできたアートマネジメントの全般知識に裏打ちされた独自企画案の作成、先行事例のリサーチと平行する現場での実践体験によりフレキシブルなスキルと思考力、行動力をつける。 また同時に次年度の卒業論文やレポートを執筆するために、自らの企画のリサーチと実践体験を言語化し、論文のコンテキストに落とし込む基礎訓練を行うことを目的とする。
到達目標	文化創造マネジメントの研究領域や研究方法を理解し、関心のある研究領域の先行研究のリサーチや実践を基にした論文のデザインや、大まかな研究計画を立てることを到達目標とする。

授業計画				
【AL】				
第 1 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：広報宣伝の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 2 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：運営体制／演奏者・ボランティアの確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 3 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：評価の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 4 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：当日進行表の確認） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 5 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：ゲネプロ） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 6 回	企画実践演習・フィールドワーク（企画の実践：本番） 各自演習時に進行状況を発表	事前	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	100 分
		事後	各自プロジェクトのガントチャートをベースに実践やフィールドワークを行う	170 分
第 7 回	実践の振り返りと学びの整理、結果や集計したデータの分析を基にしたディスカッション	事前	実践からの学びを整理しておく	100 分
		事後	講評やディスカッションを受けて改善点を整理する	170 分
第 8 回	論文を書くための問いの立て方	事前	テキストの第 1 章を読んでおく	100 分
		事後	内容に従って実習結果を振り返り、整理する	170 分
第 9 回	論文を書くための段取り	事前	テキストの第 2 章を読んでおく	100 分
		事後	内容に従って実習結果を振り返り、整理する	170 分
第 10 回	論文の構成	事前	テキストの第 3 章を読んでおく	100 分
		事後	内容に従って実習結果を振り返り、整理する	170 分
第 11 回	論文形式に沿った企画実践演習のまとめとプレゼンテーション、ディスカッション	事前	プレゼンテーション準備	100 分
		事後	講評やディスカッションを受けて改善点を整理する	170 分
第 12 回	次年度研究計画を立てる：研究テーマの設定	事前	研究テーマを準備する	100 分
		事後	研究テーマを精査、先行研究を検索し、参照する	170 分
第 13 回	次年度研究計画を立てる：先行研究のリサーチ	事前	研究テーマを精査、先行研究を検索し、参照する	100 分
		事後	先行研究を整理する	170 分
第 14 回	次年度研究計画を立てる：仮説と研究方法、実証・実験	事前	仮説を準備する	100 分
		事後	研究計画書のドラフトを準備する	170 分
第 15 回	年間の振り返り、総括と今後の論文執筆について	事前	研究計画書としてまとめ、提出準備する	200 分
		事後	1 年のまとめとしてスキルや思考の変化を確認する	70 分

フィードバック 事前・事後学修のアウトプットに対してコメントを行う。

成績評価 実習・実践の取り組みと結果 40%、報告書作成課題提出（40%）、授業態度 20%

テキスト 戸山田和久、『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』（NHK ブックス No.1194）東京：NHK 出版、2012
このほか必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

アクティブ・ラーニング 各人それぞれの独自企画によるコンサート製作、企画実行の中にグループディスカッション、ディベート、外部団体へのプレゼンテーションリサーチ、発見、問題解決学習などを含む

備考 本演習は、文化創造マネジメントに関する論文執筆のための企画制作実習が中心となる。講義はゼミ形式で学生の発表とディスカッション、グループおよび個別指導を核とする。受講学生の積極性と行動力を必須とする。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力												
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	知識・技能の活用					意欲・経験・多様性						
				コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自己 管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な英語運用能力、および英語プレゼンテーション基礎をさらに発展させる目的で、英会話能力を重点的に伸ばし、コミュニケーション能力の向上を図る。トピックに関する短めの英文を読んだのち、関連する2つの会話文が展開する授業構成。意見をシェアする表現活動も豊富に取り入れる。適宜、英語で講義をおこなう。
到達目標	「異文化とファッション」「フェイクニュースとの付き合い方」など会話が盛り上がるトピックを用いて、初級レベルでも無理なく中身のある会話ができるように導く。発音クリニックも行い、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる

授業計画

第 1 回	Chapter 1: Campus Life Reading/How busy are you?	事前	Check the textbook and look it through	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 2 回	Chapter 1: Campus Life Opinion/Meetings in the morning or in the evening	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 3 回	Chapter 2: Weekends Reading/Who has the most days off?	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 4 回	Chapter 2: Weekends Opinion/Stay home or go out	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 5 回	Chapter 3: Japanese Culture Reading/Japanese words in English	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 6 回	Chapter 3: Japanese Culture Opinion/Animal cafes or maid cafes	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 7 回	Chapter 4: Healthy Living Reading/Living a long and healthy life	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 8 回	Chapter 4: Healthy Living Opinion/Make your lunch or buy it	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 9 回	Chapter 5: Fashion Reading/A controversial fashion ad	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 10 回	Chapter 5: Fashion Opinion/For or against unisex school uniforms	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 11 回	Chapter 6: Life Style Reading/Living with less: Minimalism	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 12 回	Chapter 6: Life Style Opinion/Pros and cons of being a minimalist	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 13 回	Chapter 7: Celebrations Reading/The highest earning song	事前	Prepare your own ideas based on the topic	40 分
		事後	Work Speaking Up A-② and memorize it.	50 分
第 14 回	Chapter 7: Celebrations Opinion/For or against giri choco	事前	Work Speaking Up B-② and memorize it.	40 分
		事後	Complete a writing task and submit.	50 分
第 15 回	Review Chapters 1-7	事前	Go through the units 1-7 and identify where you need more support.	40 分
		事後	Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう！トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

英語コミュニケーションⅡ-2

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	「英語コミュニケーションⅠ」で培った基礎的な英語運用能力、および英語プレゼンテーション基礎をさらに発展させる目的で、英会話能力を重点的に伸ばし、コミュニケーション能力の向上を図る。トピックに関する短めの英文を読んだのち、関連する2つの会話文が展開する授業構成。意見をシェアする表現活動も豊富に取り入れる。適宜、英語で講義をおこなう。
到達目標	「異文化とファッション」「フェイクニュースとの付き合い方」など会話が盛り上がるトピックを用いて、初級レベルでも無理なく中身のある会話ができるように導く。発音クリニックも行い、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる

第1回	Chapter 8: Travel Reading/Alternative places to stay	事前 Check the textbook and look it through 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第2回	Chapter 8: Travel Opinion/Stay at an Airbnb or not	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第3回	Chapter 9: Food Reading/Japanese food in the world	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第4回	Chapter 9: Food Opinion/The best Japanese food	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第5回	Chapter 10: The Environment Reading/Earth Day	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第6回	Chapter 10: The Environment Opinion/How to reduce air pollution	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第7回	Chapter 11: Business Reading/SMS and email	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第8回	Chapter 11: Business Opinion/A busy workplace or a quiet one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第9回	Chapter 12: The Internet and Social Media Reading/Fake news	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第10回	Chapter 12: The Internet and Social Media Opinion/The internet or TV	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第11回	Chapter 13: Sports Reading/First woman to run in the Boston Marathon	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第12回	Chapter 13: Sports Opinion/Belong to many clubs or just one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第13回	Chapter 14: A Barrier-free Society Reading/No limitations!	事前 Prepare your own ideas based on the topic 事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40 分 50 分
第14回	Chapter 14: A Barrier-free Society Opinion/Hiring people with disabilities	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it. 事後 Complete a writing task and submit.	40 分 50 分
第15回	Review Chapters 8-14	事前 Go through the units 8-14 and identify where you need more support. 事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40 分 50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう！トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

マネジメント実習-1

准教授 佐野直哉

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義・実習 単位数 1 単位

概要 芸術ビジネスの市場は縮小し、余暇の過ごし方の多様化、競争の激化、若者の芸術離れなどが指摘されているが、本当にそうだろうか？世界には、効果的なマーケティング戦略によって観客数など劇的な増加を実現した団体がいくつも存在する。本講義ではアーツマーケティングに焦点を当て、内外の成功事例とマーケティングの基礎理論を概観しながら、同時に学んだ内容や発想をもとに足立区梅田地域学習センター主催 L コンサートのグループ企画を立案する。

到達目標 マーケティング的な発想とマネジメント能力を兼ね備えた芸術文化に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身につける。
さらにアーツマーケティングのプロセスを深く学び、実際に応用できる知識とスキルをしっかりと身につける。

授業計画 【AL】 足立区梅田地域学習センターL コンサートの企画運営・広報宣伝までを履修生全員でプロデュースする。

第 1 回	オリエンテーション	事前		分
		事後	足立区の生涯学習政策に関する配布資料を読んでまとめておく	60 分
第 2 回	足立区の生涯学習政策について	事前	足立区立梅田地域学習センターのホームページに目を通し、要点をまとめる	40 分
	足立区梅田地域学習センターおよび L コンサートのミッションとは	事後	これまでの L コンサートプログラムをリサーチし、分析する	60 分
第 3 回	第 2 章「現状と観客の特性をつかむ」レジュメ発表	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40 分
	第 3 章「芸術鑑賞のメリットとは」レジュメ発表	事後	日本における特徴あるプログラムの事例をリサーチする	60 分
第 4 回	第 1 章「芸術ビジネスの可能性」レジュメ発表	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40 分
	企画リサーチ項目リスト決定	事後	リサーチ項目リストを作成し、質問事項を考える。	60 分
第 5 回	足立区梅田地域学習センターでの現地リサーチの実施	事前	担当者と連絡調整し、事前に質問事項を送付しておく	40 分
		事後	リサーチ結果を整理する	60 分
第 6 回	リサーチ結果報告	事前	リサーチ結果報告を作成する。	40 分
	企画会議の実施、企画案作成に向けてアイディアの整理	事後	企画会議の結果を受けて、各自企画案としてまとめておく	60 分
第 7 回	第 4 章「芸術マーケティングの計画を立てる」レジュメ発表	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40 分
	企画書作成、分析	事後	企画書を作成し、教員に送付、フィードバックを受けて修正する。	60 分
第 8 回	第 5 章「作品、会場、コミュニケーション」レジュメ発表	事前	指定図書該当章を読んで、レジュメを作成する	40 分
	企画案修正、最終決定に向けてのディスカッション	事後	タスクを整理し、最終版を作成する	60 分
第 9 回	企画プレゼンテーション	事前	プレゼンテーションのためのパワポを作成する	40 分
	足立区梅田地域学習センター担当者を迎えるのプレゼンテーション実施、フィードバック	事後	フィードバックを受けて修正をおこなう	60 分
第 10 回	企画テーマに基づいた候補曲の選定および決定	事前	あらかじめ候補曲リストを作成し、各曲の背景情報をリサーチしておく	40 分
	候補曲のリストアップ、比較分析、プログラムデザイン	事後	授業内で決めたプログラムデザインを改めて復習し、選定曲リスト最終版作成	60 分
第 11 回	演奏者の選定	事前	選定曲の編成と難易度と演奏者の候補マッチングをあらかじめ考えておく	40 分
	候補曲の編成や難易度に合わせた演奏者のリストアップおよびアプローチ	事後	演奏者にコンタクトを取り始める	60 分
第 12 回	本企画の評価について：PDCA サイクルおよび定性評価と定量評価、参与観察	事前	本企画に必要な評価項目を考え、リスト化しておく	40 分
	観客ターゲットと評価デザイン	事後	観客向けアンケートを作成し、担当者からフィードバックを受けて修正する	60 分
第 13 回	第 8 章「インターネットと芸術ビジネス」	事前	企画内容に適したメディアをリストアップする	40 分
	ローカルメディアに関するリサーチ、プロモーションツールの確定とプランニング	事後	プロモーションツールに合わせたメディアの選定を修正する	60 分
第 14 回	プレスリリースの事例研究および本企画のためのリリース作成	事前	リリースの事例をネットでリサーチしておく	40 分
	様々なチラシ事例の分析、本企画ビジュアルイメージのディスカッション	事後	本企画のリリースを各自ドラフトする	60 分
第 15 回	リリースの作成	事前	本企画のビジュアルイメージを言語化する	40 分
	各自リリースを作成し、比較分析をしながら最終版を作成する。	事後	リリース最終版への修正と完成	60 分

フィードバック レジュメ発表に対する講評、レジュメ作成に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表（30%）、企画プロデュースへの積極的参加と実行（70%）

テキスト ジョアン・シェフ・バーンスタイン（山本章子訳）、『芸術の売り方 劇場を満員にするマーケティング』、英治出版（2007）

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

アクティブ・ラーニング グループディスカッション
発見・問題解決学習、体験、調査学習

備考 本授業では各回、持ち回りで学生にレジュメ作成と発表を課す。また各回学んだ内容をグループ企画に反映させ、その企画を実際に足立区梅田地域学習センターにおける L コンサートとして実施する。そのため外部団体との綿密な連携が必須であり、適宜フィールドワークや連絡調整など授業時間外の実習の機会が数多くあるため、受講学生には強い責任感とやり切る意思を求める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑

マネジメント実習-2

准教授 佐野直哉

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義・実習 単位数 1 単位

概要
本講義ではマネジメント実習1に引き続きアーツマーケティングに焦点を当てる。マーケティングの基礎理論を概観しながら、同時に学んだ内容や発想を、実際の企画プロデュース公演実施に活かしていく。前期で立案した足立区梅田地域学習センター主催 L コンサートのグループ企画とプレスリリースを基に、チラシ作成、演出、マーケティング、オンラインプロモーション、アンケート評価を実践しながら、音楽プロジェクトマネジメントの一連を体験する。

到達目標
アーツマーケティングの理論をマネジメント実習1に引き続きより深く学び、実際の企画プロデュースによる外部連携施設での演奏会実施を通して確実に身につけることができる。演奏会制作の現場のプロジェクトマネジメントを体験し、責任を持ってやり切る。

授業計画
【AL】 足立区梅田地域学習センターL コンサートの企画運営・広報宣伝・実施までを履修生全員でプロデュースする。

第1回	後期の実習授業の進め方について 概要、趣旨、目的、前提条件・出演者ラインナップについての確認	事前 前期で学修したこと振り返り 事後 企画内容を改めて見直し、リリース最終版の再確認	分 60 分
第2回	第6章「芸術の値段」レジュメ発表 チラシ作成のためのブリーフィング	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 授業内学修事項を受けてブリーフィングのドラフト完成	40 分 60 分
第3回	第7章「市場調査の手法とプロセス」レジュメ発表 ブリーフィング最終版完成、デザイナーへコンタクト	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 デザイナーへの連絡調整	40 分 60 分
第4回	第9章「芸術におけるブランドとは」レジュメ発表 デザイナーとのブリーフィング	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 デザイナーへのフォローアップ	40 分 60 分
第5回	第10章「観客ロイヤリティを築く」レジュメ発表 デザインの確認、修正	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 デザイナーへの最終版確定に関する連絡調整	40 分 60 分
第6回	第11章「気まぐれな観客を重視する」レジュメ発表 チラシ完成、配布場所のリサーチと連絡調整	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 梅田地域学習センター周辺地域の訪問、センターと連絡調整の遂行	40 分 60 分
第7回	第12章「芸術鑑賞の経験を、もっと豊かに」レジュメ発表 オンラインマーケティングについて・オウンドメディアの必要性、SNS プロモーション	事前 指定教科書該当章を読んでおく 事後 SNS プロモーションのスケジュールを立てる	40 分 60 分
第8回	会場配布用プログラム内容決定、プロモーションの開始 配布プログラムのデザイン確認、リリースの配信、SNS 投稿スケジュール、素材集めや取材	事前 配布プログラムのデザイン構成をドラフトする 事後 アドバイスとスケジュールに従って取材、投稿文作成、写真素材を集める	40 分 60 分
第9回	演出案について 企画コンセプトに合わせて演出案の決定	事前 演出案のドラフトを用意する 事後 アドバイスに従って演出進行表に落とし込む	40 分 60 分
第10回	演出進行表の作成と調整 足立区梅田地域学習センターにて舞台技術者との打ち合わせ	事前 引き続き演出進行表作成作業をおこない、事前に学習センターに送付 事後 舞台技術者のアドバイスに従って修正、最終版を送付	40 分 60 分
第11回	演奏者の準備進捗状況確認、当日進行表の作成、人員配置、配布プログラムの完成 演奏者に対するブリーフィング、演奏者の現地視察、ボランティア手配	事前 当日進行スケジュールを演習進行表に記載する 事後 ブリーフィングでの懸案事項の解決と配布プログラムの完成	40 分 60 分
第12回	足立区梅田地域学習センターにてゲネプロ実施	事前 ゲネプロにおける確認事項の整理 事後 演出に必要な機材等の確認	40 分 60 分
第13回	企画プロデュース演奏会の実施、アンケートの回収	事前 センター、演奏者、ボランティアとの連絡調整、アンケート準備 事後 アンケートデータの回収と整理	40 分 60 分
第14回	アンケート結果分析	事前 アンケートデータの分析 事後 報告書作成	40 分 60 分
第15回	足立区梅田地域学習センターへの報告	事前 報告書作成 事後 教員とセンターからのフィードバックと反省点の整理	40 分 60 分

フィードバック レジュメ発表に対する講評、企画プロデュースの実践に対するフィードバック

成績評価 レジュメ作成と発表（30%）、企画プロデュースへの積極的参加と実行(70%)

テキスト ジョアン・シェフ・バーンスタイン（山本章子訳）、『芸術の売り方 劇場を満員にするマーケティング』、英治出版（2007）

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

アクティブ・ラーニング グループディスカッション
発見・問題解決学習、体験、調査学習

備考
本授業では各回、持ち回りで学生にレジュメ作成と発表を課す。また各回学んだ内容を足立区梅田地域学習センターでの履修生による企画演奏会に反映させる。そのため足立区梅田地域学習センターとの連携が必須であり、連絡調整など授業時間外の実習の機会が数多くある。受講学生には強い責任感とやり切る意思を求める。
演奏会日程は現在未定だが、日程次第で期の途中より、適宜集中講義の形式を取る可能性もあるので予め承知しておくこと。後期初回の授業で指示する。

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	□	□	□	☒	□	□	□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒		☒

リコーダー合奏

非常勤講師 浅井愛

科目コード：ENS119

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／2 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	大小様々なリコーダー（ソプラノ、アルト、テナー、バス）を使用し、楽器の歴史や構造や特徴、奏法を知り、曲想を理解し、声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫しながら演奏する能力を身につける。 合奏を通じてリコーダーの音色や響きの美しさを味わい、仲間でアンサンブルをする楽しみ・喜びを感じ取る。
到達目標	リコーダー演奏に必要な知識や技術、表現力を身につける。曲想を理解し、声部の役割や全体の響きを感じ取り表現を工夫しながら演奏できる能力を身につける。

授業計画		
【AL】		
第 1 回	ガイダンス リコーダーの歴史 楽器の音色 種類を知る	事前 ソプラノ（バロック式）、アルトリコーダーの準備 60 分 事後 P.1 リコーダーの歴史、種類を理解する 120 分
第 2 回	リコーダーの基礎 リコーダーの仕組み 演奏姿勢と支え方 タンギング 運指 呼吸法 ビッチの取り方	事前 P.2-3 を読み内容を理解する 120 分 事後 アルトリコーダー仕組みを理解 単音で実技練習 音階練習 120 分
第 3 回	アルトリコーダー サンマルティニ リコーダーソナタ 1 楽章	事前 アルトリコーダーの運指確認 サンマルティニ 曲想理解、実技練習 120 分 事後 アルトリコーダーの運指確認 曲想確認 アーティキュレーションの確認と実技練習 120 分
第 4 回	ソプラノリコーダー ビガリア リコーダーソナタ 1 楽章	事前 ソプラノリコーダー音階練習 サンマルティニ 曲想理解 実技練習 120 分 事後 ソプラノリコーダー音階練習 サンマルティニ 作品 アーティキュレーションの確認と実技練習 120 分
第 5 回	テナーリコーダー、バスリコーダー ロンドンデリー・エアー	事前 テナーリコーダー、バスリコーダーの運指確認 曲想理解、実技練習 120 分 事後 運指確認 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 120 分
第 6 回	ルネサンスの舞曲 C.ジェルベーズ 【バヴァース&ガリアルド】	事前 C.ジェルベーズ 曲想の理解 運指確認 実技練習 120 分 事後 C.ジェルベーズ 作品、アーティキュレーションの確認と実技練習 120 分
第 7 回	ルネサンスの舞曲 ルネサンスリコーダーに触れる C.ジェルベーズ 【バヴァース&ガリアルド】	事前 C.ジェルベーズ 曲想理解 運指確認 実技練習 120 分 事後 C.ジェルベーズ 曲想確認 実技練習 120 分
第 8 回	バロックのリコーダー作品 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタイ短調 3 楽章】チェンバロ通奏低音と演奏	事前 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】通奏低音とは何かを調べる 実技練習 120 分 事後 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】曲想確認 実技練習 120 分
第 9 回	バロックのリコーダー作品 まとめ G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタイ短調 3 楽章】チェンバロ通奏低音と演奏	事前 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】運指確認 実技練習 通奏低音実技練習 120 分 事後 G.F.ヘンデル 【リコーダーソナタ】曲想確認 実技練習 通奏低音確認 練習 120 分
第 10 回	バロックのオルガン作品 J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り】よりテーマ	事前 J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り】運指確認 実技練習 120 分 事後 J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り】曲想確認 実技練習 120 分
第 11 回	バロックのオルガン作品 まとめ J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り】よりテーマ、第一変奏	事前 J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り第一変奏】運指確認 和声確認 実技練習 120 分 事後 J.P.スウェーリンク 【わが青春は過ぎ去り第一変奏】曲想確認 実技練習 120 分
第 12 回	日本の現代リコーダー作品 中西覚 リコーダー4 重奏曲【祭り】より宵宮	事前 中西覚 【祭り】臨時記号 運指確認 実技練習 120 分 事後 中西覚 【祭り】曲想の理解 アーティキュレーションの確認と実技練習 まとめ 120 分
第 13 回	現代リコーダー作品 金子健治 【ノスタルジック・エア&ジグ】よりエア	事前 【ノスタルジック・エア】運指確認 実技練習 120 分 事後 【ノスタルジック・エア】曲想確認 アーティキュレーションの確認と実技練習 120 分
第 14 回	現代リコーダー作品 金子健治 【ノスタルジック・エア&ジグ】よりジグ	事前 【ノスタルジック・ジグ】運指確認 実技練習 120 分 事後 【ノスタルジック・ジグ】曲想確認 実技練習 まとめ 120 分
第 15 回	まとめ 復習 レポート提出の説明 ミニコンサート	事前 ミニコンサートへの準備、曲想の確認 実技練習 120 分 事後 授業内容の確認 レポートの資料集め 作成 180 分
フィードバック	授業での課題・実技実践、レポートのコメントなどを通して、学修成果をフィードバックする。	

成績評価 実技演習 60%、授業への積極的な取り組み 25%、レポート 15%

テキスト 授業第 1 回目の時に、資料を配布する

楽器の準備：
授業第 1 回目に、持っているリコーダー（ソプラノ、アルト）を持参すること
ソプラノリコーダーはバロック式、もしくはイギリス式を使用する。ジャーマン式は使用しない

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニプロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□	☒	☒	□	□	□	

歌唱伴奏演習

講師 庄智子

科目コード：EDU305

対象コース／専門／学年： GLA コース/音楽教育専門/3～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース/全専門/3～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	教員採用試験、教育実習に必要な「実技（弾き歌いをしながら指導する）」、を実践的に学ぶ各教材を研究し、実際に「弾き歌い、指導する」ことを授業内で行う

到達目標	教員採用試験「実技」への実践的学習～共通教材全曲の弾き歌いを習得する 教育実習への準備～実習で使用する歌曲作品の弾き歌いを習得する
------	--

授業計画	下記の共通教材及びそれぞれの教育実習教材の作品に取り組む
------	------------------------------

第 1 回	ガイダンス 基本的な発声のメカニズムの理解と実践	事前 教材を用意し、準備する 事後 発声についての理解を深め、読譜する	100 分 180 分
第 2 回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 曲の理解と伴奏パートの習得	事前 発声練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	100 分 180 分
第 3 回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 曲の解説を実践し、自然な日本語歌唱を目指す	事前 歌唱練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 4 回	「赤とんぼ」「浜辺の歌」 リズム、和声を把握しながらスムーズな弾き歌いを習得する	事前 作品の理解を深め良く練習する 事後 授業内の問題点を確認し、解決を図る	140 分 140 分
第 5 回	「夏の思い出」「花」 曲の理解と伴奏パートの習得	事前 発声練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 6 回	「夏の思い出」「花」 曲の解説を実践し、自然な日本語歌唱を目指す	事前 歌唱練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 7 回	「夏の思い出」「花」 リズム、和声を把握しながらスムーズな弾き歌いを習得する	事前 作品の理解を深め良く練習する 事後 授業内の問題点を確認し、解決を図る	140 分 140 分
第 8 回	「荒城の月」「早春賦」 曲の理解と伴奏パートの習得	事前 発声練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 9 回	「荒城の月」「早春賦」 曲の解説を実践し、自然な日本語歌唱を目指す	事前 歌唱練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 10 回	「荒城の月」「早春賦」 リズム、和声を把握しながらスムーズな弾き歌いを習得する	事前 作品の理解を深め良く練習する 事後 授業内の問題点を確認し、解決を図る	140 分 140 分
第 11 回	「花の街」「教育実習教材」 曲の理解と伴奏パートの習得	事前 歌唱練習や読譜、伴奏練習をする 事後 問題点を確認し、解決を図り、伴奏や歌唱の復習をする	140 分 140 分
第 12 回	「花の街」「教育実習教材」 曲の解説を実践し、リズム、和声を把握しながらスムーズな弾き歌いを習得する	事前 作品の理解を深め良く練習する 事後 授業内の問題点を確認し、解決を図る	140 分 140 分
第 13 回	これまでの作品についてそれぞれの問題点を認識し解決を図る	事前 全曲、歌唱、伴奏の練習をする 事後 授業内での問題点を確認し解決を図る	140 分 140 分
第 14 回	これまでに修得した作品の中から発表する曲を選択する	事前 暗譜歌唱を目指し、伴奏の練習をする 事後 授業内での問題点を確認し解決を図る	140 分 140 分
第 15 回	発表と合評 まとめ	事前 弾き歌いの練習を十分に 事後 弾き歌いの質を高める	140 分 140 分

フィードバック 授業への取り組み、発表を通して学修の成果をフィードバックする

成績評価 授業への積極的な取り組み、発表にて評価する

テキスト 授業内に提示する

オフィスアワー 授業開始前または授業終了後、教室にて、並びに Email：shosat.ueno@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽教職実習-1

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田侑一／短期大学部講師 林直美 科目コード：EDU306

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／3 年次

形態：演習と講義	E メールでの個別指導	単位数：0 単位
概要	教員採用試験に合格するための準備講座である。始めに教職教養・専門教養マークシート問題の基礎的な内容を概観し、その後は一次試験合格の鍵となる論文指導を個別にメールで、引き続き面接対策を対面で行う。一次試験が終わってから、二次試験の書類作成、指導案作成、面接対策、歌唱・ピアノ初見視奏、共通教材弾き語りの指導を行う。指導日時は、相談の上計画し実施する。	
到達目標	教員採用試験に合格し、教職を志す学生が一人でも多く教育現場で活躍できるようになることを目標とする。論文を書く際に押さえるべき内容を理解し、その書き方を身に付ける。面接では、適切な話し方や集団面接に臨む際の技能を身に付ける。その他、合格する専門実技の技能を身につける。教職教養、専門教養は7割がとれる力を付けることも目標とするが、これは基本的に、各自で取り組む。	
授業計画	論文指導は、メールでの個別指導を基本とし、随時行う。演習を中心としながら、押さえるべき点を理解していく形で進める。	

【AL】		
第 1 回	オリエンテーション 一人一人の受験先とこれまでの準備の状況・教育実習の期間を確認 授業の進め方も一人一人のニーズに合う形で検討し、学修の方向を決める。	事前 志望する都道府県名、並びに当該都道府県の受験科目を明らかにして持参する。 100分 事後 教職教養・専門教養の自主学習 170分
第 2 回	専門教養 我が国や郷土の伝統音楽 基本事項の概要を理解する	事前 教職教養・専門教養の自主学習 100分 事後 講義で扱った部分の中学校・高等学校の音楽の教科書を熟読し理解する。 170分
第 3 回	教職教養 教育原理 基本事項について概要を理解する。	事前 教職教養・専門教養の自主学習 100分 事後 自分が受験する都道府県の過去問題をを中心に授業で扱った事項を定着させる。 170分
第 4 回	教職教養 教育法規 基本事項について概要を理解する。	事前 教職教養・専門教養の自主学習 100分 事後 自分が受験する都道府県の過去問題をを中心に授業で扱った事項を定着させる。 170分
第 5 回	教職教養 教育時事問題 基本事項について概要を理解する。	事前 自分が受験する都道府県の教育委員会のホームページの記載内容を確認する。 100分 事後 講義の内容を振り返り、過去問題の教育時事に関する問題を見直す。 170分
第 6 回	個人面接対策 必ず問われる課題に対して、的確に述べることができる。	事前 教職教養・専門教養の自主学修 100分 事後 授業で学んだ事項を自身で整理し、個人面接カード等を作成する。 170分
第 7 回	論文指導 個別指導	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 8 回	論文指導 個別指導	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 100分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 9 回	論文指導 個別指導	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 100分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 10 回	集団面接対策 生活指導・生徒理解・規範意識	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 100分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 11 回	集団面接対策 学習指導に関して	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 100分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 12 回	集団面接対策 自己肯定感を高める指導 社会参画の意識を高める指導	事前 自分が受験すると都道府県の論文課題に取り組む 100分 事後 添削指導を受けた内容を修正しながら完成論文となるまで練り上げる。 170分
第 13 回	採用試験直前講座	事前 学修の総点検 100分 事後 学修の総点検 170分
第 14 回	二次試験対策 ピアノ・声楽・弾き語り等実技試験対策 提出書類、面接カード 指導案の作成 面接対策	事前 面接カードの作成 学習指導案の作成 実技の練習 100分 事後 面接カードの修正 学習指導案の作成 実技の練習 170分
第 15 回	二次試験対策 ピアノ・声楽・弾き語り等実技試験対策 提出書類、面接カード 指導案の作成 面接対策	事前 各都道府県に合わせた二次試験対策 100分 事後 各都道府県に合わせた二次試験対策 170分

フィードバック 論文課題は、メールでの個別指導とし、合格論文となるまで粘り強く指導を行う。面接は、一次試験終了後に実施し、その場で指導助言する。
書類作成についても細やかな指導を行う。実技指導は対面で適切に指導助言を行う。

成績評価 教員採用試験に向けての取組み姿勢と共に、論文・面接・実技の評価も当該学生の受験科目に合わせて行う。

テキスト 『学校とつながる教職教養』明星大学出版部（2018 年 3 月発行）
『22 年度 教員採用試験 論作文』 時事通信社（2021 年 3 月発行）
各都道府県の過去問題集（専門教養・教職教養）協同出版（2022 年度版）

フィスアワー 論文指導は、メールにて随時受け付ける。

備考 第 7 回～第 9 回は、メールでの添削指導とする。
一次試験終了後、7 月 8 月 9 月は、一次試験合格者に対して、面接指導、書類作成、指導案作成、実技指導等を、適宜実施する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□

音楽教職実習-2

教授	山内雅子／准教授	田中里佳／短期大学部教授	内田侑一／短期大学部講師	林直美	科目コード：EDU307
対象コース／専門／学年：GLAコース／音楽教育専門／3 年次					

形態	演習と講義	Eメールでの個別指導	単位数：0 単位
概要	次年度の教員採用試験受験者を対象として、教員採用試験の実際とその具体的な準備の方法を伝え、本講座では自宅で各自がテキストを用いて学ぶことが困難な、集団面接対策を中心に行いながら、論文並びに面接に必要な教育に関する基本的な事柄を理解し、実践的な力をつけるようにする。		
到達目標	教員採用試験に合格し、教職を志す学生が一人でも多く教育現場で活躍できるようになることを目標とする。確かな学力を身に付ける指導に関して、生徒理解に関して、自己肯定感を高める指導に関して、情報活用能力の育成に関して等、教育の不易と流行の中での重要な課題についての理解を深める。		

授業計画

オムニバスでの実施

【AL】

第 1 回	オリエンテーション 一人一人の受験先とこれまでの準備の状況を確認。それぞれの受験までの計画をたてる。	事前 志望する都道府県名、並びに当該都道府県の受験科目を明らかにして持参する。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 2 回	集団面接「情報活用能力に関すること①」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 3 回	集団面接「情報活用能力に関すること②」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 4 回	集団面接「情報活用能力に関すること③」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 5 回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること①」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 6 回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること②」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 7 回	集団面接「生活指導・規範意識・自律性に関すること③」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 8 回	集団面接「自己肯定感に関すること」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 9 回	集団面接「社会参画に関すること①」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 10 回	集団面接「社会参画に関すること②」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 11 回	集団面接「学習への取り組みに関すること①」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 12 回	集団面接「学習への取り組みに関すること②」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 13 回	集団面接「学習への取り組みに関すること③」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 14 回	集団面接「学習への取り組みに関すること④」	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 教職教養・専門教養の自主学習	170 分
第 15 回	学修のまとめと論文の書き方	事前 指示された資料を読み考える。	100 分
		事後 論文の執筆を始める。	170 分

フィードバック	授業中に適切に助言を行う。 論文については、個々にメールで指導する。
---------	---------------------------------------

成績評価	学修への取り組みの様子
------	-------------

テキスト	『学校とつながる教職教養』明星大学出版部 （2018 年 3 月） 『22 年度 教員採用試験 論作文』時事通信社（2021 年 3 月発行） 各都道府県の過去問題集（専門教養・教職教養）協同出版 その時点での最新版
------	--

フィスアワー	論文指導は、メールにて随時受け付ける。
--------	---------------------

備考	音楽教育専門以外の教職履修者も、この科目を聴講することが出来る。
----	----------------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□

英語 I-1（コミュニケーション・スキル）

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG103

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	「読んで話す」「聞いて話す」を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。「読む」「聞く」＋「話す」を中心に4技能に対応したオールイングリッシュの構成で、英語でのディスカッションやプレゼンテーションへと繋がる基礎的なコミュニケーション能力を養成する。適宜英語で講義を進めるため、積極的に英語を理解し、話す態度を求める。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手に情報を的確に伝え、また説得することをゴールとする。自らの意見を書いたり、プレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

第1回	Unit 1: Introduction 1 Getting to know your classmates, Learning classroom English	事前 事後	Check the textbook and read it through Work a writing assignment of the unit.	40 分 50 分
第2回	Unit 2: Memories and Experiences 1 Asking and talking about experiences: Reading and Discussion	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第3回	Unit 2: Memories and Experiences 2 Asking and talking about experiences: Listening and Discussion	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第4回	Unit 3: Food and Cooking 1 Giving instructions	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第5回	Unit 3: Food and Cooking 2 Asking questions	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第6回	Unit 4: Health 1 Asking for advice	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第7回	Unit 4: Health 2 Giving advice	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第8回	Unit 5: Humans and Animals 1 Expressing opinions	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第9回	Unit 5: Humans and Animals 2 Agreeing and disagreeing	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第10回	Unit 6: Telling Stories 1 Storytelling and reacting: Reading and Discussion	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第11回	Unit 6: Telling Stories 2 Storytelling and reacting: Listening and Discussion	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第12回	Unit 7: Emotions 1 Describing feelings and emotions: Reading and Discussions	事前 事後	Complete the homework for the unit as pre-unit study Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第13回	Unit 7: Emotions 2 Describing feelings and emotions: Listening and Discussions	事前 事後	Prepare your own ideas for discussions Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第14回	Review Units 2-4	事前 事後	Go through the units 2-4 and identify where you need more support. Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40 分 50 分
第15回	Review Units 5-7	事前 事後	Go through the units 5-7 and identify where you need more support. Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40 分 50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 80% 授業態度 20%

テキスト 「Bridging Communication Skills 基礎から発信への英語コミュニケーションスキル」
鈴木栄 / Matthew Miller / Patrick McClue 著 金星堂

※その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて（事前に Email にて連絡が望ましい。ball-60000846@mail.uenogakuen.ac.jp）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

英語 I -2（コミュニケーション・スキル）

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 佐野直哉

科目コード：ENG104

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	前期に引き続き「読んで話す」「聞いて話す」を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。「読む」「聞く」＋「話す」を中心に 4 技能に対応したオールイングリッシュの構成で、英語でのディスカッションやプレゼンテーションへと繋がる基礎的なコミュニケーション能力を養成する。適宜英語で講義を進めるため、積極的に英語を理解し、話す態度を求める。
到達目標	学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手に情報を的確に伝え、また説得することをゴールとする。自らの意見を書いたり、グループでプレゼンテーションする活動を通して、循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。

授業計画			
第 1 回	Unit 8: Introduction 2 Talking about summer break	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 2 回	Unit 8: Introduction 2 Review of speaking and listening skills	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 3 回	Unit 9: Intelligence 1 Asking for information	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 4 回	Unit 9: Intelligence 2 Clarifying	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 5 回	Unit 10: Superstitions 1 Expressing beliefs	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 6 回	Unit 10: Superstitions 2 Abstract ideas	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 7 回	Unit 11: Comparing Cultures 1 Talking about similarities: Reading and Discussion	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 8 回	Unit 11: Comparing Cultures 2 Talking about similarities: Listening and Discussion	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 9 回	Unit 12: Apologies 1 Apologizing	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 10 回	Unit 12: Apologies 2 Forgiving	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 11 回	Unit 13: Communication 1 Using non-verbal communication	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 12 回	Unit 13: Communication 2 Arguing about a topic	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 13 回	Unit 14: Future Plans 1 Expressing speculation	事前 Complete the homework for the unit as pre-unit study 事後 Revise the reading part, all vocabulary and exercises.	40 分 50 分
第 14 回	Unit 14: Future Plans 2 Expressing possibilities	事前 Prepare your own ideas for discussions 事後 Work a writing assignment of the unit to apply what you have learned in this unit.	40 分 50 分
第 15 回	Review (Unit 8-14)	事前 Go through the units 8-14 and identify where you need more support. 事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40 分 50 分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 80% 授業態度 20%

テキスト 「[Bridging Communication Skills](#) 基礎から発信への英語コミュニケーションスキル」
鈴木栄 / Matthew Miller / Patrick McClue 著 金星堂

。

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

英語 I－1（総合）		科目コード：ENG105	
准教授 佐野直哉			
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年次			
形態：講義		単位数：1 単位	
概要	1 年間のコースを通して異文化理解、食、外国語学習、スポーツ、日本文化、グローバルイシュー、経済・産業、芸術、法律、健康・医療、人権、環境など大学生として問題意識を持ってもらいたい 15 分野を取り上げる。 日本人大学生の弱点を補強し、英語力を伸ばすためのポイントを集中的に学習できる構成とし、4 技能を統合的に伸ばすことを目的とする。		
到達目標	100 語程度の会話を聞き、英語の音声の特色を知り、400 語程度の英文を読み、基礎力を一層強固にし、英語運用力を高める練習をする。また情報を収集し、批判的に考え、自分の考えをまとめて発表できる力を養成する。		

授業計画			
第 1 回	Introduction 授業および学習の進め方、自己紹介等	事前 特になし 事後 特になし	分 分
第 2 回	Cross-Cultural Understanding ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 3 回	Cross-Cultural Understanding ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 4 回	Food ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 5 回	Food ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 6 回	Foreign Language Learning ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 7 回	Foreign Language Learning ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 8 回	Sports ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 9 回	Sports ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 10 回	Fashion ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 11 回	Fashion ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 12 回	Living Things ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 13 回	Living Things ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 14 回	Art ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 15 回	Art ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 前期末試験 80%、授業態度（積極性、予習・復習、宿題など）20%

テキスト 「AMBITIONS：Pre-intermediate」4 技能統合型で学ぶ英語コース：準中級編

（VELC 研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著）金星堂

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□

英語 I -2（総合）A		科目コード：ENG106	
准教授 佐野直哉			
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1 年次			
形態：講義	単位数：1 単位		
概要	1 年間のコースを通して異文化理解、食、外国語学習、スポーツ、日本文化、グローバルイシュー、経済・産業、芸術、法律、健康・医療、人権、環境など大学生として問題意識を持ってもらいたい 15 分野を取り上げる。 日本人大学生の弱点を補強し、英語力を伸ばすためのポイントを集中的に学習できる構成とし、4 技能を統合的に伸ばすことを目的とする。		
到達目標	100 語程度の会話を聞き、英語の音声の特色を知り、400 語程度の英文を読み、基礎力を一層強固にし、英語運用力を高める練習をする。また情報を収集し、批判的に考え、自分の考えをまとめて発表できる力を養成する。		

授業計画			
第 1 回	Global Issues ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 2 回	Global Issues ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 3 回	Japanese Culture ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 4 回	Japanese Culture ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 5 回	Human Rights ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 6 回	Human Rights ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 7 回	Health & Medical Issues ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 8 回	Health & Medical Issues ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 9 回	Environmental Issues ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 10 回	Environmental Issues ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 11 回	Economy & Industry ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 12 回	Economy & Industry ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 13 回	Legal Issues ① Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、会話の内容を予め理解しておく 事後 自習用音声を読み、リスニングで聞き取れなかった部分を聞き取れるように復習する。	45 分 45 分
第 14 回	Legal Issues ② Reading part, Check the Points and Reading Focus, Practice More and Speak Out	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分
第 15 回	Science & Technology Listening part, Check the Details and Listening Focus	事前 自習用音声を読み、Reading part を予め読んでおく。わからない単語を調べておく 事後 Reading part の復習と Say What You Think を練習し、スムーズに言えるようにする。	45 分 45 分

フィードバック 授業内に適宜フィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、授業態度（積極性、予習・復習、宿題など）20%

テキスト 「AMBITIONS: Pre-intermediate」4 技能統合型で学ぶ英語コース：準中級編

（VELC 研究会教材開発グループ / 静哲人 / 望月正道 / 熊澤孝昭 編著）金星堂

オフィスアワー 月曜 V 駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	□	

ドイツ語Ⅰ-1

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR101

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。 この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。
到達目標	読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 90 分）。

第 1 回	ドイツ語のアルファベート、ドイツ語の発音（母音）	事前 事後	教科書の該当箇所を一読する。 アルファベートの発音、発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 2 回	ドイツ語の発音(子音)、曜日、月名その他	事前 事後	教科書の該当箇所を一読する。 発音の規則を復習する。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion1 動詞の現在人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion1 注意の必要な動詞の現在人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion1 定動詞の位置、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion2 名詞の性・数・格、定冠詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion2 不定冠詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion2 動詞 sein, haben, werden の現在人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 9 回	基数、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 基数を覚える。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion3 不規則変化動詞の現在人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion3 複数形、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion3 定冠詞と不定冠詞の格変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion4 前置詞（3 格支配、4 格支配）、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知実を確実なものにする。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion4 前置詞（2 格支配、3・4 格支配）、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion4 前置詞と定冠詞の融合形、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion5 並列接続詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion5 従属接続詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion6 人称代名詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion6 人称代名詞の語順、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 20 回	自己紹介その他、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 自己紹介の表現を身につける。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion7 再帰代名詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion7 再帰動詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 23 回	時刻の表現、非人称表現、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 時刻の表現を身につける。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion8 定冠詞類、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion8 不定冠詞類、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion8 否定冠詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion9 zu 不定詞〔句〕、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion9 分離動詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 29 回	Lektion9 非分離動詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	事前 事後	これまでに学んだ事項を整理する。 総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実なものにする。	30 分 60 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価	評価の基準となるのは主にゼミester末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。 試験 70％、提出物 5％、授業への積極的な取組の如何 25％
テキスト	今村 武 著『見開きドイツ文法 改訂版』（朝日出版社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ドイツ語Ⅰ-2

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR102

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽を学ぶ上で必ず出あうドイツ・オーストリアなどのドイツ語圏文化の一端に触れながら、ドイツ語の使い方の基本ルールを学ぶ。 この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標	読む・書く・聞く・話すという実践力を伸ばす土台となる確かな文法的知識を習得することを目標とする。
------	--

授業計画	基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 90 分）。
------	---

第 1 回	Lektion10 話法の助動詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 2 回	Lektion10 話法の助動詞のワク構造、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 3 回	Lektion10 話法の助動詞の位置、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 4 回	Lektion11 動詞の三基本形、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 5 回	Lektion11 過去人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 6 回	Lektion11 未来形、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 7 回	Lektion12 現在完了形(haben 支配)、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 8 回	Lektion12 現在完了形(sein 支配)、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 9 回	Lektion12 現在完了形(疑問文、副文の場合)、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 10 回	Lektion13 受動態の作り方、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 11 回	Lektion13 受動態の時制、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 12 回	Lektion13 自動詞の受動文、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 13 回	Lektion13 状態受動、練習問題	事前 事後	教科書の当該箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 14 回	Lektion14 形容詞の格変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 15 回	Lektion14 比較級、最上級、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 16 回	Lektion14 形容詞の名詞化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 17 回	Lektion14 序数、過去分詞、現在分詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 18 回	Lektion15 定関係代名詞、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 19 回	Lektion15 定関係代名詞を使った文の作り方、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 20 回	Lektion15 不定関係代名詞	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 21 回	Lektion15 指示代名詞	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 22 回	Lektion15 命令の表現、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 23 回	Lektion16 接続法第Ⅰ式の人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 24 回	Lektion16 接続法第Ⅰ式 要求語法	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 25 回	Lektion16 接続法第Ⅰ式 間接語法、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 26 回	Lektion17 接続法第Ⅱ式の人称変化、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 27 回	Lektion17 接続法第Ⅱ式 非現実語法、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 28 回	Lektion17 接続法第Ⅱ式 丁寧な表現、練習問題	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 当該時間に学んだ知識を確実なものにする。当課に出てきた単語を覚える。	30 分 60 分
第 29 回	文構造	事前 事後	教科書の該当箇所の説明を一読する。 ドイツ語文の文構造を確認し、知識を確実なものにする。	30 分 60 分
第 30 回	既習事項の復習	事前 事後	これまでに学んだ事項を整理する。 総合的な力を形成すべく、不十分であった知識を補い、さらに確実なものにする。	30 分 60 分

フィードバック	授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。
---------	---

成績評価	評価の基準となるのは主にゼメスター末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。 試験 70%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 25%
テキスト	今村 武 著『見聞きドイツ文法 改訂版』（朝日出版社）

オフィスアワー	簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。
---------	--

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識

☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

イタリア語 I-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR105

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。 アルファベートと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	イタリア語のアルファベートと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画	原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。 履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。
------	--

第 1 回	オリエンテーション（授業概要、成績評価に関する説明ほか）	事前 教科書に目を通す 事後 教科書音声教材の準備（ダウンロード）、試聴	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 0：挨拶とアルファベート（解説）	事前 Lezione 0 の例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 0：挨拶とアルファベート（演習）	事前 Lezione 0 の練習問題について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 1：名詞と冠詞（解説）	事前 Lezione 1 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 1：名詞と冠詞（演習）	事前 Lezione 1 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 2：動詞 essere（解説）	事前 Lezione 2 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 2：動詞 essere（演習）	事前 Lezione 2 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 3：形容詞（解説）	事前 Lezione 3 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 3：形容詞（演習）	事前 Lezione 3 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 4：動詞 avere（解説）	事前 Lezione 4 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 4：動詞 avere（演習）	事前 Lezione 4 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用（解説）	事前 Lezione 5 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 5：[-are] 動詞 - 規則活用（演習）	事前 Lezione 5 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用（解説）	事前 Lezione 6 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 6：[-are] 動詞 - 不規則活用（演習）	事前 Lezione 6 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用（解説）	事前 Lezione 7 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 7：[-ere] 動詞 - 規則活用（演習）	事前 Lezione 7 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用（解説）	事前 Lezione 8 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 8：[-ere] 動詞 - 不規則活用（演習）	事前 Lezione 8 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用（解説）	事前 Lezione 9 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 9：[-ire] 動詞 - 規則活用（演習）	事前 Lezione 9 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用（解説）	事前 Lezione 10 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 10：[-ire] 動詞 - 不規則活用（演習）	事前 Lezione 10 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形（解説）	事前 Lezione 11 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 11：名詞と冠詞と形容詞の複数形（演習）	事前 Lezione 11 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 26 回	発展 11：20 以上の数	事前 発展 11 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 27 回	Lezione 12：時刻（解説）	事前 Lezione 12 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 28 回	Lezione 12：時刻（演習）	事前 Lezione12 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 29 回	発展 12：月・曜日・四季	事前 発展 12 の単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 30 回	Lezione 0-12、発展 11-12 のまとめ	事前 Lezione 0-12、発展 11-12 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価	小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。 成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組みと小テスト 20％、期末試験 80％
テキスト	マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』（朝日出版社）

オフィスアワー	授業の前後
アクティブ・ラーニング	教員と各学生との間の Q&A を繰り返しながらの学習
備考	イタリア語の辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力		
知識・技能・理解	知識・技能の活用	意欲・経験・多様性

文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発能力	グローバルな 視野	社会的責任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

イタリア語 I-2

非常勤講師 吉澤早苗 科目コード：FOR106

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語 I-1 からの継続講義。
動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。
語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 過去や未来の時制を中心とする動詞の用法、また人称代名詞や形容詞についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。別途、教科書に即した単語集を配布予定。
履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	Lezione 0-5 の復習	事前 Lezione 0-5 の復習 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 2 回	Lezione 6-11 の復習	事前 Lezione 6-11 の復習 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 3 回	Lezione 13：補助動詞（解説）	事前 Lezione 13 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 4 回	Lezione 13：補助動詞（演習）	事前 Lezione 13 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 5 回	Lezione 14：再帰動詞（解説）	事前 Lezione 14 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 6 回	Lezione 14：再帰動詞（演習）	事前 Lezione14 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 7 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（解説）	事前 Lezione 15 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 8 回	Lezione 15：再帰動詞と代名動詞（演習）	事前 Lezione 15 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 9 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione 16 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 10 回	Lezione 16：近過去 - avere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione 16 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 11 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（解説）	事前 Lezione 17 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 12 回	Lezione 17：近過去 - essere とともに使うとき（演習）	事前 Lezione 17 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 13 回	Lezione 19：半過去（解説）	事前 Lezione 19 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 14 回	Lezione 19：半過去（演習）	事前 Lezione 19 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 15 回	Lezione 20：時制（解説）	事前 Lezione 20 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 16 回	Lezione 20：時制（演習）	事前 Lezione 20 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 17 回	Lezione 21：所有形容詞（解説）	事前 Lezione 21 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 18 回	Lezione 21：所有形容詞（演習）	事前 Lezione 21 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 19 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 22 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 20 回	Lezione 22：直接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione 22 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 21 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（解説）	事前 Lezione 23 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 22 回	Lezione 23：間接補語人称代名詞（演習）	事前 Lezione 23 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 23 回	Lezione 24：命令法（解説）	事前 Lezione 24 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 24 回	Lezione 24：命令法（演習）	事前 Lezione 24 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 25 回	Lezione 27：未来形（解説）	事前 Lezione 27 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業で解説された箇所の復習	30 分 60 分
第 26 回	Lezione 27：未来形（演習）	事前 Lezione 27 の練習問題、会話文について単語の意味と発音を確認 事後 授業で演習した箇所の復習	30 分 60 分
第 27 回	発展 2：存在文「～がある／いる」の表現：ci+essere（活用）	事前 発展 2 の解説、例文を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	60 分 30 分
第 28 回	発展 9：前置詞	事前 発展 9 の解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	30 分 60 分
第 29 回	発展 13：疑問詞のまとめ	事前 発展 13 の解説、例文を読み、解説および練習問題の単語の意味と発音を確認 事後 授業内容の復習	60 分 30 分
第 30 回	Lezione 13-27、発展 2, 9, 13 のまとめ	事前 Lezione 13-27、発展 2, 9, 13 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験準備	30 分 60 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組みと小テスト 20％、期末試験 80％

テキスト マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語ははじめの一步 ―』（朝日出版社）

オフィスアワー 授業の前後

アクティブ・ラーニング 教員と各学生との間の Q&A を繰り返しながらの学習

備考 イタリア語 I-1（前期）からの継続講義となるので、イタリア語 I-1 の単位取得者を対象とする。

学位授与の方針との関連		
知識・技能・理解	知識・技能の活用	意欲・経験・多様性

文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

英語Ⅱ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG203

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、英語力を伸ばすことに加えて、世界への好奇心を伸ばし、国際感覚豊かな教養を身につける。

到達目標	自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持ち、グローバルシチズンとしての自覚を持つ。これからのグローバル社会を生き抜くために必要なスキルを習得する。
------	--

授業計画			
【AL】			
第 1 回	Orientation 自己紹介	事前 教科書を手し、Unit 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	Unit 1 What do you like to do? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 3 回	Unit 1 What do you like to do? Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 4 回	Unit 2 What does she look like? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 5 回	Unit 2 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 6 回	Unit 3 When did you buy that shirt? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 7 回	Unit 3 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 8 回	Unit 4 What's the coldest place on Earth? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 9 回	Unit 4 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 10 回	Unit 5 Are parrots smarter than people? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 11 回	Unit 5 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 12 回	Unit 6 I really like electronic music? Preview, Language Focus, The Real World	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 13 回	Unit 6 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分 135 分
第 14 回	Unit 1－6 ここまでの復習、まとめ、補足	事前 ここまでの授業内容を復習する 事後 理解不足の箇所を確認・復習する	135 分 135 分
第 15 回	Unit 1－6 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Jennifer Wilkin “TIME ZONES 2, Third Edition”（センゲージ・ラーニング）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	☑	☑	□

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	前期に引き続き、日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、英語力を伸ばすことに加えて、世界への好奇心を伸ばし、国際感覚豊かな教養を身につける。

到達目標	自信を持って英語でコミュニケーションができる。国際的な広い視野を持ち、グローバルシチズンとしての自覚を持つ。これからのグローバル社会を生き抜くために必要なスキルを習得する。
------	--

授業計画				
【AL】				
第 1 回	Unit 7 What's for dinner? Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	80 分
		事後	今回の授業内容を復習する	190 分
第 2 回	Unit 7 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 3 回	Unit 8 You should see a doctor! Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 4 回	Unit 8 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 5 回	Unit 9 I often skate after school Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 6 回	Unit 9 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 7 回	Unit 10 How do you get to the restaurant? Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 8 回	Unit 10 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 9 回	Unit 11 What were you doing? Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 10 回	Unit 11 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 11 回	Unit 12 We're going to volunteer! Preview, Language Focus, The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 12 回	Unit 12 Reading, Comprehension, Vocabulary, Video	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する。Review を課題として提出する。	135 分
第 13 回	Unit 7-12 The Real World	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今回の授業内容を復習する	135 分
第 14 回	Unit 7－12 ここまでの復習、まとめ、補足	事前	ここまでの授業内容を復習する	135 分
		事後	理解不足の箇所を確認・復習する	135 分
第 15 回	Unit 7－12 復習に基づいたまとめ、補足 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、小テスト、課題、学期末試験などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Jennifer Wilkin “TIME ZONES 2, Third Edition”（センゲージ・ラーニング）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニ・プロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	☑	☑	□

ドイツ語Ⅱ-1

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR201

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語Ⅰで習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 授業に積極的に参加することをとおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 270 分）。

第 1 回	Lektion1 動詞の現在人称変化	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 2 回	Lektion1 疑問文、疑問詞、不規則動詞 sein	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 3 回	Lektion1 読み物《出会いと自己紹介》を読む	事前 テキストに目をとおす。	120 分
		事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	150 分
第 4 回	Lektion2 名詞と名詞の性	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 5 回	Lektion2 定冠詞と不定冠詞、不規則動詞 haben	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 6 回	Lektion2 読み物《アウクスブルクのカフェで》を読む	事前 テキストに目をとおす。	120 分
		事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	150 分
第 7 回	Lektion3 語幹の母音が変化する不規則動詞、命令形	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 8 回	Lektion3 人称代名詞	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 9 回	Lektion3 読み物《Takashi の友人》を読む	事前 テキストに目をとおす。	120 分
		事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	150 分
第 10 回	Lektion4 名詞の複数形、定冠詞類	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 11 回	Lektion4 不定冠詞類、読み物《家族の写真》を読む	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。テキストに目をとおす。	120 分
		事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	150 分
第 12 回	Lektion5 前置詞の格支配	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 13 回	Lektion5 前置詞の用法、時刻の表し方	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。	120 分
		事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	150 分
第 14 回	Lektion5 読み物《ホテルへの道案内》を読む	事前 テキストに目をとおす。	120 分
		事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	150 分
第 15 回	既習事項の復習	事前 これまでに学んだ事項を整理する。	120 分
		事後 総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確実なものとする。	150 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 35%

テキスト 石原 竹彦他 著『ドイツ語を学ぼう！』（同学社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□

ドイツ語Ⅱ-2

非常勤講師 岩下久美子

科目コード：FOR202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	ドイツ語Ⅰで習得した文法の知識をさらに確かなものとするため、既習の事項を確認しながら、練習問題や平易なドイツ語文の読解に取り組む。この授業は演習の性格を有し、履修者は基本、毎回発言の機会をもつ。

到達目標 授業に積極的に参加することをとおして、幅広いドイツ語知識を獲得し、総合的にドイツ語力を伸ばすことを目標とする。

授業計画 基本的な授業計画は下記の通りであるが、学習状況に応じて前後することがある。事前・事後の学習時間は個々人によって異なる（基準：各回 270 分）。

第 1 回	Lektion6 分離動詞	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 2 回	Lektion6 語法の助動詞	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 3 回	Lektion6 従属接続、読み物《旅行》を読む	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。テキストに目とおす。 事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 4 回	Lektion7 再帰動詞	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う	120 分 150 分
第 5 回	Lektion7 zu 不定詞、読み物《ザルツブルクにて》を読む	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。テキストに目とおす。 事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 6 回	Lektion8 3 基本形、過去形	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 7 回	Lektion8 現在完了形	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 8 回	Lektion8 読み物《ドレスデンへ》を読む	事前 テキストに目とおす。 事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 9 回	Lektion9 形容詞の格語尾、日付の表し方	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 10 回	Lektion9 受動文	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 11 回	Lektion9 読み物《ドレスデンの見どころ》を読む	事前 テキストに目とおす。 事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 12 回	Lektion10 関係代名詞	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 13 回	Lektion10 比較表現、読み物《白雪姫》を読む	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。テキストに目とおす。 事後 新たな知識を確認し、不足している知識を補う。単語を覚え語彙を増やす。	120 分 150 分
第 14 回	文法プラスα 接続法	事前 文法説明を一読する。練習問題を予習する。 事後 問題のチェックをとおして不足している知識を補う。	120 分 150 分
第 15 回	既習事項の復習	事前 これまでに学んだ事項を整理する。 事後 総合的な力を形成すべく、これまでに不足していた知識を補い、さらに確実なものとする。	120 分 150 分

フィードバック 授業での課題や小テスト等についての解説などにより学習成果をフィードバックする。

成績評価 評価の基準となるのは主に期末試験であるが、小テストの結果、提出物の提出状況、授業への積極的な取組の如何などを加味して総合的に評価する。試験 60%、提出物 5%、授業への積極的な取組の如何 35%

テキスト 石原 竹彦他 著『ドイツ語を学ぼう！』（同学社）

オフィスアワー 簡単な質問・相談等は授業終了後に、相当な時間を要する質問・相談等は個々に時間を打ち合わせた上で実施する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	□	□

フランス語Ⅱ-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR203

対象コース／専門／学年 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。

到達目標 1 年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口頭練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。

授業計画

第 1 回	フランス語Ⅰで学んだ知識の復習	事前 P. 52, 「第 2 部のまとめ」の答えを書く。 事後 P. 76, 「第 3 部のまとめ」の答えを書く。	130 分 140 分
第 2 回	Leçon 13：過去の習慣について話す 直接法半過	事前 P. 70 の発音を練習する。 事後 P. 71,1 および 2 の答えを書く。	130 分 140 分
第 3 回	直接目的語となる人称代名詞	事前 P. 71,3 および 4 の答えを書く。 事後 配布するプリントの問題を解く。	130 分 140 分
第 4 回	間接目的語となる人称代名詞	事前 P. 72, Dialogue を読み内容を理解する。 事後 配布するプリントの問題を解く。	130 分 140 分
第 5 回	Leçon 14：人を誘う、できること、しなければならないことを言う 不規則動詞 Pouvoir, devoir, vouloir	事前 P. 78 の発音を練習する。 事後 Pouvoir, devoir, vouloir の活用を練習する。	130 分 140 分
第 6 回	命令法	事前 P. 79,1 および 2 の答えを書く。 事後 P. 79,5 および 6 の答えを書く。	130 分 140 分
第 7 回	Leçon 15：未来の出来事について話す 近接未来	事前 P. 82 の発音を練習する。 事後 P. 83,6 の答えを書く。	130 分 140 分
第 8 回	直接法単純未来	事前 P. 83,1 および 2 の答えを書く。 事後 P. 83,3 および 4 の答えを書く。	130 分 140 分
第 9 回	条件・仮定の表現（1）	事前 P. 83,5 の答えを書く。 事後 P. 85, À vous! の問題を解く。	130 分 140 分
第 10 回	Leçon 16：願望を述べる（1） 条件法現在	事前 P. 86 の発音を練習する。 事後 P. 87,1 の答えを書く。	130 分 140 分
第 11 回	条件・仮定の表現（2）	事前 P. 87,3 の答えを書く。 事後 P. 87,5 および 6 の答えを書く。	130 分 140 分
第 12 回	形容詞・副詞の比較級	事前 P. 87,4 の答えを書く。 事後 配布するプリントの練習問題を解く。	130 分 140 分
第 13 回	Leçon 17：する必要がある事を述べる 接続法現在	事前 P. 94, の発音を練習する。 事後 P. 95, 1 の答えを書く。	130 分 140 分
第 14 回	願望を述べる（2） 考え・推測を述べる	事前 P. 95, 2 および 3 の答えを書く。 事後 P. 95, 5 の答えを書く。	130 分 140 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 Leçon 13 から Leçon 17 までの復習を行う。 事後 理解が不十分だった部分についてもう一度学習すること。	130 分 140 分

フィード 授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末レポート 50%と授業での質疑応答 50%とによる。

テキスト Emmanuel Antier, Junko Mikami, Michel Sagaz. ‘FLASH! Méthode de français (troisième édition)’（駿河台出版社）
前期はフランス語Ⅰのテキストを継続して用います。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐

フランス語Ⅱ-2									
非常勤講師 内藤俊人							科目コード：FOR204		
対象コース／専門／学年 全コース／全専門／2～4 年次									
形態：講義				単位数 2 単位					
概要		フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。							
到達目標		1 年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口頭練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。							
授業計画									
第 1 回	Unité 0:Claire part en Voyage. 間違いやすい綴り字の読み方	事前	P. 1 のクレールの手紙を読んでみる。					130 分	
		事後	P. 3 Exercices の単語を音声聞いて発音する。					140 分	
第 2 回	Unité 1:L'Alsace ストラスブールとキャッシュ・ロレーヌ 複合過去と過去分詞の一致	事前	P. 4 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 7, Compréhension orale の答えを書く。					140 分	
第 3 回	代名動詞の複合過去	事前	P. 5 Exercice2 と 3 の答えを書く。					130 分	
		事後	P. 7 interview の答えを書く。					140 分	
第 4 回	Unité 2:L'Alsace 2 ストラスブールとシュークルト 半過去と大過去	事前	P. 8 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 11 Compréhension orale の答えを書く。					140 分	
第 5 回	Unité 3:La Bourgogne1 デジヨンとエスカルゴ 関係代名詞	事前	P. 14 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 16, Activités の答えを書く。					140 分	
第 6 回	Unité 4:La Bourgogne2 ボーヌとワイン 現在分詞とジェロンディフ	事前	P. 18 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 21 Compréhension orale と P.22 の問いの答えを書く。					140 分	
第 7 回	Unité 5:La région Rhône-Alpes 1 シャモニーとフォンデュ 受動態	事前	P. 24 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 26, Activités1 の答えを書く。					140 分	
第 8 回	最上級の表現	事前	P. 26, Activités2 の答えを書く。					130 分	
		事後	P. 27, Compréhension orale と interview の答えを書く。					140 分	
第 9 回	Unité 6:La région Rhône-Alpes 2 シャモニーとチーズ 協調構文と中性代名詞	事前	P. 28 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 30, Activités の答えを書く。					140 分	
第 10 回	Unité 7:La Provence 1 マルセイユとブイヤベース 条件法	事前	P. 34 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 37, Compréhension orale と interview の答えを書く。					140 分	
第 11 回	Unité 8:La Provence 2 アルとラタトゥイユ 接続法現在	事前	P. 38 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 40, Activités の答えを書く。					140 分	
第 12 回	接続法過去	事前	P. 39, Exercice 1 と 2 の答えを書く。					130 分	
		事後	P. 42 と P. 43 の答えを書く。					140 分	
第 13 回	Unité 9:La Bretagne1 レンヌとクレープ 間接話法と時生の一致	事前	P. 44 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 47, Compréhension orale と interview の答えを書く。					140 分	
第 14 回	Unité 10:La Bretagne2 サン・マロと海の幸 前置詞と接続詞	事前	P. 48 の手紙を読む。					130 分	
		事後	P. 50, Activités の答えを書く。					140 分	
第 15 回	後期のまとめ	事前	Unité 0 から Unité 10 までの復習を行うこと。					130 分	
		事後	理解が不十分だった箇所についてもう一度学習すること。					140 分	
フィード		授業時に提出する課題を添削して返却する。							
成績評価		成績の評価は、学期末レポート 50%と授業での質疑応答 50%とによる。							
テキスト		藤田裕二著『新・彼女は食いしん坊！2』（朝日出版社）							

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3次元デザイン・3枚	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	□	□	☒	☒	□	□	☒	□	□	□	☒	□	☒	□	□	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語の中級文法を学ぶ。初級の学習を終えた学生を対象とする。 初級文法を復習・補足しながらさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	初級文法をより完全なものにすること、受動態、最上級・比較級、関係詞といった中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画	履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。
------	------------------------------

第 1 回	オリエンテーション（授業概要、成績評価に関する説明ほか） 初級イタリア語の復習・補足（挨拶とアルファベット）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、挨拶とアルファベットの復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	初級イタリア語の復習・補足（名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、名詞と冠詞、形容詞、所有形容詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 3 回	初級イタリア語の復習・補足（動詞 - 規則活用・不規則活用）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、動詞 - 規則活用・不規則活用の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 4 回	初級イタリア語の復習・補足（補助動詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、補助動詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 5 回	初級イタリア語の復習・補足（再帰動詞と代名動詞、直接・間接補語人称代名詞）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、再帰動詞、直接・間接補語人称代名詞の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 6 回	初級イタリア語の復習・補足（近過去）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、近過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 7 回	初級イタリア語の復習・補足（半過去）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、半過去の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 8 回	初級イタリア語の復習・補足（未来形）	事前 事後	イタリア語Ⅰの教科書を使い、未来形の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 9 回	受動態（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 10 回	受動態（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 11 回	比較級・最上級（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 12 回	比較級・最上級（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 13 回	関係詞（che）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 14 回	関係詞（che）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 15 回	第 9-14 回のまとめ	事前 事後	第 9-14 回の復習 授業内容の復習、期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック	期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。
---------	------------------------------------

成績評価	期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。 成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 20％、期末試験 80％
------	--

テキスト	毎回教材を配布する。 イタリア語Ⅰで使用した教科書（マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步 ―』（朝日出版社））も使う。
------	---

オフィスアワー	授業の前後
---------	-------

アクティブ・ラーニング	教員と各学生との間の Q&A を繰り返しながらの学習
-------------	----------------------------

備考	イタリア語の辞書を購入することが望ましい。辞書については初回の授業で紹介する。
----	---

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐

イタリア語Ⅱ-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR206

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	イタリア語の中級文法を学ぶ。イタリア語Ⅱ-1 からの継続講義。 イタリア語Ⅱ-1 の学習内容をふまえた上でさらに高度な事項へと進み、日常のさまざまな事柄をより詳細に表現し、深く理解するための語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じイタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	動詞の用法（ジェルンディオ、条件法、接続法）を中心とする中級文法を理解し、それを日常生活の中で応用するための語彙と表現力を身につけることが目標である。

授業計画	履修生のレベルに即した配布教材を使いながら授業を進める。
------	------------------------------

第 1 回	受動態、比較級・最上級、関係詞（che）の復習	事前 事後	イタリア語Ⅱ-1 の配布資料を使い、受動態、比較級・最上級、関係詞（che）の復習 授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	関係詞（cui ほか）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 3 回	関係詞（cui ほか）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 4 回	ジェルンディオ（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 5 回	ジェルンディオ（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 6 回	条件法（条件法現在）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 7 回	条件法（条件法現在）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 8 回	条件法（条件法過去）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 9 回	条件法（条件法過去）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 10 回	接続法（接続法現在）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 11 回	接続法（接続法現在）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 12 回	接続法（接続法過去時制）（解説）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で解説された箇所の復習	120 分 150 分
第 13 回	接続法（接続法過去時制）（演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業で演習した箇所の復習	120 分 150 分
第 14 回	接続法（仮定文）（解説、演習）	事前 事後	配布教材を使い、授業内容の予習（単語の意味と発音を確認） 授業内容の復習	120 分 150 分
第 15 回	第 2-14 回のまとめ	事前 事後	第 2-14 回の復習 授業内容の復習、期末試験準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については、試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験により、中級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 20％、期末試験 80％

テキスト 毎回教材を配布する。
イタリア語Ⅰで使用した教科書（マッテオ・カスターニャ、吉富文著 『イタリアーノ・イタリアーノ ― イタリア語はじめの一步―』（朝日出版社））も使う。

オフィスアワー 授業の前後

アクティブ・ラーニング 教員と各学生との間の Q&A を繰り返しながらの学習

備考 イタリア語Ⅱ-1（前期）からの継続講義となるので、イタリア語Ⅱ-2 の単位取得者を対象とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

対象コース／専門／学年 全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	古代ギリシャのソポクレスが描いた『オイディプス王』の物語とは、自分自身の真理へと到達しようとする哲学的探求の物語であり、西欧的な知の原型と言い得るものである。この授業では、オイディプス王の行為と語る言葉とを丹念に読み解きながら、そこに含まれるさまざまな哲学的問題を考察する。
到達目標	とりあげるのは、真理と主体、偶然性、異邦人の歓待、記憶、悪、無意識の欲望など今日に通じる哲学上の問題である。ギリシャ悲劇の中に示されるこれらの問題を、フーコー、デリダ、リクールをはじめとする現代フランス哲学の視点を交えて考察する。

授業計画		
【AL】		
第 1 回	はじめに：ストラヴィンスキーとロクトーによる『オイディプス王』について	事前 ストラヴィンスキー『オイディプス王』について調べておく。 130 分 事後 『オイディプス王』の物語の内容を要約する。 140 分
第 2 回	真理を語ること：『オイディプス王』を読む	事前 配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。 140 分
第 3 回	真理への到達と生の変容	事前 配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。 140 分
第 4 回	芸術と生の変容	事前 配布プリントのソポクレス『『オイディプス王』』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観る『オイディプス王』の舞台映像について感想をまとめる。 140 分
第 5 回	『オイディプス王』におけるテュケー（偶然・運命）	事前 配布するプリント資料をもとに、偶然と運命という 2 つの言葉の色々な意味を考えてみる。 130 分 事後 『オイディプス王』の中でテュケーという語が用いられている箇所を整理する。 140 分
第 6 回	偶然性と運命の哲学史	事前 配布プリントでさまざまな哲学者による偶然性をめぐる考察を読んでおく。 130 分 事後 『オイディプス王』における真理とテュケーの関係について整理する。 140 分
第 7 回	永遠帰郷と骰子の一振り	事前 配布プリントのニーチェ『ツァラトゥストラ』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 ニーチェの永遠帰郷思想、運命愛の思想についてまとめる。 140 分
第 8 回	記憶と忘却	事前 配布プリントのリクールの論文抜粋を読んでおく。 130 分 事後 配布プリントのディディエ・ユベルマン『受苦の時間の再モンタージュ』抜粋を読む。 140 分
第 9 回	悪について：裁きと赦し	事前 配布プリントのアレント『人間の条件』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観るストロブ＝ユイレ『アンティゴネ』の映像について感想をまとめる。 140 分
第 10 回	異邦人の歓待：『コロノスのオイディプス』を読む	事前 配布プリントのソポクレス『コロノスのオイディプス』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 2 つのオイディプスの物語の違いについて考える。 140 分
第 11 回	異邦人のパラドックス：オイディプスの場合とソクラテスの場合	事前 配布プリントのプラトン『ソクラテスの弁明』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観るベンギギ『移民の記憶』の映像について感想をまとめる。 140 分
第 12 回	デリダとレヴィナスの歓待論	事前 配布プリントのクロソウスキー『ロベルトは今夜』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 配布プリントのデリダ『アデュール：エマニュエル・レヴィナスへ』抜粋を読む。 140 分
第 13 回	フロイトによる『オイディプス王』解釈	事前 配布プリントのフロイト『夢判断』抜粋を読んでおく。 130 分 事後 授業内容を整理し「エディプス・コンプレックス」についてさらに調べる。 140 分
第 14 回	『アンチ・オイディプス』について	事前 配布プリントのドゥルーズのインタビュー抜粋を読んでおく。 130 分 事後 教室で観るドゥルーズ『アベセダール』の「欲望」の項目について感想をまとめる。 140 分
第 15 回	まとめ	事前 ここまでの学習内容の疑問点を整理する。 130 分 事後 学期全体の学習内容を復習する。 140 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 60％と授業への取り組み方 40％とによる。

テキスト 教科書は特に用いないが、授業内容に応じてプリントを配布する。

参照資料：ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
『ギリシャ悲劇 II ソポクレス』（ちくま文庫）
DVD 『オイディプス王』（演出 蜷川幸雄、音楽 東儀秀樹、主演 野村萬斎）（ポニーキャニオン）

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□	□	☑	□	□

対象コース／専門／学年 全コース／全専門／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	バロックの時代から今日に至るフランス文学の変遷を考察する。文学を孤立した対象としてとらえるのではなく、さまざまなジャンルの芸術と結びつけて論じ、それぞれの時代の文化のあり方を検討する。絵画や版画資料、映像などを用いて出来る限り多角的に作品を理解できるように努める。
到達目標	バロック以降の代表的なフランス文学の作品を丹念に読み解きながら、そこに映し出されているヨーロッパの文化、社会、芸術の大きな流れを把握する。また、その中で『マノン・レスコー』、『カルメン』、『椿姫』、『サロメ』など、オペラの原作である文学作品についての理解を深める。

授業計画		
第 1 回	バロックと古典主義	事前 ルネサンス以降のヨーロッパ文化史の大きな流れについて調べる。 120 分 事後 バロックと古典主義の作品の特徴を講義内容にそってまとめる。 150 分
第 2 回	ヴェルサイユの美学	事前 リュリとモリエールについて、ふたりの作品の概要を調べておく。 120 分 事後 教室で観るモリエール『町人貴族』の舞台映像について感想をまとめる。 150 分
第 3 回	古典主義時代の演劇	事前 ラシーヌの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 教室で観るラシーヌ『フェードル』の舞台映像について感想をまとめる。 150 分
第 4 回	ロマン主義における自然と視線	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 120 分 事後 古典主義とロマン主義という 2 つの時代の「自然」の捉え方の違いについてまとめる。 150 分
第 5 回	『カルメン』と異種の人々	事前 メリメ作『カルメン』についてその概要を調べておく。 120 分 事後 教室で観るオペラ『カルメン』の映像について感想をまとめる。 150 分
第 6 回	『椿姫』について	事前 小説『椿姫』についてその概要を調べておくこと。 120 分 事後 教室で観るオペラ『椿姫』の映像について感想をまとめる。 150 分
第 7 回	オッフェンバックの見たパリ	事前 1 9 世紀後半第二帝政期のパリの姿を写真や文献を通じ出来る限り調べる。 120 分 事後 教室で観る『地獄のオルフェ』と『パリの生活』の舞台映像について感想をまとめる。 150 分
第 8 回	ボードレールとマネ	事前 ボードレールとマネの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 配布するプリントのボードレールの詩について感想をまとめる。 150 分
第 9 回	アリスとノンセンス	事前 ルイス・キャロルの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 ノンセンスの言語という点を中心に講義内容を整理する。 150 分
第 10 回	ゾラと消費文化	事前 配布するプリントでゾラの小説作品の抜粋を読む。 120 分 事後 ゾラの『ボヌール・デ・ダム百貨店』(藤原書店)を中心に講義内容を整理する。 150 分
第 11 回	1 9 世紀末のサロメ像	事前 オスカー・ワイルド『サロメ』(岩波文庫)を読むこと。 120 分 事後 文学、美術、音楽にまたがるサロメのイメージについて調べる。 150 分
第 12 回	ロビダの描く未来世界	事前 1 9 世紀末のパリの姿を、写真や文献を通じて調べておくこと。 120 分 事後 ロビダの小説作品を中心に講義内容を整理する。 150 分
第 13 回	コクトーとサティー	事前 ジャン・コクトーとエリック・サティーの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 バレエ『バラード』について調べる。 150 分
第 14 回	シュルレアリスムと映画	事前 アンドレ・ブルトンの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 教室で観る映画『ひとで』について感想をまとめる。 150 分
第 15 回	戦争と文学	事前 サン＝テグジュペリの作品についてその概要を調べておく。 120 分 事後 配布するサン＝テグジュペリの作品抜粋のプリントを読み、講義内容を整理する。 150 分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 60％と授業への取り組み方 40％とによる。

テキスト 教科書は特に用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□

形態：講義	単位数：2 単位
概要	日本国憲法について、制定経緯、各規定の意味、憲法以外の法との関係との体系を学ぶ。

到達目標	1．日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。 2．選挙制度について正しい知識を身に着ける。 3．社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。
------	---

授業計画				
第 1 回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	事前	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	150 分
第 2 回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	事前	憲法、法律、条例、省令、判例、条約の関係について考察する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 3 回	憲法の規定事項：人権と統治	事前	日本国憲法の条文を確認する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 4 回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	事前	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 5 回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	事前	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 6 回	基本的人権：経済的自由	事前	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 7 回	基本的人権：身体的自由	事前	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 8 回	基本的人権：社会権	事前	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 9 回	基本的人権：参政権ほか	事前	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 10 回	統治：選挙制度	事前	選挙制度についてまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 11 回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	事前	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 12 回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	事前	子供の権利、外国人の権利はどの程度保障されているか、検討する。	120 分
		事後	講義レジュメの内容を復習する。	150 分
第 13 回	社会問題：一票の較差	事前	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討す	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 14 回	社会問題：裁判員裁判、死刑制度	事前	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分
第 15 回	講義の復習	事前	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	120 分
		事後	講義レジュメを復習する。	150 分

フィードバック 授業内での解説

成績評価 試験 100%

テキスト レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー 質問等は随時メールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐

社会学 1

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅 廣		科目コード：SOC103
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	第一に社会学とはどのような学問かを特徴的に概観し、第二に他者とのつながりやそれによって生じる社会的行為のしくみや目標達成の方法などを学ぶ。第三に現代を戦後社会として概観し、自分の存在を再確認する。第四に現代社会を特徴づける情報化、国際化、グローバル化などを捉え理解する。第五に家族とその変容について概観し、その変化的側面にも目を向ける。最後に地域社会の変化とそこでの人のつながりついて理解する。	
到達目標	個人と社会のつながりを基本として、その変化とその変化が生み出す問題点を理解することを目標とする。	
授業計画	つながりの社会学	

第 1 回	社会学の学問的性格～問題発見と解決のための学習	事前 高校の現代社会の教科書を読みなおしてくる。 事後 一つの立場として社会学の学問的性格を理解しておく。	110 分 160 分
第 2 回	個人の存在と社会的行為の理解～人間理解の一つの方法	事前 「人間は一人で生きていけるか」、自分なりに考えをまとめてくる。 事後 他者との関係を取り結ぶことにより、人間は存在することを理解する。	110 分 160 分
第 3 回	他者との関係と行為	事前 自分には、どのような他者との関係があるのか、考えを整理してくる。 事後 行為が他者との関係のなかで成立することを理解する。	110 分 160 分
第 4 回	社会的行為と目標の達成	事前 自分が実現したいことについて、どうしたら達成できるか考えてくる。 事後 目標達成のしくみの基本を理解する。	110 分 160 分
第 5 回	現代社会の大きな流れの中で	事前 自分が生まれた時代はどのような時代であったか、調べてくる。 事後 戦後以来の時代から現代まで社会の動きを大きく理解する。	110 分 160 分
第 6 回	現代社会の諸相	事前 現代社会の社会問題について、どんな問題があるのか考えてくる。 事後 諸相として捉えた諸問題について理解する。	110 分 160 分
第 7 回	家族とイエ	事前 自分のルーツについて親や祖父母に話を聞く。 事後 日本のイエと家族について理解をする。	110 分 160 分
第 8 回	家族の構造と機能	事前 父親か母親の生まれた家族の構成を調べてくる。 事後 家族の基本的構造とその変化、基本的機能について具体的な家族で検証してみる。	110 分 160 分
第 9 回	家族機能の変化	事前 家族によって自分はどのようなことが守られているか、考え整理してくる。 事後 社会の変化とともに変わる家族の機能について理解する。	110 分 160 分
第 10 回	現代家族の特質	事前 親と子の関係、兄弟の関係など家族員間の関係の在り方について考え整理してくる。 事後 現代家族の特質が自分の家族ではどのように現れているか、考察してみる。	110 分 160 分
第 11 回	少子・高齢社会の問題	事前 少子化の流れを止めるためには何が必要か、考えてくる。 事後 少子・高齢化のひきおこす基本的問題について理解する。	110 分 160 分
第 12 回	単身世帯の増加と「無縁社会」	事前 単身世帯の増加が何によって引き起こされるか、考え整理してくる。 事後 構造的に生じる単身世帯の増加とそれによって引き起こされる社会問題について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	地域社会の形成と変化	事前 自分の住む地域について調べてくる。 事後 地域社会の形成とその後の変化、そして現代の地域社会について理解する。	110 分 160 分
第 14 回	地域社会の人のつながり	事前 地域社会において関係する人々を思いつく限り列挙してくる。 事後 地域社会における人間関係と社会関係の変化と実態について理解する。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 講義全体の中に、自分自身の存在をあてはめて、想像してみる。 事後 社会の一部しか見ていないが、講義全体を整理し理解する。	110 分 160 分

フィードバック 授業全体は大きく六つの部門に分かれているので、それぞれの最後の時間に小テストをおこない、結果を添削しコメントを付けて返却することによって学修成果のフィードバックをする。

成績評価 定期試験 60%、小テスト 15%、課題 15%、授業態度 10%

テキスト 使用せず。参考文献、『社会学辞典』など。

オフィスアワー E メールにて随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒

心理学 1

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	心理学は二つの顔をもっている。一つは実生活と深く結びついている実用的な部分で「応用心理学」と言われる。もう一つは純粋に心について研究する側面で、一般心理学あるいは基礎心理学と言われる。「心理学 1」では後者の基礎心理学部門を中心に講じる。感覚、知覚、認知、記憶、感情や動機づけなど、私たちの行動と意識について広く学習する。
到達目標	心理学は、心について科学的に理解しようとする経験科学のひとつである。そして、私たち自身および他者の心や行動について理解するために有益な知見を提供してくれる。「心理学 1」では基礎心理学の領域である心の諸機能を一通り学び、教養としての心理学の基礎知識を身につけ人間理解を深めることを目的とする。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション～心理学とはなにか	事前 教科書はしがきを読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 2 回	心理学の諸領域と研究方法	事前 プリント 1 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 3 回	感覚の一般特性	事前 教科書第 1 章 1 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 4 回	知覚と認知～視知覚を中心に	事前 教科書第 1 章 2 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 5 回	認知とは何か～認知心理学	事前 プリント 2 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 6 回	記憶（1）：記憶の構造とメカニズム	事前 教科書第 2 章 1、2 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 7 回	記憶（2）：長期記憶と知識	事前 教科書第 2 章 3、4 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 8 回	知能（1）：歴史と理論	事前 教科書第 7 章 1、2 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 9 回	知能（2）：多重知能理論	事前 教科書第 7 章 3、4 節を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 10 回	感情と動機（1）：感情の種類	事前 教科書第 5 章 1 節 1－2 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 11 回	感情と動機（2）：感情の伝達	事前 教科書第 5 章 1 節 3－4 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 12 回	感情と動機（3）：動機づけの種類	事前 教科書第 5 章 2 節 1－2 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 13 回	葛藤と欲求阻止、防衛機制	事前 教科書第 5 章 2 節 3 を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 14 回	学習と思考	事前 第 3 章前半を読む 140 分 事後 授業ノートを見直しておく 140 分
第 15 回	まとめ	事前 プリント 3 を読む 140 分 事後 試験の解答の正誤を振り返る 140 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬壽明（編著）「心理学 for you」八千代出版

オフィスアワー 授業後の教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 「音楽心理学」を今後履修予定の学生は受講しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニプロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□	□	□

対象コース／専門／学全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要

音響学は音楽・物理学・医学・心理学・工学など様々な分野が関わる複合的な学問である。音響理学 2 では、音楽家や音楽に関わる方が活動の中で出会うには違いない音の諸知識のうち、ホール・劇場、好ましくない音(騒音)、響き、音響機器について学ぶ。

到達目標

演奏会や日々の練習で接する音環境のハード面を理解し、自分に適した音環境を作り出すための方針立てを行うことができる。

授業計画

第 1 回	履修準備 I 音の物理基礎	事前	音響理学 I テキストの音の基礎・楽器音響学を読み(復習し)、その概要をつかむ。	180	分
		事後	理解不足事項を確認し、音響理学 I テキストの当該箇所を用いて理解度を高める。	90	分
第 2 回	履修準備 II 聴覚・聴覚心理基礎	事前	音響理学 I テキストの聴覚を読み(復習し)、その概要をつかむ。	180	分
		事後	理解不足事項を確認し、音響理学 I テキストの当該箇所を用いて理解度を高める。	90	分
第 3 回	騒音 I 騒音とは	事前	自分にとって“騒音”と感じる音をピックアップする。	90	分
		事後	騒音の定義と表示方法について復習する。	180	分
第 4 回	騒音 II 騒音を抑える：遮音・吸音	事前	自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法を考え、まとめてみる。	90	分
		事後	騒音を低減する方法を整理する。	180	分
第 5 回	騒音 III 騒音まとめ、ワークショップ	事前	これまでに得た知識を素に、自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法を考え、まとめてみる。	120	分
		事後	グループワークを通じて得た理解を基に、自分にとって“騒音”と感じる音の低減方法をまとめる。	150	分
第 6 回	室内音響 I 響きのしくみ	事前	響きとは何か、について考える。	90	分
		事後	響きとは何か、響きの物理的な表現方法を整理する。	180	分
第 7 回	室内音響 II 響きを感じる	事前	聴衆として音楽を聴くのに理想的な響きを考え、文章にまとめてみる。	120	分
		事後	響きをその心理的屬性で分類し、それぞれの属性を文章にまとめる。	150	分
第 8 回	室内音響 III 室内音響まとめ、ワークショップ	事前	練習に適した響きについて考え、文章・スケッチ等にまとめてみる。	120	分
		事後	グループワークを通じて得た理解を基に、自分の練習に適した響きの実現方法をまとめる。	150	分
第 9 回	ホールの話 I 歴史、分類、用語	事前	テキストの、芸術に関する年表とホール・劇場の歴史を読み、その概要をつかむ。	90	分
		事後	ホール・劇場の、芸術表現を助ける仕掛けを整理し、文章にまとめてみる。	180	分
第 10 回	ホールの話 II コンサートホールとオペラハウス	事前	自分の好きなホール・劇場の響きの特徴を文章・スケッチ等にまとめてみる。	120	分
		事後	ホール・劇場の響きの属性を分類・整理し、それを生み出すのに重要な建築要素をまとめる。	150	分
第 11 回	ホールの話 III ステージ音響	事前	自分の好きなステージの響きの特徴を文章・スケッチ等にまとめてみる。	120	分
		事後	ステージの響きを生み出す要素を整理し、自分に適した演奏方法をまとめる。	150	分
第 12 回	ホールの話 IV ホール見学、まとめ	事前	石橋メモリアルホールの音響に関するレポートを読み、その概要をつかむ	120	分
		事後	石橋メモリアルホールの響きの成り立ちを整理し、自分に適した演奏方法・聴取方法をまとめる。	150	分
第 13 回	電気音響 I 舞台音響設備概説	事前	テキストの、舞台音響設備の機能・構成を読み、その概要をつかむ。	90	分
		事後	自分が演奏会を行うことを想定した時に必要な舞台音響設備の機能・装置をまとめる。	180	分
第 14 回	電気音響 II 録音ワークショップ	事前	過去に行った自分の演奏の録音方法をまとめる。	90	分
		事後	自分の演奏の録音方法を整理する。	180	分
第 15 回	音響理学 2 まとめ 理解度確認テスト、解説	事前	これまでの学習内容の復習を行う。	180	分
		事後	理解不足事項を確認し、復習を行う。	90	分

フィードバック

講義の最後のまとめ。ワークショップの講評、理解度確認テストの解説を行い、学習成果をフィードバックする。

成績評価

理解度確認テスト 50%、レポート 50%

テキスト

小口恵司編著：音響理学 2（PDF テキストをメール添付にて配布）
参考図書：岩宮真一郎著“音楽の科学”（ナツメ社）
永田徳著“静けさよい音よい響き”（彰国社サイエンス）

オフィスアワー

授業終了後 30 分、講義室にて。
e-mail での質問も受け付ける アドレス：oguchi@nagata.co.jp

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☐	☑	☑	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☐	☐	☑

イギリス文化と芸術

教授 石橋明佳

科目コード：HUM202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	イギリス音楽の理解を深めるために、イギリスの文化や音楽以外の芸術に関する事柄を講義する。音源・映像資料（スライドと動画）を使いできるだけ幅広くイギリスについて解説すると共に、イギリス文化に関する英語表現を紹介する。

到達目標	- イギリス文化に関する知識を習得する。 - イギリス音楽の文化的・民族的背景に関する知識を習得する。 - イギリス文化に関する英語表現を習得する。
------	--

授業計画		
【AL】		
第 1 回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 イギリスの基本情報	事前 テキスト全体に目を通しておく 事後 テキスト第 1 章の課題を行うこと 150 分 120 分
第 2 回	イギリスの国章とアンセム	事前 テキスト第 2 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 2 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 3 回	イギリスの社会構造の特質	事前 テキスト第 3 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 3 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 4 回	イギリスの思想・文化の伝統と特質	事前 テキスト第 4 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 4 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 5 回	イギリスの宗教	事前 テキスト第 5 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 5 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 6 回	日本とイギリスの関係	事前 テキスト第 6 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 6 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 7 回	イギリスの文学 1：児童文学	事前 テキスト第 7 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 7 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 8 回	イギリスの文学 2：詩・小説	事前 テキスト第 8 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 8 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 9 回	イギリスの演劇	事前 テキスト第 9 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 9 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 10 回	イギリスの美術	事前 テキスト第 10 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 10 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 11 回	イギリスの音楽と文化的背景 1：最初期～中世	事前 テキスト第 11 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 11 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 12 回	イギリスの音楽と文化的背景 2：バロック～古典	事前 テキスト第 12 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 12 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 13 回	イギリスの音楽と文化的背景 3：ロマン派～現代	事前 テキスト第 13 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 13 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 14 回	イギリスの音楽と文化的背景 4：民謡とポピュラー音楽	事前 テキスト第 14 章を読み、その概要を掴むこと 事後 テキスト第 14 章の課題を行うこと 80 分 190 分
第 15 回	まとめ	事前 テキスト全体に目を通し、課題等やり残しがないようにする 事後 レポートのテーマを決定し、教員の許可を得て、情報収集を始める 150 分 120 分

フィードバック	課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	----------------------------------

成績評価	主に課題とレポートにより行うが、受講態度や授業外学習も評価の対象とする。レポートは全授業の中からテーマを一つ選ぶ。 評価の配分は、授業に取り組む姿勢・質疑応答等で 20%、授業外学習で 35%、課題で 45%とする。
------	---

テキスト	プリント教材「イギリス文化と芸術」（約 700 円）
------	----------------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	

生涯学習概論-1

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅廣		科目コード：SOC106
対象コース／専門／学年：GLA コース／文化創造マネジメント専門／1 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～2 年次		
形態：講義		単位数：2 単位
概要	生涯学習の意義を踏まえた上で、我が国社会教育の系譜を捉え、「生涯教育」の登場の背景とその理念について学び、生涯学習諸政策の動向、さくら生涯学習に特徴的なことをおさえる。前期最後には先進的生涯学習実践地として岩手県金ヶ崎町の事例を報告する。	

到達目標	我が国社会教育の系譜を踏まえ、「生涯教育」が登場する背景、それが我が国で「生涯学習社会の実現に向けて」という政策になっていく過程について理解すること。また、生涯学習に関連する事項も学び理解すること。
------	---

授業計画	生涯学習、学校教育、社会教育の関係への理解
------	-----------------------

第 1 回	生涯学習概論のイントロダクション	事前 「生涯学習」という用語を調べてくる。 事後 本講義の性格と設置の意味について理解する。	40 分 60 分
第 2 回	生涯学習の意義～家庭教育・学校教育・社会教育との関連で	事前 家庭・学校・社会教育はどのような内容で行われているか考察し整理してくる。 事後 家庭教育、学校教育、社会教育の違いとその関連性について理解する。	40 分 60 分
第 3 回	社会教育から生涯学習 1 ～戦前の社会教育	事前 戦前の社会について調べてくる。 事後 戦前の社会教育の実態について理解する。	40 分 60 分
第 4 回	社会教育から生涯学習 2 ～戦後の社会教育の出発	事前 「戦後の教育改革」について調べてくる。 事後 戦後の社会教育の実態について理解する。	40 分 60 分
第 5 回	社会教育から生涯学習 3 ～社会教育法の成立と内容	事前 「社会教育法」について調べてくる。 事後 社会教育の制度的な進展について理解する。	40 分 60 分
第 6 回	生涯教育から生涯学習	事前 「生涯教育」について調べてくる。 事後 生涯教育から生涯学習へ移行する過程について理解する。	40 分 60 分
第 7 回	生涯学習社会の実現に向けて 1 ～生涯学習関連施策の動向	事前 「生涯学習関連施策」について調べてくる。 事後 重要な施策の動向について理解する。	40 分 60 分
第 8 回	生涯学習社会の実現に向けて 2 ～各教育機能相互の連携	事前 第 2 回講義を復習してくる。 事後 事例として、各教育機能がどのように相互に連携しているのか理解する。	40 分 60 分
第 9 回	生涯学習 1 ～学び方の多様性	事前 自分の学習の内容を場面とその学び方について考え整理してくる。 事後 自己学習から学級・教室などまで生涯学習における学び方について理解する。	40 分 60 分
第 10 回	生涯学習 2 ～学ぶ人の多様性	事前 どのような人がどのように学んでいるのか考察し整理してくる。 事後 胎児から高齢者まで学ぶ人について理解を深める。	40 分 60 分
第 11 回	生涯学習とリカレント教育	事前 「リカレント教育」について調べてくる。 事後 生涯学習においてリカレント教育が持つ意味を理解する。	40 分 60 分
第 12 回	生涯学習とまちづくり 1 ～生涯学習の特性	事前 自分の住んでいる市町の地域課題を調べてくる。 事後 生涯学習がまちづくりに結びつきやすい特性について理解する。	40 分 60 分
第 13 回	生涯学習とまちづくり 2 ～岩手県金ヶ崎町の事例 1	事前 岩手県金ヶ崎町について、簡単に調べてくる。 事後 この地において「生涯教育」を基盤に町づくりが展開していく実態を理解する。	40 分 60 分
第 14 回	生涯学習とまちづくり 3 ～岩手県金ヶ崎町の事例 2 続き	事前 金ヶ崎町のまちづくりの実態をインターネットで調べてくる。 事後 生涯学習とまちづくりの一つの事例として理解する。	40 分 60 分
第 15 回	小括～半年間のまとめ・ディスカッション	事前 第 1 回から 14 回までの講義の中での疑問点などを整理してくる。 事後 前半の講義に関して全体的に理解する。	40 分 60 分

フィードバック	前期は五部門に大きく分けられるので、それぞれの部門の最後に小テストをおこない、それを添削し、コメントを付けることによって、学修成果のフィードバックをする。
---------	---

成績評価	定期試験 60 %、小テスト 15 %、授業態度 15 %、課題 10 %
------	---------------------------------------

テキスト	テキストは使用しないが、参考文献として以下の文献などを挙げておく。 赤尾勝巳、『生涯学習の社会学』、玉川大学出版部、佐々木正治、『生涯学習社会の構築』、福村出版、前平泰志、『生涯学習概論』ミネルヴァ書房
------	--

オフィスアワー	随時 E メールにて。 wellatti@msb.biglobe.ne.jp
---------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒

生涯学習概論-2

※社会教育主事養成に関する科目

非常勤講師 上羅廣		科目コード：SOC107
対象コース／専門／学GLAコース／文化創造マネジメント専門／1 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／1～2 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／1～2 年次		
形態：講義		単位数：2 単位
概要	生涯学習時代の社会教育の意義を踏まえ、社会教育私設、社会教育の方法など基本的なことを学び理解する。また、生涯学習における学習課題や学習相談の意義、ボランティアなどについても学び理解する。最後に生涯スポーツの問題にも言及する。	
到達目標	特に後期は生涯学習のなかで社会教育の意義や実践の内容などについて主に学ぶので、それを理解してほしい。	

授業計画	生涯学習、学校教育、社会教育の関係への理解
------	-----------------------

第 1 回	生涯学習時代の社会教育の意義	事前 自分の住む町村における社会教育の事態について調べてくる。 事後 生涯学習時代における社会教育の意義について理解する。	110 分 160 分
第 2 回	生涯学習の振興と社会教育行政	事前 自分の住む市町で「生涯学習センター」や「生涯学習推進会議」などが設置されているか調べてくる。 事後 生涯学習の振興のために社会教育行政がどのような役割を果たしているか理解する。	110 分 160 分
第 3 回	社会教育施設 1 ～公民館	事前 自分の住む市町の公民館でどのような学習が行われているか調べてくる。 事後 日本における公民館の成立とその意味について理解する。	110 分 160 分
第 4 回	社会教育施設 2 ～図書館	事前 自分の住む市町における図書館の実態について調べてくる。 事後 独立館、併設館、指定管理者制度による民間企業経営図書館など総合的に図書館を理解する。	110 分 160 分
第 5 回	社会教育施設 3 ～博物館	事前 自分の住む市町、もしくは身近な羽生憑かんについて調べてくる。 事後 博物館の種類も含め博物館を社会教育施設として理解する。	110 分 160 分
第 6 回	社会教育関連施設	事前 「社会教育関連施設」について調べてくる。 事後 社会教育関連施設について今民間、図書館、博物館を含めて理解する。	110 分 160 分
第 7 回	社会教育の方法・形態	事前 社会教育における学習の方法、形態について第 1 ～8 回を振り返り考察してくる。 事後 社会教育の方法と携帯について理解する。	110 分 160 分
第 8 回	社会教育指導者、社会教育委員、公民館運営審議会委員	事前 一つだけで良いので、調べてくる。 事後 社会教育における人の役割を全体の中で理解する。	110 分 160 分
第 9 回	生涯学習と個人、家庭、地域の学習課題	事前 学習課題とは何か、調べてくる。 事後 それぞれの学習課題の特徴について理解する。	110 分 160 分
第 10 回	学習情報の提供と学習相談の意義	事前 自分の住む市町で、学習情報の提供や学習相談がどのような形で実施されているか調べてくる。 事後 生涯学習における学習情報の提供と学習相談の現状について理解する。	110 分 160 分
第 11 回	生涯学習とボランティア	事前 「ボランティア」について調べてくる。 事後 生涯学習におけるボランティアについての理解を深める。	110 分 160 分
第 12 回	生涯スポーツとスポーツ基本法の成立	事前 「スポーツ基本法」、「スポーツ庁」について調べてくる。 事後 スポーツ政策の現状について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	新たなスポーツの時代	事前 現在スポーツが、どのように行われているか、体験をもとに考察してくる。 事後 スポーツが高齢社会のなかで、新たな局面を迎えていることを理解する。	110 分 160 分
第 14 回	生涯学習の課題	事前 今後の生涯学習の課題について、自分なりに考察してみる。 事後 生涯学習の課題の現状について理解を深める。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 全体の講義に関して、疑問点を整理してくる。 事後 疑問点の補足と全体のとりまとめについて、もう一度整理し理解する。	110 分 160 分

フィードバック それぞれの課題別の講義のタイミングを計り、五回程度の小テストを実施し、添削し、コメントを付け返却することによって、学修成果のフィードバックをする。

成績評価 定期試験 6 0 %、小テスト 1 5 %、学習態度 1 5 %、課題 1 0 %で評価する。

テキスト テキストは使用しないが、参考文献として福留強『社会教育委員必携一生涯学習と社会教育委員』、全日本社会教育連合会など。

オフィスアワー 随時 E メールにて。 wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒

ピアノ教育法

教授 山崎紫乃／准教授 星子知美／准教授 干野宜大 科目コード：EDU403

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／4 年次、GLA コース／音楽教育専門／2～4 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	【星子】ピアノ学習者の年齢層、学習環境、目的などは年々多様化しており、指導にも柔軟性や工夫が必要となってきた。この授業では様々なケースについて留意点を整理し問題解決法を考案しながら、指導の可能性について考える。 【山崎】アンドラゴジー（成人教育）についての考え方を学び、それをどのようにピアノ教育に生かしていけるかを様々な角度から考える授業である。 【干野】自信を持って後進へのアドヴァイスが出来るように、楽譜の中の作曲家のメッセージを的確に読み取れるように考え研究していく。

到達目標	【星子】ピアノ教育についての知識を会得し、自ら考察して、実践的なピアノ指導の力を養う。 【山崎】少子高齢化が進む中、高齢になってからピアノを始める人も増えている。また、大人を対象とした教室は生徒数を増やしている。子供とは違った工夫も必要な大人に対する指導について、様々な角度から考え、その指導力を養う。 【干野】音楽やピアノへの親しみや喜びを後進に伝えるという事は、ピアノ教育導入時を含め大きな責任をとまなう。しっかりとした理由と音楽への理解を指導者が持っている事の大切さの認識と自覚を授業を通して養っていく。
------	---

授業計画				
第 1 回	【星子】ピアノ教育の留意点と導入・初心者の指導	事前	自分が受けてきたピアノ教育について様々な視点で考え、使用した教材を見直す	135 分
		事後	指導者の役割、教育の目的について考える	135 分
第 2 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究①幼児	事前	幼児の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する	135 分
		事後	授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分
第 3 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究②中級	事前	中級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する	135 分
		事後	授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分
第 4 回	【星子】読譜・技術訓練・奏法・表現と教材研究③上級	事前	上級者の指導において着眼すべき点を考え、教材・課題を予習する	135 分
		事後	授業前の自分の考えをふり返り、授業の内容を基に指導の方法をシミュレーションする	135 分
第 5 回	【星子】ピアノ教室開室と運営	事前	ピアノ教室開室と運営の方法と可能性を考えておく	135 分
		事後	これまでの授業をふり返り、指導の可能性をまとめる	135 分
第 6 回	【山崎】大人に対するピアノ教育の現状	事前		分
		事後	復習をしておく	280 分
第 7 回	【山崎】身体的方面からの指導の工夫と留意点と アンドラゴジーの考え方について	事前	前回の授業内容の確認	140 分
		事後	復習をしておく	140 分
第 8 回	【山崎】教材研究 検証と考察	事前	前回までの授業内容を確認しておく	140 分
		事後	グループごとに、次回の授業で発表する内容をまとめておく	140 分
第 9 回	【山崎】教材研究 発表と議論	事前	グループごとに、発表内容の確認	140 分
		事後	他のグループの意見を踏まえ、各グループの考察内容をまとめる	140 分
第 10 回	【山崎】大人のピアノ教育における可能性	事前	これまでの授業を踏まえ、自らの意見を考えておく	140 分
		事後	授業の復習と、自分なりの意見をまとめる	140 分
第 11 回	【干野】音楽との出会い：年齢に合わせたサポート方法を探る 奏法（力の伝達等）の指導法について	事前		分
		事後	講義後に授業で扱った楽曲、又は自分が勉強中の楽曲で実践する	280 分
第 12 回	【干野】音楽上の文法(1) の理解	事前	講義前に伝えた楽曲の楽譜を準備し、予習する	140 分
		事後	講義内容の復習と演奏上でそれがどう反映するかを確認する	140 分
第 13 回	【干野】音楽上の文法(2) の指導法を考える	事前	前回の講義で理解した事を第三者にどのように伝えられるかをシミュレーションする	140 分
		事後	講義前にシミュレーションした指導法が的確であったかどうかを考える	140 分
第 14 回	【干野】楽譜を読み解く：作曲家の意図、理由と方法を導く	事前	講義前に伝えた楽曲の楽譜を用いて第3回までの内容を復習する	140 分
		事後	講義で扱った楽曲をより多面的な楽譜の読み方を試み理解する	140 分
第 15 回	【干野】教材研究とまとめ	事前	実践的なレッスンをシミュレーションし、アドヴァイスすべき内容がある程度決めておく	140 分
		事後	全5回の講義の内容をまとめ、自らのピアノ実技に役立てていく	140 分

フィードバック	【星子】授業での課題とレポートについて、コメント及び解説等により学修成果をフィードバックする。 【山崎】授業内で書いたレポートに対し、コメントによりフィードバックする。 【干野】レポート（全5回の講義を経て学んだ事について）を課し、コメントによりフィードバックする。
---------	---

成績評価	※山崎教授、星子准教授、干野准教授による総合評価。 授業への取り組み方、授業態度等による。
------	--

テキスト	【星子】随時授業内で発表 【山崎】必要に応じてプリントを配布する 【干野】その都度例に取り上げる楽曲を発表
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて
---------	-----------

アクティブ・ラーニング	ピアノレッスンにおいて想定できる問題点について、どのように対処できるか、その方法・可能性を少人数制のグループごとに考察・発表
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑

最新ピアノ指導者育成講義

准教授 星子知美／准教授 干野宜大／准教授 安田正昭	科目コード：EDU206
対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／ピアノ専門／2 年次	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	3 人の教員がそれぞれのピアノ教育について独自の方法論を講義する。実習・レポートなどを通じて、現代に求められるピアノ教育者としてのあり方を考察し、同時にピアノ指導者としての基本を身につける。

到達目標	「優れたピアノ演奏」のためのピアノ指導法はいつの時代でも非常に重要視され、大切に継承されてきた。そのような伝統的スタイルを尊重しながら、これからの時代に求められる新しいピアノ指導法を多角的な角度から実際の方法を提案する最先端の指導法を目指す。
------	---

授業計画	3 人の教員が分担して講義する。		
【AL】			
第 1 回	【安田】名教師に学ぶⅠ（コルトー、フィッシャー、ギーゼキング その他）	事前 取り上げる 3 人のピアニストの名前を覚えておく 事後 授業内容を各自実践する	20 分 80 分
第 2 回	【安田】名教師に学ぶⅡ（安川加寿子、中山靖子 その他）	事前 大正、昭和の日本の音楽史を調べておく 事後 配布する資料などをよく理解する	30 分 70 分
第 3 回	【安田】教師としてのショパン	事前 ショパンの人物・生涯について調べ、これまでに学んだ作品を復習する 事後 授業で得た知識・発想をさらに研究して自らの演奏に生かす	30 分 70 分
第 4 回	【安田】フランスの音楽教育（エコールノルマル、コンセルヴァトワールの場合）	事前 フランス近代音楽について調べておく 事後 授業内容を各自実践する	30 分 70 分
第 5 回	【安田】初見アンサンブルを用いた実習	事前 初見視奏の練習をしておく 事後 取り上げた曲をさらに深める	30 分 70 分
第 6 回	【干野】バロック作品・練習曲を題材に、音楽的文法と演奏技術との密接な関係を理解する①	事前 バッハのインヴェンション、シンフォニア、ショパンのエチュード、ツェルニーのエチュード 40 番の楽譜を用意する 事後 授業内容を復習し、理解を深める	130 分 140 分
第 7 回	【干野】バロック作品・練習曲を題材に、音楽的文法と演奏技術との密接な関係を理解する②	事前 バッハのインヴェンション第 1 番、ショパンのエチュード作品 10-1 を中心に分節の位置を確認する。 事後 授業内容を応用し、文法とテクニックの関連性の理解を深める	130 分 140 分
第 8 回	【干野】ショパンを中心にした作品を題材に、①、②で学んだ事項の応用、強弱記号の捉え方を学び推理していく①	事前 ショパンのスケルツォ、バラードの楽譜を用意する 事後 授業で取り上げた作品、レパートリー作品を使い、復習し理解を深める	130 分 140 分
第 9 回	【干野】ショパンを中心にした作品を題材に、①、②で学んだ事項の応用、強弱記号の捉え方を学び推理していく②	事前 授業で取り扱った作品の様々な応用出来る箇所を見つけて実際に弾いてみる 事後 ショパンのスケルツォ、バラードの中から一曲を選び授業内容を応用し練習する	130 分 140 分
第 10 回	【干野】総まとめ。それぞれのレパートリーを、授業を通して習得した事柄を生かし演奏、ディスカッションする。	事前 発表する作品を一曲選び、実際に弾いておく 事後 特徴的な場所、注意するべき箇所について説明できるように準備する 今後、取り組んでいく様々な作品に、授業を通して学んだ事柄を適応させていく。	130 分 140 分
第 11 回	【星子】各教師に学ぶⅢ（田村宏 その他）	事前 取り上げる人物について調べておく 事後 授業内容をまとめ、脱力奏法を試してみる	30 分 240 分
第 12 回	【星子】各教師に学ぶⅣ（イエルク・デームス その他）	事前 取り上げる人物について調べておく 事後 授業内容を復習しまとめる	30 分 240 分
第 13 回	【星子】各教師に学ぶⅤ（ハンス・カン）及び調性からのアプローチ	事前 取り上げる人物について調べておく 事後 授業内容を復習しまとめる	30 分 240 分
第 14 回	【星子】ウィーンのピアノ教育事情（ウィーン国立音楽大学の授業を通して）	事前 ウィーンについて調べておく 事後 授業内容をまとめる	30 分 240 分
第 15 回	【星子】現代ピアノ作品	事前 課題曲を準備する、今年度各種ピアノコンクール課題曲（現代曲）を調べておく 事後 指摘があった箇所の復習と、授業内容をまとめる	210 分 60 分

フィードバック	レポートについて講評をつけ、理解度への評価をフィードバックする。 今年度の各種ピアノコンクール課題曲の中から学生が選曲した曲について、実演つきのレッスンを行い、アドバイスをすることでフィードバックを行う。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組み 10%、レポート 90%
------	---------------------------

テキスト	特になし
------	------

オフィスアワー	授業後に対応。
---------	---------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑

室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

※注※器楽での履修に限る

教授 三上明子／准教授 池田雄彦／准教授 櫻井茂／准教授 安田正昭

科目コード：ENS118／ENS218

ENS318

対象コース／専門／学年：器楽・声楽コース／全専門／2～4 年次 グローバル教養コース／全専門／2～4 年次（但し賛助として参加する場合は、学年、コースを問わない）

形態：実習

単位数：2 単位

概要 「室内楽」は、あらゆる合奏形態の核になるものであり、各楽器間のコミュニケーション、アンサンブルの基礎技術等をグループを組んで履修する学生が受け身でなく、能動的に習得していく授業である。

到達目標 器楽を専門とする学生または同等程度の器楽演奏の実力を有する他専門の学生を対象として、原則 3 人以上のグループによって行う。各楽器間のコミュニケーションやアンサンブルの技術は様々な形態の合奏において基本になるものであり、そのエッセンスを学んでいく。作品解釈のコンセプト統一やアンサンブルの精度を磨くこと、パートごとのコミュニケーション等の室内楽の本質的なことが、授業以上に各グループ学生間の日頃の練習にかなりの部分が委ねられている。この室内楽授業では、一人ひとりが受け身でなく、主体的な態度で取り組むことが望まれる。

授業計画 4 月のガイダンスには、予めグループ（3 人以上）を編成した上で、全員が参加すること。【備考】15 回の授業を原則個人レッスンとして行い、前期、後期に各 1 回ある集中授業参加により、個人レッスン各 3 回分、計 6 回受講したと見なす。よって集中授業参加の場合、残り 9 回の個人レッスン受講によって試験を受ける資格を得る。各回の授業内容に関しては受講グループによって異なるので、詳細はグループごとにガイダンスの際に計画していく。

第 1 回	A～F 各グループ（6 グループの履修を仮定）で 選んだ作品の全体俯瞰と目標設定をする。	事前 選んだ作品の時代背景、様式、作曲者に関して調べる。 事後 最初の授業（レッスン）で指摘されたポイントを復習	140 分 140 分
第 2 回	各作品、各楽章ごとの問題点諸々を抽出する。	事前 各グループ内で問題点を考察 事後 レッスンで指摘された問題点をピックアップして練習	140 分 140 分
第 3 回	第 1 楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第 1 楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140 分 140 分
第 4 回	第 2 楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第 2 楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140 分 140 分
第 5 回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／A,B グループ）	事前 A,B グループ、公開演奏ということを踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140 分 140 分
第 6 回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／C,D グループ）	事前 C,D グループ、公開演奏ということを踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140 分 140 分
第 7 回	前期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／E,F グループ）	事前 D,E グループ、公開演奏ということを踏まえ、アンサンブル技術の練磨、表現を研究する。 事後 公開演奏の反省（アンサンブル技術、表現共に）	140 分 140 分
第 8 回	第 3 楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する	事前 第 3 楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140 分 140 分
第 9 回	第 4 楽章のアンサンブル上での技術的問題、表現の工夫等考察する。	事前 第 4 楽章のアンサンブル上の問題を練習する。 事後 アンサンブル上の技術課題に加えて、表現の工夫をする。	140 分 140 分
第 10 回	第 1,2 楽章の復習	事前 第 3,4 回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第 1,2 楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140 分 140 分
第 11 回	第 3,4 楽章の復習	事前 第 8,9 回の授業を踏まえて、より高度な表現を目指す。 事後 全楽章の中での第 3,4 楽章の位置づけを認識して諸問題を解決する。	140 分 140 分
第 12 回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／A,B グループ）	事前 第 5 回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140 分 140 分
第 13 回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／C,D グループ）	事前 第 6 回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140 分 140 分
第 14 回	後期集中授業（マスタークラス方式で公開演奏／E,F グループ）	事前 第 7 回集中授業で得られた課題を中心に問題解決をしていく。 事後 全楽章を通して、各楽章の性格付けを明確にし、技術・表現共に高いレベルを目指す。	140 分 140 分
第 15 回	全楽章仕上げ及びまとめ（単位認定演奏会）	事前 演奏会本番に向けた演奏内容の調整 事後 本番演奏後の課題（演奏内容、ステージの立ち居振る舞い他）の反省を行う。	140 分 140 分

フィードバック 各グループは、単位認定演奏会を通して、授業（レッスン）で課されたことを学修成果としてフィードバックされる。

成績評価 単位認定演奏会の演奏によって、履修者一人一人を評価する。

テキスト 受講曲目に関してパート譜はグループごとに準備し、スコアは授業開始までに担当教員者分をコピーし、教務課に提出すること。受講曲目は、原則としてガイダンス又は授業開始前の相談で決めた作品で一年間演習する。やむを得ない事情で曲目を変更する場合、予め相談すること。相談なしでの変更は認めない。

オフィスアワー 授業終了後

備考 原則として、賛助も含めて学部学生によってグループを編成すること。ガイダンス以前のグループ編成、曲目等に関する相談は上記オフィスアワーにて行う。また曲目について確定していない場合、ガイダンスの場でも相談可能。なお、ガイダンスに不参加のグループは履修を認めない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	☒	☒	☒	□	□	□

オーケストラⅠ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS120／ENS219

ENS319／ENS416

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／全専門／1～4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。 また本学オーケストラでは、同時並行して管打楽器履修学生に対して「オーケストラスタディ」も経験出来るシステムになっており、実践的な演習形態の授業といえる。
到達目標	アンサンブルにおいて個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。 学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画		オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。 今年度は、昨年生誕 250 年を迎えたベートーヴェンの作品を中心にウィーン古典派の楽曲を演習し、授業の成果発表の場として 3 回の演奏会を予定している。 授業予定曲： ハイドン：交響曲第 45 番嬰へ短調「告别」Hob.I:45、モーツァルト：「魔笛」序曲 K.620、ベートーヴェン：交響曲第 1 番ハ長調 Op.21 他 また昨年度に引き続き管打楽器は並行してオーケストラスタディを行う。	
【AL】			
第 1 回	ガイダンス	事前 今年度取り上げる楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 ガイダンス中でのオーケストラ授業履修で心掛けること他、注意ポイントを再度確認、認識する。	50 分 50 分
第 2 回	ベートーヴェン：交響曲第 1 番 全体把握	事前 ベートーヴェン（交響曲）ポイント把握、作品に関しての知識を習得しておく。 事後 作品全体を俯瞰した今回の授業での問題点を認識、復習をする。	50 分 50 分
第 3 回	ベートーヴェン：交響曲第 1 番（第 1,2 楽章）	事前 前回、大きく概観した作品の中、今回授業で取り上げる第 1,2 楽章での技術課題の予習、練習をする 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 4 回	ベートーヴェン：交響曲第 1 番（第 3,4 楽章）	事前 交響曲（第 3,4 楽章）での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 5 回	分奏（ハイドン：交響曲第 45 番）	事前 弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 6 回	ハイドン：交響曲第 45 番	事前 前週の分奏での課題を合奏で確認する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 7 回	ハイドン：交響曲第 45 番（第 1,2 楽章）	事前 第 1,2 楽章での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 8 回	ハイドン：交響曲第 45 番（第 3,4 楽章）	事前 第 3,4 楽章での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 9 回	モーツァルト「魔笛」序曲	事前 楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 10 回	モーツァルト「魔笛」序曲	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 11 回	分奏（ベートーヴェン）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 12 回	分奏（ハイドン、モーツァルト）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 13 回	ベートーヴェン：交響曲第 1 番、ハイドン：交響曲第 45 番	事前 前週の分奏での課題を合奏で確認する。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する	50 分 50 分
第 14 回	モーツァルト「魔笛」序曲、ハイドン：交響曲第 45 番	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 15 回	モーツァルト「魔笛」序曲、ベートーヴェン：交響曲第 1 番	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度 3 回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア（予め各自で用意しておくこと）
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
（入手し難いスコアの関しては、相談すること）

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	☒	☒	□	□	□

ウィンド・アンサンブルⅠ-1・Ⅱ-1・Ⅲ-1・Ⅳ-1

ウィンド・アンサンブル担当教員

科目コード：ENS122／ENS221

ENS321／ENS418

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアーレ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート 1」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	F.v.スッベ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアーレ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート 1」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	F.v.スッベ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応します。予約も可能。
---------	--------------------

備考	曲目を変更する可能性がある。
----	----------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-2・Ⅱ-2・Ⅲ-2・Ⅳ-2

ウィンド・アンサンブル担当教員

科目コード：ENS123／ENS222

ENS322／ENS419

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：実習	単位数 1 単位
概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	A.コーブランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコラール」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	A.コーブランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコラール」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応します。予約も可能。
---------	--------------------

備考	曲目を変更する可能性がある
----	---------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法（基礎）c

※教育職員免許状取得に関わる科目

准教授 安田正昭	科目コード：ENS306
----------	--------------

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ専門以外の器楽・声楽専門／3 年次、GLA コース／音楽教育専門／3～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	伴奏法（基礎）C クラスでは、日頃、伴奏をしてもらう側からのアンサンブル追求となる。 自分自身が実際に伴奏する立場になって伴奏を経験することにより、楽曲の全体像を捉える能力を養い、楽曲の理解を深めることを目的とする。伴奏の役割を分析することで、優れた伴奏に求められる諸要素を考察する。また、簡単な楽曲による初見力の育成も図っていく。
到達目標	正しい和声感・リズム感を持って、幅広いスタイルに対応できる伴奏技術を身につける。特に、教育実習や音楽教育の現場で必要とされる適応力の習得を目標とする。

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション 学習計画の説明	事前	ピアノ演奏の準備（音階、アルペジオなど）。	80 分
		事後	各自与えられた曲の譜読みを行う。	200 分
第 2 回	日本歌曲①（滝廉太郎：荒城の月、花） ②日本歌曲の歴史と特色を学ぶ	事前	歌曲①の詩を読んで響きをつかんでおく。	110 分
		事後	各自与えられた曲の譜読みを行う。	170 分
第 3 回	日本歌曲（山田耕筰：待ちぼうけ、赤とんぼ、この道 等） 演奏手法の習得	事前	与えられた曲のメロディーと詩の内容を覚える。	110 分
		事後	各自与えられた曲の譜読みを行う。	170 分
第 4 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等） 表現法及び詩の解釈の追求	事前	与えられた曲の詩の内容を調べておく。	110 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	170 分
第 5 回	日本歌曲（椰子の実、浜辺の歌、夏の思い出 等） 演奏手法の習得	事前	与えられた曲のメロディーを歌えるようにする。	110 分
		事後	弾きながら歌う練習をする。	170 分
第 6 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） ルネサンス、バロック時代様式の特徴を学ぶ	事前	各自与えられた曲の譜読みを行う。	170 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	110 分
第 7 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 楽曲の形式及び演奏法（読譜力を伸ばす）	事前	初見視奏の練習をしておく。	110 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	170 分
第 8 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 歌曲のテキスト内容の解釈	事前	与えられた曲の詩を音読する。	80 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	200 分
第 9 回	イタリア古典歌曲（アマリッリ、虚ろな心、カーロ・ミオ・ベン） 表現の掘り下げ	事前	与えられた曲のメロディーを歌う。	80 分
		事後	弾きながら歌う練習をする。	200 分
第 10 回	ドイツ歌曲（モーツァルト、ベートーヴェンの作品） 歌とピアノ伴奏によるドイツ・リートを学ぶ	事前	与えられた曲の譜読みを行う。	170 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	110 分
第 11 回	ドイツ歌曲（モーツァルト、ベートーヴェンの作品） 古典派からロマン派へ様式研究	事前	詩の内容を調べておく。	80 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	200 分
第 12 回	フランス歌曲（グノー、ビゼー、フォーレなどの作品） 歌曲のテキストから音楽表現へ	事前	与えられた曲の譜読みを行う。	170 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	110 分
第 13 回	フランス歌曲（グノー、ビゼー、フォーレなどの作品） 歌とピアノの楽曲における役割分析	事前	簡単なフランス語に慣れておく。	80 分
		事後	レッスン内容の反復練習。	200 分
第 14 回	フランス歌曲（グノー、ビゼー、フォーレなどの作品） 演奏表現の追求	事前	演奏として全体をまとめる。	170 分
		事後	レッスン内容をよく理解する。	110 分
第 15 回	伴奏法（仕上げとまとめ）	事前	これまでに学んだ曲の復習を行う。	110 分
		事後	実技試験の曲を決定、練習する。	170 分

フィードバック 実技試験の場で各自に講評し、フィードバックする。

成績評価 授業への取り組み、実技試験によって総合的に評価する。（取り組み 30％、試験 70％）

テキスト 配布する履修予定に従って与えられた課題を準備し、レッスン形式で実技指導を受ける。

オフィスアワー 講義終了後、研究室で受け付ける 金 10:20～10:50

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習Ⅰ(オペラ)-1

教授 吉田伸昭

科目コード：IND307

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／3～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	それぞれの声に合ったオペラのシーンを選び、音楽稽古を重ねた後に実際に演技を伴いながら演唱する。

到達目標	オペラは身体表現を伴った歌唱芸術である。自己を開放し、感情を外へ向かってより大きく表現する必要がある。オペラを実習することは、歌曲、オラトリオ等の演奏における表現の幅を広げることにもつながる。オペラ実習を通して舞台での基礎的な演技、発語法、表現法を身に付ける。
------	--

授業計画	モーツァルトのオペラ 「フィガロの結婚」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ドン・ジョヴァンニ」レチタティーフォ・セッコも学ぶ
------	---

第 1 回	試聴会 声を聴き、それぞれに合ったオペラのシーンを決める	事前	オペラのアリア、または歌曲を各自 1 曲準備する	170 分
		事後	楽譜の準備をする	100 分
第 2 回	立ち方、歩き方などオペラにおける基本的な動作を学ぶ	事前	課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする	170 分
		事後	授業の復習	100 分
第 3 回	モーツァルトのオペラの研究	事前	課題となったオペラについて知識を深め、音取りを確かなものにする	170 分
		事後	立ち方、歩き方などを確かめる	100 分
第 4 回	音取り	事前	言葉の意味を調べる	170 分
		事後	発音練習	100 分
第 5 回	音取り、並びにディクションの確認	事前	音程を確かにし、発音の練習を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 6 回	音楽稽古	事前	音楽練習を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 7 回	音楽稽古 音楽的な内容を深める	事前	音楽練習を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 8 回	音楽稽古 暗譜の確認	事前	暗譜で歌えるように音楽練習を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 9 回	粗立稽古	事前	演技プランを練る	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 10 回	立稽古	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 11 回	立稽古 演技の内容を深める	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 12 回	立稽古 完成度を高める	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 13 回	通し稽古	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 14 回	試演会に向けた総練習	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	授業で指摘を受けた箇所の改善	100 分
第 15 回	試演会	事前	立稽古を重ねる	170 分
		事後	録画を観て良かった点、問題点を確認する	100 分

フィードバック 試演会を実施した後、お互いでコメントし合い次回への取り組みに活かす

成績評価 試演会での演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 各々の声、キャラクターを考慮し、モーツァルのオペラのシーンを選び指示する。必要に応じてコピーを配布する。

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて。

備考 インスペクターを決め、欠席、遅刻等の事前連絡を徹底する。また、当該学年の声楽専攻の学生だけでなく、他学年の声楽専攻の学生、オペラに興味のある他の専攻学生の聴講を歓迎する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	フミ・トクシヨ・タヒ	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習Ⅰ(オペラ)-2

教授 吉田伸昭

科目コード：IND308

対象コース／専門／学年：声楽・演奏家コース／声楽専門／3～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	それぞれの声に合ったオペラのシーンを選び、音楽稽古を重ねた後に実際に演技を伴いながら演唱する。

到達目標	前期で学んだことを通して、オペラにおける歌唱、演技を発展させる オペラに関する知識も深める
------	--

授業計画	ロマン派のオペラ ロッシーニ、ドニゼッティ、ヴェルディ、プッチーニ等
------	------------------------------------

第 1 回	作品研究	事前 課題となったオペラについて知識を深め、音取りをする 事後 授業の復習	170 分 100 分
第 2 回	音取り、並びにディクシオン	事前 言葉の意味を調べる 事後 発音練習	170 分 100 分
第 3 回	音取り、並びにディクシオンの確認	事前 音程を確かにし、発音の練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 4 回	音楽稽古	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 5 回	音楽稽古 音楽的な内容を深める	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 6 回	音楽稽古 暗譜の確認	事前 音楽練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 7 回	粗立稽古	事前 演技プランを練る 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 8 回	立稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 9 回	立稽古 演技の内容を深める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 10 回	立稽古 完成度を高める	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 11 回	通し稽古	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 12 回	通し稽古の直し	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 13 回	試演会に向けた総練習	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 14 回	総練習の直し	事前 立稽古を重ねる 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	170 分 100 分
第 15 回	試演会	事前 立稽古を重ねる 事後 録画を観て良かった点、問題点を確認する	170 分 100 分

フィードバック 試演会を実施した後、お互いでコメントし合い次回への取り組みに活かす

成績評価 試演会での演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 各々の声、キャラクターを考慮し、ロマン派のオペラのシーンを選び指示する。必要に応じてコピーを配布する

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後、教室にて。

備考 インспекターを決め、欠席、遅刻等の事前連絡を徹底する。また、当該学年の声楽専攻の学生だけでなく、他学年の声楽専攻の学生、オペラに興味のある他の専攻学生の聴講を歓迎する

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習（ドイツ歌曲）

教授 吉田伸昭

科目コード：IND307

対象コース／専門／学年： 声楽コース／2～4 年次、演奏家コース／声楽専門／2～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	課題曲に加え、各々が選んだドイツ歌曲をグループレッソンの形態で演習する。

到達目標	初めてドイツ歌曲に取り組む学生を考慮し、歌唱のためのドイツ語の発音を中心に学ぶ。 比較的歌いやすい作品を選び、ドイツ語の歌唱を実践する。 それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める。
------	--

授業計画	モーツァルト、シューベルト、シューマン等の歌曲の中から各受講者の声に合った曲を選び、それぞれ3～5曲を目標に演習する。 課題曲以外で各々が選んだドイツ歌曲を演習する
------	---

第1回	試聴会、曲決め ドイツ語の発音法	事前 ドイツ歌曲(初心者にはイタリア語の作品でも良い)を1曲準備する 事後 ドイツ語の発音法の復習	200 分 70 分
第2回	シューベルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第3回	シューベルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第4回	シューベルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第5回	モーツァルトの歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第6回	モーツァルトの歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第7回	モーツァルトの歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第8回	シューマン、ブラームス歌曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第9回	シューマン、ブラームス歌曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第10回	シューマン、ブラームス歌曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 課題曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第11回	各自選択曲 ① 作品研究と歌唱実践	事前 選択曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第12回	各自選択曲 ② 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 選択曲の発音練習を重ねながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第13回	各自選択曲 ③ 内容を深め仕上げる	事前 選択曲の詩の意味に合った表現を考えながら歌唱練習を重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第14回	発表会のための練習	事前 発表する曲を選び、発音、詩の内容に留意しながら歌唱練習をする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	200 分 70 分
第15回	発表会(作品研究の発表、並びに演奏)	事前 伴奏者と合わせを重ね発表会の準備をする 事後 録音を聴き反省	200 分 70 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 演奏 70%、授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☐	☑	☐	☑	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☑	☑	☐	☐

声楽特殊演習（日本歌曲）

教授 吉田伸昭

科目コード：IND212

対象コース／専門／学年：声楽コース／2～4 年次、演奏家コース／声楽専門／2～4 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	課題曲に加え、各々が選んだ日本歌曲をグループレッスンの形態で演習する。

到達目標	①日本語唱法の特性を知り、自然な歌唱を習得する。特に詩と音楽との関係に着目しながら日本歌曲の歌唱法を考え修得する。 ②歌曲の黎明期から時代を追って様々な作曲家の作品を取り上げ、その解釈と演奏法を知る。
------	---

授業計画	以下の作曲家の作品の中から、各受講生の声、キャラクターにあったものを選択し、自然で美しい日本語歌唱に留意しながら、個々の演奏レパートリーとなるよう掘り下げていく。 課題曲以外で各々が選んだ日本歌曲を演習する。
------	---

第 1 回	ガイダンス、試聴会並びに曲目を決める	事前 楽譜を準備し、履修計画をたてる 事後 履修計画を確認し、準備する	140 分 130 分
第 2 回	日本歌曲黎明期の作品 日本語歌唱の基礎を学ぶ	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 3 回	山田耕筰の作品① 特にその多様な表情記号に着目し演奏法を学ぶ	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 4 回	山田耕筰の作品② 前週の学習を踏まえ、さらに表現を深める	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 5 回	諸井三郎、橋本國彦、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 6 回	平井康三郎、清水脩、高田三郎、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 7 回	團伊玖磨、大中正、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 8 回	中田喜直① 多くの作品群から選択して研究する	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 9 回	中田喜直② 前週の作品の表現をさらに掘り下げる	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 10 回	諸井誠、林光、小林秀雄、他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 11 回	三善晃 他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 12 回	木下牧子 他の作品	事前 読譜し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 13 回	既習曲から選曲し発表の準備をする	事前 既習曲を確認し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 14 回	選択した楽曲を仕上げる	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分
第 15 回	選択した楽曲を発表し、合評する	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 130 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 演奏 70%、授業への取り組み 30%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー E メール mozart・trazom@nifty.com および授業前後

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒

(演) 重唱-1

講師 庄智子

科目コード：ENS420

対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／4 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	アンサンブルを組む共演者（歌手、楽器奏者）を伴い様々な時代の重唱を学び発表する。

到達目標	①他声部を良く聴き、発声に留意しハーモニーをつくる ②音楽的な構造、詩の内容、また役柄・役割等をふまえ、それにふさわしい表現を身につける ③楽器とのアンサンブル作品を取り上げ、他楽器と織りなす表現を身につける
------	--

授業計画

バロック時代：イタリア古典、バッハ、ヘンデル等の作品 / ドイツ・ロマン派：メンデルスゾーン、シューマン他の作品 / フランス近代：フォーレ、ドビュッシー他の作品 / オペラ作品 / その他の重唱曲やアンサンブル曲

第 1 回	ガイダンス 履修計画を立てる	事前 楽譜を準備する 事後 履修する計画を確認し、具体的な計画を立てる	140 分 140 分
第 2 回	バロック期・古典派の作品を中心に 読譜しレパートリーを構築する	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 3 回	バロック期・古典派の作品を掘り下げて研究し、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 4 回	ドイツ・ロマン派の作品を中心に 読譜しレパートリーを構築する	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 5 回	ドイツ・ロマン派の作品を掘り下げて研究し、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 6 回	イタリア・ロマン派の作品を中心に 読譜しレパートリーを構築する	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 7 回	イタリア・ロマン派の作品を掘り下げて研究し、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 8 回	フランス近代の作品を中心に 読譜しレパートリーを構築する	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 9 回	フランス近代の作品を掘り下げて研究し、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 10 回	日本の作品を中心に 読譜しレパートリーを構築する	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 11 回	日本の作品を掘り下げて研究し、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 12 回	取り上げた作品の中から試演会での発表曲を選ぶ 表現を深める	事前 重唱曲を選択し楽譜等確認し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 13 回	試演会に向けて作品の習熟を深める 共演者を伴い暗譜する	事前 選択した曲の楽語、単語の意味、詩の内容を再確認し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決をはかる	140 分 140 分
第 14 回	試演会に向けて作品の習熟を深める 演奏の質の向上を図る	事前 選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をする 事後 選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をし、向上を図る	140 分 140 分
第 15 回	試演会発表と合評 まとめ	事前 選択曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究をする 事後 選択曲それぞれの演奏の質を高める	140 分 140 分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する

テキスト 授業内に提示する

オフィスアワー 授業開始前、または授業終了後、教室にて、並びに Email：shosat.ueno@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 重唱-2

講師	庄智子	科目コード	ENS421
対象コース／専門／学年：演奏家コース／声楽専門／4 年次			
形態：実習	単位数：2 単位		
概要	アンサンブルを組む共演者（歌手、楽器奏者）を伴い様々な時代の重唱を学び発表する		

到達目標	①他声部を良く聴き、発声に留意しハーモニーをつくる ②音楽的な構造、詩の内容、また役柄・役割等をふまえ、それにふさわしい表現を身につける 楽器とのアンサンブル作品と取り上げ、他楽器と織りなす表現を身につける
------	---

授業計画	ミサ曲・オラトリオ／オペラ作品／その他の重唱曲、重奏曲
------	-----------------------------

第 1 回	ガイダンス 後期の学修計画を立てる	事前 楽譜を準備する 事後 履修する計画を確認し、具体的な計画を立てる	140 分 140 分
第 2 回	ミサ曲・オラトリオ作品を中心に 譜読し作品の理解を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 3 回	ミサ曲・オラトリオ作品を深く掘り下げ、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 4 回	イタリア・オペラ作品を中心に 譜読し作品の理解を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 5 回	イタリア・オペラ作品を深く掘り下げ、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 6 回	ドイツ・オペラ作品を中心に 譜読し作品の理解を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 7 回	ドイツ・オペラ作品を深く掘り下げ、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 8 回	フランス・オペラ作品を中心に 譜読し作品の理解を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 9 回	フランス・オペラ作品を深く掘り下げ、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 10 回	日本オペラ作品を中心に 譜読し作品の理解を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 11 回	日本オペラ作品を深く掘り下げ、表現を高める	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）発音に留意し練習する 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等に配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 12 回	取り上げた作品の中から試演会での発表曲を選ぶ 表現を深める	事前 重唱曲を選択し楽譜等確認し練習する 事後 授業内での問題を確認し、配慮しながら練習する	140 分 140 分
第 13 回	試演会に向けて作品の習熟を深める 共演者を伴い暗譜する	事前 選択した曲の楽語、単語の意味、詩の内容を再確認し練習する 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る	140 分 140 分
第 14 回	試演会に向けて作品の習熟を深める 演奏の質の向上を図る	事前 選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をする 事後 選択曲をそれぞれの共演者と合わせ練習をし、向上を図る	140 分 140 分
第 15 回	試演会発表と合評 まとめ	事前 選択曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究をする 事後 選択曲それぞれの演奏の質を高める	140 分 140 分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する

テキスト 授業内に提示する

オフィスアワー 授業開始前、または授業終了後、教室にて、並びに Email：shosat.ueno@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	□	□	□	□

対象コース／専門／学年： 声楽／演奏家コース／声楽専門／3 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	重唱を通して融和し合う声の育成とアンアンブル能力の向上を目指し、実践的に学ぶ

到達目標	①他声部をよく聴き、発声に留意して美しいハーモニーをつくる ②音楽的な構造、時代様式、詩の内容をふまえ、その表現を研究し、深める
------	---

授業計画			
第 1 回	ガイダンス・学習計画を立てる	事前 楽譜を準備する。 事後 読譜の確認をする。	60 分 60 分
第 2 回	コールユーブンゲン第二巻を中心に	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 3 回	16～17 世紀の作品 ラッソ、バレストリーナの作品より	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 4 回	16～17 世紀の作品 モンテヴェルディ、タリスの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 5 回	16～17 世紀の作品 パード、ダウラントの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 6 回	ドイツ・バロック期の作品 バッハ、ヘンデルの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 7 回	フランス近代作品 フォーレ・ドビュッシーの作品から	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 8 回	日本のアンサンブル作品	事前 読譜（音程、リズム、強弱、楽語）、発音に留意し練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 9 回	取り上げた作品の中からアンサンブルを組む	事前 詩の内容、テンポ、アーティキュレーションに配慮しながら練習する。 事後 詩の内容、テンポ、アーティキュレーション等の変化を確認しながら合わせる。	60 分 60 分
第 10 回	取り上げた作品について演奏を深める	事前 お互いの声部を聴き合いながら練習する。 事後 和声部を意識し、演奏の質を高める。	60 分 60 分
第 11 回	発表作品を決め、アンサンブルを組む	事前 アンサンブル曲を選択し楽語等も確認しつつ練習する。 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る。	60 分 60 分
第 12 回	発表作品を決め、演奏を深め、発表の準備を進める ハーモニーの精度を上げる	事前 テンポ、強弱、アーティキュレーションを意識して練習する。 事後 ハーモニーの形成、表現方法に配慮しながら練習する。	60 分 60 分
第 13 回	発表作品について、発表の準備を進める 表現を深める	事前 暗譜をする。 事後 暗譜の確認と表現法の研究。	60 分 60 分
第 14 回	発表作品について発表の準備を進める	事前 演奏の質を高め合う練習を心がける。 事後 授業内での問題を確認し、解決を図る。	60 分 60 分
第 15 回	発表と合評、まとめ	事前 発表前の合わせを重ねる。 事後 発表作品の合評をし、後期のテキストの準備をする	60 分 60 分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後、教室にて、並びに Email：shosat.ueno@gmail.com

備考 上記の枠組みの中で、履修生の声部構成やそれぞれの声の категория に即して、その都度選曲し、授業を進めていく。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・ 自己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責任・倫理観	生涯学習 意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

声楽アンサンブル-2

講師 庄智子

科目コード：ENS324

対象コース／専門／学年： 声楽／演奏家コース／声楽専門／3 年次

形態：実習	単位数：2 単位
概要	W.A.モーツァルトおよび周辺の作曲家のオペラ重唱曲並びに現代作曲家のアンサンブル曲を題材とし、アンサンブル能力の向上を目指す。

到達目標 作品の特徴に触れ、様式、音楽的構造、詩の内容もふまえ、演奏技術を高め豊かな表現力を養うことを目標とする。

授業計画				
第 1 回	ガイダンス 後期の学習計画を立てる	事前 前期成果の確認。 事後 楽譜の確認をし、読譜をすすめる。	60 分	60 分
第 2 回	W.A.モーツァルトのオペラ作品について 重唱曲①、②読譜、発音を中心に	事前 モーツァルトの作品について調べる。 事後 重唱曲①及び②音程、音階、リズム等に気を付けて読譜練習する。	60 分	60 分
第 3 回	重唱曲①、②読譜 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲①、②単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲①、②詩の内容を考えながら練習する	60 分	60 分
第 4 回	重唱曲①、② 表現の発展を高める	事前 重唱曲①、②テンポ、強弱、アーティキュレーション等を考える 事後 重唱曲①、②表現法の研究を深める	60 分	60 分
第 5 回	その他の作曲家のオペラ作品について 重唱曲③、④読譜、発音を中心に	事前 重唱曲③、④の作品について、単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲③、④詩の内容を考えながら練習する	60 分	60 分
第 6 回	重唱曲③、④ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲③、④テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲③、④歌唱法、表現法の研究	60 分	60 分
第 7 回	重唱曲③、④ 表現の発展を高める	事前 重唱曲③、④楽譜の意味、発声、発音への配慮 事後 授業内での問題を確認し、解決する	60 分	60 分
第 8 回	重唱曲⑤、⑥ 読譜、発音を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥の作品について、単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲⑤、⑥詩の内容を考えながら練習する	60 分	60 分
第 9 回	重唱曲⑤、⑥ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲⑤、⑥歌唱法、表現法の研究	60 分	60 分
第 10 回	重唱曲⑤、⑥ 表現の発展を高める	事前 重唱曲⑤、⑥楽譜の意味、発声、発音への配慮 事後 授業内での問題を確認し、解決する	60 分	60 分
第 11 回	重唱曲①～⑥からアンサンブルを組む	事前 重唱曲それぞれの背景、人間関係等を調べる。 事後 重唱曲それぞれの背景、人間関係等意識して練習する。	60 分	60 分
第 12 回	発表作品を決め準備を進める 1 表現を深める	事前 重唱曲それぞれの役柄、役割の感情表現の変化を意識する。 事後 重唱曲それぞれの役柄、役割の感情表現の変化を確認し、練習する。	60 分	60 分
第 13 回	発表作品を決め準備を進める 2 伴奏を伴い暗譜	事前 重唱曲それぞれのテンポ、強弱、アーティキュレーションを意識する。 事後 重唱曲のテンポ、強弱、アーティキュレーション等の変化を確認し、練習する。	60 分	60 分
第 14 回	発表作品を決め準備を進める 3 演奏の質の向上を図る	事前 重唱曲それぞれの伴奏合わせをする。 事後 重唱曲それぞれの伴奏者とともに合わせる。暗譜をする。	60 分	60 分
第 15 回	発表と合評 まとめ	事前 重唱曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究。 事後 重唱曲それぞれの演奏の質を高める。	60 分	60 分

フィードバック 授業への取り組み、試演会を通して学修の成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取り組み、試演会にて評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後、教室にて、並びに Email：shosat.ueno@gmail.com

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	□		□

副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1（ピアノ）

ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃

科目コード：IND108／IND207

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門／1・2 年次、GLA コース／音楽教育専門／1～3 年次

形態：実技

概要	音楽を学ぶ者にとっての基礎能力を育成するために欠かせないピアノの学習を個人レッスンによって行う。グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。
----	--

到達目標 運指や音階等の基本的な訓練を中心に、正しい読譜力を養うことを目標とする。

授業計画	GLA コース／音楽教育専門	前期 15 回	毎週 30 分の個人指導
	上記以外の全コース／全専門	前期 15 回	毎週 20 分の個人指導

第1回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前 過去の学習状況を踏まえ現状を自己分析。	80 分
		事後 担当教員と協議の上グレードの設定。課題曲の選定。	130 分
第2回	基礎訓練	事前 基礎教材を使って反復練習。	80 分
		事後 手指のフォームを意識して反復練習。	130 分
第3回	基礎技術の向上	事前 様々な音型を反復練習。	80 分
		事後 両手を弾き分ける訓練。課題曲の読譜。	130 分
第4回	奏法	事前 様々な強弱、テンポで練習し指を鍛える。	80 分
		事後 手指のフォームを正しくコントロールしながら反復練習。課題曲の読譜。	130 分
第5回	運指について	事前 課題曲の反復練習。	80 分
		事後 より効率のよい運指について考え、試してみる。	130 分
第6回	運指の決定	事前 課題曲の反復練習。	80 分
		事後 指使いを決定し、反復練習を行う。	130 分
第7回	正確な読譜（リズムと拍子）	事前 楽譜をよく見直す。	80 分
		事後 生きたリズムと拍感を意識して反復練習を行う。	130 分
第8回	正確な読譜（強弱）	事前 強弱記号をよく見る。	80 分
		事後 強弱記号が示す意味を考えて表現につなげる。	130 分
第9回	楽曲分析 楽曲 A	事前 作品の和声進行を意識して練習。	80 分
		事後 構造、形式を把握する。	130 分
第10回	スムーズな演奏	事前 作品の構造を意識して各部の表情を大切に。	80 分
		事後 強弱、テンポ正確に。暗譜。	130 分
第11回	音階練習	事前 片手の練習。両手の練習。	80 分
		事後 指使いを徹底して反復練習。	130 分
第12回	音階練習(カデンツ)	事前 カデンツの定型を覚える。	80 分
		事後 徹底的な反復練習。	130 分
第13回	音階練習(テンポアップ)	事前 両手で正確に反復練習。	80 分
		事後 少しずつテンポアップ。拍子、テンポ正確に。	130 分
第14回	仕上げ	事前 指使い、強弱、リズムの確認。暗譜の確認。	80 分
		事後 表情、構造を明確に反復練習。	130 分
第15回	前期 成果の発表	事前 技術、音の確認。	80 分
		事後 自己評価。課題の自覚。	130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。(副科ピアノ課題曲表参照のこと)

オフィスアワー ※4月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1単位 43,000 円）。支払い期日等については「教職課程ガイダンス期間中」に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（新学課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・ 自然の理解	音楽表現 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自己 管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責任・倫理観	生涯学習 意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（ピアノ）		科目コード：IND109／IND208
ピアノ部会主任 教授 山崎紫乃		
対象コース／専門／学年：器楽・声楽・演奏家コース／ピアノ、ギター、古楽鍵盤楽器以外の全専門／1・2 年次、GLA コース／音楽教育専門／1～3 年次		
形態：実技	単位数：1 単位	
概要	ピアノの学習を個人レッスンにより行い、更なる向上を目指す。 グレード別に各自の能力に合わせて段階的に進めていく。	
到達目標	基礎訓練と共に様々な練習方法を演奏向上に結びつける過程を学ぶことを目標とする。	

授業計画	GLA コース／音楽教育専門 後期 15 回 毎週 30 分の個人指導 上記以外の全コース／全専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導	
第 1 回	課題の設定	事前 課題曲の設定。 事後 読譜。80 分 130 分
第 2 回	指使いの決定	事前 楽譜を丁寧に読譜。反復練習。 事後 正しい指使いの決定。反復練習。80 分 130 分
第 3 回	楽曲分析 楽曲 B	事前 作品の全体像を把握する。 事後 和声、形式を分析し、構造を理解する。80 分 130 分
第 4 回	演奏技術の鍛錬	事前 構造を意識して各部の表情をつかむ。 事後 表現に必要な奏法の伝授。反復練習。80 分 130 分
第 5 回	様々な表現	事前 イメージを明確にして行く。 事後 奏法、テンポ設定、強弱の工夫。80 分 130 分
第 6 回	分散和音(和声感、調性感)	事前 音、指使いを正確に和声をよく聴きながら反復練習。 事後 手首の使い方、手のフォームの習得し、和音としてとらえる練習。80 分 130 分
第 7 回	練習方法の工夫（リズム練習）	事前 様々な音型を反復練習。 事後 リズム練習による技術向上を目指して反復練習。80 分 130 分
第 8 回	形式の整理	事前 全体の構造をつかむ。 事後 主題の扱い、調性、性格を整理する。80 分 130 分
第 9 回	表現	事前 構造を明確に整理する。 事後 作品の性格、主題の性格、楽譜の指示を基に的確な表現を追求する。暗譜。80 分 130 分
第 10 回	練習方法の工夫（分析練習）	事前 構成を理解する。 事後 各声部に分けて練習、またはハーモニーごとにまとめて練習。80 分 130 分
第 11 回	ポリフォニーの奏法	事前 各声部丁寧に読譜。指使いの決定。 事後 指のコントロールと耳を使って同時に弾き分ける。80 分 130 分
第 12 回	ペダルの練習	事前 イメージを明確にしておく。 事後 レガートペダル、アクセントペダル、音色のためのペダルを考える。80 分 130 分
第 13 回	暗譜について	事前 構造を理解する。 事後 ハーモニー、楽曲分析と結びつけて整理する。80 分 130 分
第 14 回	仕上げとまとめ	事前 音楽理解、ピアノ演奏技術の方法を整理する。暗譜。 事後 学習内容の復習と反復練習。暗譜。80 分 130 分
第 15 回	後期 成果の発表	事前 暗譜と技術の確認。 事後 自己評価。80 分 130 分

フィードバック 実技試験後、担当教員及び審査員のコメントを聞くことができる。

成績評価 実技試験により評価する。評価は複数の審査員の採点による。

テキスト 各自の進度に合わせたグレードを選択し、その課題を中心に目標を定めて演習を行う。（副科ピアノ課題曲表参照のこと）

オフィスアワー ※4 月のレッスンガイダンス後の実技担当者発表掲示を参照のこと。

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション・技能	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか

科目コード：IND108／IND207

対象コース／専門／学年： 全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	弦楽器には多くの奏法がある。それらを学ぶことによって、今までに体験したことのない音世界に触れ、音楽的視野をひろげてゆく。

到達目標	専門外の楽器を学ぶことで、新たな音楽的な気づきをもってそれぞれの専攻にも活かしてゆく。
------	---

授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	ガイダンスと、レッスンの進め方の確認	事前 履修楽器の音源を聴き、楽譜を見ておく。	105 分
		事後 学修計画を確認し、楽器、楽譜等、今後必要な準備をする。	105 分
第 2 回	履修楽器の発音体の仕組みを学ぶ	事前 履修楽器の音を、まず出してみる。	105 分
		事後 履修楽器の仕組みを、文献などで再確認する。	105 分
第 3 回	履修楽器の奏法における特徴を学ぶ	事前 楽器の各パーツの名前を調べておく。	105 分
		事後 音源を聴き、音の特徴を把握しておく。	105 分
第 4 回	自然な音を奏する	事前 TVなどの動画で、美しい楽器を弾く姿勢を確認しておく。	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 5 回	音階の練習	事前 音階を各自で練習しておく	105 分
		事後 良い音程を確認しながら、是正に向けて練習する。	105 分
第 6 回	課題曲Ⅰの選定	事前 演奏可能な作品を探してみる。	105 分
		事後 課題曲Ⅰの楽譜を準備する。	105 分
第 7 回	音階、課題曲Ⅰ 技術的問題点の確認	事前 課題曲Ⅰの譜読み	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 8 回	音階、課題曲Ⅰ 表現における問題点の解決	事前 課題曲Ⅰの反復練習	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 9 回	音階、課題曲Ⅰ アンサンブルについて学ぶ	事前 課題曲Ⅰの音源を聴いておく。	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 10 回	音階、課題曲Ⅰ タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲Ⅰを、鏡を見ながら練習する。	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 11 回	音階、課題曲Ⅰ 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲Ⅰに対し、録音を取って練習する。	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 12 回	課題曲Ⅰ ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	105 分
		事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分
第 13 回	音階、課題曲Ⅱ 技術的問題点の確認	事前 課題曲Ⅱの譜読み	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 14 回	音階、課題曲Ⅱ 表現における問題点の解決	事前 課題曲Ⅱの反復練習	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 15 回	音階、課題曲Ⅱ アンサンブルについて学ぶ	事前 課題曲Ⅱの音源を聴いておく。	105 分
		事後 問題個所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分

フィードバック	学年末に発表会を行う。ソロに加えてアンサンブルを行い、互いのスキルアップをはかる。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒		☐	☒	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（弦楽器）

弦楽部会主任 准教授 佐藤まどか 科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： 全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数 1 単位
概要	弦楽器には多くの奏法がある。それらを学ぶことによって、今までに体験したことのない音世界に触れ、音楽的視野をひろげてゆく。

到達目標	専門外の楽器を学ぶことで、新たな音楽的な気づきをもってそれぞれの専攻にも活かしてゆく。
------	---

授業計画	後期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	音階、課題曲Ⅱ タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲Ⅱを、鏡を見ながら練習する。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 2 回	音階、課題曲Ⅱ 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲Ⅱに対し、録音を取って練習する。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 3 回	課題曲Ⅱ ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	105 分
		事後 課題曲の確認する。	105 分
第 4 回	音階、課題曲Ⅲ 技術的問題点の確認	事前 課題曲Ⅱの譜読み	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 5 回	音階、課題曲Ⅲ 表現における問題点の解決	事前 課題曲Ⅱの反復練習	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 6 回	音階、課題曲Ⅲ アンサンブルについて学ぶ	事前 課題曲Ⅱの音源を聴いておく。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 7 回	音階、課題曲Ⅲ タイミングの取り方、呼吸の取り方を学ぶ	事前 課題曲Ⅱを、鏡を見ながら練習する。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 8 回	音階、課題曲Ⅲ 音色の合わせ方、自身の演奏における問題点の確認	事前 課題曲Ⅱに対し、録音を取って練習する。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 9 回	課題曲Ⅲ ピアノ合わせでのレッスン 仕上げ	事前 音色の変化や表現のために、奏法上の問題点を洗い出し、練習しておく。	105 分
		事後 課題曲の反省と、次回の課題を確認する。	105 分
第 10 回	発表会課題 技術的、表現における問題点の確認	事前 発表会課題に対し、譜読みを行う。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 11 回	発表会課題 アンサンブルにおける問題点を解決する	事前 課題の音源を聴いておく。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 12 回	発表会に向けての実習 複数のアンサンブルを体験する	事前 曲の全体像から、立体的な表現につながるよう、効果的に演奏できる工夫をする。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 13 回	発表会に向けての実習 合奏	事前 共に演奏するものの音を聴きながら、演奏できるように、耳に集中して練習する。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 14 回	発表会課題 ピアノ合わせでのレッスン	事前 ピアノとの合わせを行っておく。	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	105 分
第 15 回	発表会 と反省	事前 技術的な問題点を確認しながら、練習する。	105 分
		事後 反省と、課題を確認し、更に、音楽の幅を広げる。	105 分

フィードバック	学年末に発表会を行う。ソロに加えてアンサンブルを行い、互いのスキルアップをはかる。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒		☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とする。初心者も含まれることから、各学生の能力、進度に応じ課題を設定する。

到達目標	楽器の扱い方、構え方、基本的な奏法を知り、楽曲を演奏してゆく。既にある程度の能力を持つものに関しては、さらに確実なものとしてゆく。
------	---

授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	レッスンの進め方、楽器の選び方について	事前 学修計画案をたてる	105 分
		事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	楽器の取り扱い方および音の出し方	事前 教員の指示による	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ①	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 4 回	姿勢、呼吸法、音階を学ぶ②	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	良い音を探求する	事前 引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 6 回	練習曲①確認	事前 練習曲①の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 7 回	練習曲①仕上げ	事前 練習曲①の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲①のまとめを行う	105 分
第 8 回	練習曲②確認	事前 練習曲②の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する。	105 分
第 9 回	練習曲②仕上げ	事前 練習曲②の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲②のまとめを行う	105 分
第 10 回	練習曲③確認	事前 練習曲③の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	練習曲③仕上げ	事前 練習曲③の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲③のまとめを行う	105 分
第 12 回	曲①確認	事前 曲①の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	曲①仕上げ	事前 曲①の完成を目指す	105 分
		事後 曲①のまとめを行う	105 分
第 14 回	曲②確認	事前 曲②の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後 問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	曲②仕上げ	事前 練習曲②の完成を目指す	105 分
		事後 練習曲②のまとめを行う	105 分

フィードバック	各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。
---------	---------------------------------

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。
------	--

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒		☐	☒	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（管打楽器）

管・打楽器部会主任 特任教授 三上 明子 科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門のみ 1～4 年次、これ以外全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	専門外の楽器を習得することで、幅広く音楽を学ぶことを目標とするが、副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1(管楽器)で得たものをさらに確実なものとしてゆく。

到達目標 副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1(管楽器)で得たものを、より確実なものとしてゆく。

授業計画	後期 15 回 毎週 20 分の個人指導
------	----------------------

第 1 回	後期のレッスンの進め方について	事前	前期の取り組みの問題点を確認する	105 分
		事後	後期に向けての課題に取り組む	105 分
第 2 回	練習曲④確認	事前	練習曲④の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後	問題所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 3 回	練習曲④仕上げ	事前	練習曲④の完成を目指す	105 分
		事後	練習曲④のまとめを行う	105 分
第 4 回	練習曲⑤確認	事前	練習曲⑤の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 5 回	練習曲⑤仕上げ	事前	練習曲⑤の完成を目指す	105 分
		事後	練習曲⑤のまとめを行う	105 分
第 6 回	曲③確認	事前	曲③の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 7 回	曲③表現の工夫	事前	曲③の表現に取り組む	105 分
		事後	曲③の表現を身に付ける	105 分
第 8 回	曲④確認	事前	曲④の譜読みと準備に取り組む	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 9 回	曲④表現の工夫	事前	曲④の表現に取り組む	105 分
		事後	曲④のまとめを行う	105 分
第 10 回	発表会に向けて 曲①	事前	発表会に向けて準備する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 11 回	発表会に向けて 曲②	事前	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 12 回	発表会に向けて 曲③	事前	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 13 回	発表会に向けて 曲④	事前	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 14 回	発表会に向けて 曲⑤	事前	引き続き問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
		事後	問題箇所を確認し、是正にむけて練習する	105 分
第 15 回	一年のまとめ	事前	一年間の取り組みの問題点を確認する。	105 分
		事後	来年度への取り組みについて考える	105 分

フィードバック 各教員から学生へのフィードバックは、必要に応じて常に行われる。

成績評価 レッスンへの積極的な取り組み、習熟度によって行う。

テキスト 個人の音楽的、技術的問題点を解決すべく課題曲を選定するため、曲目は、適宜、指導教員と相談の上、決定する。

オフィスアワー 各担当教員レッスン前後、レッスン室にて

備考 平成 29 年度以降入学者は教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は入学年度に関わらず全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-1・Ⅱ-1（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND108／IND207

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門のみ 1～4 年次、これ以外全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標	本学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。
------	--

授業計画		
第 1 回	ガイダンス。個人の演奏技術の判定。個人の能力に応じて学習用作品を決定。	事前 学ぶ楽器について下調べ。 事後 学ぶ作品の楽譜探索。 80 分
第 2 回	作品 A に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 3 回	作品 A に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 4 回	作品 A に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 5 回	作品 A に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 6 回	作品 A に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。 80 分
第 7 回	作品 B に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 8 回	作品 B に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 9 回	作品 B に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 10 回	作品 B に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 11 回	作品 B に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。 80 分
第 12 回	作品 C に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 13 回	作品 C に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 14 回	作品 C に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分
第 15 回	作品 C に取り組む 4（総合、仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。 80 分 事後 学ぶ作品の楽譜探索。 80 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。
---------	---------------------------

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

副科器楽Ⅰ-2・Ⅱ-2（オルガン・古楽）

教授 小林英之

科目コード：IND109／IND208

対象コース／専門／学年： GLA コース／文化創造マネジメント専門のみ 1～4 年次、これ以外全コース・全専門／2～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	オルガン作品の演奏を通じ、専門楽器での表現力を向上する。

到達目標	当学でオルガン・古楽部門に属し実際に学べる楽器（オルガン、チェンバロ、フォルテピアノ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、リコーダー、トラヴェルソ）や、当学の古楽器コレクションを通して、主に 17、18 世紀の作品の演奏法を研究し、専門の楽器、あるいは声楽の演奏に反映させる。
------	--

授業計画	GLA コース／文化創造マネジメント専門 後期 15 回 毎週 20 分の個人指導（オプショナル料金制） 上記以外の全コース／全専門 年間 15 回 隔週 20 分の個人指導
------	--

第 1 回	作品 D に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 2 回	作品 D に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 3 回	作品 D に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 4 回	作品 D に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 5 回	作品 D に取り組む 5（仕上げ）、別課題の決定。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 学ぶ作品の楽譜探索。	80 分
第 6 回	作品 E に取り組む 1（楽譜を解析し効率よい練習法を考える）	事前 譜読みをする。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 7 回	作品 E に取り組む 2（技術的な問題を解決する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 8 回	作品 E に取り組む 3（表現力を加味する）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 9 回	作品 E に取り組む 4（総合）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 10 回	作品 E に取り組む 5（仕上げ）。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 11 回	学習した作品をすべて復習する 1（A、B、C）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 12 回	学習した作品をすべて復習する 2（D、E）	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 13 回	学習した作品のストップの組み合わせを考える。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 14 回	学習した作品をすべて演奏する。	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
第 15 回	発表会準備	事前 アドヴァイスされた練習方法によって滞りなく弾けるよう練習を重ねる。	80 分
		事後 該当楽器で特に興味を持った点を深めてみる。	80 分

フィードバック	レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。
---------	---------------------------

成績評価	授業への積極的な取り組み、習熟度によって行う。
------	-------------------------

テキスト	その都度指定し、市販されていないものについては入手方法を指導する。
------	-----------------------------------

オフィスアワー	各担当教員レッスン前後、レッスン室にて
---------	---------------------

備考	教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。 GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

副科声楽Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND110／IND209

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／声楽専門以外／2～4 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～4 年次、GLA コース／文化創造マネジメント専門／1～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる
到達目標	①発声の基本を確立する。 ②伊、独、仏歌曲、オペラおよび共通教材を含む日本歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような確かな読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。 ③コンコーネ 50 番や歌曲をピアノ伴奏で歌う。
授業計画	前期 15 回 毎週 20 分の個人指導 実技演習においては、個々の学生の特性を見極め、その進捗に則して課題を選択しレッスンをする。

第 1 回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 事後	これまでの声楽に関する学修を確認し学習計画を練る 学習計画を確認し、楽譜等の準備をする	80 分 80 分
第 2 回	エチュード・イタリア古典歌曲 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	発声練習を重ね、次のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 3 回	エチュード・イタリア古典歌曲 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 事後	発声の基礎練習② 次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 4 回	エチュード・イタリア古典歌曲 基礎的問題点の解決	事前 事後	次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 5 回	エチュード・イタリア古典歌曲 声域の拡大と歌唱技術の向上をはかる	事前 事後	次のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 6 回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（言葉の意味に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 7 回	イタリア古典歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 8 回	イタリア古典歌曲 声域・カテゴリーの確立	事前 事後	次のレッスン予定のイタリア古典歌曲の練習を重ねる（イタリア語のディクシオンに留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 9 回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する	事前 事後	次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 10 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 事後	次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 11 回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 事後	次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 12 回	問題点の認識と解決をはかる	事前 事後	次のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 13 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事後	事前にピアノistと伴奏合わせをする レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 14 回	ピアノ伴奏を伴い表現の発展、演奏の質の向上をはかる	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 15 回	前期試験の予行演習をする	事前 事後	伴奏合わせを重ね、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 試験の成績による。

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、
別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☒	☒	☒	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	□	□	□

副科声楽Ⅰ-2・Ⅱ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目

声楽コース部会主任 教授 吉田伸昭 科目コード：IND111／IND210

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／声楽専門以外／2～4 年次、GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～4 年次、GLA コース／文化創造マネジメント専門／1～4 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	個人レッスンの形態で声楽の基本的な技術、音楽を学ぶ 課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる
到達目標	①声楽的発声の基本を確立する。 ②伊、独、仏歌曲、オペラおよび共通教材を含む日本歌曲を中心的題材として、言語を伴った声楽の表現を学びながら、それぞれの専門実技に応用できるような確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につける。 ③歌曲やアリアをピアノ伴奏で歌う。
授業計画	後期 15 回 毎週 20 分の個人指導 実技演習においては、個々の学生の特性を見極め、その進捗に則して課題を選択しレッスンをする。

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 2 回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究 日本歌曲、ドイツ歌曲を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 3 回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（言葉の意味、ディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 4 回	日本歌曲、ドイツ歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 5 回	オペラを知る 歌曲作品とオペラアリアとの比較研究	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 6 回	オペラアリア（あるいはロマン派歌曲） 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（言葉の意味、ディクシオンに留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 7 回	オペラアリア（あるいはロマン派歌曲） 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる（音楽的な表現に留意する） 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 8 回	各々の声の CATEGORY を踏まえ、複数の課題楽曲を選択する（後期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 9 回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める（後期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 10 回	上記に基づき演奏の深化をはかる（後期分）	事前 次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 11 回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める（後期分）	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 12 回	暗譜を確かなものとする（後期分）	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 13 回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 14 回	暗譜の上、演奏の完成度を高める	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分
第 15 回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	80 分 80 分

フィードバック 試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う

成績評価 学年末試験の成績による。

テキスト 授業計画欄を参照のこと。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスン時間を除く）
各教員のレッスン室

備考 教職履修に必要な単位の他に選択科目「副科器楽」及び「副科声楽」を履修する場合、
別途料金が発生する（1 単位 43,000 円）。支払い期日等については新学期ガイダンス期間中に掲示する。
GLA コース文化創造マネジメント専門学生は全ての実技が有料（教職課程に係る副科実技も有料）

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

古楽研究（鍵盤音楽史）-1

教授 小林英之

科目コード：MUS305

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	現存する最古の鍵盤作品からバッハまでの流れを追う。

到達目標	14～18 世紀の鍵盤音楽史の概観。現存する最古のものから、J.S.バッハの頃までの鍵盤音楽を中心に「トッカータ（前奏曲）」「組曲」「オルガン・ミサ」「コラール編曲」など代表的な鍵盤楽器のための形式の変遷を追う。授業中には、関連するほかの古楽器を含め、本学所蔵の楽器に触れる機会を持つ。
------	---

授業計画		
第 1 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 1 回）全般	事前 「古楽」という考え方について調べておく。
		事後 新しく学んだ音楽用語について復習。
第 2 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 2 回）チェンバロ	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（撥弦楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 3 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 3 回）クラヴィコード、フォルテピアノ	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（撥弦楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 4 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 4 回）オルガン（イタリア、フランス）	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（気鳴楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 5 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 5 回）オルガン（ドイツ、スペイン）	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（気鳴楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 6 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 6 回）リコーダー	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（木管楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 7 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 7 回）トラヴェルソ	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（木管楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 8 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 8 回）ガンバ	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（弦楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 9 回	上野学園大学で学べる古楽器について（第 9 回）リュート	事前 バロック時代以前の鍵盤楽器について調べておく。（弦楽器）
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 10 回	第 9 回までに学んだ楽器に触れる。試奏する。	事前 第 9 回までの学習内容を復習しておく。
		事後 実際に触れた楽器について感じたことをまとめておく。
第 11 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 1 回）トッカータとは？	事前 トッカータという曲種について調べておく。
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 12 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 2 回）イタリア、ヴェネツィア	事前 ヴェネツィアはどこなところか？
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 13 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 3 回）オランダ、スウェーリンク	事前 17 世紀前後のオランダの状況について。
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 14 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 4 回）イタリア、ナポリ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。
第 15 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 5 回）イタリア、フレスコバルディ	事前 事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。
		事後 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。

フィードバック	授業内容の区切りごとに課すレポートへのコメント。
---------	--------------------------

成績評価	年度末に与えられる課題について作成したレポートに授業への積極的な取り組みを加味して評価する。
------	--

テキスト	必要に応じて配布、紹介、必要なものは購買で購入する。
------	----------------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて
---------	-----------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	□	☑	□	□	☑	☑	□	□	□	□	□	□

古楽研究（鍵盤音楽史）-2

教授 小林英之

科目コード：MUS306

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽学・音楽教育専門／2～4 年次、器楽・声楽・演奏家コース／全専門／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	現存する最古の鍵盤作品からバッハまでの流れを追う。

到達目標	14～18 世紀の鍵盤音楽史の概観。現存する最古のものから、J.S.バッハの頃までの鍵盤音楽を中心に「トッカータ（前奏曲）」「組曲」「オルガン・ミサ」「コラール編曲」など代表的な鍵盤楽器のための形式の変遷を追う。授業中には、関連するほかの古楽器を含め、本学所蔵の楽器に触れる機会を持つ。
------	---

第 1 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 6 回）南ドイツ、フレスコバルディの継承	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 2 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 7 回）組曲との関連	事前 事後	組曲と呼ばれる作品の、自分が知っているものを挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 3 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 8 回）多楽章形式のトッカータ	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 4 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 9 回）北ドイツ、スウェーリンクの影響	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 5 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 10 回）北ドイツ、南ドイツの影響	事前 事後	北ドイツと南ドイツの地域性の違いを調べておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 6 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 11 回）北ドイツ、多部分トッカータ	事前 事後	前期に学んだ北ドイツのオルガンについて復習しておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 7 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 12 回）バッハ、北ドイツの影響を受けたトッカータ	事前 事後	バッハが、いつ、どこで活躍していたか調べておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 8 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 13 回）バッハ、チェンバロ用トッカータ	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 9 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 14 回）バッハ、フーガと対をなすトッカータ	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 10 回	鍵盤楽器用トッカータについて（第 15 回）バッハ、組曲の中のトッカータ	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 11 回	組曲について（第 1 回）組曲とは？	事前 事後	バロック時代の宮廷舞踊について、調べておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 12 回	組曲について（第 2 回）フローベルガー	事前 事後	これまでに学んだフレスコバルディについて復習しておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 13 回	組曲について（第 3 回）ルイ・クーブラン	事前 事後	事前に配布テキストを読み、不明な点を挙げておく。 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 14 回	コラール作品について	事前 事後	コラールとは？ 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分
第 15 回	聖歌による作品について	事前 事後	聖歌、ミサとは？ 復習。興味を持った点を自分なりに深めてみる。	135 分 135 分

フィードバック 授業内容の区切りごとに課すレポートへのコメント。

成績評価 学期末に与えられる課題について作成したレポートに授業への積極的な取り組みを加味して評価する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介、必要なものは購買で購入する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／古楽器専門／2～4 年次、全コース／古楽器専門以外／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画		
第 1 回	「古楽」が意味するもの	事前 「古楽」について自分なりの定義を考える 事後 「古楽」に関する記述を調べる 110 分 170 分
第 2 回	「古楽」と「古楽でないもの」	事前 演奏における「正しさ」について考える 事後 「古楽」がどのように捉えられてきたかを整理する 140 分 140 分
第 3 回	「古楽器」が意味するものⅠ 管楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような管楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 4 回	「古楽器」が意味するものⅡ 弦楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような弦楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 5 回	「古楽器」が意味するものⅢ 鍵盤楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような鍵盤楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する 180 分 100 分
第 6 回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240 分 40 分
第 7 回	音律Ⅰ 音律の基礎	事前 音律について調べる 事後 音律に関する基礎的な事項を整理する 110 分 170 分
第 8 回	音律Ⅱ ビタゴラス音律	事前 ビタゴラス音律について調べる 事後 ビタゴラス音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 9 回	音律Ⅲ 純正律	事前 純正律について調べる 事後 純正律の特性を整理する 180 分 100 分
第 10 回	音律Ⅳ 中全音律	事前 中全音律について調べる 事後 中全音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 11 回	音律Ⅴ 不均等音律	事前 不均等音律について調べる 事後 不均等音律の特性を整理する 180 分 100 分
第 12 回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する 240 分 40 分
第 13 回	言葉と音楽	事前 言葉と音楽の関係に関する自分なりの具体例を考える 事後 言葉と音楽の関係を音楽史的視点から整理する 240 分 40 分
第 14 回	修辞学と音楽	事前 マドリガリズムについて調べる 事後 音楽修辞学について整理する 210 分 70 分
第 15 回	バッハのカンタータ	事前 バッハのカンタータを聞く 事後 音楽と社会の関わりについて整理する 220 分 60 分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	□

古楽研究（古楽概説）-2

准教授 櫻井茂

科目コード：MUS308

対象コース／専門／学年： 器楽・演奏家コース／古楽器専門／2～4 年次、全コース／古楽器専門以外／3～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。
到達目標	「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画				
第 1 回	装飾法Ⅰ 装飾例の分析	事前	ヘンデルのオペラアリアの演奏を聴き装飾例を調べる	220 分
		事後	装飾のパターンについて整理する	60 分
第 2 回	装飾法Ⅱ イタリア式装飾	事前	17 世紀初期の作品の演奏を聴き装飾例を調べる	220 分
		事後	イタリア式装飾について整理する	60 分
第 3 回	装飾法Ⅲ フランス式装飾	事前	18 世紀フランスの作品の演奏を聴き装飾例を調べる	220 分
		事後	フランス式装飾について整理する	60 分
第 4 回	装飾法Ⅳ 16,17 世紀の文献検討	事前	ディミニュションについて調べる	140 分
		事後	ディミニュションを実践してみる	140 分
第 5 回	装飾法Ⅴ 18 世紀音文献の検討	事前	レオポルド・モーツァルトの「ヴァイオリン奏法」の中の装飾に関する項を読む	180 分
		事後	様々な装飾を実践してみる	100 分
第 6 回	装飾法Ⅵ 装飾実習	事前	簡単な装飾を考える	210 分
		事後	装飾によって音楽の方向性がどのように変わるか整理する	70 分
第 7 回	通奏低音Ⅰ カデンツの実習	事前	通奏低音について調べる	100 分
		事後	実習した課題をもう一度実践してみる	100 分
第 8 回	通奏低音Ⅱ 簡単な楽曲の実習	事前	リアリゼーションを考える	170 分
		事後	実習した課題をもう一度実践してみる	110 分
第 9 回	演奏実習 弦楽器	事前	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	240 分
		事後	演奏解釈上の視点について整理する	40 分
第 10 回	様々な表現 テンポ・ルバート	事前	いわゆる「古乐的な」演奏について自分のイメージをまとめる	110 分
		事後	歴史的情報に立脚した演奏表現について考える	170 分
第 11 回	様々な表現 ポルタメント、ヴィブラート	事前	様式感について自分の考えを整理する	140 分
		事後	いわゆる「古乐的な」演奏について考え方を整理する	140 分
第 12 回	演奏実習 管楽器	事前	実習のための楽曲を選び演奏の準備をする	240 分
		事後	演奏解釈上の視点について整理する	40 分
第 13 回	アーティキュレーションの諸相	事前	アーティキュレーションについて調べる	110 分
		事後	演奏における様々なアーティキュレーションの処理について整理する	170 分
第 14 回	フレーズとアーティキュレーション	事前	フレーズについて調べる	110 分
		事後	演奏におけるフレーズとアーティキュレーションの関係について整理する	170 分
第 15 回	音楽におけるヒエラルキーの概念	事前	ヒエラルキーについて調べる	110 分
		事後	音楽におけるヒエラルキーについて整理する	170 分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☑	☐	☑	☑	☑	☑	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐

鍵盤和声-1

講師 高畠亜生

科目コード：SLF205

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／3～4 年次、全コース／全専門／2 年次生

形態：講義	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。②音楽的フレーズ感を身につける。③同じ旋律で様々な和声付けの可能性あることを体験する。④音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑤ヤマハやカワイのグレード試験にも役立てる。これらを目標として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	--

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション／力試し	事前 和声進行、カデンツ、終止、近親調など音楽の基本理論を復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 60 分
第 2 回	旋律の伴奏付け基本編①／二部形式、カデンツ、終止、	事前 第 1 回の力試しで苦手だった箇所の練習に取り組む。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 3 回	旋律の伴奏付け基本編②／和声付け、コード付け、コードネーム	事前 コードネームの読み方を未だ知らない学生は調べておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 4 回	旋律の伴奏付け基本編③／和声の転回形の響きと伴奏アレンジへの活用	事前 和声の転回形を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編④／三部形式、カデンツ、終止、	事前 カデンツ 3 種類をピアノで弾いておく。二部と三部形式の違いを確認しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分 60 分
第 6 回	旋律の伴奏付け応用編①／7 や 9 の和音のコード付け、変化和音や付加和音	事前 各長・短音階の固有音上の 7、9 和音をピアノで弾いておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 7 回	旋律の伴奏付け応用編② ／借用 D を使った経過和音を入れたコード付けと伴奏アレンジ	事前 借用和音について復習 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 8 回	旋律の伴奏付け応用編③ ／借用 D を使った経過和音や転位音を使ったオブリガードを入れた伴奏アレンジ	事前 第 7 回で完成した伴奏を元にオブリガード（対旋律）を作る。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	50 分 40 分
第 9 回	メロディー弾き歌い①／ピアノ伴奏付	事前 ピアノ初見読譜力を訓練しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 10 回	メロディー弾き歌い②／スコアリーディング	事前 各種音部記号（ト音、ヘ音、ハ音）の読み方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 11 回	メロディー弾き歌い①／コードネーム付 中級編	事前 コードネームの読み方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 12 回	メロディー弾き歌い②／コードネーム付 上級編	事前 前回の続きの課題を実習する。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 13 回	即興演奏／変奏 初級編	事前 非和声音（転位音）の使い方を復習しておく。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 14 回	即興演奏／変奏 中級編	事前 前回の続きの課題を実習する。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分
第 15 回	即興演奏／変奏 上級編	事前 前回の続きの課題を実習する。 事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	45 分 45 分

フィードバック	授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。
---------	---

成績評価	試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%
------	---

テキスト	五線紙とファイルを用意すること。
------	------------------

その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。

オフィスアワー	授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	コードネームを認めるように学習して、前期試験では、好きな歌手の歌を各自自由に選び、ピアノ弾き語り発表会をする。演奏者以外の履修者は鑑賞して、最後に全員でお互いの講評会をして意見を述べ合う。
-------------	--

備考	履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的にすること。 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。
----	--

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒

鍵盤和声-2

講師 高畠亜生

科目コード：SLF206

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLAコース／全専門／3～4 年次、全コース／全専門／2 年次生

形態：講義	単位数：1 単位
概要	一人一人ピアノを使って、実際の音楽現場で役立つように、メロディー伴奏付けや、モチーフ作曲や即興演奏、簡単な旋律の作曲と伴奏付け、弾き歌いなどの演習。和声感と演奏、即興、作曲などの壁を取り払い総合的な音楽能力を養う。

到達目標	様々な実習を通じて和声感覚を養うだけでなく、ピアノ弾き歌いや即興演奏など実技も行えるようソルフェージュ応用力も養う。 ①旋律と和声は切り離せないものである。②実際音楽的な耳を養う。②音楽的フレーズ感を身につける。③同じ旋律で様々な和声付けの可能性あることを体験する。④音楽現場で実際に生かせる聴取力、アレンジ演奏ができるようにする。⑤ヤマハやカワイのグレード試験にも役立てる。これらを目指として学生の習熟度に合わせて一人一人ピアノを使用して実習する。
------	--

第 1 回	前期まとめ／定期試験 1（実技）	事前 第 1～15 回の復習と定期試験 1 に向けて練習する。	80 分
		事後 定期試験 1 で苦手だった箇所の練習を取り組む。	10 分
第 2 回	コード付け伴奏による旋律とコードの聴音	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	50 分
		事後 コードの種類による響きの違いを耳で聞き取る練習をする。	40 分
第 3 回	コードネームの各種、ピアノによる聴取訓練	事前 今までの課題を演奏しながら、コードネームの移り変わりを意識して種類を耳で聞き取る。	50 分
		事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	40 分
第 4 回	旋律の伴奏付け応用編④／移調伴奏 基本編	事前 カデンツの 3 つの型を、全ての長調&短調で弾く。	60 分
		事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	30 分
第 5 回	旋律の伴奏付け応用編⑤／移調伴奏 実践編	事前 前回の続きの課題を練習する。	50 分
		事後 授業の課題に取り組む。主に終わった課題をピアノで弾く。	40 分
第 6 回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする／基本編	事前 コードネームの復習と、二部形式で旋律を作曲する練習	45 分
		事後 授業の課題を練習する。	45 分
第 7 回	与えられたコードの上に旋律を作曲して弾き歌いする／実践編	事前 前回の続きの課題を練習する。	45 分
		事後 授業の課題を練習する。	45 分
第 8 回	与えられたモチーフを使った即興演奏／初級編	事前 モチーフの展開方法を研究しておく。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 9 回	与えられたモチーフを使った即興演奏／中級編	事前 前回の続きの課題を実習する。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 10 回	与えられたモチーフを使った即興演奏／上級編	事前 前回の続きの課題を実習する。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 11 回	数字付き低音／ドイツ式	事前 1 年次の和声の教科書の「数字付き低音」を読んでおく。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 12 回	数字付き低音／フランス式	事前 前回の続きの課題を実習する。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 13 回	数字付き通奏低音のバス課題／コラール実習 基本編	事前 前回の続きの課題を実習する。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 14 回	数字付き通奏低音のバス課題／コラール実習 実践編	事前 前回の続きの課題を実習する。	45 分
		事後 授業の課題に取り組む。	45 分
第 15 回	後期まとめ／定期試験 2（実技）	事前 第 1～15 回の復習と定期試験 2 に向けて練習する。	80 分
		事後 定期試験 2 で苦手だった箇所の練習を取り組む。	10 分

フィードバック	授業内で実施する確認テストや一人一人実施する弾き歌い、伴奏付け等を聴いたり、添削して改善点や今後の学習方法を各自にコメントして伝える。
---------	---

成績評価	試験の成績 50%、カデンツ奏・課題 25%、授業への積極的な取り組み 25%
------	---

テキスト	五線紙とファイルを用意すること。
------	------------------

	その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
--	--

オフィスアワー	授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	歌曲作曲を取り上げる。各少人数グループ毎にテーマを決めて、その作詞のためのキーワードを全員出し合う。グループ代表がリードして、曲の作詞をストーリーを作ってまとめる。それにグループ毎にコード進行を決めて、そのピアノ伴奏を弾きながら、メロディを創作する。自由に質問をさせて、創作過程は担当講師が各グループの創作を手助けしたりアドバイスする。完成後、グループ代表がピアノ弾き語りで試演会をする。講評会をして、感想を述べ合う。
-------------	---

備考	履修の条件：ソルフェージュ I と和声法を履修済のこと。ピアノが中級程度は弾ける学生が対象。課題を積極的にすること。 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒

講師 高畠亜生 科目コード: SLF203

形態：実習

到達目標	作曲家が楽譜に残したメッセージを注意部深く読み取れるようになること。 各自が持っている音楽的能力を“自らの努力”や“積極的な演習”の積み重ねにより最大限引き出し、「演奏表現の向上」や「歌唱」、「アンサンブル」、「弾き歌い」、「初見視唱&試奏」、「楽譜の読譜力」、「即興演奏」、「楽曲分析」等に生かすことが出来るようになる。
------	--

第1回	オリエンテーション 基礎能力の確認	事前	今までのソルフェージュの実習を振り返り、自らの得手不得手を確認しておく。	50	分
		事後	ソルフェージュ演習の目的を理解し、その上で自分の足りない点を把握する。	40	分
第2回	総合演習1 自己紹介、楽器紹介	事前	自分の専攻楽器について調べておく。	50	分
		事後	様々な楽器についての知識を深める。	40	分
第3回	総合演習2 西洋音楽の成り立ち 中世の音楽 モテット 教会旋法による創作、初見、ピアノ弾き歌い	事前	西洋音楽の成り立ち、中世音楽の作曲家、教会旋法について調べる。	50	分
		事後	教会旋法を使って、旋律を創作してみる。終止、モテットの特徴を復習する。	40	分
第4回	総合演習3 ルネサンス・バロック期の音楽 作品の聴取分析、初見	事前	ルネサンスとバロック期のそれぞれの国の作曲家や時代背景、音楽の特徴を調べる。	50	分
		事後	ルネサンス・バロック期の音楽に触れてみる。	40	分
第5回	総合演習4 カノン、リチェルカルレ、フーガについて 作品の初見 バッハのオルガン作品について	事前	カノン・フーガの作品を探してみる。	50	分
		事後	カノン・フーガの作品をたくさん演奏したり聴いたりする。	40	分
第6回	総合演習5 バッハ：インヴェンションより バッハが意図した演奏＝創作の手引きの探求と聴取分析	事前	課題曲を予習する。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第7回	総合演習6 バッハ：インヴェンション・シンフォニアより 様々な楽器でのアンサンブルや初見	事前	課題曲を予習する。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第8回	総合演習8 バッハ：管弦楽組曲第2番の連弾 原曲作品の聴取による分析 古典組曲や舞曲について	事前	古典舞曲、組曲について調べる。	50	分
		事後	様々な組曲を聴いてみる。	40	分
第9回	総合演習9 バッハ：無伴奏ヴァイオリンソナタ、無伴奏チェロ組曲、無伴奏フルートのためのパルティータよりリズム読み 独奏の中和声対位法について	事前	課題曲を予習する。バッハの和声対位法について調べる	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第10回	総合演習10 バッハ：ブランデンブルグ協奏曲より スコアリーディング（移調楽器＆クレ読み）、連弾	事前	課題曲を予習する。協奏曲について調べる。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第11回	総合演習11 バッハ：マタイ受難曲より 通奏低音の実習 特殊編成	事前	課題曲を予習する。通奏低音について調べる。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第12回	総合演習12 コラル（バッハ：マタイ受難曲等・カンタータ）による合唱、聴取による和声分析、聴唱	事前	課題曲を予習する。コラルについて調べる。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第13回	総合演習13 バロック期の名曲より（バッハ以外）① ヴィヴァルディ、アルビノニ、バップフェルベル	事前	課題曲を予習する。バロック期の（伊・独・仏・英）の作曲家を調べる	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第14回	総合演習13 バロック期の名曲より（バッハ以外）② ヘンデル、カッチーニ、パーセルの作品	事前	課題曲を予習する。	50	分
		事後	課題曲を復習する。	40	分
第15回	総合演習14 前期の復習	事前	授業内の不明点を確認する。	50	分
		事後	授業内で理解できなかった楽曲について復習する。	40	分

成績評価 事前学習 35%、授業への積極的参加 45%、試験・レポート 20%

J.S.Bach 『インヴェンションとシンフォニア』(ハンス・ビショッフ版 全音楽譜出版社)他原典版

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次

形態：実習	単位数：1
概要	ソルフェージュを無味乾燥な技術や知識を得るのではなく、音楽全般を深く味わうための総合演習と考えて、様々な実作品も用いながら、基礎的な力と応用力をのばしていく。実践やアンサンブル演習を取り入れつつ基礎的な演習も行う。

到達目標	作曲家が楽譜に残したメッセージを注意深く読み取れるようになること。 各自が持っている音楽的能力を“自らの努力”や“積極的な演習”の積み重ねにより最大限引き出し、「演奏表現の向上」や「歌唱」、「アンサンブル」、「弾き歌い」、「初見視唱&試奏」、「楽譜の読譜力」、「即興演奏」、「楽曲分析」等に生かすことが出来るようになる。
------	---

授業計画	●初見（視唱、試奏） ●ピアノ弾き歌い ●アンサンブル（連弾、室内楽、合唱） ●リズム読み ●クレ読み、スコアリーディング ●和声、伴奏付け ●コード聴音、楽器聴音、聴奏 等の課題を実習において適宜組み合わせる。
------	--

第 1 回	総合演習 1 バッハ：平均律クラヴィーア 1 巻より 分析とアンサンブル フーガについて	事前 事後	課題曲を予習する。フーガ形式について調べる 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 2 回	総合演習 2 バッハ：平均律クラヴィーア 2 巻より 分析とアンサンブル	事前 事後	課題曲を予習する。 課題曲を復習する。音源を探して聴いてみる。	50 分 40 分
第 3 回	総合演習 3 フランク：前奏曲、フーガと変奏、バッハ：小フーガト短調より 聴取分析と試奏	事前 事後	課題曲を予習する。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 4 回	総合演習 4 モーツァルト：モテット「Ave verum corpus」「レクイエム」より合唱と合奏による初見	事前 事後	課題曲を予習する。モテットについて復習する。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 5 回	総合演習 5 モーツァルトの室内楽作品から分析、初見、アンサンブル、クレ読みなど	事前 事後	課題曲を予習する。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 6 回	総合演習 6 モーツァルトの交響曲作品から分析、ピアノ連弾、アンサンブル、移調楽器について	事前 事後	課題曲を予習する。移調楽器について調べる。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 7 回	総合演習 7 ベートーヴェンの作品から分析、初見、アンサンブル、クレ読みなど	事前 事後	課題曲を予習する。 課題曲を復習する。ベートーベンの様々な作品を聴いてみる。	50 分 40 分
第 8 回	総合演習 8 ベートーヴェンの交響曲作品から分析、ピアノ連弾、アンサンブルなど、	事前 事後	課題曲を予習する。原曲を様々な管弦楽団の音源で聴いてみる。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 9 回	総合演習 9 シューベルト交響曲「グレイト」より分析、初見、アンサンブルなど	事前 事後	課題曲を予習する。原曲を聴いてみる 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 10 回	総合演習 10 ドイツ歌曲とフランス歌曲より分析、初見、視唱 歌詞とメロディの関連性について	事前 事後	課題曲を予習する。シューベルト、シューマンの歌曲を聴いてみる。 フォーレ、ラヴェル、ドビュッシーの歌曲を聴いてみる。	50 分 40 分
第 11 回	総合演習 11 ブラームスの作品より分析、連弾、アンサンブル、初見など	事前 事後	課題曲を予習する。 ブラームスのいろいろな作品を聴いてみる。	50 分 40 分
第 12 回	総合演習 12 ラヴェル：「マ・メール・ロワ」より管弦楽編曲分析、ピアノ連弾、アンサンブル	事前 事後	課題曲を予習する。 ラベルのいろいろな作品を聴いてみる。	50 分 40 分
第 13 回	総合演習 13 ドビュッシー：「牧神の午後への前奏曲」前半 管弦楽聴取分析、ピアノ連弾、楽器試奏	事前 事後	課題曲を予習する。原曲の管弦楽曲を聴いてみる ピアノで各楽器の音色を出すにはどうすればよいか考える。	50 分 40 分
第 14 回	総合演習 14 ドビュッシー：「牧神の午後への前奏曲」後半、連弾&合奏／歌劇アリアの初見、アンサンブル	事前 事後	課題曲を予習する。原曲の管弦楽曲を聴いてみる。 課題曲を復習する。	50 分 40 分
第 15 回	総合演習 15 前期の復習	事前 事後	授業内の不明点を確認する。 授業内で理解できなかった楽曲について復習する。	50 分 40 分

フィードバック	課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。
---------	---

成績評価	事前学習 35%、授業への積極的参加 45%、試験・レポート 20%
------	------------------------------------

テキスト	J.S.Bach 『平均律クラヴィーア曲集第 1 巻、第 2』（ヘンレ版、ウィーン原典版）他バッハの自筆譜を基にした原典版 M.Ravel 『マ・メール・ロワ』（連弾一台 4 手 デュラン社） C.Debussy 『牧神の午後への前奏曲』（スコア 全音楽譜出版社） ※コピー楽譜可。上記の楽譜（他社版も可）を既に持っている人は新購入の必要なし。
------	---

オフィスアワー	授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考	学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。
----	--

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☑	☑	☐	☐	☐

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／3 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	楽譜から豊かな音楽を引き出す能力を身につけるために、読譜力・楽曲分析力を高め、和声感、リズム感を磨き、音楽を聴く力を養う。実作品の聴取、分析、演奏のほか、視唱、聴音等の基本的なソルフェージュ能力を高めるための訓練を行う。

到達目標	楽譜に記された音符・記号等から音楽を読み取り表現するために必要な知識及び技術を習得する。 楽曲の視奏などを通し、様々な様式に応じた演奏法を身につける。
------	--

授業計画	下記の楽曲を視奏・視唱・聴音・分析など様々な分野の課題として用いる。なお本講義は実質的に実技であるため、参加学生の専攻や能力に応じて計画を変更する場合がある。その他、ソルフェージュの基礎的な訓練の課題も用意する。
------	--

第 1 回	導入	事前 過去に実習した課題を復習する。 事後 授業内で扱われた課題を反復練習する。	分 分
第 2 回	J.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲第 1 番」前奏曲	事前 視唱 (61 番) リズム (1 番) の練習をする。＊宿題のプリントは授業内で配布する。 事後 前奏曲の和音分析を行う。	分 分
第 3 回	J.S.バッハ「カンタータ第 4 番」コラール	事前 視唱 (62 番) リズム (2 番) の練習をする。 事後 コラールのピアノ演奏を試みる。	分 分
第 4 回	ベートーヴェン「弦楽四重奏曲第 1 番」第 1 楽章	事前 視唱 (63 番) リズム (3 番) の練習をする。 事後 第 1 楽章全体を、楽譜を見ながら鑑賞し形式の確認を行う。	分 分
第 5 回	シューマン「子供の情景」より「トロイメライ」	事前 視唱 (64 番) リズム (4 番) の練習をする。 事後 トロイメライの様々な演奏を確認し、楽譜と演奏の関係を研究する。	分 分
第 6 回	ショパン「プレリュード」作品 28-4	事前 視唱 (65 番) リズム (5 番) の練習をする。 事後 ショパンのプレリュードのうち、授業で扱わなかった曲を鑑賞する。	分 分
第 7 回	ビゼー「アルルの女第 1 組曲」第 1 曲	事前 視唱 (66 番) リズム (6 番) の練習をする。 事後 オーケストレーションの違いによる響きの違いを確認する。	分 分
第 8 回	ビゼー「アルルの女第 1 組曲」第 3 曲	事前 視唱 (67 番) リズム (7 番) の練習をする。 事後 第 1 組曲と第 2 組曲の響きの違いを確認する。	分 分
第 9 回	ミヨー「ルネ王の暖炉」第 1 曲	事前 視唱 (68 番) リズム (8 番) の練習をする。 事後 第 1 曲の、移調楽器のパートを表情豊かにリズム読みできるよう練習する。	分 分
第 10 回	シューマン「女の愛と生涯」第 4 曲	事前 視唱 (69 番) リズム (9 番) の練習をする。 事後 第 4 曲の歌詞と和音の響きの関係について研究する。	分 分
第 11 回	ラヴェル「マ・メール・ロワ」第 1 曲・第 4 曲	事前 シューマン「女の愛と生涯」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 「マ・メール・ロワ」の管弦楽版を鑑賞・研究する。	分 分
第 12 回	フォーレ「リディア」	事前 視唱 (70 番) リズム (10 番) の練習をする。 事後 「リディア」以外の、調性音楽中に教会旋法が用いられた楽曲について研究する。	分 分
第 13 回	デュティユー「牧歌」	事前 視唱 (71 番) リズム (11 番) の練習をする。 事後 「牧歌」の和音の響きを味わいながらスムーズに演奏できるよう練習する。	分 分
第 14 回	J.S.バッハ「マタイ受難曲」コラール	事前 視唱 (72 番) リズム (12 番) の練習をする。 事後 コラールを大譜表上に記し、ピアノで演奏する。	分 分
第 15 回	まとめ	事前 視唱 (73 番) リズム (13 番) の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	分 分

フィードバック	実施した課題の問題点の指摘等を通しフィードバックを行う。
---------	------------------------------

成績評価	定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%
------	-------------------------------

テキスト	適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	--------------------------------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	専門の楽器を用意するよう指示することがある。
----	------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演)ソルフェージュⅢ-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF302

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／3 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	楽譜から豊かな音楽を引き出す能力を身につけるために、読譜力・楽曲分析力を高め、和声感、リズム感を磨き、音楽を聴く力を養う。 実作品の聴取、分析、演奏のほか、視唱、聴音等の基本的なソルフェージュ能力を高めるための訓練を行う。

到達目標	楽譜に記された音符・記号等から音楽を読み取り表現するために必要な知識及び技術を習得する。 楽曲の視奏などを通し、様々な様式に応じた演奏法を身につける。
------	--

授業計画	下記の楽曲を視奏・視唱・聴音・分析など様々な分野の課題として用いる。なお本講義は実質的に実技であるため、参加学生の専攻や能力に応じて計画を変更する場合がある。その他、ソルフェージュの基礎的な訓練の課題も用意する。
------	--

第 1 回	J.S.バッハ「カンタータ第 140 番」第 1 曲	事前 視唱（74 番）リズム（14 番）の練習をする。 事後 「カンタータ 140 番」を、楽譜を確認しながら鑑賞する。	40 分 50 分
第 2 回	J.S.バッハ「カンタータ第 140 番」コラール	事前 視唱（75 番）リズム（15 番）の練習をする。 事後 「カンタータ 140 番」のコラールをピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 3 回	モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」（合唱）	事前 視唱（76 番）リズム（16 番）の練習をする。 事後 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の和音分析を行う。	40 分 50 分
第 4 回	同上（通奏低音）	事前 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の通奏低音のパートを弾く練習をする。 事後 「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の合唱パートのピアノ演奏を行う。	40 分 50 分
第 5 回	マーラー「最後の 7 つの歌」より「美しさゆえに愛するのなら」（読譜）	事前 視唱（77 番）リズム（17 番）の練習をする。 事後 「美しさゆえに愛するのなら」の和音分析を行う。	40 分 50 分
第 6 回	同上（分析・解釈）	事前 「美しさゆえに愛するのなら」の歌詞の意味を把握し、歌詞と曲の関わりを考察する。 事後 「美しさゆえに愛するのなら」の伴奏をピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 7 回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第 1 楽章	事前 視唱（78 番）リズム（18 番）の練習をする。 事後 形式を確認しながら「ヴァイオリン・ソナタ」を鑑賞する。	40 分 50 分
第 8 回	フランク「ヴァイオリン・ソナタ」第 4 楽章	事前 視唱（79 番）リズム（19 番）の練習をする。 事後 循環形式について調べ、「ヴァイオリン・ソナタ」全楽章の主題・動機を確認する。	40 分 50 分
第 9 回	タイユフェール「ビュルレスク組曲」より「舟歌」	事前 視唱（80 番）リズム（20 番）の練習をする。 事後 「舟歌」の和音の特徴について研究する。	40 分 50 分
第 10 回	ストラヴィンスキー「春の祭典」より「生け贅の踊り」	事前 視唱（81 番）リズム（21 番）の練習をする。 事後 「生け贅の踊り」のリズムを、指揮を振りながら読めるようになるよう練習する。	40 分 50 分
第 11 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「鳥たちの深淵」	事前 減七の和音、増三和音、全音音階の特徴を説明できるよう研究する。 事後 移調の限られた旋法第 2 旋法を用いた旋律を作成する。	40 分 50 分
第 12 回	メシアン「主の降誕」より第 5 曲	事前 視唱（82 番）リズム（22 番）の練習をする。 事後 移調の限られた旋法と調との関わりを意識しながら第 5 曲をピアノで演奏する。	40 分 50 分
第 13 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「間奏曲」	事前 視唱（83 番）リズム（23 番）の練習をする。 事後 「間奏曲」のクラリネットパートの、実音でのリズム読みを練習する。	40 分 50 分
第 14 回	メシアン「世の終わりのための四重奏曲」より「7 つのトランペットのための狂乱の踊り」	事前 視唱（84 番）リズム（24 番）の練習をする。 事後 扱った楽曲の冒頭の動機が曲の最後でどのように扱われているかの分析を行う。	40 分 50 分
第 15 回	総まとめ	事前 リズム（25 番）の練習をする。 事後 授業内で実施した課題の完成度を上げるために反復練習をする。	40 分 50 分

フィードバック	実施した課題の問題点の指摘等を通しフィードバックを行う。
---------	------------------------------

成績評価	定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%
------	-------------------------------

テキスト	適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	--------------------------------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	専門の楽器を用意するよう指示することがある。
----	------------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐

(演)ソルフェージュⅣ-1														
非常勤講師 林達也										科目コード：SLF401				
対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／4 年次														
形態：実習					単位数：1 単位									
概要		演奏家を志す人達に必要な音楽的総合訓練を行う。 音楽実技と理論との 2 つの柱で、音楽的基本能力を充実させ、さらにより発展的な内容を実践していく。												
到達目標		演奏家にとって必要とされる「音楽的総合能力」の開発を目指す。具体的には、聴覚形成、読譜力、楽曲への深い洞察力と分析力、リズムに対する鋭敏な感性、レパートリーの拡充と教養、主体的な表現力と解釈する能力など、演奏家として自立できる力を身につけていく。												
授業計画		実作品を中心としたレパートリーを総合的観点から実践研究する。具体的には、初見、スコアリーディング、作品の分析、アンサンブル、作曲家の様式と西洋音楽の歴史的社会的背景との結びつきを演奏を主としながら考察していく。また、即興の実践によって、演奏表現の内的確信を深め、内側からあふれ出して来るような音楽的テンペラメントを育んでいくことが目的である。												
第 1 回	授業のガイダンス ソルフェージュとは何か	事前	今までのレパートリー作品をノートにまとめておく。										50 分	
		事後	今後のレパートリー作品を考えておく。										50 分	
第 2 回	ソルフェージュの基礎力の確認	事前	以前に学んだソルフェージュ課題を実践しておく。										50 分	
		事後	不十分な項目をそれぞれの専攻楽器で復習する。										50 分	
第 3 回	バロック時代の様式による実践／ フォリアのテーマによる即興	事前	バロック時代の「フォリア」について辞典などで調べておく。										50 分	
		事後	フォリアの即興を変奏曲として演奏してみる。										50 分	
第 4 回	バロック時代の様式による実践／ ヘンデルの作品を扱ったソルフェージュ	事前	ヘンデルの作品を事前に CD など聴いておく。										60 分	
		事後	装飾音の演奏法の復習をする。										40 分	
第 5 回	バロック時代の様式による実践／ J.S.バッハの作品を扱ったソルフェージュ	事前	J.S. バッハの作品を事前に練習しておく。										60 分	
		事後	上手に演奏できなかった部分を再度練習する。										40 分	
第 6 回	モーツァルト、バッハの作品を扱った初見、 スコアリーディングなど	事前	モーツァルトと室内楽のスコアを読譜しておく。										60 分	
		事後	与えられた課題を再度練習する。										40 分	
第 7 回	ハイドンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前	ハイドンの作品様式を事前に調べておく。										50 分	
		事後	アンサンブルの上手く行かなかった部分を復習する。										50 分	
第 8 回	ベートーヴェンの作品を扱った初見、スコアリーディングなど	事前	ベートーヴェンの交響曲をあらかじめ聴いておく。										50 分	
		事後	ダイナミクスや sf の箇所の演奏法の復習をする。										50 分	
第 9 回	専攻楽器を使ったソルフェージュ、録音による様々な楽器の聴音	事前	課題に出された作品をあらかじめ練習しておく。										40 分	
		事後	聴き取れなかった部分を楽器で練習する。										60 分	
第 10 回	アンサンブルと室内楽の録音による様々な楽器の聴音	事前	アンサンブル用スコアを読譜しておく。										50 分	
		事後	聴き取れなかった箇所を反復して聴く。										50 分	
第 11 回	管弦楽曲の録音による様々な楽器の聴音	事前	オーケストラの楽器をあらかじめ辞典で調べておく。										50 分	
		事後	移調楽器の読譜の復習をする。										50 分	
第 12 回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (1) メンデルスゾーン	事前	メンデルスゾーンの無言歌を演奏しておく。										50 分	
		事後	学んだ作品を再度歌って覚える。										50 分	
第 13 回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (2) シューマン	事前	シューマンの詩人の恋の録音を聴いておく。										50 分	
		事後	上手に引けなかった部分を反復練習する。										50 分	
第 14 回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (3) ショパン	事前	ショパンのノクターンを 1 曲演奏しておく。										60 分	
		事後	和声の変化に注意しながら復習する。										40 分	
第 15 回	ロマン派の作品を扱ったソルフェージュ (4) ブラームス、など	事前	ブラームスのヴァイオリンソナタ 1 曲を聴いておく。										40 分	
		事後	指摘された箇所を再度反復練習する。										60 分	
フィードバック		随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。												
成績評価		期末試験(70%)と授業への取り組み (30%)による。												
テキスト		プリント。指示された楽譜を用意する。												

オフィスアワー 水曜日 8:35～8:40 教室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐

(演)ソルフェージュⅣ-2

非常勤講師 林達也

科目コード：SLF402

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／4 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	演奏家を志す人達に必要な音楽的総合訓練を行う。 音楽実技と理論との 2 つの柱で、音楽的基本能力を充実させ、さらにより発展的な内容を実践していく。

到達目標	演奏家にとって必要とされる「音楽的総合能力」の開発を目指す。具体的には、聴覚形成、読譜力、楽曲への深い洞察力と分析力、リズムに対する鋭敏な感性、レパートリーの拡充と教養、主体的な表現力と解釈する能力など、演奏家として自立できる力を身につけていく。
------	---

授業計画	実作品を中心としたレパートリーを総合的観点から実践研究する。具体的には、初見、スコアリーディング、作品の分析、アンサンブル、作曲家の様式と西洋音楽の歴史的社会的背景との結びつきを演奏を主としながら考察していく。また、即興の実践によって、演奏表現の内的確信を深め、内側からあふれ出して来るような音楽的テンペラメントを育んでいくことが目的である。		
第 1 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／ 和音感を育むためのソルフェージュ (1) 三和音	事前 三和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 聴き取れなかった声部は、歌いながら他声部をピアノで弾く。	50 分 50 分
第 2 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／ 和音感を育むためのソルフェージュ (2) 七の和音	事前 七の和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 聴き取れなかった和音をくり返し反復してピアノで弾く。	50 分 50 分
第 3 回	和音に関するソルフェージュ／通奏低音／ 和音感を育むためのソルフェージュ (3) 九の和音	事前 九の和音の項の和声教本を見直しておく。 事後 9 から 8 の掛留音の課題を復習する。	50 分 50 分
第 4 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (1) サン＝サーンス	事前 サン＝サーンス作曲「動物の謝肉祭」の録音を聴いておく。 事後 和声の変化に注意しながらもう一度弾いてみる。	50 分 50 分
第 5 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (2) フォーレ	事前 フォーレ作曲「レクイエム」の録音を聴いておく。 事後 フォーレの特殊な和声連結の箇所をピアノで弾いて復習する。	50 分 50 分
第 6 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (3) ドビュッシー	事前 ドビュッシー作曲「牧神の午後の前奏曲」の楽譜を視ておく。 事後 課題曲の演奏で誤りのあった部分を復習する。	40 分 60 分
第 7 回	近代フランス音楽の初見、スコアリーディング、ソルフェージュ、アンサンブルなど (4) ラヴェル	事前 ラヴェル作曲「ボレロ」のスコアをあらかじめ読譜する。 事後 主要旋律を専攻楽器で再度演奏してみる。	50 分 50 分
第 8 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(1) スクリャービン	事前 ボリリズムとクロスリズムについての楽語を調べておく。 事後 倍音列による和音の響きをピアノで弾き復習する。	50 分 50 分
第 9 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(2) バルトーク	事前 変拍子のリズムに課題を使って慣れておく。 事後 バルトークの音楽語法をノートにまとめておく。	40 分 60 分
第 10 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(3) ウェーベルン	事前 音列技法について辞書などであらかじめ調べておく。 事後 リズム課題で指摘された部分を再度楽器を用いて復習する。	40 分 60 分
第 11 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(4) ベルク	事前 ベルク作曲「抒情組曲」の録音をあらかじめ聴いておく。 事後 細かい音群のリズム練習を課題を用いて復習する。	50 分 50 分
第 12 回	20 世紀の音楽に関するソルフェージュ的実践(5) メシアン	事前 メシアンの音楽語法の特徴を辞典で調べておく。 事後 移高の限られた旋法、付加リズムの多様な形態を覚える。	50 分 60 分
第 13 回	様々な即興の実践(1)クラシックの即興	事前 旋律の作曲をし楽器で演奏できるようにしておく。 事後 即興のアイディアをノートにまとめておく。	50 分 50 分
第 14 回	様々な即興の実践(2)自由即興	事前 20 世紀後半の現代音楽を録音などで聴いておく。 事後 アンサンブルのインザッツ、ダイナミズムの共有を意識して復習する。	50 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 前回に与えられた課題を復習しておく。 事後 指摘された箇所を何回も反復練習する。	50 分 50 分

フィードバック	随時小テストを行い答案の返却及びその解説等により、学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	期末試験(70%)と授業への取り組み (30%)による。
------	------------------------------

テキスト	プリント。指示された楽譜を用意する。
------	--------------------

オフィスアワー	水曜日 8:35～8:40 教室
---------	------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	☑	□	□	□	☑	□	□	□

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	和声法Ⅰを履修済みの学生のうち、属七の和音を含むバス課題及びソプラノ課題を実施する実力を有する学生を対象とする。和声課題の実施を通して様々な和声の知識や技術を身につけ、内的な聴覚を磨く。

到達目標 古典派からロマン派の音楽に用いられている様々な和音、和声進行・非和声音について、和声課題の実習と楽曲の和声分析を通して学び、楽曲を論理的に把握し表現する力を養う。

授業計画 和声課題の実施・添削を中心に授業を行う。また楽曲の和声分析や旋律への伴奏付けも扱い、より実践的な和声法の習得を目指す。

第 1 回	終止定型・D 定型の確認 基本的な和音によるバス課題及びソプラノ課題の実施	事前	和音の配置法、連結法およびカデンツや終止についての知識の確認を行う。	130 分
		事後	終止定型、D 定型を確認しつつ基本的な和音による和声課題を実施する。	140 分
第 2 回	基本位置 V9 の配置連結 V9 を含む和声課題の実施	事前	前回実施した課題の訂正、ピアノ演奏。	130 分
		事後	根音を含む V9 の配置・連結法を復習し、和声課題中でスムーズに用いられるよう練習する。	140 分
第 3 回	V9 の和音の根音省略形体の配置・連結 根音を省略した V9 を含む和声課題の実施	事前	根音を含む和声課題のピアノ演奏を行い、V7 と V9 の響きの違いを聴き取る。	130 分
		事後	根音を省略した V9 を用い、与えられたバス課題及びソプラノ課題を実施する。	140 分
第 4 回	V9 の和音のまとめ 様々な形の V9 を含む和声課題の実施	事前	実施済みの課題の訂正及びピアノ演奏を行う。	130 分
		事後	どのような箇所にも V9 を用いると効果的であるか考えつつ和声課題に取り組む。	140 分
第 5 回	v 調の V の和音の配置・連結 v 調の V の和音を含む和声課題の実施	事前	既習の和音を確実に配置・連結できるよう練習する。	130 分
		事後	基本的な v 調の V を用いつつ和声課題を実施する。	140 分
第 6 回	様々な形態の v 調の V の和音の配置・連結 様々な形態の v 調の V の和音を含む和声課題の実施	事前	v 調の V を用いた和声課題をピアノで演奏する。	130 分
		事後	v 調の V を 9 の和音や根音を省略した形で課題中に用いる練習をする。	140 分
第 7 回	v 調の V の和音第 5 音下方変位の配置・連結 v 調の V の和音第 5 音下方変位を含む和声課題の実施	事前	楽曲を観察し、どのような場面で v 調の V が用いられているか確認する。	130 分
		事後	授業で扱った和音を確実に用いられるよう練習課題を実施する。	140 分
第 8 回	v 調の V の和音第 5 音下方変位第 2 転回形(増六の和音)の配置・連結 v 調の V の和音第 5 音下方変位第 2 転回形を含む和声課題の実施	事前	取り組んだ和声課題の訂正・再実施を行い知識と技術を定着させる。	130 分
		事後	楽曲を和声分析し、増六の和音の使用例を確認する。	140 分
第 9 回	v 調の V の和音のまとめ 様々な形態の v 調の V の和音を含む和声課題の実施	事前	増六の和音を用いつつ和声課題を実施する。	130 分
		事後	和声課題の実施を通して、既習事項の理解度を確認する。	140 分
第 10 回	ナボリのⅡ、付加音を伴うⅣの配置・連結 ナボリのⅡ及び付加音を伴うⅣを含む和声課題の実施	事前	実施した課題の移調奏を行い、調と響きの色合いの変化を聴き取る。	130 分
		事後	ナボリのⅡおよび付加音を伴うⅣを用いつつ和声課題を実施する。	140 分
第 11 回	非和声音の種類と扱い方 非和声音の分析	事前	与えられた和声課題を、既習の和音を効果的に用い実施する。	130 分
		事後	非和声音の種類を確実に憶えるため、楽曲中の非和声音の分析を行う。	140 分
第 12 回	非和声音を含む和声課題の実施法 還元譜の作成	事前	非和声音の種類と性質を口頭で説明できるよう理解を深めておく。	130 分
		事後	課題中の非和声音を的確に把握できるよう、練習課題に取り組む。	140 分
第 13 回	刺繍音及び経過音を含むソプラノ課題の実施	事前	旋律課題の還元譜を作成し、四声体和声として完成させる。	130 分
		事後	還元譜を作成した上で和声付けを行い、それを元にソプラノ課題を仕上げる。	140 分
第 14 回	倚音及び掛留音を含む和声課題の実施	事前	実施したソプラノ課題のピアノ演奏を行う。	130 分
		事後	非和声音を的確に見極めつつソプラノ課題を実施する。	140 分
第 15 回	総まとめ	事前	実施した課題の誤りを確認し、訂正・再実施を行う。	130 分
		事後	与えられたソプラノ課題に、より音楽的な実施となることを目指しつつ取り組む。	140 分

フィードバック 実施した課題の添削・解説によりフィードバックを行う。

成績評価 定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

和声法Ⅱ-2			科目コード：SLF106		
非常勤講師 井元透馬					
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次					
形態：講義			単位数：2 単位		
概要		和声法Ⅱ-1 を履修済みの学生を対象とする。和声課題の実施を通し様々な和声の知識や技術を身につけ、内的な聴覚を磨く。また楽曲の和声分析を行い、作曲家たちが楽曲中の和声に施した工夫の理解を試みる。			
到達目標		バロックからロマン派までの和声法について学ぶ。課題の実施を通し和声の知識を確かなものとし、楽曲中の和声法から作曲者の意図を読みとり、的確に音楽を表現する力を養う。			
授業計画		和声課題の実施・添削を中心に授業を行う。また楽曲の和声分析や旋律への伴奏付けも扱い、より実践的な和声法の習得を目指す。			
第 1 回	転調を含む和声課題の復習	事前	非和声音を含まない和声課題を実施し、知識と技術の確認を行う。		130 分
第 2 回	配置変化 配置変化を含む和声課題の実施	事後	与えられた課題を実施し、知識と技術を確かなものとする。		140 分
		事前	実施した課題の見直しを行い、必要に応じ訂正を加える。		130 分
第 3 回	自由ソプラノ課題の実施法 還元譜作成法の復習	事後	配置変化を含む課題を確実に実施できるよう、授業で扱った課題を十分に復習する。		140 分
		事前	与えられた配置変化を含む課題を実施する。		130 分
第 4 回	刺繍音及び経過音を含むソプラノ課題の実施	事後	旋律課題中の非和声音を的確に把握し還元譜を作成する。		140 分
		事前	授業で扱った課題をピアノで演奏し、響きを確認する。		130 分
第 5 回	さまざまな種類の非和声音を含むソプラノ課題の実施	事後	教科書中の例題を観察し、どのような音を非和声音と解釈しているかを確認する。		140 分
		事前	宿題として与えられたソプラノ課題を実施する。		130 分
第 6 回	第 2 回から第 5 回までのまとめ	事後	実施した課題を見直し、より美しく響く和声付けを目指し課題の再実施を行う。		140 分
		事前	教科書中の非和声音についての記述を確認し、知識をより確かなものとする。		130 分
第 7 回	反復進行について D2° 下行型反復進行	事後	さまざまな種類の非和声音を含む課題を、響きを十分に意識しつつ実施する。		140 分
		事前	実施した課題の訂正・再実施に取り組む。		130 分
第 8 回	副 V を用いた D2° 下行型反復進行	事後	反復進行のパターンを憶えるため、与えられた課題の移調奏を行う。		140 分
		事前	基本的な和音による反復進行のバス課題を実施する。		130 分
第 9 回	D2° 下行型による模倣反復進行	事後	副 V を用いた反復進行のバス課題を実施する。		140 分
		事前	実施した課題のピアノ演奏を行い、響きを確認する。		130 分
第 10 回	模倣反復進行を含むバス課題	事後	第 7 音の装飾法を憶えるため、指示された課題のピアノ演奏を行う。		140 分
		事前	宿題として与えられたバス課題を実施しておく。		130 分
第 11 回	厳格バス課題について 2 個の主題の同時的提示を持つバス課題の実施法	事後	与えられたバスから反復句を見つけられるよう、課題の実施を繰り返す。		140 分
		事前	実施した課題のピアノ演奏を行い、適切に反復句を置くことができるか確認する。		130 分
第 12 回	基本的な和音による 2 個の主題の同時的提示を持つバス課題の実施	事後	課題を観察し、提示部・移行部・終結部を確実に把握した上で課題を実施する。		140 分
		事前	実施した課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。		130 分
第 13 回	副 V 等を含む 2 個の主題の同時的提示を持つバス課題の実施	事後	2 つの主題を正しく組み合わせることができるよう、課題の実施を繰り返す。		140 分
		事前	与えられた課題のうち未実施のものを完成させる。		130 分
第 14 回	転調を含む 2 個の主題の同時的提示を持つバス課題の実施	事後	さまざまな主題の組み合わせパターンを的確に把握できるよう、多くの課題に触れる。		140 分
		事前	非和声音の扱いが適切であるか確認するため、実施した課題のピアノ演奏を行う。		130 分
第 15 回	総まとめ	事後	転調進行に間違いが生じないよう留意しつつ与えられた課題を実施する。		140 分
		事前	実施した課題の見直し、訂正に取り組む。		130 分
フィードバック		事後	授業で扱った範囲について、教科書を改めて確認し、知識の確認、定着をはかる。		140 分
成績評価		定期試験 80%、宿題の実施状況 10%、授業態度 10%			
テキスト		島岡譲（執筆責任）『総合和声～実技・分析・原理』（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。			
オフィスアワー		授業終了後、教室にて			
備考		実施した課題や譜例等を演奏し、理論を理解するとともに感覚を磨くことに努めること。			

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

管弦楽法-1

講師 高畠亜生

科目コード：SLF207

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要 オークストラで使用する楽器法についてとバロック、古典派、前期ロマン派の管弦楽曲のオーケストレーション分析。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎を学び、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器についての知識。②スコアの読み方の習熟。③バロック期から近現代に至る管弦楽作品の分析・研究を行うことにより時代や様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月Ⅴ,Ⅵ駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全て CD,DVD 等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、ビデオ鑑賞／管弦楽編成・総譜（スコア）のしくみ	事前 必要テキストやスコアの購入や準備、配布プリントを入れるクリアファイルを準備。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	70 分 200 分
第 2 回	木管楽器について①（フルート属、オーボエ属、クラリネット属、ファゴット属）	事前 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい（任意）。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 3 回	移調楽器について（クラリネット属、ホルン属、サクソフォーン属）	事前 クラリネット、ホルン、サクソフォーンの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい（任意）。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 4 回	金管楽器について（ホルン属、トランペット属、トロンボーン属、チューバ属）	事前 ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの専門学生は楽器を出来れば持参して下さい（任意）。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 5 回	打楽器について（ティンパニ、その他の打楽器）／編入楽器・ハープ・鍵盤楽器・人声	事前 打楽器やハープの学生は必要に応じて楽器を生で見たり触れたり音を聴いたり出来る機会を作る。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	30 分 240 分
第 6 回	弦楽器について（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス） ／（バロック期）ヴィバルディ合奏協奏曲「四季」より	事前 弦楽器の専門学生（ヴィオラダガンマを含む、コントラバスは除く）は楽器を持参して下さい（任意）。 事後 各楽章に付された叙事詩と独奏 Vn と弦楽器群で演奏された音楽の効果の感想をメモする。	135 分 135 分
第 7 回	時代様式による構造の諸型 1（バロック期） パレエ・オペラについて ラモーまたはリュリのオペラ作品より	事前 ラモーやリュリについて、またルネサンスからバロックへの変換期の時代背景を調べてくる。 事後 バロック・オペラの他の作品も調べて観てみる。	60 分 210 分
第 8 回	時代様式による構造の諸型 2（バロック後期） J.S.BACH：ブランデンブルク協奏曲第 5 番 J.S.バッハが残した偉大な遺産	事前 J.S.BACH のブランデンブルク協奏曲全 6 曲の調性と編成を調べてくる。 事後 授業中に取り上げていた残りの任意の曲をスコアリーディングしながら聴いてみる。	120 分 150 分
第 9 回	時代様式による構造の諸型 3（古典派 前期） モーツァルト交響曲第 4 1 番ハ長調より抜粋 （古典派）交響曲の父 ハイドンの交響曲との比較も交えて	事前 モーツァルト交響曲第 41 番の総譜を準備、1 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。 事後 木管楽器群と弦楽器群の音の対比を意識しながら全楽章をスコアリーディングしながら音源を聴く。	120 分 150 分
第 10 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4－①（ウィーン古典派後期） ベートーヴェン：交響曲第 5 番ハ短調 Op.67『運命』1. 2 楽章	事前 ベートーヴェン交響曲第 5 番の総譜を準備、1,2 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。 事後 1,2 楽章の提示部と再現部のオーケストレーションの違いをスコアで確認しながら音源を聴く	150 分 120 分
第 11 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4－②（ウィーン古典派後期） ベートーヴェン：交響曲第 5 番ハ短調 Op.67『運命』3. 4 楽章	事前 前回と同曲中の 3,4 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。 事後 授業で取りあげた 3,4 楽章の特徴的な管弦楽法をスコアで確認しながら音源を聴く。	150 分 120 分
第 12 回	定期演奏会の曲目スコア研究 1－①（ウィーン古典派後期） ベートーヴェン：交響曲第 7 番イ長調 Op.92 2 楽章	事前 ベートーヴェン交響曲第 7 番の総譜を準備、2 楽章の形式や構成、転調、和音、終止等を調べておく。 事後 授業で取りあげた 2 楽章での特徴的な管弦楽法をスコアで確認しながら音源を聴く。	150 分 120 分
第 13 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4－①（前期ロマン派） ベルリオーズの革命 幻想交響曲 1～3 楽章	事前 ベルリオーズの幻想交響曲の総譜を可能な範囲で準備、1～3 楽章を CD 等の音源で聴いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 14 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 4－②（前期ロマン派） ベルリオーズの革命 幻想交響曲 4,5 楽章	事前 前回と同曲中の 4,5 楽章を CD 等の音源で聴いておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	135 分 135 分
第 15 回	前期まとめ	事前 スコアリーディングの復習と移調楽器の読譜の復習 事後 1～15 回のまとめ	135 分 135 分

フィードバック 授業内で実施する課題の添削やコメントにより、改善点や今後の学習方法を各自にフィードバックする。

成績評価 定期試験 50%、課題 20%、授業への積極的な取り組み 30%
試験は筆記試験の予定

テキスト 野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社
ベートーヴェン：交響曲第 5 番ハ短調『運命』スコア（ベレンライター版が好ましい）
モーツァルト：交響曲第 4 1 番 ハ長調 スコア
その他授業で扱うスコアは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。
※コピー楽譜可。上記の楽譜（他社版も可）を既に持っている人は新購入の必要なし。

《参考テキスト》：ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社
Henri BUSSER 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社
授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 一通り、オーケストラで使用する楽器法やベートーヴェンやベルリオーズ、ラベルなどのオーケストレーションを学んだ後、後期の授業で PC 室のフィナーレを使用して、各自好きなテーマや原曲を探しオーケストラ編曲を実技演習する。手書きやフィナーレ以外の楽譜作成ソフトでも可能。
演習過程では担当講師が指導添削する。優秀作品は、翌年度の秋の新作試演会のオーケストラ授業で取り上げてもらい、作編曲者自ら指揮をして、リハーサルも含み実演する。的確で要領の良いリハーサル方法は指揮者の先生が指導、オーケストレーション内容については担当講師が指導して、履修生は全員聴講する。試演会の開催有無は毎年検討する。

備考 日頃からスコアを見ながら CD 鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●注意事項：定期試験を受験の履修生には単位は与えられない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑	☑	□	□	☑	□	□		☑

管弦楽法-2

講師 高畠亜生

科目コード：SLF208

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義・演習

単位数：2 単位

概要 定期演奏会や協奏曲演奏会の曲目の分析を中心に現代の管弦楽曲を少し取り扱う。学年末提出作品のためのオーケストレーション実習の準備。

到達目標 楽器法と管弦楽法の基礎の復習と、西洋音楽史上著しく発展を遂げたオーケストラについての理解を深める。①管弦楽で用いる諸楽器について。②スコアの読み方の更なる習熟。③各国や時代による管弦楽作品の分析・研究を行うことにより様式の違いによる作曲家たちのオーケストレーションの違いなどへの理解を深める。④定期演奏会や協奏曲演奏会等の曲目をテーマにして実際の音楽解釈、演奏表現の向上に結びつけていく。⑤オーケストレーション演習。月Ⅴ,Ⅵ駒のオーケストラ授業内で秋に昨年度履修生の学年末提出作品の優秀作品試演会を行う。全て CD・DVD 等を使用してスコアリーディングや楽曲・和声分析を行う。

授業計画

第 1 回	オーケストラスコアの復習	事前 前期の第 1～15 回までを復習しておく。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	230 分 40 分
第 2 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 5－①（ロマン派・ドイツ） ウェーバー：オペラ「魔弾の射手」序曲	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 3 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 6（ロマン派・ドイツ） メンデルスゾーン：フィンガルの洞窟	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 4 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 7（ロマン派・ポーランド） ショパン：ピアノ曲より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 5 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 8（ロマン派・ドイツ） ワーグナー：タンホイザー序曲	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 6 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10－①（ロマン派・ドイツ） ブラームス：交響曲第 4 番より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	135 分 135 分
第 7 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10－①（ロマン派・フランス） ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲より	事前 課題曲を聴く。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 8 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 10－②（ロマン派・フランス） ビゼー：カルメン前奏曲、交響曲ハ長調より	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 9 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 11（ロマン派・ロシア） チャイコフスキーバレエ組曲「くるみ割り人形」	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 10 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 12（ロマン派／フランス） ラヴェル：「ボレロ」と「ラ・ヴァルス」のオーケストレーションの比較	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	150 分 120 分
第 11 回	管弦楽法・時代様式による構造の諸型 13（国民楽派・ハンガリー） バルトーク：「管弦楽のための協奏曲」	事前 課題曲を調べる。 事後 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120 分 150 分
第 12 回	20 世紀初頭／原始主義・新古典主義：ストラヴィンスキー「春の祭典」より 管弦楽法実技①（学年末提出作品創作準備）※学年末提出作品の課題発表予定	事前 ストラヴィンスキーの作曲様式の変化を調べる。同時代の世界の作曲家について調べる。 事後 学年末提出作品の課題の中から原曲を聴く、或いは任意で探検かオリジナルにするかを決める。	135 分 135 分
第 13 回	歌劇の管弦楽法：プッチーニの歌劇「ラ・ボエーム」より ／管弦楽法実技②（学年末提出作品創作実習・テーマ構成） 歌劇の中の管弦楽と序曲について	事前 作曲家プッチーニについて調べる。他のオペラ作品や同時代の他の国の作曲家についても調べる。 事後 冬休みに学年末提出作品の曲を決めて、編成、全体構成、製作計画を立てる。	135 分 135 分
第 14 回	協奏曲形式：ショパンとラフマニノフのピアノ協奏曲での管弦楽様式の比較 管弦楽法実技③（学年末提出作品創作実習・楽器配分&オーケストレーション楽譜製作）	事前 課題曲を調べる。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進める。	120 分 150 分
第 15 回	近現代／ジャズ／無調音楽・民族楽器の導入 ガーシュインの作品他 管弦楽法実技④（学年末提出作品創作実習・オーケストレーション楽譜製作つづき）	事前 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、分からない箇所を挙げておく。 事後 学年末提出作品楽譜製作を少しずつ進めつつ、完成を目指す。	120 分 150 分

フィードバック 授業内での課題や演習を通してオーケストレーションの実際を学んでもらい、課題の添削を通して各自にフィードバックする。

成績評価 学年末提出作品（1 月末頃締め切り）50%、宿題や課題 20%、授業への取り組み 30%
学年末提出作品は管弦楽作品（自作、編曲、様式問わない）とし、優秀作品は次年度のオーケストラ授業の試演会（秋頃）で演奏予定。

テキスト 野本由起夫著『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社

また定期演奏会や協奏曲演奏会で取り上げる管弦楽曲等のスコアも授業時に持参することが望ましい（コピー楽譜でも可）
その他授業で扱うスコアは授業内で指示する。適宜、プリントを配布する。

《参考テキスト》：ゴードン・ヤコブ著『管弦楽法』音楽之友社、Henri BUSSER 著・池内友次郎訳『楽器編成応用概論』全音楽譜出版社

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング 一通り、オーケストラで使用する楽器法やベートーヴェンやベルリオーズ、ラベルなどのオーケストレーションを学んだ後、後期の授業で PC 室のフィナーレを使用して、各自好きなテーマや原曲を探しオーケストラ編曲を実技演習する。手書きやフィナーレ以外の楽譜作成ソフトでも可能。
演習過程では担当講師が指導添削する。優秀作品は、翌年度の秋の新作試演会のオーケストラ授業で取り上げてもらい、作曲者自ら指揮をして、リハーサルも含み実演する。的確で要領の良いリハーサル方法は指揮者の先生が指導、オーケストレーション内容については担当講師が指導して、履修生は全員聴講する。試演会の開催有無は毎年検討する。
備考 日頃からスコアを見ながら CD 鑑賞やリハーサル鑑賞などをして、オーケストラスコアに慣れること。
●注意事項：学年末提出作品は必ず提出すること。作品を未提出の履修生には単位は与えられない。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	対位法の基礎となる 2 声対位法の書法を学び、音楽を水平方向に捉える力を養う。

到達目標	課題の実習を通し 2 声対位法を理解する。 2 声対位法で得られた知識・技術をもとに 2 声の平行カノンを試作する。
------	--

授業計画	実習を中心に授業を進める。また適宜楽曲の分析も行い、楽曲中での対位法の応用例を確認する。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。
------	---

第 1 回	対位法についての概説	事前	対位法について調べる。	100 分
		事後	対位法学習に必要な楽典の知識を復習する。	170 分
第 2 回	2 声対位法 第一類(全音符)についての解説	事前	授業で示された楽曲の分析・演奏に取り組む。	100 分
		事後	テキストの第一類対位法の実施例を確認する。	170 分
第 3 回	2 声対位法 第一類(全音符)の実習	事前	第一類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後	実施した課題の誤りを確認し、必要に応じ再実施する。	170 分
第 4 回	2 声対位法 第二類(二分音符)についての解説	事前	実施した課題の演奏に取り組む。	100 分
		事後	テキストの題二類対位法の実施例を分析・演奏する。	170 分
第 5 回	2 声対位法 第二類(二分音符)の実習	事前	第二類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後	実施した課題に禁則がないか確認し、必要に応じ訂正を施す。	170 分
第 6 回	2 声対位法 第三類(四分音符)についての解説	事前	実施した課題が理想的な旋律となっているか、実際に歌い確認する。	100 分
		事後	テキストの第三類対位法の実施例をピアノで演奏する。	170 分
第 7 回	2 声対位法 第三類(四分音符)の実習	事前	第三類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後	実施した課題を見直し、訂正、再実施に取り組む。	170 分
第 8 回	2 声対位法 第四類(移勢)について解説	事前	実施した課題を演奏し響きを確認する。	100 分
		事後	テキストの第四類対位法の実施例を分析・演奏する。	170 分
第 9 回	2 声対位法 第四類(移勢)の実習	事前	第四類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後	実施した課題に禁則がないか見直し、訂正・再実施に取り組む。	170 分
第 10 回	2 声対位法 第五類(華麗)についての解説	事前	実施した課題を歌い、理想的な旋律になっているか確認する。	100 分
		事後	テキストの第五類対位法の実施例を確認する。	170 分
第 11 回	2 声対位法 第五類(華麗)の実習	事前	第五類対位法の実施法を復習する。	100 分
		事後	実施した課題を良く見直し、必要に応じ再実施を行う。	170 分
第 12 回	2 声対位法のまとめ	事前	2 声対位法の諸規則を復習する。	100 分
		事後	第一類～第五類対位法が正しく理解できているか、課題の実施を通し確認する。	170 分
第 13 回	カノンについての概説	事前	実施した課題に禁則がないか、また理想的な旋律となっているか確認する。	100 分
		事後	授業で示された楽曲の分析・鑑賞を行う。	170 分
第 14 回	2 声の平行カノンの試作・演奏	事前	カノンの技法で書かれた楽曲を調べ、分析・鑑賞を行う。	100 分
		事後	平行カノン以外のカノンの試作を実施する。	170 分
第 15 回	2 声対位法・2 声のカノンの総復習	事前	2 声対位法、2 声のカノンについて復習する。	100 分
		事後	実施した課題や与えられた譜例の分析・演奏に取り組む。	170 分

フィードバック	対位法、カノンの練習課題を添削し、学修成果をフィードバックする。
---------	----------------------------------

成績評価	試験 70%、課題 20%、授業態度 10%
------	------------------------

テキスト	山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	---

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。
----	------------------------------------

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

対位法-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF210

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	3 声対位法の書法を学び、水平方向と垂直方向の両方から音楽を把握する感覚を養う。また対位法的楽曲のうちインベンション及びフーガの分析・試作を通し対位法への理解を深める。

到達目標	対位法の諸規則を遵守しつつ豊かな旋律線を書く。対位法的楽曲の分析力を高めるとともに、様々な楽曲中に用いられている対位法的な要素を把握する力を身につける。
------	--

授業計画	実習および楽曲分析を中心に授業を進める。ただし履修者の習熟度に応じて予定を変更する場合もある。
------	---

第 1 回	3 声対位法 第一類(全音符)についての解説	事前 事後	テキストを読み諸規則を確認する。 テキストの実施例を演奏し和音と旋律線を確認する。	110 分 160 分
第 2 回	3 声対位法 第一類(全音符)の実習	事前 事後	第一類対位法の実施法を復習する。 実施した課題を見直し誤り等がないか確認し、必要に応じ再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 3 回	3 声対位法 第二類(二分音符)についての解説	事前 事後	実施した課題を演奏し、響きを確認する。 テキストの実施例の分析・演奏を行う。	110 分 160 分
第 4 回	3 声対位法 第二類(二分音符)の実習	事前 事後	第二類対位法の実施法を復習する。 実施した課題を分析し、誤りがないか確認する。必要に応じ再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 5 回	J.S.BACH 作曲インベンションについての概説 J.S.BACH 作曲インベンション第 1 番の分析	事前 事後	インベンション第 1 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。 分析結果を演奏にどのように結びつけるか考えつつ演奏に取り組む。	110 分 160 分
第 6 回	J.S.BACH 作曲インベンション第 6 番の分析 インベンション提示部について	事前 事後	インベンション第 6 番の楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏する。 分析した楽譜を確認しつつ様々な演奏を鑑賞し表現法を研究する。	110 分 160 分
第 7 回	インベンション提示部の作成 インベンション移行部について	事前 事後	インベンションの提示部の作成法を復習する。 作成した提示部を演奏し、必要に応じて訂正を施す。	110 分 160 分
第 8 回	インベンション移行部の作成 インベンション終結部の作成	事前 事後	分析したインベンションの移行部を見直し、演奏する。 移行部及び終結部を見直し、インベンションを完成させる。	110 分 160 分
第 9 回	フーガについての概説 A.ROWLEY 作曲ミニチュア・フーガ第 1 番及び第 2 番の分析	事前 事後	フーガとはどのようなものかを調べる。 授業で得た知識を元に、これまでに触れたフーガの構造等を観察する。	110 分 160 分
第 10 回	J.S.BACH 作曲平均律第 1 巻より第 16 番フーガの分析 変応について	事前 事後	平均律第 1 巻第 16 番フーガの楽譜を用意し、小節番号を記し、演奏を鑑賞する。 改めて演奏を確認し、分析前と分析後での聴こえ方の違いを確認する。	110 分 160 分
第 11 回	フーガの素材の準備 主要提示部について	事前 事後	変応について復習し変答唱の作成を試みる。 与えられた主唱を元に答唱・対唱を作成する。	110 分 160 分
第 12 回	副提示部について 主要提示部及び副提示部の作成	事前 事後	任意のフーガの主要提示部を分析し、素材がどのように扱われているか確認する。 作成した提示部をピアノ等で演奏し響きを確認する。	110 分 160 分
第 13 回	追迫部について 追迫部の作成	事前 事後	カノンについて復習しておく。 追迫部を完成させピアノ等で演奏し響きを確認する。	110 分 160 分
第 14 回	嬉遊部について 嬉遊部及び終結部の作成	事前 事後	インベンションの移行部についての復習をする。 嬉遊部と終結部を加え、フーガを完成させる。	110 分 160 分
第 15 回	総まとめ	事前 事後	これまでに実施した課題を分析・演奏し、知識を確認する。 様々な楽曲を分析し、その中に用いられている対位法的要素を確認する。	110 分 160 分

フィードバック	対位法課題、試作品を添削し、学修成果をフィードバックする。
---------	-------------------------------

成績評価	試験 40%、3 声対位法課題提出 10%、試作品 40%、授業態度 10%
------	--

テキスト	山口博史『バリ音楽院の方式による厳格対位法』（音楽之友社） 山口博史『バリ音楽院の方式によるフーガ書法』（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	--

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	実施した課題や配布された資料等を演奏し、耳からの理解にも努めること。
----	------------------------------------

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

楽典：発展

講師 高畠亜生

科目コード：SLF110

対象コース／専門／学年： 器楽・声楽・GLA コース／全専門／2～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教員採用試験の楽典問題の傾向と対策（管弦楽スコアからの問題を解くための学習）、日本音楽や邦楽器についての出題等に対応できるように、日本伝統芸能や伝統音楽や邦楽器の演奏家や外部講師を招聘してワークショップを実施する可能性も有り。

到達目標	楽典：基礎、音楽史、ソルフェージュの基礎をしっかりと習得している学生対象。主に将来学校教育を希望ないしは検討する学生を対象に音楽教育現場の授業で必要とされる音楽理論知識や合唱・器楽合奏の編曲・作曲技術に必要な声域、楽器法、和楽器の調弦や奏法、オーケストラスコアに関する知識など、音楽教師として必要な知識を確実に身につけ、あらゆる問題に対応できるように学習してもらう。さらに教員採用試験（中学・高校／音楽）の過去問題にも取り組み実践する。
------	--

授業計画				
第 1 回	楽典一傾向と対策①／拍子、リズム、音程、コードネーム、和音ー（理論）	事前	楽典の基礎理論の復習	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 2 回	楽典一傾向と対策①／拍子、リズム、音程、コードネーム、和音ー（実践）	事前	授業で出された課題を解いておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 3 回	楽典一傾向と対策②／音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語ー（理論）	事前	各移調楽器について記音と実音の違いを調べておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 4 回	楽典一傾向と対策②／音階、関係調、移調楽器、略記法、楽語ー（実践）	事前	授業で出された課題を解いておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 5 回	楽典一傾向と対策③／音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音ー（理論）	事前	西洋音楽史に基づく様式や形式、音楽理論や楽器法など幅広い音楽用語を調べておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 6 回	楽典一傾向と対策③／音楽用語、様式、形式、音楽書法、非和声音ー（実践）	事前	授業で出された課題を解いておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 7 回	日本の伝統音楽と和楽器講座ーワークショップ①／日本の笛ー能管・尺八・篠笛	事前	篠笛、能管、龍笛などの横笛のそれぞれの違い、尺八音楽などについて調べておく。	170 分
		事後	実際に演奏してみた感想をメモする。	100 分
第 8 回	日本の伝統音楽と和楽器講座ーワークショップ②／日本の弦楽器と語り物 三味線・箏・琵琶	事前	三味線・箏の種類や三味線音楽や箏曲について、琵琶語りと琵琶の種類を調べる。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 9 回	日本の伝統音楽ーワークショップ③／日本の伝統芸能 能楽講座	事前	能楽について調べておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 10 回	日本の伝統音楽④ ／三味線・尺八・箏曲・雅楽・能楽、歌舞伎、文楽、民謡、日本の音階 等まとめ	事前	雅楽と能楽の違い、能楽と歌舞伎の関係について調べておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 11 回	教員試験対策問題ー実践① 楽典 オークストラスコアからの出題	事前	授業で出された課題を解いておく。	190 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	80 分
第 12 回	教員試験対策問題ー実践② 日本の音楽と諸外国の音楽からの出題	事前	授業で出された課題を解いておく。	190 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	80 分
第 13 回	器楽一傾向と対策①／リコーダーとギターの運指と奏法について	事前	リコーダーを準備して、吹きながら運指を思い出す。ギターについて調べておく。	170 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 14 回	教員試験対策問題ー実践③ ／和楽器、移調楽器、オーケストラ楽器	事前	授業で出された課題を解いておく。	190 分
		事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	80 分
第 15 回	まとめ	事前	第 1～14 回までの復習と定期レポートへ向けての学習	250 分
		事後	西洋音楽と日本音楽の比較について考えてみる。	20 分

フィードバック	授業後の課題やレポート、学年末レポートや授業外自主研究課題に対して、添削により、改善点や学習方法、今後の取り組み方などを各自にコメントして伝える。
---------	---

成績評価	学年末レポート 50%、授業ごとの課題やレポート 25%、授業への積極的な取り組み 25%
------	---

テキスト	適宜プリントを配布する。 その他、使用する楽譜や管弦楽スコア、テキストは必要に応じて指示する。
------	--

オフィスアワー	授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	---

備考	楽典の基礎的な内容をすでに学習してある学生が対象。和声法を履修済か同等の内容をすでに学習してある学生が対象。 課題や復習をすること。2 年生以上の学生が対象。学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

(演) 音楽理論上級 1-1

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF303

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／3 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	様々な様式の和声課題を実施し、調性に対する感覚を磨くとともに旋律を分析する力を養う。また調性のある楽曲の試作に取り組み、能動的に和声を紡ぐ能力を高める。
到達目標	非和声音を含むソプラノ課題に取り組み、旋律各音の働きを確実に分析できるようになる。 主題的構成を持つバス課題の実施を通し、楽曲中の主題に対する意識を高めるとともに声部の扱いに習熟する。 調性音楽の試作を行い自らの音楽を発信する態度を培うとともに、様々な楽曲に込められた作曲者の思いを考察できるようになる。
授業計画	和声課題の実施や楽曲の試作、楽曲分析等の実習を中心に授業を行う。ただし履修者の習熟度に応じ予定を変更することもある。

第 1 回	基礎的な和声法の確認	事前 事後	和声法についての既習事項を復習する。 授業で実施した課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 2 回	非和声音について 非和声音を含むソプラノ課題① 刺繍音及び経過音を中心とする課題	事前 事後	非和声音についての知識を確認する。 実施した課題を演奏し響きを確認する。必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 3 回	非和声音を含むソプラノ課題② 全ての非和声音を含む課題	事前 事後	任意の楽曲を和声分析し、非和声音の使用例を確認する。 授業で取り組んだ課題を見直し、正しく非和声音を把握できているか確認する。	110 分 160 分
第 4 回	配置変化について	事前 事後	実施した課題を演奏し、非和声音をどのように表現すると効果的であるか研究する。 配置変化に習熟するため練習課題に取り組む。	110 分 160 分
第 5 回	自由ソプラノ課題の実施① 刺繍音及び経過音を中心とする課題	事前 事後	実施した課題をピアノで弾き、響きを確認しつつ禁則がないか確認する。 非和声音や転調を正しく把握できているかに注意し、実施した課題を見直す。	110 分 160 分
第 6 回	自由ソプラノ課題の実施② 全ての非和声音を含む課題	事前 事後	実施した課題を演奏し、非和声音の響きが和声に与える効果を聴き取る。 和声の流れに即した非和声音の分析ができているか、実施した課題を見直し確認する。	110 分 160 分
第 7 回	反復進行について	事前 事後	総和声 P.193～202 の解説を読む。また譜例をピアノで演奏する。 授業で実施した課題を暗譜するまでピアノで弾く。	110 分 160 分
第 8 回	模倣反復進行について	事前 事後	暗譜した反復進行の移調奏に取り組む。 総和声の課題 54 を実施する。	110 分 160 分
第 9 回	厳格バス課題の実施① 基本的な反復進行による課題	事前 事後	実施した課題に反則がないか確認した上で、移調奏を行う。 授業で取り組んだ課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 10 回	副 V を含む反復進行	事前 事後	総和声 P.86～88 の解説を読み、また譜例を演奏し、副 V についての知識を確認する。 授業で実施した課題を暗譜するまでピアノで演奏する。	110 分 160 分
第 11 回	厳格バス課題の実施② 副 V を含む反復進行を持つ課題	事前 事後	暗譜した副 V を含む反復進行の課題の移調奏に取り組む。 実施した課題に反則がないか確認し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 12 回	調性のある楽曲の試作① 解説	事前 事後	基本的な楽式について復習する。 試作品の形式、全体の構成、調の流れを決め、主題等を準備する。	110 分 160 分
第 13 回	調性のある楽曲の試作② 仕上げ	事前 事後	試作を進める。ピアノで演奏し、イメージした音楽になっているか確認する。 授業で指摘された点に留意しつつ試作品を完成させる。	110 分 160 分
第 14 回	調性のある楽曲の試作③ 演奏	事前 事後	試作品を練習し、授業で発表できるよう準備する。 試作品を見直し、また演奏を振り返り、さらに良い音楽とするために必要なものを考える。	110 分 160 分
第 15 回	和声的な楽曲についてのまとめ	事前 事後	これまでに扱った和声課題を見直す。 和声課題及び試作品の見直し、演奏を通し既習の知識と技術を確認する。	110 分 160 分

フィードバック 和声課題及び試作品の添削を通してフィードバックを行う。

成績評価 試験 40%、楽曲の試作 40%、和声課題の宿題 10%、授業態度 10%

テキスト 島岡譲（執筆責任）「総和声」（音楽之友社）
その他、適宜、プリントを配布する。
五線ノートを用意すること。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 音楽理論は座学ではなく実技科目と捉え、積極的に実習に取り組むこと。また実施したものは必ずピアノ等で演奏し、耳からの理解にも努めること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

(演) 音楽理論上級 1-2

非常勤講師 井元透馬

科目コード：SLF304

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／3 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	後期ロマン派の音楽で用いられる和声法を理解し、論理的に把握できる楽曲の幅を広げるとともに調性が崩壊してゆくプロセスを確認する。

到達目標	フランスの課題を含む、ある程度複雑な和声課題を分析し実施できるようになる。 楽曲中に用いられている調性音楽以外の要素を把握できるようになる。 12 音技法について理解し分析できるようになる。
------	---

授業計画	和声課題の実施や楽曲の試作、楽曲分析等の実習を中心に授業を行う。ただし履修者の習熟度に応じ予定を変更することもある。
------	--

第 1 回	既習の和声法によるバス課題及びソプラノ課題の実施	事前 事後	既習の和声法についての知識を確認する。 授業で実施した課題を見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。	110 分 160 分
第 2 回	階梯導入について	事前 事後	階梯導入とはどういうものかを調べる。 授業で示された階梯導入の譜例の分析及び演奏に取り組む。	110 分 160 分
第 3 回	階梯導入をもつ厳格バス課題	事前 事後	厳格バス課題について復習する。 実施した課題に反則がないか見直し、必要に応じ訂正・再実施をする。	110 分 160 分
第 4 回	偶成和音① 刺繍和音・倚和音	事前 事後	階梯導入を持つ厳格バス課題の演奏に取り組む。 テキストの解説をよく読み、刺繍和音と倚和音についての理解を深める。	110 分 160 分
第 5 回	偶成和音② 経過和音	事前 事後	テキストの譜例を演奏し、刺繍和音と倚和音の響きを確認する。 テキストの解説をよく読み、経過和音についての理解を深める。	110 分 160 分
第 6 回	偶成和音を含む両外声課題	事前 事後	テキストの譜例を演奏し、経過和音の響きを確認する。 実施した両外声課題を見直し、反則等が見つかった場合は訂正・再実施を行う。	110 分 160 分
第 7 回	保属音について	事前 事後	実施した偶成和音を含む課題をピアノで演奏し、響きを確認する。 様々な楽曲を鑑賞し、保属音がどのような場面で用いられているか確認する。	110 分 160 分
第 8 回	和音を表す数字について	事前 事後	任意の保属音が用いられた楽曲の和声分析を行う。 これまでに実施した和声課題に、フランス式の数字を付ける。	110 分 160 分
第 9 回	様々な和音を含む和声課題① 解説及び課題分析	事前 事後	課題に記されたフランス式の数字を参考にしつつレアリゼーションを行う。 通常のカデンツで把握できない部分にどのような偶成和音を用いることができるか考える。	110 分 160 分
第 10 回	様々な和音を含む和声課題② 仕上げ	事前 事後	偶成和音を用いつつ課題を実施する。 添削時に指摘された点に留意しつつ、課題を仕上げる。	110 分 160 分
第 11 回	12 音技法について	事前 事後	仕上げた課題を演奏し響きを確認する。不自然な部分がある場合は再実施に取り組む。 12 音技法で書かれた楽曲を探し、鑑賞する。	110 分 160 分
第 12 回	12 音技法による楽曲の試作① 解説、音列の作成	事前 事後	任意の 12 音技法で書かれた楽曲の音列を抜き出す。 作成した音列に誤りがないか確認する。	110 分 160 分
第 13 回	12 音技法による楽曲の試作② 試作の実施及び仕上げ	事前 事後	作成した音列の反転型を書く。また原型・反転型ともに移高する。 授業中に指摘された部分を修正しつつ、試作品を仕上げる。	110 分 160 分
第 14 回	12 音技法による楽曲の試作③ 演奏	事前 事後	演奏に向け練習を重ねる。 試作品を見直し、演奏を振り返り、よりよい音楽を作り上げるために必要なものを考える。	110 分 160 分
第 15 回	総まとめ	事前 事後	これまでに実施した和声課題を改めて見直し、必要に応じ訂正・再実施に取り組む。 任意の楽曲の分析を通し、既習事項の習熟度を確認する。	110 分 160 分

フィードバック	和声課題及び試作品の添削を通してフィードバックを行う。
---------	-----------------------------

成績評価	試験 40%、楽曲の試作 40%、和声課題の宿題 10%、授業態度 10%
------	---------------------------------------

テキスト	島岡譲（執筆責任）「総合和声」（音楽之友社） その他、適宜、プリントを配布する。 五線ノートを用意すること。
------	--

オフィスアワー	授業終了後、教室にて
---------	------------

備考	音楽理論は座学ではなく実技科目と捉え、積極的に実習に取り組むこと。また実施したものは必ずピアノ等で演奏し、耳からの理解にも努めること。
----	---

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	□	☒	☒	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□	□

(演) 音楽理論上級 2-1

講師 高畠亜生

科目コード：SLF403

対象コース／専門／学年： 演奏家コース／全専門／4 年次

形態：講義・実習

単位数：2 単位

概要 楽譜に書いてある音符は西洋音楽の場合、時代や作曲家様式によって様々な意味がある。音楽理論を学ぶ目的は作曲家が楽譜に書いた暗号である“音達”を真に芸術音楽として読み解くためのヒントに他ならない。実作品の原典版楽譜や音源を用いながら、分析能力、音楽的聴取力、読譜力、音楽理論の基礎力を養う。

到達目標 上級 2 では上級 1 を履修した学生を対象。楽典、書式（和声と対位法）、楽曲分析、聴取分析、楽器編曲法、音楽形式・各作曲家様式など音楽理論の総合演習を中心に、バロックから近現代までの実作品を扱いながら学ぶ。単なる知識や技法の“詰め込み”ではなく、それを創造的に使い自ら思考の結果としての豊かな音楽表現につながるようにする。

授業計画 ●和声（自由ソプラノ・バス）課題 ●ゼクエント進行を含むバス課題 ●旋律への和声・伴奏付 ●対位法 ●通奏低音 ●移調試奏 ●実作品の分析 ●大作作曲家の音楽書法 ●各時代や国、作曲家の形式・様式 ●カノン・フーガ ●調性と無調性 ●音階と様々な旋法 原典楽譜、音源や動画、資料を用いて、各学生の習熟度に合わせて進める。

第 1 回	オリエンテーション 今までの音楽理論演習の確認 総合演習 1 理論実習（パレストリーナによる厳格対位法）／分析（中世・ルネサンス音楽）	事前 今まで実習した音楽理論について確認して、自分の勉強したい箇所を把握しておく。 事後 授業内容と課題を復習する。	135 分 135 分
第 2 回	総合演習 2 理論実習（二声対位法・全音符） ／分析（ルネサンス音楽）パレストリーナの作品（声楽曲）より	事前 対位法課題をやる。課題曲について調べる。 事後 パレストリーナ以外のルネサンス期の作曲家声楽作品を聴いてみる。	170 分 100 分
第 3 回	総合演習 3 理論実習（二声対位法・全音符） ／分析（ルネサンス・バロック期）パーセル・ヘンデルのオペラ	事前 バロックオペラについて調べる。対位法課題をやる。 事後 パーセルやヘンデル以外のバロックオペラを探してみる。	170 分 100 分
第 4 回	総合演習 4 理論実習（二声対位法・二分音符①）／バス課題・ゼクエント反復進行① ／分析（バロック期）ヴィヴァルディ・コレッリの作品より	事前 反復進行について調べる。イタリアのバロック作曲家について調べる。 事後 ヴィヴァルディ・コレッリ以外のバロックの管弦楽作品をたくさん聴く。	170 分 100 分
第 5 回	総合演習 5 理論実習（二声対位法・二分音符②）／バス課題・ゼクエント反復進行② ／分析（バロック期）ラモーの『和声学』「バレー・オペラ」	事前 第 4 回で指示された課題をやる。フランスのバレー・オペラについて調べる。 事後 ラモーに影響を与えたリュリについて調べる。	170 分 100 分
第 6 回	総合演習 6 理論実習（二声対位法・四分音符①）／バス課題・ゼクエント反復進行③ ／分析（バロック期）バッハ：無伴奏ヴァイオリンソナタ／インヴェンションより	事前 第 5 回で指示された課題をやる。課題曲について調べる。 事後 無伴奏ヴァイオリンソナタを四声体書法に書き換えてみる。	170 分 100 分
第 7 回	総合演習 7 理論実習（二声対位法・四分音符②）／バス課題・ゼクエント反復進行④ ／分析（バロック期）バッハ：フーガの技法 オルガン作品より	事前 第 6 回で指示された課題をやる。十二平均律について調べる。 事後 古典派からロマン派まで、フーガ形式で書かれた作品を探して聴いてみる。	170 分 100 分
第 8 回	総合演習 8 理論実習（二声対位法・移調①） ／分析（バロック期）バッハ： バッハ：平均律クラヴィア曲集より	事前 第 7 回で指示された課題をやる。カノンとフーガについて調べる。 事後 課題曲以外の平均律の曲も様々な鍵盤楽器で聴いてみる。	170 分 100 分
第 9 回	総合演習 8 理論実習（二声対位法・移調②）／数字付低音のバス課題 ／分析（バロック期）バッハ：管弦楽組曲第 2 番／ブランデンブルグ協奏曲より	事前 第 8 回で指示された課題をやる。古典舞踊の組曲と協奏曲について調べる。 事後 数字付バス課題を鍵盤楽器で弾く。移調楽器の記音と実音を復習する。	170 分 100 分
第 10 回	総合演習 9 理論実習（二声対位法・華麗／和声対位法・コラル書法） ／分析（バロック期）J.S.BACH マタイ受難曲より	事前 第 9 回で指示された課題をやる。コラルについて調べる。 事後 マタイ受難曲中の同じコラル旋律に様々な和声編曲されている部分を確認する。	170 分 100 分
第 11 回	総合演習 10 理論実習（転回可能対位法／主題をもつバス課題①） ／分析（古典派）モーツァルトのピアノソナタより	事前 第 10 回で指示された課題をやる。 事後 ハイドンの『ロシア弦楽四重奏曲』を聴いてみる。	170 分 100 分
第 12 回	総合演習 11 理論実習（二声対位法・華麗／主題をもつバス課題②） ／分析（古典派）モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」	事前 第 11 回で指示された課題をやる。課題曲を調べる。 事後 モーツァルトの弦楽四重奏曲以外の室内楽もたくさん聴いてみる。	170 分 100 分
第 13 回	総合演習 12 理論実習（二声対位法・華麗（教会旋法①）／主題をもつバス課題③） ／分析（古典派）ハイドンとモーツァルトの交響曲第 25.40 番短調の比較	事前 第 12 回で指示された課題をやる。課題曲を調べる。 事後 モーツァルトの交響曲第 39.41 番を聴いてみる。	170 分 100 分
第 14 回	総合演習 13 理論実習（二声対位法・華麗（教会旋法②）／主題をもつバス課題④） ／分析（古典派）モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」より	事前 第 13 回で指示された課題をやる。課題曲を調べる。 事後 モーツァルトの歌劇『魔笛』を観てみる。	170 分 100 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 第 1～14 回までの中で理解出来ない部分の確認 事後 前期の復習と、夏休みの自己課題を各自把握する。	170 分 100 分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 定期試験の成績 40％、宿題や課題 30％、授業への積極的な取り組み 30％

テキスト ●島岡譲（執筆責任）『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社 ●五線紙&筆記用具（鉛筆）
●J.S.BACH：『インヴェンションとシンフォニア』（ハンス・ビショッフ版 全音楽譜出版社）他原典版←既に持っている人は購入の必要無し。
●山口博史著：バリ音楽院の方式による『厳格対位法』音楽之友社
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
《参考図書》 池内友次郎氏『和声 理論と実習Ⅲ』音楽之友社
野田暉行著『要約和声』E World Japan Publishing（Teruyuki Noda-Official Site より購入可）
野田暉行著『和声 100 課題集』（課題編・実施編）E World Japan Publishing（同上）

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識の醸成力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

(演) 音楽理論上級 2-2

講師 高畠亜生

科目コード：SLF404

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／4 年次

形態：講義・実習

単位数：2 単位

概要 楽譜に書いてある音符は西洋音楽の場合、時代や作曲家様式によって様々な意味がある。音楽理論を学ぶ目的は作曲家が楽譜に書いた暗号である“音達”を真に芸術音楽として読み解くためのヒントに他ならない。実作品の原典版楽譜や音源を用いながら、分析能力、音楽的聴取力、読譜力、音楽理論の基礎力を養う。

到達目標 上級 2 では上級 1 を履修した学生を対象。楽典、書式（和声と対位法）、楽曲分析、聴取分析、楽器編曲法、音楽形式・各作曲家様式など音楽理論の総合演習を中心に、バロックから近現代までの実作品を扱いながら学ぶ。単なる知識や技法の“詰め込み”ではなく、それを創造的に使い自ら思考の結果としての豊かな音楽表現につながるようにする。

授業計画 ●和声（自由ソプラノ・バス）課題 ●ゼクエント進行を含むバス課題 ●旋律への和声・伴奏付 ●対位法 ●通奏低音 ●移調試奏 ●実作品の分析 ●大作作曲家の音楽書法 ●各時代や国、作曲家の形式・様式 ●カノン・フーガ ●調性と無調性 ●音階と様々な旋法 原典楽譜、音源や動画、資料を用いて、各学生の習熟度に合わせて進める。

第 1 回	総合演習 1	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 総合和声①） ／分析（古典派）ハイドン・ベートーヴェンの動機操作と和声法	事前	前期に学んだ内容と演奏表現へのつながりの発見を再確認する。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 2 回	総合演習 2	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 総合和声②） ／分析（古典派）ベートーヴェンのポリフォニー 室内楽作品より	事前	ベートーヴェンの課題曲について調べる。第 1 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 3 回	総合演習 3	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 総合和声③） ／分析（古典派）ベートーヴェンの交響曲より	事前	ベートーヴェンの課題曲について調べる。第 2 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 4 回	総合演習 4	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 総合和声④） ／分析（ロマン派）ショパンのピアノ曲より（非和声修飾の多様化）	事前	ショパンの課題曲について調べる。第 3 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 5 回	総合演習 5	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 総合和声⑤） ／分析（ロマン派）シューマンのピアノ歌曲	事前	シューマンの課題曲について調べる。第 4 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 6 回	総合演習 5	理論実習（三声対位法／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題①） ／分析（ロマン派）ブラームスの「内的声部」「異名同音変換」	事前	ブラームスの課題曲について調べる。第 5 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 7 回	総合演習 6	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題②） ／分析（後期ロマン派）ワーグナーの和声と半音階的拡張、多声部書法	事前	ワーグナーの課題曲について調べる。第 6 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 8 回	総合演習 7	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題③） ／分析（フランス近代）印象派の和声：ドビュッシーの作品より	事前	ドビュッシーの課題曲について調べる。第 7 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 9 回	総合演習 8	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題④） ／分析（フランス近代）様々な旋法の取り込み ドビュッシーとラヴェル	事前	ラヴェルの課題曲について調べる。第 8 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 10 回	総合演習 9	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題⑤） ／分析（20 世紀・新古典主義）多調性と無調の違い：ストラヴィンスキー等	事前	ストラヴィンスキーの 101 の質問を読む。第 9 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 11 回	総合演習 10	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題⑥） ／分析（12 音列技法）アルバン・ベルクの歌劇「ヴォツェック」より	事前	新ウィーン楽派と 12 音技法について調べる。第 10 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 12 回	総合演習 11	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題⑦） ／分析（後期ロマン派 イタリア歌劇）ブッチェーニのオペラより	事前	ブッチェーニの作品について調べる。第 11 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 13 回	総合演習 12	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題⑧） ／分析（20 世紀新音楽）メシアン音楽語法	事前	メシアンについて調べる。第 12 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 14 回	総合演習 13	理論実習（Fugue／自由ソプラノ課題 バリ音楽院の課題⑨） ／楽曲分析（20 世紀新音楽）バルトーク、ヒンデミットの音楽語法	事前	バルトークの課題曲について調べる。第 13 回で指示された課題をやる。	170 分
			事後	実際の授業内容に応じて適宜指示。	100 分
第 15 回	後期のまとめ		事前	今までの勉強した音楽理論や分析について復習する。	170 分
			事後	自分の一年間の音楽理論演習と演奏表現向上との関連性をまとめる。	100 分

フィードバック 課題、レポート、試験について毎回授業ごとにコメントや添削を通して改善点や学習方法を伝える。

成績評価 定期試験の成績 40％、宿題や課題 30％、授業への積極的な取り組み 30％

テキスト ●島岡譲（執筆責任）『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社 ●五線紙&筆記用具（鉛筆）
●山口博史著：バリ音楽院の方式による『厳格対位法』音楽之友社
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。適宜、プリントを配布する。
《参考図書》池内友次郎他『和声 理論と実習Ⅲ』音楽之友社
野田暉行著『要約和声』E World Japan Publishing（Teruyuki Noda-Official Site より購入可）
野田暉行著『和声 100 課題集』（課題編・実施編）E World Japan Publishing（同上）
野田暉行著『Fugue』（CD 音源付）E World Japan Publishing（同上）

オフィスアワー 授業後教室にて。もしくは E メールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☒	☒	□	□	☒	☒	☒	☒	☒	□	□	☒	□	□	□	□

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 大河内雅彦		科目コード：SLF305
コース／専門／学年： 全コース／全専門／3・4年次		
形態：演習	単位数：2単位	
概要	・指揮の基本技法を習得する。 ・実際のクラス（15名程度）の2部合唱（ピアノ連弾による伴奏）を題材にして、指揮および指導の実習をする。 ・スコアを読むための予備知識を習得する。（ハ音記号、移調楽器の記譜について） ・クラスのメンバーで適切なアンサンブルが組める場合、そのアンサンブルを指揮してみる。	
到達目標	・理論的なことを押さえつつも、指揮および指導を「実践する」。 ・実際に指揮を体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとのディスカッション出来るようにする。 ・吹奏楽やオーケストラのスコアを読むための準備として、移調楽器の記譜についての知識を得ることに加え、数種類の「ハ音記号」を読むようにする。	

第1回	オリエンテーション 移調楽器についての説明①	指揮の理論についての概要	事前 移調楽器にどんな楽器があるかを調べてくる 事後 移調楽器について授業で話した内容について概要をつかむこと	120分 150分
第2回	ハイ・ホー 移調楽器についての説明②	譜読み	事前 ハイ・ホー 譜読み 事後 移調楽器について授業で話した内容の確認	120分 150分
第3回	ハイ・ホー 仕上げ ハ音記号についての説明		事後 ハイ・ホー 譜読み 事前 ハ音記号について概要をつかむ	120分 150分
第4回	チム・チム・チェリー 譜読み テノール記号の練習 p.1-3		事後 チム・チム・チェリー 譜読み 事前 テノール記号の反復練習	120分 150分
第5回	チム・チム・チェリー 仕上げ テノール記号の練習 p.4-5		事後 チム・チム・チェリー 譜読み 事前 テノール記号の反復練習	120分 150分
第6回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.6-7		事後 アンダー・ザ・シー 譜読み 事前 テノール記号の反復練習	120分 150分
第7回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.8-10		事後 アンダー・ザ・シー 譜読み 事前 テノール記号の反復練習	120分 150分
第8回	アンダー・ザ・シー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.13-14		事後 アンダー・ザ・シー 譜読み 事前 メゾソプラノ記号の反復練習	120分 150分
第9回	ビビディ・バビディ・ブー 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.15-16		事後 ビビディ・バビディ・ブー 譜読み 事前 メゾソプラノ記号の反復練習	120分 150分
第10回	ビビディ・バビディ・ブー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.17-18		事後 ビビディ・バビディ・ブー 譜読み 事前 メゾソプラノ記号の反復練習	120分 150分
第11回	ホール・ニュー・ワールド 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.19-20		事後 ホール・ニュー・ワールド 譜読み 事前 メゾソプラノ記号の反復練習	120分 150分
第12回	ホール・ニュー・ワールド 仕上げ アルト記号の練習 p.21-22		事後 ホール・ニュー・ワールド 譜読み 事前 アルト記号の反復練習	120分 150分
第13回	小さな世界 譜読み アルト記号の練習 p.23-24		事後 小さな世界 譜読み 事前 アルト記号の反復練習	120分 150分
第14回	小さな世界 仕上げ アルト記号の練習 p.25-26		事後 小さな世界 譜読み 事前 アルト記号の反復練習	120分 150分
第15回	まとめ 3つのハ音記号の練習		事後 全ての曲 譜読み確認 事前 3つのハ音記号の反復練習	120分 120分

フィードバック 実技系の授業なので、各自が指揮をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価 事前学習への取り組み（十分な譜読み）50％ 授業への積極的な取り組み 50％

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー	授業終了後教室にて	
アクティブ・ラーニング	クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌い手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。	
備考		

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□	☒	□	☒	☒	□	□	□

作曲法（編曲法を含む）
※教育職員免許状取得に関わる科目

講師	高畠亜生	科目コード：SLF306
対象コース／専門／学年：全コース／全専門／3・4年次		
形態：講義	単位数：2単位	
概要	メロディのコード付け、変奏曲、カノンの作曲、モチーフを使った作曲、歌曲の作曲、無調現代曲の作曲、特殊編成への編曲など	

到達目標	将来、音楽活動や教育の現場で、様々なニーズに応じた作曲・編曲を求められることも少なくない。この授業では、創作の基本的な実技（モチーフの各形式による作曲や伴奏付け、コード付け、合奏&合唱曲の編曲・作曲など）や具体的な書法テクニックを演習させながら、出来るだけ多く自分で楽譜を書いたり、PCに打ち込み楽譜製作をしたりする。またそれらを実際に試演するなど実際の音にして音楽的体験をすることを目標とする。
授業計画	教室内で演奏不可の学生は音源をCD等で用意すること。

第1回	オリエンテーション／メロディーの伴奏付け（コード付け）	事前 事後	終止形（カデンツ）、終止、和音進行、コードネーム、音楽基礎理論を復習しておく。 実際の授業内容に応じて適宜指示。	120分 150分
第2回	オブリガート（対旋律）を作って編曲しよう	事前 事後	伴奏付け（コード付け）の復習。リコーダーの音域確認。各声域（Sop.Alto.男声）の確認。 授業の課題を仕上る。	120分 150分
第3回	与えられたコードネームまたは和音進行の上に旋律を作曲しよう	事前 事後	和音度や転位音（非和声音）の復習。伴奏に用いるギターについて調べておく。 完成した楽譜をギターを弾ける友人を捜して弾いてもらい、歌ってみよう。	135分 135分
第4回	二部形式の曲（16小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 事後	形式についてと、近親転調について復習しておく。 与えられたモチーフでいくつか二部形式で旋律を創作する練習をしましょう。	120分 150分
第5回	二部形式の曲を編曲しよう（伴奏付け、オブリガート）	事前 事後	第4回で作った旋律のコード付けや終止を設定しておく。 授業の課題を仕上る。	135分 135分
第6回	ア・カペラの混声合唱曲に編曲しよう（カノン、コラール）	事前 事後	中学、高校生の各声部の音域を調べておきましょう。 授業の課題を仕上る。	120分 150分
第7回	多声的な音楽の創作（3声のカノン）	事前 事後	混声三部（Sop.Alto.男声）の声域の確認。対位法、声部書法について調べておく。 授業の課題を仕上る。	120分 150分
第8回	移調楽器（木・金管）を含んだアンサンブル（4重奏、特集編成など）を編曲しよう	事前 事後	移調楽器（ClnB.inA、HrinF、Tp.inB、Alto Sax.inEs）の記音と実音の関係を調べておく。 授業の課題を仕上る。	135分 135分
第9回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう1（講義・演習）	事前 事後	箏や三味線の調法、篠笛、尺八の音域、和太鼓の唱歌など、和楽器の楽譜表記について調べておく。 授業で課された演習の準備	150分 120分
第10回	箏や三味線、篠笛、尺八、和太鼓など 邦楽器を含んだ楽曲創作をしよう2（発表）	事前 事後	各音域の実際の和楽器の音を確認してみよう。（講師の先生や和楽サークル学生に相談等） 和楽器の新しい音色の可能性や奏法を発見してみよう。	150分 120分
第11回	三部形式の曲（24小節）を作曲しよう（転調あり）	事前 事後	リート形式について各種、器楽形式の複合三部形式、ロンド形式、ソナタ形式について調べておく。 授業の課題を仕上る。	100分 170分
第12回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう1（演習）	事前 事後	様々な歌詞のイントネーションを研究する。旋律の動きとリズムの関係や終止、構成や音域など。 授業の課題を仕上る。	135分 135分
第13回	与えられた歌詞（オリジナル可）に旋律を作曲して部分的に合唱にしてみよう2（発表）	事前 事後	クラス全員で歌えるように、全員分の楽譜を準備しよう。 自分の創作した歌の歌詞と旋律線が自然で合っていたか検討しましょう。	170分 100分
第14回	学校音楽の現場で用意できる楽器または日常雑貨で 独創楽器を作って創作・編曲してみよう	事前 事後	学校現場で楽器になりそうなグッズを集めてみよう！一つの楽器で特殊奏法を探してみよう。 授業の課題を仕上る。	170分 100分
第15回	自由作曲（様式、形式、編成、演奏時間3分）の発表会	事前 事後	発表会に備えて、パート楽譜準備、演奏者手配、リハーサル等、各自準備をする。 発表会で他の学生の作品を聞いて、参考にするアイデアを得る。	250分 20分

フィードバック
課や宿題を講師が添削して次週返却するので、それをしっかり復習して次の課題にも生かしていく。
最後の提出作品ではその積み重ねの総合力を出せるように、基礎的な作曲技術を身につけていく。

成績評価
学期末作品と試演発表会 50%、宿題や課題 25%、授業への取り組み 25%
学期末作品提出〔編成、形式や様式は自由。3分程度の自由作曲（編曲可）〕楽譜提出（手書き、コピー、PCいずれも可）。
最後の授業で作品発表会を実施する（履修人数により日程や時間調整の場合あり）。演奏は自作自演、また履修生以外に依頼可。
教室内で演奏不可の学生は全員が聴ける音源を用意すること。
※スマホ等で音量が小さすぎ全員が聞くことができない機器は不可。未提出、発表会不参加の学生には単位は与えられない。

テキスト
PC室のフィナーレを使って楽譜打込をする事があるので各自必ずUSBメモリ等を用意すること。
五線紙や筆記用具も用意すること。
その他、使用する楽譜やテキストは必要に応じて指示する。
適宜、プリントを配布する。
また演奏する場合に備え、専門楽器も各自持参することが望ましい。

オフィスアワー
授業後教室にて。もしくはEメールにて対応 music125@mail.uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング
・履修者の楽器編成で可能な室内楽編成グループに分かれて、例えばピアノ連弾曲、フルートとオーボエとピアノの曲を二人、三人で共作で相談しながら作曲して楽譜にする。
・創作過程では、講師が手助けしたりアドバイスを与えて手直しする。完成後、試演会をして、講評会をしながら感想を述べ合う。

備考
日頃から移調やアレンジや作曲などに興味を持ち挑戦すること。
1401（PC室）1402は必要に応じて使用教室が変わります。授業内や学内掲示、大学サイト等、講師からのメール等での指示に必ず従うこと。
PC楽譜製作のため1401室を授業時以外で使用したい学生は担当講師または教務課まで相談すること。
学生の専攻楽器や興味、理解度に応じてシラバスの内容、順序を変更する可能性もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解				知識・技能の活用					意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミニプロジェクト	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	☒	□	☒	□	☒	☒	□	□	□	☒	□	□	□

演奏者のための心理学

教授 石橋明佳

科目コード：NAT202

対象コース／専門／学年：演奏家コース／全専門／2～3 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	良い演奏に必要な技術・体力・経験をコントロールする「心」について学び、演奏スキルの向上を目指す。さらに音楽事業・文化の分析やオーディエンスの心理理解、効果的な自分自身のプレゼンテーション法、チャンスを引き寄せる「仕事、時間、お金」のマネジメント等、演奏家として成功するために活用できる知識とスキルを心理学を通して習得する。
到達目標	演奏家として将来活動するために必要なメンタリティを持つことを目標とする。具体的には、①自分の性格や思考パターンがどのように生活や演奏に影響しているかを知る、②演奏・音楽が人に及ぼす力を知る、③心身の健康の為のリスクやストレス等のマネジメント法を身につける、④演奏活動に必要なコミュニケーション能力、セルフ・プレゼンテーション能力を身につける。

授業計画		
第 1 回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意、ICT/IoT 時代における自分らしい演奏活動について考える	事前 テキストの「イントロダクション」と関連ページを読んで理解する 事後 テキスト第 1 章のアサイメント「Ikigai」に取り組む
第 2 回	「自分」について考える：自分の思考パターン、自己概念、自尊感情	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業中に行った各心理テストの結果を分析し、自己認識を深める
第 3 回	「自分らしさ」について考える：個性の表現	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 テキスト第 3 章のアサイメント「プロフィール」に取り組む
第 4 回	演奏者はなぜユニークなのか：演奏が脳に与える影響	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 人間文化における音楽を神経心理学的に考えてみる
第 5 回	タフな演奏者になろう①：ストレスについて知る	事前 自分の生活をタイムテーブルにする 事後 自分の環境や性格とストレスの関連性を分析する
第 6 回	タフな演奏者になろう②：ストレス・マネジメント	事前 自分の生活におけるストレス因子について考える 事後 自分の生活や思考・行動傾向の改良すべき点を分析する
第 7 回	オーディエンスはなぜ感動するのか：想像力の付け方、イメージ・トレーニング	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で学んだメソッドを試してみる
第 8 回	色彩の心理学：カラー・セラピー、イメージ・カラーを使ったプロモーション	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分や自分の演奏活動を表現できる色や色の組み合わせを考えてみる
第 9 回	質の良い練習をしよう：集中力・暗譜力の向上方法	事前 テキストの関連ページを読む 事後 授業で学んだメソッドを試してみる
第 10 回	本番に強くなる：フロー（ゾーン）状態の入り方	事前 自分が良い演奏ができない状況を検証する 事後 自分に合った緊張緩和方法を考える
第 11 回	演奏者に必要なコミュニケーション能力：効果的な自己表現とアクティヴ・リスニングの方法	事前 テキストの関連ページを読み、対人関係における自分を分析する 事後 授業で学んだソーシャル・スキルの実践方法を検討する
第 12 回	心理学を応用したコンサート・マネジメント	事前 新聞広告やポスター等から、音楽の流行について分析する 事後 自分のコンサート（最終課題用）のアイデアをまとめる
第 13 回	「ファン」を開拓する：演奏者とオーディエンスを繋ぐマーケティング	事前 テキストの関連ページを読み、自分のターゲット・マーケットを想定する 事後 ターゲット・オーディエンスを想定し、その人物の趣味・思考・行動等を具体的に決める
第 14 回	自分の売り込み方：心理学を利用したプロフィール、キャッチコピー/フレーズ、ポートレート	事前 テキストの関連ページを読み、プロフィールを校正する 事後 自分と自分のコンサート（最終課題用）のキャッチコピー/フレーズを考える
第 15 回	「なんだか気になる」フライヤーを作ろう：オーディエンス獲得に効果的なフライヤー作り	事前 フライヤーの収集、ターゲット・オーディエンスのニーズを分析する 事後 課題（フライヤー作成）に必要な資料・情報の収集

フィードバック	授業での課題や宿題は、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。 最終課題である「フライヤー」はコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	---

成績評価	主に課題により行うが、受講態度や授業外学習も評価の対象とする。課題は自分のコンサートを想定して「フライヤー」を作成する。 評価の配分は、授業に取り組む姿勢・質疑応答等で 30%、授業外学習で 20%、課題で 50%とする。
------	--

テキスト	プリント教材『演奏者のための心理学』（約 700 円）
------	-----------------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	・調査学習（ポスター等の配色、フォント等の撮影・収集/観察・分析） ・学びあい（プロフィール・ポートレート等） ・発見学習（各種新地テストの実施）
-------------	---

備考	・課題のための PC 操作に関して、必要な場合は別に指導する。 ・当講義では各種の心理テストを使って、心の状態や演奏者に必要なメンタリティーをチェックする。
----	---

学位授与の方針との関連																
授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	☑	□	☑		□

日本の伝統的な歌唱法

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード：SCH208

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	日本の伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

到達目標	・前半に長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。後半に長唄「小鍛冶」を唄えるようにする。 ・三味線の調弦および「寄せの合方」「セリの合方」、小鍛冶の冒頭部分を弾けるようにする。唄と三味線の関係及び「間」を知る。
------	--

授業計画				
第 1 回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いがかりと大薩摩の部分「旅の衣は鏡懸の～月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前	配布プリントを読む。	120 分
		事後	授業で学んだ唄を復習して唄う。	130 分
第 2 回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明。三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前	前回学んだ唄を復習して唄う。	120 分
		事後	三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	130 分
第 3 回	唄の復習。引き続き「これやこの～海津の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前	前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。	120 分
		事後	今回学んだ部分を復習して唄う。	130 分
第 4 回	唄の復習。引き続き「それ山伏と～押しもんだ里」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前	「さくら」の三味線の勘所（ポジション）の復習確認をする。	120 分
		事後	「佃の合方」の口三味線を暗記する。	130 分
第 5 回	唄の復習。引き続き「もとより～読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前	前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。	120 分
		事後	今回学んだ部分を復習して唄う。	130 分
第 6 回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前	「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。	120 分
		事後	「寄せの合方」の旋律を覚える。	130 分
第 7 回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は 2 チームに別れて練習。	事前	前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。	120 分
		事後	唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	130 分
第 8 回	唄の復習。三味線は 2 チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前	唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120 分
		事後	唄と三味線の出来なかった箇所の復習をする。三味線の仕組みの復習をする。	130 分
第 9 回	長唄「小鍛冶」の概要説明。歌詞の音読と解説。「始め～勇ましき」まで唄えるようにする。 再度、三味線の構や弾き方を確認する。	事前	配布プリントを読む。	120 分
		事後	学んだ唄を復習して唄う。	130 分
第 10 回	唄の復習。三味線を「小鍛冶」より「セリの合方」の三味線を言い、弾けるようにする。	事前	唄の歌詞を音読し、復習して唄う。	120 分
		事後	唄を復習する「セリの合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。	130 分
第 11 回	唄の復習。引き続き「打つという～色をかなとこに」までを唄えるようにする。 三味線「セリの合方」の復習。	事前	唄を復習して唄う。「セリの合方」を復習する。	120 分
		事後	唄を復習して唄う。	130 分
第 12 回	唄の復習。三味線の 1 ページ目（始め～セリの合方まで）を弾けるようにする。	事前	唄を復習する「セリの合方」の勘所の復習確認をする。	120 分
		事後	唄を復習して唄う。三味線の 1 ページ目の復習確認をする。	130 分
第 13 回	唄の復習。引き続き「火加減湯加減～響きけり（最後）」まで唄えるようにする。 三味線の復習。	事前	唄を復習して唄う。三味線の 1 ページ目の復習をする。	120 分
		事後	唄を復習して唄う。	130 分
第 14 回	唄を始めから唄えるようにする。三味線の復習。引き続き「それ～伝え聞く」まで弾けるようにする。	事前	唄を復習して唄う。	120 分
		事後	唄を復習して唄う。三味線の 2 ページ目の復習確認をする。	130 分
第 15 回	唄の復習。三味線を「始め～伝え聞く」までを唄と一緒に弾けるようにする。 最後に全員で通して演奏する。	事前	唄を始めから通して唄ってみる。三味線の 2 ページ目の復習をする。	120 分
		事後	唄と三味線の関係を感じながら、唄と三味線の復習をする。	130 分

フィードバック	学生の長唄および三味線の演奏に対する助言	三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価
---------	----------------------	------------------------------

成績評価	長唄・三味線の実技の修得状況 60％並びに取り組みの様子 30％	定期試験の結果 10％
------	----------------------------------	-------------

テキスト	※適宜授業内配布。「勸進帳（研精譜）」	三味線合方（文化譜）	「小鍛冶（研精譜）」	「小鍛冶（文化譜）」
------	---------------------	------------	------------	------------

オフィスアワー	授業時間の前後
---------	---------

アクティブ・ラーニング	三味線体験の際に、本手と替手の各パートを小さなグループに分かれて合奏をする。それによって指揮がいらない中で息を合わせたり、相手に合わせる感覚を感じてもらい 一体感を作る。
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐

和楽器研究法

※教育職員免許状取得に関わる科目

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH209

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体の使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。
到達目標	学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体の使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。
授業計画	3 回× 5 日間の集中講義で行う。

第 1 回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』 pp. 1-19 を熟読し、身体の使い方を復習する。	130 分 140 分
第 2 回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 3 回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 4 回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体の使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 5 回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のバリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 6 回	準備運動。箏に馴れる。合わせ爪、割り爪、左手の奏法を学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 44-69 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp. 44-69 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 7 回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》 初段の冒頭部分を復習する。	130 分 140 分
第 8 回	準備運動。《六段の調べ》初段から学ぶ。人差し指、中指を用いた奏法を学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 90-91 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》 初段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 9 回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 p. 115 の 50 番 を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》 初段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 10 回	準備運動。《六段の調べ》三段の魅力を、表現と鑑賞を通して理解する。裏連。序破急。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 76-77 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》 三段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 11 回	準備運動。《六段の調べ》三段の演奏技能を身に付ける。間合いの取り方を唱歌で学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 92-94 を練習してくる。(エア箏でも可) 《六段の調べ》 三段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 12 回	準備運動。《六段の調べ》六段の魅力を、表現と鑑賞を通して理解する。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 95-97 を練習してくる。(エア箏でも可) 《六段の調べ》 六段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 13 回	準備運動。《六段の調べ》表間・裏間の間合いを身体に感じながら、奏法を身に付ける。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 98-100 を練習してくる。(エア箏でも可) 《六段の調べ》 六段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 14 回	準備運動。《六段の調べ》初段、三段、六段を、序破急を生かして演奏する。	事前 事後	『箏エチュード』 pp. 101-105 を練習してくる。(エア箏でも可) 《六段の調べ》 初段、三段、六段を復習する。	130 分 140 分
第 15 回	発表会。各自が《さくらさくら》《六段の調べ》を選んで、独奏する。	事前 事後	《さくらさくら》または《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130 分 140 分

フィードバック 毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40％） 発表会での演奏の内容（60％）

テキスト 深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル
必要な楽譜はプリントを配付する。

オフィスアワー 講義の前後の時間で行う。

備考 できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☑	

音楽療法概論

特任教授 星野悦子

科目コード：NAT108

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／1～4 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽療法の、音楽の特性や機能を活用して、種々の音楽活動形態を意図的・計画的に用いることにより、心身の疾病・障害のある人々がその固有の健康上の問題に取り組むのを援助する。本講義では、音楽が子ども、成人、高齢者の心理・身体に与える影響を知り、その治療理論と方法を学ぶ。さらに、そのメカニズムがどこまで科学的に解明されたかについての最新知見を含めた全般を講じていく。
到達目標	音楽は人間の心と身体に様々な影響を与え、私たちの健康にポジティブな癒しの効果をもたらす媒体である。本講義では、音楽療法について、その歴史、治療理論、最新の研究成果までを広く概観し、全体像を把握することを目的とする。

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション～音楽療法の意味と定義	事前 教科書の「はじめに」を読む 事後 授業ノートを見直す	140 分 140 分
第 2 回	音楽療法の対象と目的	事前 教科書第 1 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 3 回	音楽療法の歴史（1）～古代から中世まで～	事前 教科書第 2 章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 4 回	音楽療法の歴史（2）～ルネサンスから近代まで～	事前 プリント 1 を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 5 回	音楽療法の歴史（3）～米国と日本における歴史～	事前 教科書第 2 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 6 回	音楽療法の原理～同質から異質へ～	事前 教科書第 4 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 7 回	音楽療法の治療理論（1）～医学モデル、精神分析モデル～	事前 プリント 2 を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 8 回	音楽療法の治療理論（2）～行動療法モデル、人間主義的心理学モデル～	事前 プリント 3 を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 9 回	音楽療法の実践紹介（1）～幼児、児童、思春期の領域～	事前 教科書第 5 章 1～2 節を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 10 回	音楽療法の実践紹介（2）～成人、高齢者の領域～	事前 教科書第 5 章 3～4 節を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 11 回	音楽と生理機能	事前 教科書第 3 章 1 節を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 12 回	音楽と心理機能・感情機能	事前 教科書第 3 章 2 節を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 13 回	現代人の生活と音楽療法	事前 教科書第 6 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 14 回	音楽療法士という職業	事前 教科書第 7 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	140 分 140 分
第 15 回	まとめ	事前 教科書全体を見直す 事後 試験の解答をチェックしふりかえる	140 分 140 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験成績と受講態度とを総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 村井靖児（著）『音楽療法の基礎』音楽之友社
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後の教室にて、および指定曜日の研究室にて対応する。

備考 音楽の神アポロンの子が医神アスクレピオスであった。
音楽は始まりからすでに“癒し”的な出自をもつようである。音楽のもつ多様なパワーと治療的作用を学ぶ場になりたい。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

音楽科教育法Ⅱ

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子 科目コード：SCH204

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 学習指導要領の内容に基づいて、中・高等学校の音楽の授業を適切に行うために必要な指導法を身に付け、実践的な力を養う。受講する全学生が模擬授業を行い、他の学生は、生徒役になり生徒の目線で模擬授業を評価する。領域は、学習指導要領に示される歌唱・器楽・鑑賞・創作の全領域を扱う。

到達目標 本講座を受講した学生が、中学校・高等学校（小学校の音楽専科教員も含む）の教員として、中・高等学校の音楽の授業を適切に行うために必要な理論的・実践的な力を育み、指導法を身に付けると共に、学習指導案の書き方を理解する。

授業計画 【AL】 実際の授業を想定した極めて実践的な授業である。アクティブラーニングの、双方向の授業展開の中で、授業構案について学びあっていく。

第 1 回	授業の目的、内容、進め方、評価について 模擬授業の分担計画。	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P1-P8 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 p10-p.20 を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 2 回	師範授業 学習指導要領との関わり 主体的・対話的で深い学びのある授業について	事前 中学校の音楽教科書を購入し、一通り目を通してくる。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 p.21-p.34 を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 3 回	歌唱の模擬授業とその検討 歌唱共通教材「浜辺の歌」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P35-P42 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編の「浜辺の歌」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	110 分 160 分
第 4 回	歌唱の模擬授業とその検討 歌唱共通教材「花」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P65-P71 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編の「花」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 5 回	歌唱の授業とその検討 歌唱共通教材「夏の思い出」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P71-P81 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編の「夏の思い出」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 6 回	歌唱の授業とその検討 高等学校「Car mio ben」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P90-P115 を読む。 事後 高等学校学習指導要領解説 芸術編の「Car mio ben」の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 7 回	歌唱の授業とその検討 高等学校「Heiden roslein」シューベルト & ヴェルナー	事前 高等学校学習指導要領解説 芸術編の指定された箇所を読む。（資料配布） 事後 高等学校学習指導要領解説 芸術編の指定された箇所を読み、理解を深める。（資料配布）	160 分 110 分
第 8 回	鑑賞の授業とその検討 中学校 「春 第一楽章」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.55-P.58 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編の鑑賞の指導に関連する箇所を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 9 回	鑑賞の授業とその検討 中学校 「魔王」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.59-P.62 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.59-P.62 をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 10 回	鑑賞と歌唱表現と三味線伴奏の模擬授業「ソーラン節」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.89 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.89 をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 11 回	鑑賞と歌唱表現と口唱歌の模擬授業「長唄・勸進帳」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.43-P.47 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.110-P.42 をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 12 回	鑑賞の模擬授業とその検討「ブルダバ（モルダウ）」	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.87 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 P.82-P.87 をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 13 回	創作の模擬授業とその検討「野菜の気持ち」を基に	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 P35-P64 を読む。 事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 p76-p.81 を読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 14 回	学習指導案の書き方	事前 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽 第1編をよむ。 事後 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽 第2編をよむ。	110 分 160 分
第 15 回	授業の振り返り まとめ	事前 模擬授業を行った授業の学習指導案を書きあげ、事前に提出する。 事後 講義と添削の内容を理解し、提出学習指導案を修正する。	160 分 110 分

フィードバック 毎時間、参観者カード、授業者振り返りカードを提出し、コメントを記して返却すると共に、全員が共有すべき課題や、特質すべきポイントがあった場合は、授業内、或いは次時の模擬授業前に振り返る。

成績評価 模擬授業のために略案と授業振り返りレポート（40％） 模擬授業の内容（20％）学習指導案（20％）授業に対する評価メモ（20％）

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 （平成 29 年）
新版中学校・高等学校教員養成課程『音楽科教育法』教育芸術社（2019）
中学生の音楽 1 （教育芸術社）
中学生の音楽 2・3 上 （教育芸術社）
中学生の音楽 2・3 下 （教育芸術社）
中学生の器楽 （教育芸術社）
その他必要に応じてプリントを配布する

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

備考 模擬授業担当者に対して、本人が希望した場合は、事前に教材研究と授業の組み立て等について、別途時間を設けて指導する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識の発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	□	□	☑	□	□	□

音楽科教育法Ⅲ

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子 科目コード：SCH301

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 この科目は、音楽科教育法ⅠならびにⅡで学んだ音楽科教育の理論と実践について、特に和楽器ならびに日本の伝統的な歌唱の指導方法を身に付け、発展的な授業を展開できる力を養う。40 名の生徒を前に、どのように展開したら、適切に和楽器と伝統的歌唱の技能を身に付け、日本の伝統音楽のよさを感じとらせる授業を行うことができるかを実技を通して検証する。

到達目標 箏と三味線の調弦を短時間で的確に行うと共に、実際に箏・三味線・伝統的歌唱の授業を行うためのスキルを身に付けることを目標とする。

授業計画 実際の授業を想定した極めて実践的な授業である。アクティブラーニングの、双方向の授業展開の中で、確実に「指導法」を身に付けていく。
【AL】

第 1 回	オリエンテーション 箏の楽器の扱い方と授業準備について わらべうたのアンサンブル	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.1-p16を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	「さくらさくら」「六段の調べ」の授業を行うために必要な平調子の調弦法を理解。指導に必要な箏の基本的な奏法の理解。	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.17-p.34を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	箏の導入授業の指導法の検討。「さくらさくら」の授業の実際。	事前 中学校学習指導要領解説音楽編 p.35-p.64を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 4 回	箏を用いた創作の授業について。5 音音階を生かした旋律の創作を中心に。	事前 中学校学習指導要領解説書音楽編 p.65-p.89を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 5 回	箏を用いた創作の授業について。自由な発想で表現を工夫する授業の検討。	事前 中学校学習指導要領解説書音楽編 p.90-p.117を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 6 回	「六段の調」の鑑賞の授業に、箏の実技をどう取り入れるかの検討。	事前 中学校教科書「六段の調」の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 7 回	箏を用いた模擬授業。 何を身に付け、何を感じとらせるかを明確にした授業実践。	事前 これまでの配布物とノートの復習をし、授業メモを作成する。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	現代邦楽の授業の実際 「百花繚乱」の授業実践。	事前 現代邦楽を YouTube 等で 3 曲以上聴いてくる。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	三味線の扱い方と授業準備について 三味線の調弦の理解。指導に必要な三味線の基本的な奏法の理解。	事前 中学校教科書の三味線の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	三味線の導入授業の指導法の検討。「こきりこ節」の授業の実際。	事前 「こきりこ節」の演奏を YouTube で 3 種類以上、視聴し、教材研究をする。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	民謡「ソーラン節」の授業に必要な三味線の技能の習得。	事前 「ソーラン節」の演奏を YouTube で 3 種類以上、視聴し、教材研究をする。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	長唄の授業の実際。口唱歌を用いた、長唄『勸進帳』寄せの合方の指導法。	事前 中学校教科書の長唄『勸進帳』の頁を読む。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	長唄の授業の実際。長唄『勸進帳』『これやこの～』の唄の伴奏の理解。	事前 長唄『勸進帳』の寄せの合方を、唱歌とエア三味線で演奏する。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 14 回	太棹三味線を知る。津軽三味線、文楽の義太夫三味線の理解と疑似体験。	事前 細竿・中竿・太棹三味線について、ネットや文献で調べる。 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	まとめ（演奏発表）	事前 演奏発表に向けて準備 事後 授業で学んだ内容をノートにわかりやすくまとめる。	160 分 110 分

フィードバック 教員になった時に実際に和楽器を用いた授業づくりのバイブルとなるよう、本授業用のファイルとノートを用意し、毎時間の授業で学んだ具体的な指導法や和楽器演奏のポイントを授業後ノートに整理して、わかりやすくまとめる。このノートは、定期的に回収し、助言や評価のコメントを指導者が記入する。また、実技や指導法は、その場で助言しフィードバックする。

成績評価 演奏発表：日本の伝統音楽の授業を行うために必要な和楽器の指導法を理解し、指導に必要な和楽器演奏の実技を身に付けたか（50％）。
授業を模擬授業形式を取り入れて展開していく中で、でまどめのノート：その日の授業で学んだことや考えたことを適切にまとめているか（30％）。
授業態度：楽器の準備や片付けを含め、主体的に参加しているか（20％）。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年
中学生の音楽 1 （教育芸術社）
中学生の音楽 2・3 上 （教育芸術社）
中学生の音楽 2・3 下 （教育芸術社）
中学生の器楽 （教育芸術社）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 音楽の模擬授業実施に向け、担当教材の十分な教材研究を行ったうえで、学習指導案を作成し模擬授業を行う。
その後、授業について討論し、助言をする。授業者も参加者も振り返りシートを提出する。

備考 中学校・高等学校の音楽授業で必修となっている和楽器の指導法を身に付けるために、毎回和楽器の実技を伴って学修を進める。
調整にもよるが、ゲストスピーカーの招聘も視野に入れている。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☑	☐	☐	☐	☐	☐	☑	☐		☑

音楽科教育法Ⅳ

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一	科目コード：SCH303
--------------	--------------

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次生

形態：講義	単位数 2 単位
概要	創作（表現）、鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。

到達目標	この科目では、受講者が音楽科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで学んだことを踏まえ、創作（表現）と鑑賞に関する指導方法を習得する。
------	--

授業計画		
第 1 回	創作学習の目的と方法、古川のふしづくりと創作学習	事前 事前に配付された古川のふしづくりの資料を読んでおく。160 分 事後 講義を通して音楽的能力の形成と創作学習について考察する。110 分
第 2 回	指導要領Aにおける創作指導の具体（旋律創作）	事前 新学習指導要領における創作Aの部分を読んでおく。160 分 事後 講義を通して理解した、旋律創作指導方法について自己の考察を行う。110 分
第 3 回	指導要領イにおける創作指導の具体（曲の構成）	事前 新学習指導要領における創作イの部分を読んでおく。160 分 事後 講義を通して理解した音楽の構造に基づく創作指導方法について自己の考察を行う。110 分
第 4 回	ボディーパーカッションによる創作（リズム）	事前 ボディーパーカッションの実践事例を読んでおく。160 分 事後 リズムと身体を使った表現について考えをまとめる。110 分
第 5 回	創作学習の教材研究と指導案作成	事前 創作Aに関する教材分析をしておく。160 分 事後 講義における相互批評を基に指導案を練り上げる。110 分
第 6 回	創作学習の模擬授業と批評、相互批評	事前 自己の指導案を具現化するための発問、指示を考える。160 分 事後 批評を通して自己の模擬授業を振り返る。110 分
第 7 回	優れた創作学習の条件・情報機器を活用した創作指導方法（MIDI、タブレットPC）	事前 事前に配付する資料を基に優れた創作授業の具体を理解しておく。160 分 事後 講義を通して理解した優れた創作授業の原理をまとめる。110 分
第 8 回	鑑賞学習の目的と方法・聴くこと、語ることによる音楽経験	事前 新中学校学習指導要領解説音楽編の鑑賞について読んでおく。160 分 事後 講義を通して理解した鑑賞の目的と方法についてまとめる。110 分
第 9 回	音楽の諸要素の知覚・感受と批評	事前 事前に教科書における「魔王」、日本歌曲「星とたんぼぼ」の楽曲について調べておく。160 分 事後 「春」についての指導案略案を書く。110 分
第 10 回	音楽の構造に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 事前にベートーヴェン「交響曲第 5 番」、ビバルディ「春」の構造を分析しておく。160 分 事後 音楽の構造と曲想の視点から「交響曲第 5 番」の指導案略案を書く。110 分
第 11 回	楽曲の背景と関連した鑑賞指導と評価の具体	事前 交響詩「モルダウ」の背景である国民国家の成立の歴史について調べておく。160 分 事後 楽曲の背景と関連した視点から講義を通して理解した指導方法について考察をする。110 分
第 12 回	生活や社会における音楽の意味に着目した鑑賞指導と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。160 分 事後 音楽の生活や社会における意味や役割を考える。110 分
第 13 回	鑑賞の教材研究と指導案作成	事前 指定した雅楽、能、歌舞伎から一つ選び、鑑賞しておく。160 分 事後 講義の中で作成した指導案をもう一度寝入り上げる。110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評、相互批評、振り返り	事前 指導案を基に模擬授業のための発問、指示を考える。160 分 事後 批評を通して、自己の模擬授業の振り返りをする。110 分
第 15 回	プレゼンテーション型鑑賞の指導方法 振り返りとまとめ	事前 自分で選んだ楽曲とプレゼンテーションの準備をする。160 分 事後 プレゼンテーション型鑑賞に適した楽曲を調べる。110 分

フィードバック リフレクションペーパー、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート評価（60％）リフレクションペーパー評価（40％）

テキスト 『中学校学習指導要領解説音楽編』 令和 3 年度版『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応する。E メールにて事前に相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子

科目コード：SCH101

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次（H30 年度以前入学生）・1 年次（H31 年度以降入学生）

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教職の意義、教員の使命と役割、服務の厳正、教員に与えられた研修制度等について学ぶと共に、チーム学校の意義、教員としての人権意識、いじめ問題の対応、安全指導、アレルギー対策、保護者対応等について、実際の事例を通して考える。ディベート等も適宜取り入れることで、学生一人一人が自分の問題として深く考え理解を深めていくようにする。
到達目標	教職に就くことを目指す学生が、公教育の目的と共に、教員として必要な基本的な知識を得て、教育職員として学校現場で勤務する心構えをもつことを目的とする。更に教員に求められる役割や資質能力、服務上・身分上の義務、並びに学校が内外の専門家と連携することや、チームとして組織的に対応する重要性を実践的な事例を通して理解する。進路選択に資する各種の機会の提供も随時行っていく。

授業計画 グループ討論やディベートを適宜取り入れ、双方向の授業を行う。

【AL】					
第 1 回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について	教職の職業的特徴の理解	事前	新聞やネット情報から読みとれる現代の教師像について語ることができるようにする。	162 分
			事後	現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。	108 分
第 2 回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意識と公教育の目的		事前	公教育の目的について、自分の考えをまとめる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 120-p. 127 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 3 回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日我が国の学校教育の意義		事前	学習指導要領第 1 章総説を読み、重要と考えたところにアンダーラインをひいてくる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 30-p. 42 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 4 回	チームで解決する諸問題 「いじめ対策」 講義と討論		事前	事前に配布されたいじめ問題についての資料を読み、課題問題に取り組む	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 74-p. 81 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 5 回	チームで解決する諸問題 「SNS 対策」 講義と討論		事前	事前に配布された SNS についての資料を読み、課題問題に取り組む	162 分
			事後	討論を通して考えたことをもとに、SNS 対策についてまとめる。	108 分
第 6 回	チームで解決する諸問題 「発達障害を有する児童・生徒への対応」 講義と討論		事前	事前に配布された発達障害についての資料を読み、課題問題に取り組む	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 82-p. 87, p218-p. 219 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 7 回	チームで解決する諸問題 「学力向上」 講義と討論		事前	音楽科の学力とは何かを考え、音楽教師として学力向上のためにどう取り組むかを考えてくる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 64-73, p104-p. 105 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 8 回	専門家との連携 教師のマネジメント力		事前	これまでの学校教育の中で、専門家と連携した学びを振り返り、簡単にまとめる。	162 分
			事後	教師に求められるマネジメント力について、自分の考えをまとめる。	108 分
第 9 回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割		事前	中学校学習指導要領解説音楽編 p. 101-p. 102 を読んでくる。	162 分
			事後	公教育として、地域の中の学校として果たす役割について講義をもとにまとめる。	108 分
第 10 回	教員の職務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証		事前	事前配布資料を読み、記載事例についての自分なりの考えをまとめてくる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 160-p. 163 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 11 回	人権教育の歴史と学校における人権教育		事前	事前配布資料を読んで、それに対する自身の考えをまとめてくる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 88-p. 95, p. 192-p. 193 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 12 回	安全教育 ー生活安全・交通安全・災害安全ー		事前	東日本大震災の時の「釜石の軌跡」に関する記事をネットで検索し、一つ以上読んでくる。	162 分
			事後	『学校とつながる教職教養』p. 102-p. 103 を読み、講義で学んだことを整理する。	108 分
第 13 回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任		事前	東京都教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。	162 分
			事後	なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。	108 分
第 14 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像		事前	学校における音楽科の役割について考えてメモをしてくる。	162 分
			事後	生徒から、保護者から、地域から信頼される目指す教師像を文章にまとめる。	108 分
第 15 回	学修の振り返り 小論文とテスト		事前	第 1 回から第 14 回の学修内容を振り返り、テストと小論文に備える。	162 分
			事後	返却されたテストと小論文のコメントを読み、教職への志を高める。	108 分

フィードバック 基本的に、課題を提示し、討論を真ん中に置きながら進めていく過程で、学生の意見の価値づけを行う。また、最終レポートはコメントを書き入れ、学生に返却する。

成績評価 授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている（10%）。小レポート：授業で学んだことについて、自分の考えを盛り込んで適切にまとめている（40%）。テスト：教員としての使命と役割、服務の厳正、喫緊の課題等について、正しい知識をもっている（50%）。以上を総合的に判断する。

テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』東洋館出版社
- ・明星大学教職センター『学校とつながる教職教養』明星大学出版部
- ・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 教師としての専門性を一方的な講義ではなく、資料を基に課題を討論し、自分なりの考えをもてるように構成している。

備考 学修内容が直接、教員採用試験に役立つと共に、教員になった時に生きるよう、学び、考え、討論した内容を事後学習で、テキストで整理する形で進める。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐

教育社会学

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部講師 林直美

科目コード：SCH202

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次（平成 30 年度入学生）・2 年次（令和元年度入学生）

形態：講義	単位数：2 単位
概要	社会状況の変化が学校教育にもたらす影響や課題に対応するための教育政策の動向を把握する。そして、現代公教育制度に関する基礎的知識や、課題を明らかにする。そして、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について理解する。最後に学校の管理下で起こる事件、事故及び災害について学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を考察する。
到達目標	現代の学校教育に関する社会的、制度的又は経営的事項のいずれかについて、基礎的な知識を身に付ける。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。
授業計画	グループワークやディバートを適宜取り入れて授業をすすめる。学生の主体的な参加を期待する。

第 1 回	オリエンテーションー学校教育における課題についてー	事前 学校教育における課題として何があるか考えておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	100 分 180 分
第 2 回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 3 回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 4 回	近年の教育政策の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 5 回	公教育の原理及び理念	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 6 回	公教育制度を構成している教育関係法規	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 7 回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組み	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 8 回	公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 9 回	学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論ーPDCA の重要性ー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	学級経営の仕組みと効果的な方法	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 ー学校の管理下で発生する事件・事故及び災害の実情を踏まえてー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で提示された課題について資料を用いて取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	生活安全・交通安全・災害安全の各療育や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題 ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取組ー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	100 分 180 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験（50％）、提出物の状況（30％）、授業への姿勢（20％）を目安に総合的に評価する。

テキスト 特になし
参考書・参考資料等
南本長徳・山田浩之『入門・子ども社会学』（2015）ミネルヴァ書房
岩井八郎他著『現代教育社会学』（2010）有斐閣
近藤博之・岩井八郎『教育の社会学』（2015）放送大学教育振興会

オフィスアワー 授業終了後、教室にて対応する。

アクティブ・ラーニング 調査学習（メディアで取り上げられている教育問題について）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑

教育心理学

※教育職員免許状に関する科目

特任教授 星野悦子

科目コード：SCH203

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手掛かりを提供する。教育に関係する専門的内容の理解をはかると共に、幼児・児童・生徒の発達および人の生涯発達の様相とそれに対応できる社会教育、および社会全般への関心と視野を広げる機会としたい。
到達目標	幼児・児童・生徒の心身発達の代表的な理論、ならびに学習理論を二つの大きな柱とし、他にも学びのスタイルや効果的学習法、学習意欲や人格・個性の発達に関する基礎知識も身につける。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション～教育心理学とはなにか～	事前 教科書まえがきを読む 事後 授業ノートの復習 20 分 60 分
第 2 回	教育の新しい動向、および発達における素質と環境	事前 教科書第 1 章の前半を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 3 回	発達の理論 (1) ピアジェの認知発達モデル	事前 プリント 1 と教科書第 1 章後半を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 4 回	発達の理論 (2) エリクソンの心理社会的発達モデル	事前 教科書第 2 章の前半 P.20 までを読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 5 回	人間の発達の概要：乳児期、幼児期	事前 教科書第 2 章の p.24 以降を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 6 回	人間の発達の概要：児童期、青年期	事前 教科書第 2 章の全体を見直す 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 7 回	人間の発達の概要：成人期（前期・中期・後期）	事前 プリント 2 前半を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 8 回	中学生、高校生の心理と指導	事前 プリント 2 後半を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 9 回	学ぶということ (1) 学習の原理・理論	事前 教科書第 3 章の第 1 節を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 10 回	学ぶということ (2) 連合学習理論～条件づけ～	事前 教科書第 3 章第 2 節を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 11 回	学ぶということ (3) 認知的学習理論～知識を学ぶ～	事前 教科書第 3 章第 3 節を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 12 回	学ぶ意欲～動機づけ理論とその教育への応用～	事前 教科書第 3 章前半を見直す。 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 13 回	学びのスタイル～学習の個人差～	事前 教科書第 3 章第 4 節を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 14 回	効果的に学ぶために～様々な学習方法～	事前 教科書第 3 章第 5 節を読む 事後 授業ノートの復習 40 分 60 分
第 15 回	まとめ～授業全体の総括～	事前 教科書第 4 章前半を読む 事後 試験の振り返りと自分の解答の正否確認 60 分 40 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験の成績と授業態度を総合しておこなう。定期試験 70％、授業態度 30％

テキスト 滝沢武久編著 『はじめての教育心理学』（八千代出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べてとても長い。「学ぶため」に長い子ども期間を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考えたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒

特別支援教育

※教育職員免許状取得に関わる科目

短大講師 中山晶世

科目コード：SCH104

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／1 年

形態：講義	単位数：1 単位
概要	特別支援を必要としている生徒が、特別支援教育の制度の中でどのように達成感を持ちながら学習活動に参加していくことが望ましいか、模擬授業を進めながら考える。

到達目標	発達障害の特性、また、障害でないが生活環境における困難(多様な言語・経済的基盤等)について基礎的な知識を身につけ、支援方法を理解する。
------	---

授業計画	発達障害等の知識を高めるとともに、特別支援教育への理解を深め、模擬授業を通して生徒たちが達成感のある学習ができるよう、積極的なディスカッションを展開し、理解を深める。
------	---

第 1 回	発達障害や軽度知的障害のある生徒の心身の発達及び心理的特性の理解。10 分間試験。	事前 事後	テキスト第 3 章 p.59～76 を読む。 幼・小・中・高校における特別支援教育での生徒の心身の発達を書きだす。	140 分 140 分
第 2 回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む障害の特性の理解。10 分間試験。	事前 事後	テキスト第 4 章 p.91～125 を読む。 各障害の特性を書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	特別の支援を必要としている障害のある生徒の学習上・生活上の困難についての知識を知る。10 分間試験。	事前 事後	テキスト第 5 章 p.127～148 を読む。 家庭との連携及び実施可能な支援について書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。10 分間試験。	事前 事後	テキスト第 1 章 p.1～25 を読む。 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。10 分間試験。	事前 事後	テキスト第 1 章 p.25～39 を読む。 実践活用事例を通してどのような関係機関との連携が必要か書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	特別の支援を必要としている障害のある生徒が達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができる学習とはどのような授業かディスカッションする。10 分間レポート。	事前 事後	テキスト第 6 章 p.151～170 を読む。 達成感のある授業をするために必要な教員のスキルを書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	障害ではないが、生活環境に困難のある生徒が達成感を持てる学習活動を模擬授業の中で行ない、その体験を話しあう。10 分間レポート。	事前 事後	テキスト第 7 章 p.171～190 を読む。 生活環境に困難のある生徒に対する支援にはどのようなものがあるか書きだす。	140 分 140 分
第 8 回	前回行った模擬授業をさらに深く理解するために、架空の個別の教育的ニーズを設定し、模擬授業を行う。その体験を話しあう。10 分間レポート。	事前 事後	テキスト巻末の「文献」から一編を選び、読む。 選んだ文献についてレポートを書き、提出。	140 分 140 分

フィードバック 毎回行う 10 分間試験及びレポートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 10 分間試験及びレポート 50％ 授業態度 25％ ディスカッションや模擬授業への発言・積極性 25％

テキスト 「特別支援教育総論」(川合紀宗、若松昭彦、牟田口辰己編著、北大路書房)

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング ・各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、グループに分かれ、そのテーマについてディスカッションし、最後にそのグループの代表がプレゼンする。
・各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、架空の個別指導計画作成、または保護者と関係機関の連携について話し合い、その後、保護者側がわが子の願いの表に記入し、そのあと、関係機関側がそれを元に計画を記入する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	□	☑	□

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH204

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本授業では、教育課程の意義や内容、編成について幅広く学ぶ。学習指導要領を適宜参照しつつ、音楽科に引きつけて考えることで、理解を深めていく。

到達目標	教育課程の意義や内容、教育課程編成の方法を学び、学習指導要領に基づいた教育課程の編成、実施、評価に関する基礎的な知識の習得を通して、学校での各実践の位置づけや役割り、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解する。
------	--

授業計画	音楽科カリキュラムとの関連から講義を行う。各回でテーマを設定し、教育課程とは何か、学習指導要領に基づいてどのように教育過程を編成し、授業の計画、実践を行っていくかなどについて学ぶ。各回の最後には、具体的な課題を設定し、リフレクション・カードや小レポートの執筆を通して個々に考えを深める時間を設ける。
------	---

第 1 回	オリエンテーション カリキュラムに関する現代的な課題	事前 カリキュラムや教育課程に関する新聞記事を探し、読んでおく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 2 回	教育課程の意義ならびに教育課程編成の原理と目的	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 3 回	教育課程とカリキュラム	事前 「教育課程」「カリキュラム」という言葉の意味を調べておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 4 回	潜在的カリキュラム	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 5 回	教育課程編成の方針（1）学習指導要領改訂との関わりから	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 6 回	教育課程編成の方針（2）教育課程が社会に果たす機能・役割	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 7 回	教科の原理、内容	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 8 回	教科横断的な教育内容の選択や配列	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 9 回	児童生徒や地域の実態に基づいた教育課程や指導計画の検討	事前 課題について、自分なりの意見をまとめておく 事後 レポートに取り組む	100 分 180 分
第 10 回	評価（1）評価の原理	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 11 回	評価（2）評価の観点	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 12 回	評価（3）評価の方法	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 13 回	カリキュラム・マネジメント（1）意義と重要性	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 14 回	カリキュラム・マネジメント（2）評価との関連から	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 15 回	授業内容の振り返り、まとめ	事前 課題レポートに取り組む 事後 学習指導要領の変遷と現在の動向から、教育課程の位置付けや意義について考える	180 分 100 分

フィードバック	毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。
---------	---

成績評価	授業への取り組みと（疑問、質問、考えたことなどについて、積極的に発言したり、リフレクション・カードに記したりしているか）10%、中間課題レポート 45%、最終試験 45% ：ただし、オンライン授業の場合は変更する可能性もあるので、第 1 回目の授業にて説明します。
------	--

テキスト	テキスト：中学校学習指導要領（平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成 3 0 年 3 月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成 2 9 年 7 月 文部科学省） 参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社 その他、適宜授業で紹介する。
------	---

オフィスアワー	授業後、教室（オンライン授業の場合は zoom）にて随時質問、相談に応じる。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。 sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp
備考	1 回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方、提出課題について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 東風安生

科目コード：SCH304

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び、その要となる道徳科における教育内容や指導方法を学ぶ。科目のねらいは、道徳科を指導する教師として、学校の年間指導計画に基づいて道徳科授業の学習指導案を作成し、道徳科授業を実践できる指導力を養成することである。講義は、グループワークを多用して、チーム学校の一員として協働して道徳教育について検討する時間を大切にしていく。

到達目標 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
1) 道徳の本質や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解し、実践的な指導についての認識を深める。
2) 子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解のため、学習指導要領に示された目標及び内容を理解する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 現代社会における道徳教育の求められる課題	事前 事後	小・中学校時代に自分が受けてきた道徳の授業をふりかえりワークシートに記述する 現代社会において道徳が必要な場面はどこか、また自分は学んできた道徳を活かしたかをワークシートに記述する。	90 分 180 分
第 2 回	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	事前 事後	大学生として、年下の若者の倫理的課題をふりかえりワークシートに記述する。 教職課程を履修し教師を目指す者として、道徳教育によって彼らの課題をどう解決するかをワークシートに記述する。	90 分 180 分
第 3 回	道徳教育の理念と課題：道徳教育の歴史的経緯を基に求められる理念	事前 事後	昭和 33 年の特設道徳に関する歴史的事項についてネットで事前に調べておく。 「特別の教科 道徳」に至るまでの 60 年間の道徳の歴史について、ワークシートを用いてまとめる。	90 分 180 分
第 4 回	道徳性の形成要因と発達段階における課題と教育的目標	事前 事後	アヴェロンの野生児についてネット等を利用してどのような事件なのか調べておく。 道徳性とは何かを、具体的に 22 項目の道徳教育の内容項目と関連付けてワークシートにまとめる。	90 分 180 分
第 5 回	学校における道徳教育の目標とその内容：道徳性の育成に向けた課題	事前 事後	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳教育の目標を探して予習しておく。 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳教育の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90 分 180 分
第 6 回	「特別の教科 道徳」の指導とその内容・教材の分析とその活用：葛藤教材	事前 事後	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳科の目標を探して予習しておく。 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳科の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90 分 180 分
第 7 回	「特別の教科 道徳」の教材の分析とその活用：知見教材	事前 事後	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いて何を教えるか考える。 道徳科の読み物教材と、国語科の教科書の教材の違いについて自分の言葉で家族や友達に説明できるように練習する。	60 分 210 分
第 8 回	感動教材の分析に基づく指導案の構成とねらい（教材：パスと赤ちゃん）	事前 事後	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。 教材を用いた道徳の授業において、なぜ学習指導案が必要なのか、どんな項目を記述するか家族や友達に説明できるように練習する。	60 分 210 分
第 9 回	葛藤教材（起承転結）の構成と分析（教材：足袋の季節）	事前 事後	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30 分 240 分
第 10 回	葛藤教材の分析に基づく指導案の作成（教材：卒業文集最後の二行）	事前 事後	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60 分 210 分
第 11 回	葛藤教材の分析（話し合い）に基づく指導案の作成（教材：二通の手紙）	事前 事後	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60 分 210 分
第 12 回	葛藤教材の分析に基づく模擬授業の実践（教材：一冊のノート）	事前 事後	完成させた道徳科学習指導案に基づいて、模擬授業ができるよう前回の授業でグループ分けをした仲間間で模擬授業の練習をしておく。 模擬授業をふりかえり、自分たちのグループや仲間のグループの評価を行う。	240 分 30 分
第 13 回	「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・提出（教材：美しい母の顔）	事前 事後	事前に配布した教材について目をとめておくこと。 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30 分 240 分
第 14 回	学校における道徳教育の全体計画と年間指導計画 評価の内容	事前 事後	ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間発表できるようにしておく。 自分自身が学校の校長と想定して、どのような全体計画を作成するか、途中で仕上げたものを完成させる。	60 分 210 分
第 15 回	学校・家庭・地域社会の役割と連携：道徳授業地区公開講座の役割	事前 事後	道徳授業公開講座をネット上から調べて、どのようなか授業中に仲間に説明できるようにしておく。 道徳地区公開講座のチラシを作成するとした場合、どのようなレイアウトや内容にするか検討し、作成途中のものについて完成させる。できあがったものはプリントアウトして提出する。	60 分 210 分

フィードバック 毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4 点、「A」3 点、「B」2 点、「C」1 点として成績評価に加える。

成績評価 筆記試験（期末）40％ 学習指導案の提出 20％ 模擬授業の実践 10％
ミニットペーパー30％（ミニットペーパーをフィードバックした評価について 15 回の中でよい成績のものを 10 回分加点する）
テキスト 伊藤良高『改訂版道徳教育のフロンティア』（晃洋書房）2019 年 4 月
（3 階の売店にて販売いたします。履修する学生は全員が購入し、必ず授業では持参してください）

オフィスアワー 参考文献
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成 30 年 7 月 文部科学省ホームページから閲覧可能
質問等がある場合は、授業の終了後に対応する。

アクティブ・ラーニング オンラインによる授業において、Zoom のブレイクアウトルームという手法でグループごとに分かれて画面上で議論したり、教材を共有してプレゼン資料を作成する。

備考 PC を使用する。Google classroom に登録して、ネット上で提出物や教材の共有を行うので、Google のアカウントを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
☑	□	□	☑	☑	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	□	□

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一 大学教授 山内雅子 科目コード：SCH207

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次生

形態：講義 課題解決的な授業展開で講義・演習・討論 単位数：2 単位

概要 到達目標の内容について、様々な中学校の実践事例を検討しながら、講義と討論を通して考察する。

到達目標 特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する。また特別活動と関連した音楽科の指導にあつては学級担任との連携するマネジメントの能力も必要である。特別活動の教育的意義や内容と実践的な指導方法の学びを目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った授業計画の構想を練り上げることができるようになる。

授業計画 毎時間の課題に対して、講義と討論を中心に進める。

第 1 回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。 110 分
第 2 回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。 110 分
第 3 回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。 110 分
第 4 回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。 110 分
第 5 回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。 110 分
第 6 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。 110 分
第 7 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。 160 分 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。 110 分
第 8 回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。 160 分 事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。 110 分
第 9 回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 1-17 を読んでくる。 160 分 事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。 110 分
第 10 回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 103-119 を読んでくる。 160 分 事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。 110 分
第 11 回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしてくる。 160 分 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。 110 分
第 12 回	オリンピック・パラリンピック関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 オリンピック・パラリンピック関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。 160 分 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。 110 分
第 13 回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。 160 分 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。 110 分
第 14 回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画を、グループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめてくる。 160 分 事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画を、まとめる。 110 分
第 15 回	グループ毎に、作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。 160 分 事後 発表と討議を通して学んだ自身のグループの事例を振り返る。学んだことをまとめる。 110 分

フィードバック 討論、模擬授業への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 特別活動：理解度確認テスト 70％ 討論、模擬授業への態度 30％
総合的な学習の時間：授業での発言、討論への姿勢（30％） 指導計画作成の取り組み（30％） 最終レポート（40％）

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 別紙にて周知のオフィスアワーで対応する。事前にメールで相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発現力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	□	☑	

教育方法論

※教育職員免許状取得に関する科目

准教授 田中里佳

科目コード：SCH206

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	本授業は、教育に携わる者が、それぞれの現場でいかなる方法を用いているのか、また、それが歴史的にどのように変化してきたのかを学ぶものである。方法について幅広く学びつつ、音楽とそれ以外の教科とで異なる部分や、音楽だからこそ可能な方法などについて、ディスカッションを通して考える。
到達目標	激動の最中にある今日の社会において、予測不能な未来を生き抜く子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。また、今日教育現場で問題となっている様々な教育課題に対して、理論的根拠をもって解決していくための基礎力を、講義と演習を通して身につける。
授業計画	前半では、教育方法に関する思想や立場を学び、受講者それぞれが自分の受けてきた授業を振り返りながら、学習を深める手立てについて考えていく。そして、後半では、前半内容を踏まえて、効果的な授業がいかにして成立するのかを、教師の働きかけ、評価、教材、情報機器の活用などを視点に考える。

第 1 回	オリエンテーション 「良い授業」とはどのような授業か	事前 高校までに受けた授業で印象に残っている内容を思い出ししておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 2 回	西洋の教育方法の歴史	事前 「子ども中心の授業」について調べておく 事後 「子ども中心の授業」について、その特徴をまとめる	140 分 140 分
第 3 回	日本の教育方法の歴史	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 日本の教育方法の歴史について、その特徴をまとめる	140 分 140 分
第 4 回	「教育技術」についての立場の違い	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 教育技術について、重要な点をまとめる	140 分 140 分
第 5 回	授業を構成する要件とは	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業を構成する要件について、重要な点をまとめる	140 分 140 分
第 6 回	授業分析の意味と方法	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業分析について、具体的な方法をまとめる	140 分 140 分
第 7 回	ユニバーサルデザインの視点からの授業分析	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 ユニバーサルデザインについて、重要な点をまとめる	140 分 140 分
第 8 回	授業をどうデザインするか①指導案の作成～話法、板書などの環境的工夫と子どもの学び～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140 分 140 分
第 9 回	授業をどうデザインするか②指導案の作成～主体的・対話的で深い学びの支援～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140 分 140 分
第 10 回	授業をどうデザインするか③指導案の作成～問題解決を促す技術～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140 分 140 分
第 11 回	情報機器の活用に着目した教材づくりの発想～子供が発話からデジタル教科書まで～	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140 分 140 分
第 12 回	情報機器の活用と学習内容の定着	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 授業のデザインについて、具体的な場面を構想する	140 分 140 分
第 13 回	「いま、ここ」だからできる授業を展開するための教材開発と教育技術	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 レポートの執筆を進める	100 分 180 分
第 14 回	学習評価と教育技術	事前 資料に目を通し、内容を理解しておく 事後 レポートの執筆を進める	100 分 180 分
第 15 回	授業の振り返り、まとめ、レポート提出	事前 レポートを仕上げておく 事後 授業で学んだ内容をふまえて、授業デザインとその方法について、考えを深める	200 分 80 分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組みと（疑問、質問、考えたことなどについて、積極的に発言したり、リフレクション・カードに記したりしているか）10%、中間課題レポート 45%、最終試験 45% ：ただし、オンライン授業の場合は変更する可能性もあるので、第 1 回目の授業にて説明します。

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成 2 9 年 3 月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成 3 0 年 3 月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成 2 9 年 7 月 文部科学省）
適宜資料を配布する。
参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
学習指導要領（音楽、総則）

オフィスアワー 授業後に教室（オンライン授業の場合は zoom）にて対応する。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。
sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 1 回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒

生徒・進路指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美 科目コード：SCH304

専門／学年：全専門／3 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標	学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それにに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や資質を身に付ける。
------	---

授業計画	前半は生徒指導について、模擬授業やロールプレイングによる実践的学び、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2 名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。
------	--

第 1 回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能（担当：内田）	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の 3 機能について自己の考えをまとめる。	100 分 180 分
第 2 回	集団指導・個別指導の方法原理（担当：内田）	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方（担当：内田）	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140 分 140 分
第 4 回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み（担当：内田）	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140 分 140 分
第 5 回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方（担当：内田）	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140 分 140 分
第 6 回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容（担当：内田）	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140 分 140 分
第 7 回	暴力行為、いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業（担当：内田）	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140 分 140 分
第 8 回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方（担当：内田）	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140 分 140 分
第 9 回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方（担当：林）	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180 分 100 分

フィードバック	授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	---

成績評価	リアクションペーパー（40％）、レポート（60％）を基に総合的に評価する。
------	---------------------------------------

テキスト	文部科学省『生徒指導提要』（2010）教育図書 参考書・参考資料等 林尚示・伊藤秀樹『生徒指導・進路指導—理論と方法（教師のための教育学シリーズ 10）』（2016）学文社 文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）教育出版
------	--

オフィスアワー	別途示されている担当教員オフィスアワーにて対応する。事前に E メールにて相談のこと。
---------	---

アクティブ・ラーニング	・中学校のキャリア教育で実際に行われているグループワークを紹介し、実践する ・ロールプレイングを通したキャリアカウンセリング技法の習熟
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 石橋明佳

科目コード：SCH207

対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／3 年次（平成 30 年度入学生）・2 年次（令和元年度入学生）

形態：講義	単位数：2 単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。
到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や問題行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。
授業計画	

第 1 回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史的変遷、学校における教育相談の特質）	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 教育相談を行う教員に求められる基本的な意識を検討する	140 分 130 分
第 2 回	生徒の発達段階・発達課題を理解する	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分自身はどのような発達課題があったのか、現代との共通点・相違点を考察する	90 分 180 分
第 3 回	生徒の悩み①学習・進路・人間関係・性格等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分の経験を振り返り、悩みや問題解決方法を分析する	90 分 180 分
第 4 回	生徒の悩み②性・家族・身体・経済等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90 分 180 分
第 5 回	子供の自殺：危険シグナルの発見の仕方と対応	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	60 分 210 分
第 6 回	問題行動（不登校、非行、暴力行為、いじめ）の理解と対応方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で扱った事例の対応方法について復習する。	90 分 180 分
第 7 回	生徒のストレスと心の病（精神障害の理解、対応の在り方の事例学習）	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する	90 分 180 分
第 8 回	特別支援教育の歴史的変遷とインクルージョン教育の意義	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する	90 分 180 分
第 9 回	発達障害の理解と支援方法の事例学習（「音楽」指導例を含む）	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する	90 分 180 分
第 10 回	教員が応用できるカウンセリング理論とカウンセリング・マインド	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 理解不足だった部分の復習をする	90 分 180 分
第 11 回	教員が応用できるカウンセリング技法の理解と習得	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で学んだカウンセリング技法を日常会話等で試してみる。	90 分 180 分
第 12 回	教育相談の進め方（基本姿勢、展開方法、チェックポイント、保護者の相談）	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90 分 180 分
第 13 回	学校における教育相談活動体制づくりと外部関係諸機関との連携	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する	90 分 180 分
第 14 回	良い教員の特性、教員に必要な人間理解力とソーシャル・スキル	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 良い教員になるために今後何を学ぶべきかを検討する	90 分 180 分
第 15 回	まとめと講義内容の整理	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する 事後 理解不足だった部分の復習をする	90 分 180 分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート 40%、筆記試験 60%の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材『教育相談』（約 700 円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

アクティブ・ラーニング

- ・グループ・ディスカッションとプレゼンテーション
- ・ワークブック
- ・発見学習（各種新地テストの実施）
- ・応用（カウンセリング・テクニックを日常会話で使ってみるなど）

備考

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解				知識・技能の活用					意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐

教育実習（事前事後指導 1 単位を含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子		科目コード：SCH401
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次		
形態：実習		単位数：5 単位
概要	教育実習で十分な成果があげられるよう、実習期間のシミュレーションを行い、留意点について理解する。また、各自が実習校で行う教材の学習指導案を作成し、その教材を用いて実習前に模擬授業を行う。教育実習期間は集中して全力で取り組み、教科指導の実際や学級指導、生活指導、行事への取り組みなどを体験する。実習後は、経験を交流し学び合う中で、教職への理解を深める。ICT を活用した授業への対応も事前に学修し、対応できるようにする。	
到達目標	教育実習に臨む心構え、留意事項、学習指導要領の内容と学習指導案の書き方などを実習前に理解する。教育実習を通して、教科指導、学級指導、特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制等を理解する。事後は、教育実習を通して得られた知識や経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。	

授業計画		
第 1 回	教育実習の概要と心得 新学習指導要領に基づいた学習指導案の作成について 移行期間についての理解 授業計画について	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を読んでくる。 160 分
		事後 中学校学習指導要領解説 音楽編 p.1-p.34 を再度読んで、理解を深める。 110 分
第 2 回	ICT を活用した授業の実際と留意点の理解	事前 事前配布資料を熟読して、意見を述べられるようにしてくる。 160 分
		事後 ICT を活用した授業についての利点と留意点をまとめたレポートを作成する。 110 分
第 3 回	新学習指導要領に基づいた学習指導案の作成 歌唱領域	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 A 表現（1）歌唱を読んでくる。 160 分
		事後 歌唱教材の学習指導案を書きあげ、事前にメールで提出する。 110 分
第 4 回	作成指導案の振り返りと指導案作成に関する理解の定着	事前 前時に提出した学習指導案を修正し、再度事前にメールで提出する。 160 分
		事後 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第 1 編を読む。 110 分
第 5 回	新学習指導要領に基づいた学習指導案の作成 鑑賞領域	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 B 鑑賞 を読んでくる。 160 分
		事後 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第 2 編を読む。 110 分
第 6 回	鑑賞領域の作成指導案の検討	事前 鑑賞領域の学習指導案を作成し、事前にメールで提出する。 160 分
		事後 配布資料を読み、作成した鑑賞領域の学習指導案を修正する。 110 分
第 7 回	新学習指導要領に基づいた学習指導案の作成 創作領域	事前 中学校学習指導要領解説 音楽編 A 表現（3）創作を読んでくる。 160 分
		事後 配布資料を参照し、創作領域の指導案を作成し、メール提出をする。 110 分
第 8 回	学習評価について考える	事前 学習指導要領解説 総則編 p.91-p.94 を熟読し、重要と考える部分にマーカーを引く 160 分
		事後 授業で学び、討論等を通して自身の考えが広がったこと等をレポートにまとめる。 110 分
第 9 回	生徒理解について考える	事前 学習指導要領解説 総則編 p.91-p.94 を熟読し、重要と考える部分にマーカーを引く 160 分
		事後 授業で学び、討論等を通して自身の考えが広がったこと等をレポートにまとめる。 110 分
第 10 回	教育実習で行う教材・題材の検討（1）	事前 中学校学習指導要領解説 総則編 P.95 160 分
		事後 中学校学習指導要領 音楽編 内容の取扱いと指導上の配慮事項を読む。 110 分
第 11 回	教育実習で行う教材・題材の検討（2）	事前 教育実習で行う教材について、十分な教材研究を行い、学習指導案を作成する。 160 分
		事後 中学校学習指導要領「共通事項」、内容の取扱いと指導上の配慮事項を読む。 110 分
第 12 回	教育実習を振り返って 生徒から学んだこと、指導教官から学んだこと	事前 教育実習で研究授業の取り組みの中で、心に残った出来事をまとめる。 160 分
		事後 研究授業の準備から本番までの中での出来事を論文に採り入れて 800 字でまとめる。 110 分
第 13 回	教育実習で学んだことを 小論文にまとめる。	事前 教育実習全般を通して、最も心に残ったことや、学んだこと、考えたことをまとめる。 160 分
		事後 教育実習で学んだこと、考えたこと、心に残ったことを二事例挿入して、800 字でまとめる。 110 分
第 14 回	教育実習の総括と教員採用試験に向けて	事前 各自が受験する都道府県の教員採用試験の過去の論文課題を検索する。 160 分
		事後 教育実習のエピソードを 2 事例入れて、採用試験の論文課題を書き上げる。 110 分
第 15 回	生徒の音楽的成長と人間的成長を実現する音楽授業を論じる。	事前 中学校学習指導要領解説「総説」を読む。 160 分
		事後 実習日誌の受け取り、全頁を読み直す。 110 分

フィードバック	新学習指導要領に準拠した学習指導案は、提出した次の週の授業で検討すると共に、個々の学生に指導を入れて返却する。授業内での発言、討論の内容についてはその場で、適切に価値づけする等のフィードバックを行う。講義後半で行う論文については、コメントを入れて返却する。
成績評価	実習校からの評価（50％） 教育実習日誌の記録（20％） 小論文（10％） 学習指導案作成への取り組み他平常点（20％）を総合して評価する。

テキスト	『中学校の音楽』1 年、2・3 年上・下（教育芸術社）／『中学校の器楽』（教育芸術社）／『中学音楽 音楽のおくりもの』1 年、2・3 年上・下（教育出版）／『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版）／『中学校学習指導要領解説音楽編』（平成 29 年、文部科学省）／『高等学校学習指導要領解説芸術編』（平成 29 年、文部科学省）※高等学校で実習を行う者は大学から貸与する。
------	--

オフィスアワー	授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp
備考	教育実習中及び、事前打ち合わせが授業と重なった場合は、公欠とする。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐

教職実践演習（中・高）
※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短期大学部教授 内田有一／短期大学部講師 林直美					科目コード：SCH402
対象コース／専門／学年： 全コース／全専門／4 年次					
形態：講義			単位数：2 単位		
概要	4 年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習・支援員や学校ボランティアの経験をつなげ、討論を中心として理解を深めていく。				
到達目標	全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。				
授業計画	オムニバス形式で行う 振り返りと討論を中心として行う。				

第 1 回	教職の意義 教育実習を通して感じた「教師という仕事」（山内）	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	教員の職務と学校現場における課題（いじめ、SNS、不登校等への対応）（山内）	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	発達障害を有する生徒への対応とインクルーシブ教育システム（山内）	事前 事前配布資料を読んで、考えをまとめてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 4 回	教師としての人権意識（内田）	事前 事前に配布された人権についての資料を読み、考えをまとめてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生活指導・道徳の指導（内田）	事前 生活指導と道徳に関する事前配布資料を読んで、考えをまとめてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 6 回	特別活動と音楽科 行事の音楽・部活指導他（内田）	事前 特別活動についての学びを振り返ると共に部活指導を通して育てたい生徒像をメモ 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 7 回	教育原理・知識と実践のつながり（田中）	事前 教育原理の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	教育課程の意義及び編成の方法（田中）	事前 教育課程総論の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	教育の方法及び技術に関して（田中）	事前 教育の方法についての学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	教育に関する社会的・制度的課題（林）	事前 教育社会学の学びを振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	進路選択に資する各種の機会の提供（林）	事前 進路選択に関する学びを振り返る 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	チーム学校の意義 生徒から、保護者から、同僚から、地域から信頼される教師像（山内）	事前 生徒から、保護者から、同僚から、地域から信頼される教師像を考えてくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	音楽科の教科指導（内田）	事前 音楽科学習指導要領を見直してくる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 14 回	命を守る教育 安全教育・アレルギー対応（内田）	事前 事前に配布されたアレルギーと安全教育に関する資料を読み、学修を振り返る。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	教員免許状を取得して、社会に出ていくということへの自覚と夢。（山内）	事前 10年後の自分を思い浮かべ、音楽と教職の学びがどのように生きているかを想像する。 事後 最終レポート課題を執筆する。	160 分 110 分

フィードバック 毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。討論の中での意見を価値付けたり、適切な助言を行うことでフィードバックする。尚、最終講義でのレポート課題には、コメントを附記して返却する。

成績評価 授業態度：前向きに授業に参加し、意見を述べている（30%）。小テスト：教員としての使命と役割、服務の厳正、喫緊の課題等について、正しい知識と自分なりの考えをもっている（20%）。最終レポート課題の内容（50%）

テキスト ・中学校学習指導要領解説 音楽編 平成 29 年度版
・毎回、作成したプリントを配布して行う。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 教職の総まとめの授業となるため、教職担当教員全員で担当する。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☒

学校体験活動

教授 山内雅子／准教授 田中里佳／短大教授 内田有一／短大講師 林直美		科目コード：SCH105
対象コース／専門／学年： 2 年次		
形態： 複数	単位数： 2 単位	
概要	教員免許状取得を目指す学生が実際に学校現場に出向き、15 駒分の体験的な学びを行う。体験の内容は、各学校の実情に応じて一律ではないが、授業参観、学級指導の参観、講話、給食・清掃指導、事務・用務の仕事、部活指導の補助などを体験の内容としては各学校にお願いしている。配置先の学校に電話をかけるところから報告書の作成まで、全てを学修の内容としている。	
到達目標	児童・生徒との関わり方について、参観や体験を通して把握すると共に、学級担任や教科担任の補助的な役割を担うことができる。 また、学校は教科指導や生活指導だけではなく、事務・用務・支援員・カウンセラー・学校体験活動も含め、全員が連携してチームとなって児童生徒の教育に当たっている実際の、体験を通して理解する。	
授業計画	事前指導→台東区小中学校との事前打ち合わせ→個別指導→学校体験活動→報告書の作成・提出→事後指導	

第 1 回	ガイダンス 学校体験活動の目的と内容と方法。学校体験活動先の調整。	事前 学校体験活動履修カルテを読み、学校体験活動に関する基礎的知識を理解しておく	100 分
		事後 配置校及び学校体験活動の目的と方法と内容について整理する。	180 分
第 2 回	学校が学校体験活動に期待すること、学生が学校体験活動を通して身に付けること。	事前 学校教育の現場における学校体験活動の役割について事前に資料を読む	140 分
		事後 配置校に電話をし、体験内容や持ち物等について、指示を受け、準備する。	70 分
第 3 回	配置校への学校体験活動 (例) 校長講話 養護教諭の講話 授業参観	事前 学校体験活動への自己の抱負を述べられるよう準備する。	140 分
		事後 体験した内容や感じたこと学んだことを履修カルテにまとめる。	140 分
第 4 回	配置校への学校体験活動 (例) 音楽の授業参観 授業支援 学級指導の参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 5 回	配置校への学校体験活動 (例) 給食指導、清掃指導、部活指導の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 6 回	配置校への学校体験活動 (例) 教材準備の手伝い、印刷等	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 7 回	配置校への学校体験活動 (例) 用務主事の仕事の体験 学校周りの清掃、植木の手入れ等	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 8 回	配置校への学校体験活動 (例) 保健室の仕事の体験	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 9 回	配置校への学校体験活動 (例) 特別な支援を必要とする児童・生徒の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 10 回	配置校への学校体験活動 (例) 数学・国語・理科・道徳・体育等の授業参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 11 回	配置校への学校体験活動 (例) 総合的な学習の時間、特別活動の時間の参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 12 回	配置校への学校体験活動 (例) 合唱祭に向けての放課後練習の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 13 回	配置校への学校体験活動 (例) 音楽授業の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 14 回	配置校への学校体験活動 (例) 部活動の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。	140 分
		事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。	140 分
第 15 回	学校体験活動履修カルテを書き上げ、提出する。	事前 学校体験活動を振り返り、学校体験活動履修カルテを完成させる。	180 分
		事後 学校体験活動履修カルテの教員からのレスポンスを読み、課題意識を深める。	100 分

フィードバック 担当指導教官とメールで必要な時に連絡を取り合うと共に、提出した学校体験活動履修カルテへの記入について、コメントを書き入れて返却する。

成績評価	学校体験活動履修カルテに明記された 4 つのチェックの実施状況（50％）提出した学校体験活動カルテへの記録の内容（50％） 特記事項がある学生については、台東区教育委員会を通して大学に連絡が入るが、その内容を加味する場合もある。
テキスト	中学校学習指導要領解説 音楽編（平成 2 9 年 7 月 文部科学省） 学校体験活動履修カルテ（1 年次に配布済み）

オフィスアワー 担当指導教官と随時メールにて連絡を取り合えるようにする。

備考 令和 2 年度に緊急事態宣言発令のため実施できなかった 2 年次の学生が実施する。
詳細は、4 月に台東区教育委員会と協議の上、あらためて実施方法を指示します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

音楽授業観察実習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 山内雅子／短期大学部教授 内田有一 科目コード：SCH106

対象コース／専門／学年： GLA コース／音楽教育専門／2～4 年次、全コース／全専門／1 年次

形態：実習 単位数：2 単位

概要 特に優れた音楽授業実践で定評のある音楽教師の授業を参観し、お話を伺う。参観と授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽科授業の構成や方法について知る。最寄駅で集合して、制服着用で訪問する。事後のレポートあり。

到達目標 この実習では、特に優れた音楽授業実践をしている音楽教師の授業参観と、授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽授業の構成や方法を知り、教師を目指す学生が目標とする音楽教師像を明確にもって、日々の学びを更に主体的に深めていくことができるようにすることを目標とする。

授業計画 本授業は、不定期集中講義として開講される。新年度に入ってから協力校との交渉で観察日時を決定するためである。授業後、必ず研究協議会を設定し、対話や質疑応答を通して学び合う時間を確保する。

第 1 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する。	30 分
		事後	授業観察を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 2 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 3 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 4 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 5 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 6 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 7 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 8 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 9 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 10 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 11 回	優れた吹奏楽指導を行う教師に部活経営の話聞き、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 12 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導参観やその後に聞いた話をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 13 回	特別支援学校の音楽授業を参観する。	事前	ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後	授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 14 回	特別支援学校の音楽授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前	授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後	授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 15 回	特別支援学校の音楽授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前	参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後	参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分

フィードバック 研究協議会での発言について講評すると共に、観察実習後のレポートにコメントを入れて返却する。

成績評価 参観態度（20％） 協議会での発言内容（40％） 事後レポート（40％）

テキスト 参観校の先生が音楽科経営案、学習指導案等を用意。

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくはEメールにて相談の上、対応する。 masako.yamauchi@uenogakuen.ac.jp

備考 なるべく学校公開日など、土曜日に参観できるよう配慮するが、やむを得ず平日の参観で他の授業と重なった場合は、公欠届けを提出するようにする。1回の参観を3駒分とする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐